

第二十五條 庶民債券ノ償還又ハ賣出ノ方法ニ依ル庶民債券ノ發行ニ關シ必要ナル事項ハ豫メ之ヲ公告ス

第二十六條 無記名庶民債券ヲ記名ト爲シ又ハ記名庶民債券ヲ無記名ト爲サントスル場合ハ其ノ請求書ニ債券ヲ添ヘ本金庫ニ提出スルコトヲ要ス

無記名庶民債券ヲ記名ト爲スベキ請求アリタルトキハ本金庫ハ之ニ記名紙ヲ貼附シ其ノ手續ヲ了シタル上理事長證明シテ請求者ニ之ヲ還付ス

記名庶民債券ヲ無記名ト爲スベキ請求アリタルトキハ本金庫ハ之ト引換ニ同一番號ノ無記名ノ新債券ヲ交付ス

第二十七條 記名庶民債券ノ名義書換ヲ爲サントスル場合ハ讓渡人及讓受人雙方ノ署名又ハ記名捺印シタル請求書ニ債券ヲ添ヘ本金庫ニ提出スルコトヲ要ス

相續、遺贈、競賣等ニ因リ記名庶民債券ヲ取得シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依ルコト能ハザルトキハ其ノ取得ヲ證スル書面ヲ添ヘ名義書換ヲ本金庫ニ請求スルコトヲ要ス

前條第二項ノ規定ハ前二項ノ名義書換ニ之ヲ準用ス

第二十八條 無記名庶民債券又ハ利札ヲ滅失シ、紛失シ若ハ盜取セラレタル場合ハ公示催告手續ニ依リ除權判決ヲ受ケ

タル後ニ非ザレバ其ノ代債券又ハ代利札ヲ交付セザルモノトス

第二十九條 記名庶民債券災害ニ因リ滅失シタルトキハ所有者ハ其ノ事由、券面金額及番號ヲ詳記シ二人以上ノ保證人ヲ立テ本金庫ニ届出デ代債券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ本金庫ハ其ノ證明カナルモノニ限り代債券ヲ交付ス其ノ證明カナラザルモノニ付テハ紛失ノ例ニ依ル

第三十條 記名庶民債券ヲ紛失シ又ハ盜取セラレタルトキハ所有者ハ其ノ事由、券面金額及番號ヲ詳記シ本金庫ニ届出デ代債券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ本金庫ハ請求者ノ費用ヲ以テ其ノ旨ヲ公告シ一月以内ニ其ノ債券ヲ發見シタル旨ノ届出ナキトキハ二人以上ノ保證人ヲ立テシメ代債券ヲ交付ス

第三十一條 記名庶民債券ノ滅失、紛失又ハ盜取ノ届出ニ關シ異議ノ申立ヲ爲ス者アルトキハ本金庫ハ管轄裁判所ノ判決確定ノ後ニ非ザレバ代債券ヲ交付セズ

第三十二條 庶民債券汚染又ハ毀損シタルトキハ所有者ハ其ノ事由ヲ詳記シ其ノ債券ヲ添ヘ本金庫ニ差出シ代債券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ受ケ其ノ債券ヲ審査シ真正ナリト認ムルトキハ本金庫ハ代債券ヲ交付ス其ノ真正ナルコトヲ鑑別シ難キモノハ紛失ノ例ニ依ル

第三十三條 記名庶民債券ヲ無記名ニ、無記名庶民債券ヲ記名ニ書換ヲ爲ス場合又ハ滅失シ、紛失シ、盜取セラレ者ハ汚染毀損シタル等ノ爲代債券ヲ交付スル場合ニ於テハ請求者ヨリ債券一通ニ付三十錢ノ手数料ヲ徴收ス

記名庶民債券ノ名義書換ヲ爲ス場合ニ於テハ請求者ヨリ債券一通ニ付十五錢ノ手数料ヲ徴收ス

第六章 會計

第三十四條 本金庫ノ事業年度ハ一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄トス

第三十五條 理事長ハ設立ノ時及毎事業年度ノ初ニ於テ財産目錄、貸借對照表及損益計算書ヲ作成シ定款ト共ニ之ヲ各事務所ニ備置クモノトス

債權者ハ業務時間内何時ニテモ前項ニ掲グル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得ルモノトス

第三十六條 剩餘金ハ之ヲ配當セズ

剩餘金ハ先ヅ其ノ五分ノ一以上ヲ準備金トシテ引去リ猶殘餘アルトキハ特別積立金、退職給與基金又ハ繰越金ト爲ス

國民更生金庫法

モノトス

剩餘金ノ處分ハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ行フ

第三十七條 準備金及特別積立金ハ損失ノ填補ニ充ツルモノトス

損失ノ填補ハ先ヅ特別積立金ヲ以テシ猶足ラザルトキハ準備金ヲ以テスルモノトス

第七章 定款變更

第三十八條 本定款ヲ變更セントスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クルモノトス

第八章 雜則

第三十九條 本金庫ノ業務取扱時間ハ午前九時ヨリ午後五時迄トス但シ土曜日ニ限り午後二時迄トス

前項ノ業務取扱時間ハ業務ノ都合ニ依リ之ヲ變更スルコトアルベシ

本金庫ノ休業日ハ祭日、祝日、日曜日其ノ他本金庫事務所所在地ニ行ハルル一般ノ休日トシ必要アル場合ニ於テハ豫メ公告ノ上臨時休業ヲ爲スコトアルベシ

國民更生金庫法

昭和十六年三月六日  
法律第四十二號



改正 昭和十七年第六八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國民更生金庫法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國民更生金庫法

第一章 總則

第一條 國民更生金庫ハ時局ノ要請ニ應ジ轉業又ハ廢業ヲ爲ス商工業者等ノ資産及負債ノ整理ヲ促進シ其ノ更生ヲ圖ルコトヲ目的トス

國民更生金庫ハ法人トス

第二條 國民更生金庫ハ主たる事務所ヲ東京市ニ置ク

國民更生金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ必要ノ地ニ從タル事務所ヲ設置スルコトヲ得

第三條 國民更生金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ銀行其ノ他命令ノ定ムル法人ヲシテ業務ノ一部ヲ代理セシムルコトヲ得

第四條 國民更生金庫ノ資本金ハ二千萬圓トス但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加スルコトヲ得

第五條 政府ハ千九百萬圓ヲ國民更生金庫ニ出資スベシ

前項ノ出資ハ國債證券ヲ交付シテ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

第五條ノ二 國民更生金庫ノ資本金ヲ三千萬圓増加シ政府之ヲ出資ス

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル政府ノ出資ニ之ヲ準用ス

第六條 國民更生金庫ハ定款ヲ以テ左ノ事項ヲ規定スベシ

一 目的

二 名稱

三 事務所ノ所在地

四 資本金額及資産ニ關スル事項

五 役員ニ關スル事項

六 業務及其ノ執行ニ關スル事項

七 更生債券ノ發行ニ關スル事項

八 會計ニ關スル事項

九 公告ノ方法

定款ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ變更スルコトヲ得

第七條 國民更生金庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第八條 國民更生金庫ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課セス

北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ國民更生

金庫ノ事業ニ對シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別

ノ事情ニ基キ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル場合此ノ限ニ在ラズ

第九條 國民更生金庫ニ付解散ヲ必要トスル事由發生シタル

場合ニ於テ其ノ處置ニ關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 國民更生金庫ニ非ザル者ハ國民更生金庫又ハ之ニ類

似スル名稱ヲ用フルコトヲ得ズ

第二章 役員

第十一條 國民更生金庫ニ理事長一人、理事三人以上及監事

二人以上ヲ置ク

第十二條 理事長ハ國民更生金庫ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ國民更生金庫ヲ代表シ、理事

長ヲ輔佐シテ國民更生金庫ノ業務ヲ掌理シ、理事長事故ア

ルトキハ其ノ職務ヲ代理シ、理事長缺員ノトキハ其ノ職務

ヲ行フ

監事ハ國民更生金庫ノ業務ヲ監査ス

第十三條 理事長、理事及監事ハ主務大臣之ヲ命ズ

理事長及理事ノ任期ハ三年、監事ノ任期ハ二年トス

第十四條 理事長ハ定款ノ定ムル所ニ依リ從タル事務所ノ業

國民更生金庫法

務ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スル代理人ヲ選任スルコトヲ得

第十五條 理事長及理事ハ他ノ職業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 國民更生金庫ニ評議員若干人ヲ置キ主務大臣之ヲ命ズ

評議員ハ業務經營ニ關スル重要ナル事項ニ付理事長ノ諮問

ニ應ジ必要アルトキハ之ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得

評議員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ二年トス

第三章 業務

第十七條 國民更生金庫ハ左ノ業務ヲ行フ

一 轉業又ハ廢業ヲ爲ス商工業者等ノ爲ニスル資産ノ管理

又ハ處分

二 轉業又ハ廢業ヲ爲ス商工業者等ノ爲ニスル資金ノ融通

三 轉業又ハ廢業ヲ爲ス商工業者等ノ爲ニスル債務ノ引受

又ハ保證

四 前各號ノ業務ニ附帶スル事業

國民更生金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ前項ニ掲グル業務以

外ノ業務ヲ行フコトヲ得

本法ニ規定スルモノノ外國民更生金庫ノ業務ニ關シ必要ナ



ル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 國民更生金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ズ

一 國債、地方債又ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル有價證券ノ取得

二 大藏省預金部ヘノ預金又ハ郵便貯金

三 銀行ヘノ預金又ハ信託會社ヘノ金錢信託

第四章 更生債券

第十九條 國民更生金庫ハ拂込資本金額ノ十五倍ヲ限リ更生債券ヲ發行スルコトヲ得

第二十條 更生債券ハ額面金額五十圓以上トシ無記名利札付トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

更生債券ハ割引ノ方法ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ得

第二十一條 國民更生金庫ハ更生債券借換ノ爲一時第十九條ノ制限ニ依ラズ更生債券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ更生債券ヲ發行シタルトキハ發行後一月以内ニ其ノ發行額面金額ニ相當スル舊更生債券ヲ償還スベシ

第二十二條 政府ハ更生債券ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ヲ保

證スルコトヲ得

第二十三條 更生債券ハ賣出ノ方法ヲ以テ發行スルコトヲ得

第二十四條 國民更生金庫ニ於テ更生債券ヲ發行セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第二十五條 更生債券ノ消滅時効ハ元本ニ在リテハ十五年、利息ニ在リテハ五年ヲ以テ完成ス

第二十六條 所得税法及有價證券移轉税法中國債以外ノ公債ニ關スル規定ハ更生債券ニ之ヲ準用ス

第二十七條 本章ニ規定スルモノノ外更生債券ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五章 會計

第二十八條 國民更生金庫ノ事業年度ハ四月ヨリ翌年三月迄トス

第二十九條 國民更生金庫ハ設立ノ時及毎事業年度ノ初ニ於テ財産目録、貸借對照表及損益計算書ヲ作成シ定款ト共ニ之ヲ各事務所ニ備置クコトヲ要ス

出資者及債權者ハ業務時間内何時ニテモ前項ニ掲グル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第六章 監督及補助

第三十條 主務大臣ハ國民更生金庫ノ業務ヲ監督ス

第三十一條 國民更生金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十二條 國民更生金庫ハ業務開始ノ際業務ノ方法ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第三十三條 主務大臣ハ國民更生金庫ニ對シ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ、検査ヲ爲シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 主務大臣ハ國民更生金庫監理官ヲ置キ國民更生金庫ノ業務ヲ監視セシム

第三十五條 國民更生金庫監理官ハ何時ニテモ國民更生金庫ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

國民更生金庫監理官ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ國民更生金庫ニ命ジテ業務及財産ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

國民更生金庫監理官ハ國民更生金庫ノ諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十六條 役員ガ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第三十七條 政府ハ國民更生金庫ニ對シ第十七條ニ規定スル

業務ニ因リテ受ケタル損失ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

前項ノ契約ハ之ニ基キ交付スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協贊ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第一項ノ損失ヲ決定スル基準ハ主務大臣大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ム

第三十八條 前條第一項ノ損失及其ノ額ハ國民更生金庫損失審査會之ヲ決定ス

國民更生金庫損失審査會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 罰則

第三十九條 左ノ場合ニ於テハ國民更生金庫ノ理事長、理事又ハ監事ヲ千圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ

二 本法ニ規定セザル業務ヲ營ミタルトキ

三 第十八條ノ規定ニ違反シ業務上ノ餘裕金ヲ運用シタルトキ

四 第十九條又ハ第二十一條第二項ノ規定ニ違反シ更生債



國民更生金庫法

券ノ發行ヲ爲シ又ハ償還ヲ爲サザルトキ  
五 主務大臣ノ監督上ノ命令又ハ處分ニ違反シタルトキ  
六 國民更生金庫監理官ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ命ズル報告ヲ爲サザルトキ

第四十條 左ノ場合ニ於テハ國民更生金庫ノ理事長、理事又ハ監事ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス  
一 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ違反シ登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

二 第二十九條ノ規定ニ違反シ書類ヲ備置カザルトキ、其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ又ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ

第四十一條 第十條ノ規定ニ違反シ國民更生金庫又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用ヒタル者ハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

附則

第四十二條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和十六年勅令第七百三十號ヲ以テ昭和十六年七月一日ヨリ施行)

第四十三條 主務大臣ハ設立委員ヲ命ジ國民更生金庫ノ設立ニ關スル事務ヲ處理セシム

第四十四條 設立委員ハ定款ヲ作成シ政府以外ノ出資者ノ出

資ノ申込書ト共ニ之ヲ主務大臣ニ提出シ設立ノ認可ヲ申請スベシ  
前項ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク出資ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第四十五條 出資ノ拂込完了シタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ事務ヲ國民更生金庫理事長ニ引繼グベシ  
理事長前項ノ事務ヲ引繼グ受ケタルトキハ理事長、理事及監事ノ全員ハ設立ノ登記ヲ爲スベシ

國民更生金庫ハ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス  
第四十六條 本法施行ノ際現ニ國民更生金庫又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フル者ハ本法施行後六月以内ニ其ノ名稱ヲ變更スルコトヲ要ス

第十條ノ規定ハ前項ノ期間内之ヲ前項ニ掲グル者ニ適用セズ

第四十七條 國民更生金庫ガ財團法人國民更生金庫ノ權利ヲ讓受ケ又ハ其ノ義務ヲ引受ケントスル場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ  
前項ノ讓受又ハ引受ハ財團法人國民更生金庫ノ解散ノ日ニ於ケル財産目錄ニ記載シタル價額ニ依ルコトヲ得

國民更生金庫ガ前項ノ價額ニ依リ第一項ノ讓受又ハ引受ヲ

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和十七年勅令第七百七十九號ヲ以テ第十九條及第三十七條第三項ノ改正規定ハ昭和十七年三月二十日ヨリ第五條ノ二ノ規定ハ昭和十七年四月一日ヨリ施行)

國民更生金庫法施行令

昭和十六年六月三十日  
勅令第七百三十一號

改正 昭和十七年第二六號

朕國民更生金庫法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
國民更生金庫法施行令

第一章 業務

第一條 國民更生金庫ノ國民更生金庫法第十七條第一項ノ業務ハ地方長官ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ轉業又ハ廢業ヲ爲スモノト認ムル商工業業者等 (以下轉廢業者ト稱ス)ノ爲ニ之ヲ行フ  
一 時局ニ伴フ經濟統制ノ爲ニスル生産、配給、輸出又ハ輸入ノ禁止又ハ制限  
二 時局ニ伴フ經濟統制ノ爲ニスル生産、配給、輸出又ハ輸入ノ機構ノ整理  
三 國際關係ノ變化ニ基ク輸出又ハ輸入ノ減少

爲シタルニ因リ受ケタル損失ハ之ヲ第三十七條第一項ノ損失ト看做ス  
第四十八條 登録税法中左ノ通改正ス  
第十九條第七號中「庶民金庫」ノ上ニ「國民更生金庫、」ヲ、「庶民金庫法」ノ上ニ「國民更生金庫法、」ヲ加フ  
同條第十七號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ  
十七ノ二 國民更生金庫カ國民更生金庫法第十七條ニ規定スル業務ノ爲ニスル權利ノ受得又ハ所有權ノ保存ノ登記又ハ登録  
同條第十八號中「庶民金庫」ノ上ニ「國民更生金庫、」ヲ加フ  
第四十九條 印紙税法中左ノ通改正ス  
第五條第五號ノ二ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ  
五ノ三 國民更生金庫ノ業務ニ關スル證書帳簿及厚生債券  
第五十條 政府出資特別會計法中左ノ通改正ス  
第五條ニ左ノ一項ヲ加フ  
公債ノ交付ニ依リ出資ヲ爲ス爲必要アルトキハ政府ハ前項ノ規定ニ依ルノ外本會計ノ負擔ニ於テ公債ヲ發行スルコトヲ得

附則 (昭和十七年法律第六十八號)

國民更生金庫法施行令



四 前各號ノ事由ニ準ズル事由

第二條 國民更生金庫ガ轉廢業者ノ爲管理又ハ處分スベキ資産ハ當該轉廢業者ガ業務ノ用ニ供シ若ハ業務ニ關シ取得シタルモノ又ハ管理若ハ處分上之ト分離スルヲ適當トセザルモノニ限ル

第三條 國民更生金庫ノ轉廢業者ノ爲ニスル資産ノ管理又ハ處分ハ其ノ資産ニ付所有權其ノ他ノ權利ノ移轉ヲ受ケテ之ヲ行フコトヲ得

第四條 國民更生金庫ガ轉廢業者ノ爲資産ノ處分ヲ引受ケタル場合ニ於テハ當該資産ヲ處分シタル時其ノ處分價額ニ相當スル金額ヲ處分ノ委託者ニ交付ス但シ地方長官ノ轉廢業者資産評價地方委員會ニ諮問シ決定スル價額(以下引受價額ト稱ス)ニ滿タザル價額ヲ以テ當該資産ヲ處分シタルトキ及當該資産ヲ處分シ得ザルトキハ引受價額ニ相當スル金額ヲ交付ス

第五條 國民更生金庫法第十七條第一項第二號ノ資金ノ融通ハ轉廢業者ノ爲資産ノ處分ヲ引受ケタル場合ニ限り當該資産ノ引受價額ヲ限度トシテ當該轉廢業者ノ爲之ヲ爲スコトヲ得

第六條 國民更生金庫法第十七條第一項第三號ノ債務ノ引受

又ハ保證ハ轉廢業者ノ爲資産ノ處分ヲ引受ケタル場合ニ限リ商工大臣ノ認可ヲ受ケタル額ヲ限度トシテ當該轉廢業者ノ爲之ヲ爲スコトヲ得

第二章 更生債券

第七條 更生債券ノ募集ニ應ゼントスル者ハ更生債券申込證ニ通ニ其ノ引受クベキ更生債券ノ數及住所ヲ記載シ之ニ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス

更生債券申込證ハ理事長之ヲ作成シ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 國民更生金庫ノ名稱
- 二 更生債券ノ總額
- 三 各更生債券ノ金額
- 四 更生債券ノ利率
- 五 更生債券償還ノ方法及期限
- 六 利息支拂ノ方法及期限
- 七 更生債券發行ノ價額又ハ其ノ最低價額
- 八 國民更生金庫ノ資本金額及拂込資本金額
- 九 舊更生債券借換ノ爲國民更生金庫法第十九條ノ制限ニ依ラズ更生債券ヲ發行スルコトキハ其ノ旨
- 十 前ニ更生債券ヲ發行シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘザル

總額

更生債券發行ノ最低價額ヲ定メタル場合ニ於テハ應募者ハ更生債券申込證ニ應募價額ヲ記載スルコトヲ要ス

第八條 前條ノ規定ハ契約ニ依リ更生債券ノ總額ヲ引受ケタル場合ニハ之ヲ適用セズ更生債券募集ノ委託ヲ受ケタル會社ガ自ら更生債券ノ一部ヲ引受ケタル場合ニ於テ其ノ一部ニ付亦同ジ

第九條 更生債券ノ應募總額ガ更生債券申込證ニ記載シタル更生債券ノ總額ニ達セザルトキト雖モ更生債券ヲ成立セシムル旨ヲ更生債券申込證ニ記載シタルトキハ其ノ應募總額ヲ以テ更生債券ノ總額トス

第十條 更生債券ノ募集ガ完了シタルトキハ理事長ハ遲滯ナク各更生債券ニ付其ノ全額ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第十一條 更生債券募集ノ委託ヲ受ケタル會社ハ自己ノ名ヲ以テ國民更生金庫ノ爲ニ第七條第二項及前條ニ定ムル行爲ヲ爲スコトヲ得

更生債券募集ノ委託ヲ受ケタル會社ニ以上アルトキハ前項ノ行爲ハ共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條 賣出ノ方法ニ依リ更生債券ヲ發行セントスルトキハ理事長ハ左ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス

一 賣出期間

二 更生債券賣出ノ價額

三 第七條第二項第一號乃至第六號及第八號乃至第十號ニ掲グル事項

四 第十三條ニ規定スル事項

第十三條 賣出期間内ニ賣上ゲタル更生債券ノ總額ガ前條ノ規定ニ依リ公告シタル更生債券ノ總額ニ達セザルトキハ其ノ賣上總額ヲ以テ更生債券ノ總額トス

第十四條 更生債券ハ全額ノ拂込アリタル後ニ非ザレバ之ガ證券ノ發行ヲ爲スコトヲ得ズ

第十五條 更生債券ニハ第七條第二項第一號乃至第六號ニ掲グル事項及證券番號ヲ記載シ理事長之ニ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス

賣出ノ方法ニ依リ發行スル更生債券ニハ第七條第二項第二號ニ掲グル事項ヲ記載スルコトヲ要セズ

第十六條 理事長ハ主タル事務所ニ更生債券原簿ヲ備置クコトヲ要ス

國民更生金庫ノ出資者及債權者ハ業務時間内何時ニテモ更生債券原簿ノ閲覧ヲ求ムルコトヲ得

第十七條 更生債券原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス



一 更生債券ノ數及番號  
 二 更生債券ノ證券發行ノ年月日  
 三 第七條第二項第二號乃至第六號ニ掲グル事項  
 更生債券ヲ記名ト爲シタルトキハ前項ニ掲グル事項ノ外其ノ更生債券ノ所有者ノ氏名及住所並ニ取得ノ年月日ヲ更生債券原簿ニ記載スルコトヲ要ス

第十八條 記名更生債券ノ移轉ハ取得者ノ氏名及住所ヲ更生債券原簿ニ記載シ且其ノ氏名ヲ證券ニ記載スルニ非ザレバ之ヲ以テ國民更生金庫其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

記名更生債券ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ質權者ノ氏名及住所ヲ更生債券原簿ニ記載スルニ非ザレバ之ヲ以テ國民更生金庫其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第十九條 更生債券應募者ニ對スル通知又ハ催告ハ更生債券申込證ニ記載シタル其ノ者ノ住所ニ、其ノ者ガ別ニ其ノ住所ヲ國民更生金庫ニ通知シタルトキハ其ノ住所ニ宛ツルヲ以テ足ル未ダ更生債券ノ證券ノ發行ヲ爲スニ至ラザル場合ニ於テ更生債券權利者ニ對スル通知又ハ催告ニ付亦同ジ  
 記名更生債券ノ所有者ニ對スル通知又ハ催告ハ更生債券原簿ニ記載シタル其ノ者ノ住所ニ、其ノ者ガ別ニ其ノ住所ヲ

國民更生金庫ニ通知シタルトキハ其ノ住所ニ宛ツルヲ以テ足ル

前二項ノ通知又ハ催告ハ通常其ノ到達スベカリシ時ニ到達シタルモノト看做ス

無記名更生債券ノ所有者ニ對スル通知又ハ催告ハ公告ノ方法ニ依ルコトヲ得

第二十條 無記名更生債券ヲ償還スル場合ニ於テ欠缺セル利札アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ償還額ヨリ控除ス但シ既ニ支拂期ノ到來シタル利札ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ  
 前項ノ利札ノ所持人ハ何時ニテモ之ト引換ニ控除金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

第三章 登記

第二十一條 國民更生金庫ノ設立ノ登記ハ理事長ガ設立委員ヨリ設立ニ關スル事務ノ引繼ヲ受ケタル日ヨリ二週間以内ニ主タル事務所ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス  
 設立ノ登記ニハ左ノ事項ヲ掲グルコトヲ要ス

- 一 目的
- 二 名稱
- 三 事務所
- 四 資本金額及拂込資本金額

- 五 理事長、理事及監事ノ氏名及住所
- 六 公告ノ方法

國民更生金庫ハ設立ノ登記ヲ爲シタル後一週間以内ニ從タル事務所ノ所在地ニ於テ前項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第二十二條 國民更生金庫ノ成立後從タル事務所ヲ設ケタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間以内ニ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記シ其ノ從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ前條第二項ニ掲グル事項ヲ登記シ他ノ從タル事務所ノ所在地ニ於テハ同期間内ニ其ノ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記スルコトヲ要ス

主タル事務所又ハ從タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル登記所ノ管轄區域内ニ於テ新ニ從タル事務所ヲ設ケタルトキハ其ノ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記スルヲ以テ足ル

第二十三條 國民更生金庫ガ主タル事務所ヲ移轉シタルトキハ二週間以内ニ移轉ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス  
 國民更生金庫ガ從タル事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ三週間以内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ四週間以内ニ第二十一條第二項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス但シ同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ從タル事務所

所ヲ移轉シタルトキハ其ノ移轉ノ登記ヲ爲スヲ以テ足ル

第二十四條 第二十一條第二項ニ掲グル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十五條 國民更生金庫法第十四條ノ代理人ヲ選任シタルトキハ二週間以内ニ之ヲ置キタル事務所ノ所在地ニ於テ代理人ノ氏名、住所及代理人ヲ置キタル事務所並ニ代理人ノ代理權ニ制限ヲ加ヘタルトキハ其ノ制限ヲ登記スルコトヲ要ス登記シタル事項ノ變更及代理人ノ代理權ノ消滅ニ付亦同ジ

第二十六條 更生債券ヲ發行シタル場合ニ於テ第十條ノ拂込アリタルトキ又ハ第十二條ノ賣出期間満了シタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ更生債券ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス  
 前項ノ登記ニハ第七條第二項第二號乃至第六號ニ掲グル事項ヲ掲グルコトヲ要ス

第二十四條ノ規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス  
 第二十七條 登記スベキ事項ニシテ主務大臣ノ認可ヲ要スルモノハ其ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス



第二十八條 登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ遲滞ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス

第二十九條 國民更生金庫ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ區裁判所ヲ以テ管轄登記所トス

各登記所ニ國民更生金庫登記簿ヲ備フ

第三十條 設立ノ登記ヲ除クノ外本令ニ依ル登記ハ理事長ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第三十一條 設立登記ノ申請書ニハ定款、出資ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面並ニ理事長、理事及監事ノ資格ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第三十二條 國民更生金庫法第十四條ノ代理人ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ代理人ノ選任ヲ證スル書面及代理人ノ代理權ニ制限ヲ加ヘタルトキハ其ノ制限ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第三十三條 更生債券ノ登記ノ申請書ニハ更生債券ノ引受ヲ證スル書面、更生債券申込證及各更生債券ニ付第十條ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面又ハ第十二條ノ賣出期間内ニ於テ賣上ゲタル更生債券ノ總額ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第三十四條 事務所ノ新設又ハ事務所ノ移轉其ノ他第二十一

條第二項ニ掲グル事項ノ變更ノ登記ノ申請書ニハ事務所ノ新設又ハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第三十五條 前條ノ規定ハ第二十五條ノ規定ニ依リ登記シタル事項ノ變更及國民更生金庫法第十四條ノ代理人ノ代理權ノ消滅並ニ更生債券ニ關スル登記事項ノ變更ノ登記ニ之ヲ準用ス

第三十六條 非訟事件手續法第四百二十二條乃至第五百十一條ノ六及第五百十四條乃至第五百十七條ノ規定ハ本令ニ依ル登記ニ之ヲ準用ス

附則 本令ハ國民更生金庫法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●國民更生金庫法施行規則

昭和十六年六月三十日  
大藏省令第三十四號

改正 昭和十七年商工省令第五號

國民更生金庫法施行規則左ノ通定ム

國民更生金庫法施行規則

第一條 國民更生金庫ハ國民更生金庫法第三條ノ規定ニ依リ

信託會社、無盡會社、產業組合中央金庫、商工組合中央金庫、產業組合法第一條第四項ノ規定ニ依リ手形ノ割引若ハ貯金ノ取扱ヲ爲ス信用組合、商業組合、商業組合聯合會、工業組合、工業組合聯合會、貿易組合、貿易組合聯合會、自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會ヲシテ其ノ業務ノ一部ヲ代理セシムルコトヲ得

第二條 國民更生金庫銀行又ハ前條ニ掲グル法人ヲシテ業務ノ一部ヲ代理セシメントスルトキハ其ノ商號又ハ名稱、住所及代理業務ヲ行フベキ本支店又ハ事務所ノ所在地並ニ代理セシムベキ業務ノ範圍ヲ具シ商工大臣ニ認可ノ申請ヲ爲スベシ

第三條 國民更生金庫ノ業務ノ一部ヲ代理シタル銀行又ハ第一條ニ掲グル法人ハ其ノ代理業務ニ關シ別ニ帳簿ヲ設ケ經理ヲ爲スベシ

第四條 國民更生金庫ノ理事長、理事及監事ノ報酬又ハ手當ノ額ヲ決定セントスルトキハ商工大臣ノ承認ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第五條 國民更生金庫ハ每事業年度經過後定款ノ定ムル所ニ依リ貸借對照表ヲ公告スベシ

第六條 左ノ場合ニ於テハ國民更生金庫ハ遲滞ナク之ヲ商工  
國民更生金庫定款

大臣ニ届出ツベシ

一 業務ノ執行其ノ他ニ關スル規程ヲ定メ又ハ之ヲ改廢シタルトキ  
二 國民更生金庫法及國民更生金庫法施行令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲シタルトキ

附則

本令ハ昭和十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス  
國民更生金庫理事長設立委員ヨリ其ノ事務ノ引渡ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ大藏大臣ニ届出ツベシ  
國民更生金庫財團法人國民更生金庫ヨリ其ノ權利ノ讓受又ハ其ノ義務ノ引受ヲ了シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ大藏大臣ニ届出ツベシ  
國民更生金庫設立初度ノ理事長、理事及監事ノ報酬ノ額ハ設立委員之ヲ定ム

●國民更生金庫定款

昭和十六年七月五日  
認可

改正 昭和十七年三月三〇日、五月三〇日、八月二九日

第一章 總則



國民更生金庫定款

第一條 本金庫ハ國民更生金庫法ニ依リテ設立シ國民更生金庫ト稱ス

第二條 本金庫ハ時局ノ要請ニ應ジ轉業又ハ廢業ヲ爲ス商工業者等ノ資産及負債ノ整理ヲ促進シ其ノ更生ヲ圖ルコトヲ目的トス

第三條 本金庫ハ主タル事務所ヲ東京市ニ、從タル事務所ヲ大阪市、横濱市、名古屋市、神戸市及福岡市ニ置ク  
本金庫ハ業務ノ都合ニ依リ便宜ノ地ニ出張所ヲ置クコトヲ得

第四條 本金庫ハ商工大臣ノ認可ヲ受ケ銀行、信託會社、無盡會社、産業組合中央金庫、商工組合中央金庫、産業組合法第一條第四項ノ規定ニ依リ手形ノ割引若ハ貯金ノ取扱ヲ爲ス信用組合、商業組合、商業組合聯合會、工業組合、工業組合聯合會、貿易組合、貿易組合聯合會、自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會ヲシテ業務ノ一部ヲ代理セシムルコトヲ得

第五條 本金庫ノ公告ハ官報ニ掲載シテ之ヲ爲ス

第二章 資本金

第六條 本金庫ノ資本金ハ五千萬圓トス

第七條 政府ハ四千九百萬圓ヲ本金庫ニ出資スルモノトス

前項ノ出資ハ國債證券ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第三章 役員

第九條 本金庫ニ理事長一人、理事三人以上及監事二人以上ヲ置ク

第十條 理事長ハ本金庫ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス  
理事ハ理事長ノ定ムル所ニ依リ本金庫ヲ代表シ理事長ヲ輔佐シテ本金庫ノ業務ヲ掌理ス

理事ハ豫メ理事長ノ定メタル順位ニ依リ理事長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ、理事長缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ  
監事ハ本金庫ノ業務ヲ監査ス

第十一條 理事長、理事及監事ハ商工大臣之ヲ命ズルモノトス

理事長及理事ノ任期ハ三年、監事ノ任期ハ二年トス

第十二條 理事長ハ從タル事務所ノ業務ニ關シ必要ト認ムルトキハ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スル代理人ヲ選任スルコトヲ得

第十三條 理事長及理事ハ他ノ職業ニ従事スルコトヲ得ズ但シ商工大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條 理事長、理事及監事ノ報酬又ハ手當ノ額ハ商工大臣ノ承認ヲ受ケ理事長之ヲ定ム

第十五條 本金庫ニ評議員二十人以上ヲ置キ商工大臣之ヲ命ズルモノトス

評議員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ二年トス  
評議員ハ業務經營ニ關スル重要ナル事項ニ付理事長ノ諮問ニ應ジ必要アルトキハ之ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得  
評議員ニ諮問スベキ事項左ノ如シ  
一 定款ノ變更  
二 業務ノ方法ノ設定及變更  
三 資本金増加ノ時期及方法  
四 更生債券ノ發行及償還ニ關スル事項  
五 剩餘金ノ處分  
六 其ノ他理事長ニ於テ必要ト認メタル事項

第十六條 理事長ハ本金庫ノ職員ヲ任免ス

第十七條 本金庫ハ左ノ業務ヲ行フ

一 轉業又ハ廢業ヲ爲ス商工業者等ノ爲ニスル資産ノ管理又ハ處分  
二 轉業又ハ廢業ヲ爲ス商工業者等ノ爲ニスル資金ノ融通

國民更生金庫定款

三 轉業又ハ廢業ヲ爲ス商工業者等ノ爲ニスル債務ノ引受又ハ保證

四 前各號ノ業務ニ附帶スル事業  
本金庫ハ商工大臣ノ認可ヲ受ケ前項ニ掲グル業務以外ノ業務ヲ行フコトヲ得

第十八條 本金庫ハ業務開始ノ際業務ノ方法ヲ定メ商工大臣ノ認可ヲ受ケタルモノトス之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第十九條 本金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ズ  
一 國債、地方債又ハ商工大臣ノ認可ヲ受ケタル有價證券ノ取得  
二 大藏省預金部ヘノ預金又ハ郵便貯金  
三 銀行ヘノ預金又ハ信託會社ヘノ金錢信託

第二十條 業務ノ執行ニ關スル諸規程ハ理事長之ヲ定ム

第二十一條 本金庫ハ拂込資本金額ノ十五倍ヲ限リ更生債券ヲ發行スルコトヲ得  
更生債券借換ノ爲一時前項ノ制限ニ依ラズ更生債券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ更生債券ヲ發行シタルトキハ發行後一月



以內ニ其ノ額面金額ニ相當スル舊債券ヲ償還スルモノトス  
第二十二條 更生債券ハ額面金額五十圓以上トシ無記名利札  
附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコト  
ヲ得

更生債券ハ割引ノ方法ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ得

第二十三條 更生債券ハ賣出ノ方法ヲ以テ之ヲ發行スルコト  
ヲ得

第二十四條 更生債券ノ償還期限ハ其ノ發行後二十年以內ト  
ス

第二十五條 無記名更生債券ヲ償還スル場合ニ於テ欠缺セル  
利札アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ償還額ヨリ控除ス但シ  
既ニ支拂期ノ到來シタル利札ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ  
前項ノ利札ノ所持人ハ何時ニテモ之ト引換ニ控除金額ノ支  
拂ヲ請求スルコトヲ得

第二十六條 賣出ノ方法ニ依ル更生債券ノ發行又ハ更生債券  
ノ償還ニ關シ必要ナル事項ハ豫メ之ヲ公告ス

第二十七條 無記名更生債券ヲ記名トナシ又ハ記名更生債券  
ヲ無記名ト爲サントスル場合ハ其ノ請求書ニ債券ヲ添ヘ本  
金庫ニ提出スルコトヲ要ス  
無記名更生債券ヲ記名ト爲スベキ請求アリタルトキハ本金

庫ハ之ニ記名紙ヲ貼附シ其ノ手續ヲ了シタル上理事長證印  
シテ請求者ニ之ヲ還付ス

記名更生債券ヲ無記名ト爲スベキ請求アリタルトキハ本金  
庫ハ之ト引換ニ同一番號ノ無記名ノ新債券ヲ交付ス

第二十八條 記名更生債券ノ名義書換ヲ爲サントスル場合ハ  
讓渡人及讓受人雙方ノ署名又ハ記名捺印シタル請求書ニ債  
券ヲ添ヘ本金庫ニ提出スルコトヲ要ス

相續、遺贈、競賣等ニ因リ記名更生債券ヲ取得シタル場合  
ニ於テ前項ノ規定ニ依ルコト能ハザルトキハ其ノ取得ヲ證  
スル書面ヲ添ヘ名義書換ヲ本金庫ニ請求スルコトヲ要ス  
前條第二項ノ規定ハ前二項ノ名義書換ニ之ヲ準用ス

第二十九條 無記名更生債券又ハ利札ヲ滅失シ、紛失シ又ハ  
盜取セラレタル場合ハ公示催告手續ニ依リ除權判決ヲ受ケ  
タル後ニ非ザレバ其ノ代債券又ハ代利札ヲ交付セザルモノ  
トス

第三十條 記名更生債券災害ニ因リ滅失シタルトキハ所有者  
ハ其ノ事由、券面金額及番號ヲ詳記シ二人以上ノ保證人ヲ  
立テ本金庫ニ届出テ代債券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得  
前項ノ請求アリタルトキハ本金庫ハ其ノ證據明カナルモノ  
ニ限り代債券ヲ交付ス其ノ證據明カナラザルモノニ付テハ

紛失ノ例ニ依ル

第三十一條 記名更生債券ヲ紛失シ又ハ盜取セラレタルトキ  
ハ所有者ハ其ノ事由、券面金額及番號ヲ詳記シ本金庫ニ届  
出テ代債券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ本金庫ハ請求者ノ費用ヲ以テ  
其ノ旨ヲ公告シ一月以內ニ其ノ債券ヲ發見シタル旨ノ届出  
ナキトキハ二人以上ノ保證人ヲ立テシメ代債券ヲ交付ス

第三十二條 記名更生債券ノ滅失、紛失又ハ盜取ノ届出ニ關  
シ異議ノ申立ヲ爲ス者アルトキハ本金庫ハ管轄裁判所ノ判  
決確定ノ後ニ非ザレバ代債券ヲ交付セズ

第三十三條 更生債券汚染又ハ毀損シタルトキハ所有者ハ其  
ノ事由ヲ詳記シ其ノ債券ヲ添ヘ本金庫ニ差出シ代債券ノ交  
付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ受ケ其ノ債券ヲ審査シ真正ナリト認ムルトキ  
ハ本金庫ハ代債券ヲ交付ス其ノ真正ナルコト鑑別シ難キモ  
ノハ紛失ノ例ニ依ル

第三十四條 記名更生債券ヲ無名記ニ、無記名更生債券ヲ記  
名ニ書換ヲ爲ス場合又ハ滅失シ、紛失シ、盜取セラレ若ハ汚  
染、毀損シタル等ノ爲代債券ヲ交付スル場合ニ於テハ請求  
者ヨリ債券一通ニ付三十錢ノ手数料ヲ徴收ス

記名更生債券ノ名義書換ヲ爲ス場合ニ於テハ請求者ヨリ債  
券一通ニ付十五錢ノ手数料ヲ徴收ス

第六章 會計

第三十五條 本金庫ノ事業年度ハ四月ヨリ翌年三月迄トス

第三十六條 理事長ハ設立ノ時及毎事業年度ノ初ニ於テ財產  
目錄、貸借對照表及損益計算書ヲ作成シ定款ト共ニ之ヲ各  
事務所ニ備置クモノトス

出資者及債權者ハ業務時間内何時ニテモ前項ニ掲グル書類  
ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第三十七條 剩餘金ノ處分ハ商工大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ行  
フ

第三十八條 本定款ニ定ムルモノノ外本金庫ノ資産ノ管理及  
處分ニ關シ必要ナル事項ハ理事長之ヲ定ム

第七章 定款ノ變更  
第三十九條 本定款ヲ變更セントスルトキハ商工大臣ノ認可  
ヲ受クルモノトス

第八章 雜則

第四十條 本金庫ノ業務取扱時間ハ午前九時ヨリ午後四時迄  
トス但シ土曜日ニ限り正午迄トス

前項ノ業務取扱時間ハ業務ノ都合ニ依リ之ヲ變更スルコト



臨時資金調整法

アルベシ  
本金庫ノ休業日ハ祭日、祝日、日曜日其ノ他本金庫事務所所在地ニ行ハルル一般ノ休日トシ必要アル場合ニ於テハ豫メ公告シ臨時休業ヲ爲スコトアルベシ

臨時資金調整法

昭和十二年九月十日  
法律第八十六號

改正 昭和十四年第六八號、第八六號、一五年第七〇號、一六年第一八號、第三九號、一七年第九號、第八四號  
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル臨時資金調整法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時資金調整法

第一條 本法ハ大東亞戰爭ニ關聯シ物資及資金ノ需給ノ適合ニ資スル爲國內資金ノ使用ヲ調整スルヲ目的トス  
第二條 銀行、信託會社、保險會社、產業組合中央金庫、商工組合中央金庫、戰時金融金庫及北海道府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會(以下金融機關ト總稱ス)ハ事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良ニ關スル資金ノ貸付ヲ爲シ又ハ有價證券ノ應募、引受若ハ募集ノ取扱ヲ爲サントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ金融機關ニ非

ズシテ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ヲ業トスル者(以下之ヲ證券引受業者ト稱ス)有價證券ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サントスルトキ亦同ジ  
第三條 金融機關又ハ證券引受業者前條ノ貸付又ハ有價證券ノ應募、引受若ハ募集ノ取扱ニ關シ本法ノ目的ニ從ヒ政府ノ適當ト認ムル方法ニ依リ自治的ニ調整ヲ爲スモノナルトキハ之ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ヲ適用セザルコトヲ得  
第四條 命令ノ定ムル會社ノ設立ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ會社ノ資本増加、合併又ハ目的變更ニシテ命令ノ定ムルモノニ付亦同ジ  
命令ノ定ムル會社左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ政府ノ許可ヲ受クベシ  
一 第二回以後ノ株金ノ拂込ヲ爲サシメントスルトキ  
二 他人ヲシテ引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サシメズシテ社債ヲ募集セントスルトキ  
第四條ノ二 命令ノ定ムル限度ヲ超ユル事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲サントスル者ハ之ニ付政府ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ノ定ムル者及左ノ各號ノ一ニ該當スル資金ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 金融機關ヨリノ借入金  
二 他人ヲシテ引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サシメタル社債ノ收入金  
三 本法ニ依リ設立又ハ資本増加ニ付認可ヲ受ケタル場合ノ會社ノ第一回拂込株金又ハ出資金  
四 本法ニ依リ拂込又ハ募集ニ付許可又ハ認可ヲ受ケタル場合ノ會社ノ拂込株金又ハ社債收入金

第五條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ第二條、第四條又ハ前條ノ許可又ハ認可ニ關スル事務ヲ日本銀行ヲシテ取扱ハシム

前項ノ事務ノ取扱ニ要スル經費ハ日本銀行ノ負擔トス  
第一項ノ場合ニ於テ當該事務ニ從事スル日本銀行職員ハ之ヲ法令ニ依リ公務ニ從事スル職員ト看做ス

第六條 日本興業銀行ハ五十億圓ヲ限リ日本興業銀行法第十二條ノ規定ニ依リ制限ヲ超エテ債券ヲ發行スルコトヲ得  
日本興業銀行ハ其ノ債券借換ノ爲債券ヲ發行スル場合ニ於テハ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得  
日本興業銀行法第十六條ノ規定ハ之ヲ適用セズ  
政府ハ日本興業銀行ノ發行スル債券ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ヲ保證スルコトヲ得

臨時資金調整法

第七條 資金金ハ資金特別會計法第四條ノ規定ニ依ルノ外之ヲ興業債券ニ運用スルコトヲ得

第七條ノ二 商工組合中央金庫ハ五千萬圓ヲ限リ商工組合中央金庫法第三十一條ノ規定ニ依リ制限ヲ超エテ債券ヲ發行スルコトヲ得  
商工組合中央金庫ハ其ノ債券借換ノ爲債券ヲ發行スル場合ニ於テハ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第八條 命令ノ定ムル時局ニ緊要ナル事業ヲ營ム會社ハ事業擴張ノ場合ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第九條 命令ノ定ムル時局ニ緊要ナル事業ヲ營ム會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲商法ニ規定スル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ  
最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ガ拂込ミタル株金額ニ滿タザルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付テハ擔保附社債信託



法ニ依ル物上擔保ヲ附スルコトヲ要ス

第十條 政府ハ第八條ノ規定ニ依リ資本ヲ増加シタル會社又ハ前條ノ規定ニ依リ社債ヲ募集シタル會社ニ對シ其ノ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十條ノ二 政府ハ土地其ノ他ノモノニシテ命令ノ定ムルモノヲ收用セラレ若ハ賣却シタル者又ハ其ノ利害關係人ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ代價トシテ受クル金錢ノ處分ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十一條 資金使用ノ調整ニ關シ重要ナル事項ヲ調査審議スル爲臨時資金調整委員會ヲ置ク

臨時資金調整委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 第二條、第四條、第四條ノ二、第八條又ハ第九條第一項ノ規定ニ依リ許可又ハ認可ニ關スル處分ニシテ事案ノ重要ナルモノニ付テハ臨時資金審查委員會ノ議ヲ經ベシ

臨時資金審查委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 政府ハ日本勸業銀行ヲシテ收入金二十億圓ニ達スル迄貯蓄債券ヲ發行セシムルコトヲ得

貯蓄債券ハ無記名トシ券面金額ヲ三十圓以下トス

第十四條 貯蓄債券ハ發行ノ翌年ヨリ三十五年內ニ毎年二回

以上抽籤ヲ以テ之ヲ償還スベシ

貯蓄債券ヲ償還スル場合ニハ賣出價格ノ三百倍以內ノ割増金ヲ附與スルコトヲ得其ノ方法及金額ハ主務大臣之ヲ定ム前項ノ割増金ハ主務大臣ノ定ムル價格ニ依リ國債證券ヲ以テ交付スルコトヲ得

第十四條ノ二 政府ハ日本勸業銀行ヲシテ收入金十五億圓ニ達スル迄報國債券ヲ發行セシムルコトヲ得

報國債券ハ無記名トシ券面金額ヲ十圓以下トス

第十四條ノ三 報國債券ハ無利子トシ券面金額ヲ以テ之ヲ賣出スモノトス

第十四條ノ四 報國債券ハ發行ノ翌年ヨリ十年內ニ之ヲ償還スベシ

報國債券ニハ抽籤ヲ以テ割増金ヲ附スルコトヲ得其ノ方法及金額ハ主務大臣之ヲ定ム

第十四條第三項ノ規定ハ報國債券ニ之ヲ準用ス

第十四條ノ五 報國債券ノ所有者ガ長期ニ亙リ郵便官署又ハ日本勸業銀行ニ其ノ債券ノ保管ヲ委託シタル場合ニ於テハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ當該債券ニ割増金ヲ附スルコトヲ得

第十五條 復興貯蓄債券法第三條ノ規定ハ貯蓄債券ニ、同法

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ資金ノ貸付ヲ爲シ又ハ有價證券ノ應募、引受若ハ募集ノ取扱ヲ爲シタル者

二 第四條第二項ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ株金拂込ノ催告又ハ社債ノ募集ヲ爲シタル者

三 第四條ノ二ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ又ハ第四條、第四條ノ二、第八條若ハ第九條ノ規定ニ依リ認可若ハ許可ニ付シタル條件ニ違反シテ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲シタル者

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十條ノ規定ニ依リ命令又ハ處分ニ違反シタル者

二 第十條ノ二ノ規定ニ基キ金錢ノ處分ニ關シ發スル命令ニ違反シタル者

三 第十六條ノ規定ニ違反シ報告ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者

四 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ政府ニ提出スベキ許可又ハ認可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虛偽ノ記載ヲ

第六條、第七條第一項及第八條並ニ日本勸業銀行法第三十五條ノ二乃至第三十五條ノ四、第四十條及第四十二條ノ規定ハ貯蓄債券及報國債券ニ之ヲ準用ス但シ日本勸業銀行法第三十五條ノ二第一項中二十圓トアルハ三十圓トス

商法第二百九十六條乃至第二百九十八條ノ規定ハ貯蓄債券及報國債券ニハ之ヲ適用セズ

第十六條 政府ハ資金ノ狀況ヲ調査スル爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ノ各號ニ掲グル事項ニ關シ關係者ヨリ報告ヲ徵シ又ハ帳簿其ノ他ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

一 資金ノ需給及移動ニ關スル事項

二 有價證券ニ關スル事項

三 國際收支ニ關スル事項

四 事業ノ資金計畫ニ關スル事項

五 事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル事項

第十六條ノ二 政府ハ第四條ノ二ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ又ハ第四條、第四條ノ二、第八條若ハ第九條ノ規定ニ依リ認可若ハ許可ニ付シタル條件ニ違反シテ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ中止ヲ命ズルコトヲ得



爲シタル者

第十八條ノ二 第十六條ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月以上ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ従業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前三條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前二條ノ罰金刑ヲ科ス

第二十條 當該官吏、委員若ハ第五條第三項ニ規定スル日本銀行職員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得タル法人又ハ人ノ業務上ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十二年勅令第四百九十二號ヲ以テ第十一條ノ規定ハ昭和十二年九月十五日ヨリ施行シ昭和十二年勅令第五百二十六號ヲ以テ第一條乃至第十條及第十二條乃至第二十一條ノ規定ハ昭和十二年九月二十七日ヨリ施行)

本法ハ第十四條及第十四條ノ三乃至第十五條ヲ除キ大東亞戰爭終了後一年內ニ之ヲ廢止スルモノトス

臨時資金調整法施行令

昭和十二年九月二十五日 勅令第五百二十七號

改正 昭和十三年第五九〇號、一四年第三二四號、一六年第一一〇六號、一七年第三六七號

朕臨時資金調整法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時資金調整法施行令

第一條 臨時資金調整法第二條ノ規定ノ適用ヲ受クル金融機關事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セララルト認ムル一口五萬圓以上ノ資金ノ貸付ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ貸付總額五萬圓以上ニ及ブベキ數口ニ互ル資金ノ貸付ヲ爲サントスルトキ亦同ジ前項ニ五萬圓以上トアルハ左ニ掲グル事業設備ニシテ主務大臣ノ定ムルモノノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セララルト認ムル資金ノ貸付ニ付テハ三萬圓以上トス

- 一 化粧品、化粧用具、喫煙用具、身邊用細貨類、毛皮製品、羽毛製品若ハ羽毛ヲ用ヒタル製品、皮革製品、玩具、室内遊戯具、樂器、樂器部分品若ハ附屬品、室内裝飾用品、照明器具、家具、致醉飲料、清涼飲料、調味料、菓子又ハ餡ノ製造用ノ設備
- 二 映畫製作用ノ設備

三 物品販賣用ノ設備

四 理容店用、浴場用、旅館用、料理店用又ハ貸席用ノ設備

五 興行用ノ設備

六 社交用、娛樂用又ハ遊興用ノ設備

第二條 臨時資金調整法第二條ノ規定ノ適用ヲ受クル金融機關又ハ證券引受業者額面總額五萬圓以上ノ有價證券(國債、地方債及臨時資金調整法施行地内ニ本店ヲ有スル會社ノ株式ヲ除ク以下同ジ)ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

第三條 前二條ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ適用セズ

一 行政官廳ノ認可又ハ許可ヲ受ケ借入ルル資金ノ貸付ヲ爲ストキ

二 行政官廳ノ認可又ハ許可ヲ受ケ發行スル有價證券ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ストキ

三 臨時資金調整法以外ノ法令ニ依リ行政官廳ノ認可又ハ許可ヲ受ケ有價證券ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ストキ

行政官廳前項ノ認可又ハ許可ヲ爲サントスルトキハ其ノ事

臨時資金調整法施行令

項ノ主務大臣ハ前二項ノ主務大臣ニ協議スベシ

第四條 臨時資金調整法第四條第一項ノ規定ニ依リ設立ニ付主務大臣ノ認可ヲ要スル會社ハ資本金(出資總額、株金總額、出資總額及株金總額ノ合計額又ハ基金總額ヲ謂フ以下同ジ)二十萬圓以上ノ會社トス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 特別ノ法令ニ依リ設立セララルル會社
- 二 臨時資金調整法以外ノ法令ニ依リ設立ニ付行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ受クベキ會社又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ設立セララルル會社
- 三 目的トスル事業ノ全部ニ付行政官廳ノ許可(企業許可令第三條ノ許可ヲ除ク)又ハ免許ヲ受クベキ會社

行政官廳前項第二號又ハ第三號ニ掲グル會社ニ付認可、許可、免許又ハ命令ヲ爲サントスルトキハ其ノ事項ノ主務大臣ハ前項ノ主務大臣ニ協議スベシ

第五條 臨時資金調整法第四條第一項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ要スル會社ノ資本増加、合併又ハ目的變更ハ左ニ掲グルモノトス但シ行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ受ケタルモノ又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ爲スモノハ此ノ限ニ在ラズ



臨時資金調整法施行令

- 一 資本金二十萬圓以上ノ會社ノ資本増加、合併又ハ目的變更
- 二 資本増加又ハ合併ニ因リ資本金二十萬圓以上ノ會社ト爲ルベキ場合ニ於ケル資本増加又ハ合併
- 行政官廳前項但書ノ認可、許可、免許又ハ命令ヲ爲サントスルトキハ其ノ事項ノ主務大臣ハ前項ノ主務大臣ニ協議スベシ
- 第六條 臨時資金調整法第四條第二項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケベキ會社ハ資本金二十萬圓以上ノ會社トス但シ同項ニ掲グル事項ニ付行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ受ケタルモノ又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ當該事項ヲ爲スモノハ此ノ限ニ在ラズ
- 行政官廳前項但書ノ認可、許可、免許又ハ命令ヲ爲サントスルトキハ其ノ事項ノ主務大臣ハ前項ノ主務大臣ニ協議スベシ
- 第六條ノ二 臨時資金調整法第四條ノ二ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケベキ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ限度ハ五萬圓トス但シ第一條第二項ニ掲グル事業設備ニシテ主務大臣ノ定ムルモノニ付テハ其ノ限度ヲ三萬圓トス
- 第六條ノ三 臨時資金調整法第四條ノ二但書ノ規定ニ依リ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スニ付許可ヲ受ケタルコト

- ヲ要セザル者ハ左ノ各號ニ掲グル者トス
- 一 北海道、府縣、府縣組合、市町村、市町村組合、町村組合、市町村内ノ區、市町村學校組合、町村學校組合及學區
- 二 當該事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ付行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ受ケタル者又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ當該事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲ス者
- 三 第四條第一項各號ノ一ニ該當スル會社又ハ第五條第一項但書ニ該當スル資本増加ヲ爲シタル會社ニシテ第一回拂込株金又ハ出資金ニ依リ當該事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スモノ
- 四 第六條第一項但書ニ該當スル會社ニシテ第二回以後ノ拂込株金又ハ社債收入金ニ依リ當該事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スモノ
- 行政官廳前項第二號ノ認可、許可、免許又ハ命令ヲ爲サントスルトキハ其ノ事項ノ主務大臣ハ大藏大臣及商工大臣ニ協議スベシ
- 第七條 臨時資金調整法第二條、第四條又ハ第四條ノ二ノ許可又ハ認可ニ關スル事務ヲ日本銀行ヲシテ取扱ハシムルニ付必要ナル事項ハ大藏大臣商工大臣及農林大臣ニ協議シテ

之ヲ定ム

- 第八條 臨時資金調整法第六條ノ規定ニ依ル保證ヲ爲スニ付必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム
- 第九條 左ニ掲グル事業ヲ營ム會社ハ大藏大臣及商工大臣ノ認可ヲ受ケ臨時資金調整法第八條又ハ第九條ノ規定ニ依リ株金全額拂込前ト雖モ資本ヲ増加シ又ハ商法第二百條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得
- 一 航空機製造事業
- 二 金屬工機械製造事業
- 三 兵器及兵器部分品製造事業
- 四 鋼船製造事業
- 五 製鐵事業
- 六 産金事業
- 七 石炭鑛業
- 八 石油鑛業、石油精製業及石油輸入業
- 第九條ノ二 大藏大臣ハ左ノ各號ノ一ニ掲グルモノヲ收用セラレ若ハ賣去シタル者又ハ其ノ利害關係人ニ對シ其ノ代價トシテ受ケタル金錢ノ一部ヲ以テ國債ヲ買入保有スベキコトヲ命ズルコトヲ得
- 一 土地、建物、船舶又ハ樹木ノ集團

臨時資金調整法施行令

- 二 前號ニ掲グルモノヲ除クノ外事業ニ屬スル設備
- 三 地上權、永小作權又ハ土地若ハ建物ノ賃借權
- 四 特許權、鑛業權又ハ漁業權
- 五 書畫又ハ骨董
- 六 其ノ他大藏大臣ノ指定スルモノ
- 第十條 臨時資金調整法第十六條ノ規定ニ依リ検査ヲ爲ス場合ニ於テハ當該官吏ハ其ノ身分ヲ示シ證券ヲ携帯スベシ
- 第十一條 第一條及第二條ニ於テ主務大臣トアルハ銀行、信託會社、保險會社及證券引受業者ニ付テハ大藏大臣、商工組合中央金庫ニ付テハ大藏大臣及商工大臣、産業組合中央金庫及北海道府縣ノ區域トスル信用組合聯合會ニ付テハ大藏大臣及農林大臣トシ第四條第一項、第五條第一項及第六條第一項ニ於テ主務大臣トアルハ大藏大臣及商工大臣トシ第六條ノ二ニ於テ主務大臣トアルハ大藏大臣、農林大臣及商工大臣トス
- 大藏大臣銀行、信託會社、保險會社又ハ證券引受業者ニ對シ第一條又ハ第二條ノ許可ヲ爲サントスルトキハ商工大臣ニ協議スベシ

附則

本令ハ昭和十二年九月二十七日ヨリ之ヲ施行ス



●臨時資金調整法施行細則

昭和十二年九月二十五日  
大藏  
農林省令  
商工

改正 昭和十二年一月三日、一三年八月一日、一四年四月二日、一七年第一號

臨時資金調整法施行細則左ノ通定ム

臨時資金調整法施行細則

第一條 臨時資金調整法第三條ノ規定ニ依リ同法第二條ノ規定ヲ適用セザル金融機關又ハ證券引受業者ハ主務大臣之ヲ定ム

主務大臣特ニ必要アリト認ムルトキハ前項ノ金融機關又ハ證券引受業者ニ對シ事項ヲ指定シ臨時資金調整法第二條ノ許可ヲ受クベキコトヲ命ズルコトアルベシ

第二條 金融機關臨時資金調整法施行令第一條ノ規定ニ依リ貸付ニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

- 一 申請者ノ住所及商號又ハ名稱
- 二 借主ノ住所及氏名、商號又ハ名稱
- 三 貸付ノ種類、時期及金額(數口ニ亘ルトキハ貸付總額並ニ各口ノ貸付ノ種類、時期及金額)

- 四 貸付ノ利率、償還期限其ノ他ノ條件
- 五 借主ガ貸付金ヲ使用シテ爲ス事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要並ニ資金ノ調達方法

前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ

一 借主ノ事業ノ大要ヲ知ルニ足ル書類

二 借主ガ會社ナルトキハ最終ノ貸借對照表及損益計算書

第三條 金融機關又ハ證券引受業者臨時資金調整法施行令第二條ノ規定ニ依リ有價證券ノ應募ニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

- 一 申請者ノ住所及商號又ハ名稱
- 二 有價證券發行者ノ住所及商號又ハ名稱
- 三 應募スル有價證券ノ種類、數量及價額

前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ

一 有價證券發行者ノ事業ノ大要ヲ知ルニ足ル書類

二 社債申込證又ハ之ニ準ズベキモノノ雛形及募集趣意書

第四條 金融機關又ハ證券引受業者臨時資金調整法施行令第二條ノ規定ニ依リ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

- 一 申請者ノ住所及商號又ハ名稱
- 二 有價證券發行者ノ住所及商號又ハ名稱
- 三 引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ス有價證券ノ種類、數量及價額

四 引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル條件

五 有價證券ノ發行ノ時期、總額及條件

六 有價證券ノ發行ニ依リ調達セラルル資金ノ使途

七 資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セララルモノナルトキハ之ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要並ニ資金ノ調達方法

前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ

- 一 有價證券發行者ノ事業ノ大要ヲ知ルニ足ル書類
- 二 有價證券發行者ノ最終ノ貸借對照表及損益計算書
- 三 社債申込證又ハ之ニ準ズベキモノノ雛形及募集趣意書

第五條 臨時資金調整法施行令第四條ノ會社ノ設立ニ付認可ヲ受ケントスルトキハ發起人又ハ社員タルベキ者ハ定款ヲ作成シタル後左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

- 一 申請者ノ住所及氏名
- 二 會社ノ現在ノ資本金額
- 三 資本金増加ノ金額並ニ第一回ノ拂込ノ時期及金額
- 四 資本金増加ノ方法
- 五 資本金増加ヲ必要トスル事由

請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ



- 六 資本増加ニ依リ調達スル資金ノ用途
- 七 資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラ  
ルルモノナルトキハ之ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要並  
ニ資金ノ調達方法

前項ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ、  
一 資本増加ニ關スル株主總會ノ決議録又ハ之ニ準ズベキ  
モノノ謄本

- 二 定款並ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書
- 三 資本増加ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書  
新株ノ募集ニ關スル事項ノ報告ヲ爲スベキ株主總會ノ終結  
ガ資本増加ノ認可ノ日ヨリ六月以上ヲ經過シタル後ナルト  
キハ會社ハ其ノ株主總會ノ終結後更メテ前二項ノ規定ニ準  
ジ認可申請書ヲ提出スベシ

**第七條** 臨時資金調整法施行令第五條ノ合併ニ付認可ヲ受ケ  
ントスル會社ハ連名ニテ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認可  
申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出ス  
ベシ

- 一 合併スル會社ノ住所及商號又ハ名稱
- 二 合併スル會社ノ目的並ニ資本金額及拂込資本金額
- 三 合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社ノ住

所及商號又ハ名稱

- 四 合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社ノ目  
的並ニ資本金額及拂込資本金額
- 五 合併ノ時期及方法
- 六 合併ヲ必要トスル事由
- 七 合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社ノ事  
業ノ大要

前項ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ  
一 合併ニ關スル株主總會ノ決議録又ハ之ニ準ズベキモノ  
ノ謄本

- 二 合併契約書ノ謄本
- 三 合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社ノ定  
款並ニ事業計畫明細書及事業收支目論見書
- 四 合併スル會社ノ定款並ニ最終ノ貸借對照表及損益計算  
書

第五條第三項ノ規定ハ合併ニ因リ會社ヲ設立スル場合ニ之  
ヲ準用ス

**第八條** 臨時資金調整法施行令第五條ノ目的變更ニ付認可ヲ  
受ケントスル會社ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認可申請  
書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

- 一 會社ノ住所及商號又ハ名稱
- 二 會社ノ資本金額及拂込資本金額
- 三 會社ノ現在ノ目的及變更後ノ目的
- 四 目的變更ヲ必要トスル事由
- 五 目的變更後ニ於ケル會社ノ事業ノ大要

前項ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ  
一 目的變更ニ關スル株主總會ノ決議録又ハ之ニ準ズベキ  
モノノ謄本

- 二 定款並ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書
- 三 目的變更ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

**第九條** 臨時資金調整法施行令第六條ノ會社第二回以後ノ株  
金ノ拂込ノ催告ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ  
掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ  
支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

- 一 會社ノ住所及商號又ハ名稱
- 二 會社ノ資本金額及拂込資本金額
- 三 株金ノ拂込ノ時期及金額
- 四 株金ノ拂込ヲ爲サシムルヲ必要トスル事由
- 五 株金ノ拂込ニ依リ調達スル資金ノ用途
- 六 資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラ

ルルモノナルトキハ之ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要並  
ニ資金ノ調達方法

- 前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ
- 一 定款並ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書
- 二 株金ノ拂込ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

**第十條** 臨時資金調整法施行令第六條ノ會社社債ノ募集ニ付  
許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル許  
可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出  
スベシ

- 一 會社ノ住所及商號又ハ名稱
- 二 會社ノ資本金額及拂込資本金額
- 三 會社ノ發行ノ時期、總額及條件
- 四 社債ノ募集ヲ必要トスル事由
- 五 社債ノ募集ニ依リ調達スル資金ノ用途
- 六 資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラ  
ルルモノナルトキハ之ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要並  
ニ資金ノ調達方法
- 前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ
- 一 社債ノ募集ニ關スル株主總會ノ決議録又ハ之ニ準ズベ  
キモノノ謄本



二 社債申込書案及募集趣意書案

三 定款並ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書

四 社債ノ募集ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

第十一條 臨時資金調整法施行令第六條ノ二ノ規定ニ依リ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

- 一 申請者ノ住所及氏名、商號又ハ名稱
- 二 會社ニ在リテハ其ノ資本金額及拂込資本金額
- 三 事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要並ニ資金ノ調達方法
- 四 事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ必要トスル事由

前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ

一 會社ニ在リテハ定款並ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書、會社以外ノ法人ニ在リテハ定款、寄附行爲又ハ之ニ準ズベキモノ並ニ事業及資産負債ノ概要ヲ知ルニ足ル書類、個人ニ在リテハ現ニ營ム事業ノ概要ヲ知ルニ足ル書類（人格ナキ團體ノ爲ニスルモノナルトキハ其ノ團體ノ規約並ニ事業及資産負債ノ概要ヲ知ルニ足ル書類）

二 事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ伴フ事業計畫明細書

ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要並ニ資金ノ調達方法

前項ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ

一 資本増加ニ關スル株主總會ノ決議録又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本

二 會社ノ資本金額及拂込資本金額ニ關スル登記簿ノ抄本

三 定款並ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書

四 資本増加ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

第六條第三項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 臨時資金調整法施行令第九條ニ掲グル事業ヲ營ム會社商法第二百條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ社債ヲ募集セントストキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

一 會社ノ住所及商號又ハ名稱

二 會社ノ資本金額及拂込資本金額

三 社債ノ發行ノ時期、總額及條件

四 商法第二百條ノ規定ニ依ル制限ヲ超ユル社債ノ募集ヲ必要トスル事由

五 社債ノ募集ニ依リ調達スル資金ヲ使用シテ爲ス事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要

及事業收支目論見書

相互會社以外ノ會社ニシテ資本金二十萬圓未滿ノモノ、會社以外ノ法人若ハ個人ノ事業設備ノ新設、擴張若ハ改良又ハ相互會社以外ノ會社ニシテ資本金二十萬圓以上ノモノ若ハ相互會社ノ臨時資金調整法施行令第一條第二項ニ掲グル五萬圓以下ノ事業設備ノ新設、擴張若ハ改良ニシテ昭和十四年勅令第二百二十四號施行ノ際現ニ其ノ新設、擴張又ハ改良ニ著手セルモノニ付テハ同令ノ施行後一月内ニ當該新設、擴張又ハ改良ガ完了スル見込ナキ場合ニ限り前二項ノ規定ニ依リ許可申請書ヲ提出スベキモノトス

第十二條 臨時資金調整法施行令第九條ニ掲グル事業ヲ營ム會社株主總會ノ承認ヲ得テ資本増加ヲ爲サントストキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

- 一 會社ノ住所及商號又ハ名稱
- 二 會社ノ現在ノ資本金額及拂込資本金額
- 三 資本増加ノ金額並ニ第一回ノ拂込ノ時期及金額
- 四 資本増加ノ方法
- 五 株主全體拂込前ノ資本増加ヲ必要トスル事由
- 六 資本増加ニ依リ調達スル資金ヲ使用シテ爲ス事業設備

並ニ資金ノ調達方法

前項ノ場合ニ於テ擔保附社債信託法ニ依リ社債ノ總額ヲ數回ニ分テ發行スルモノナルトキハ認可申請書ニ前項各號ニ掲グル事項ノ外左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一 社債ノ總額ヲ數回ニ分テ發行スル旨ノ表示

二 社債ノ利率ノ最高限度

第一項ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ

一 社債ノ募集ニ關スル株主總會ノ決議録又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本

二 會社ノ資本金額及拂込資本金額ニ關スル登記簿ノ抄本

三 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘザル總額ニ關スル登記簿ノ抄本

四 信託證書案

五 社債ニ付スル擔保物件ノ目錄

六 前號ノ擔保物件ノ帳簿價格ヲ最終ノ財産目錄ノ科目別ニ記載シタル書類

七 定款並ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書

八 社債ノ募集ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

第十四條 金融機關又ハ證券引受業者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ都度報告書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店



- ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ
- 一 事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルト認ムル一口五萬圓以上ノ資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ
  - 二 事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルト認ムル貸付總額五萬圓以上ニ及ブベキ數口ニ互ル資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ
  - 三 額面總額五萬圓以上ノ有價證券（國債、地方債及臨時資金調整法施行地内ニ本店ヲ有スル會社ノ株式ヲ除ク以下同ジ）ノ應募ヲ爲シ其ノ割當ヲ受ケタルトキ
  - 四 額面總額五萬圓以上ノ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル契約ヲ締結シタルトキ
- 第十五條** 金融機關又ハ證券引受業者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ一月分ヲ取纏メ翌月十日迄ニ報告書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ但シ前條ノ規定ニ依リ報告ヲ爲スベキモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 一 事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルト認ムル一口三萬圓以上ノ資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ
  - 二 事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルト認ムル貸付總額三萬圓以上ニ及ブベキ數口ニ互ル資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ

- 三 額面總額三萬圓以上ノ有價證券ノ應募ヲ爲シ其ノ割當ヲ受ケタルトキ
  - 四 額面總額三萬圓以上ノ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル契約ヲ締結シタルトキ
- 第十六條** 前二條ノ規定ニ依リ主務大臣ニ提出スベキ報告書ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ作成スベシ
- 一 資金ノ貸付ニ關スル報告書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ
    - イ 借主ノ住所及氏名、商號又ハ名稱
    - ロ 借主ノ事業ノ種類
    - ハ 貸付ノ年月日
    - ニ 貸付ノ種類及金額
    - ホ 貸付ノ利率、償還期限其ノ他ノ條件
    - ヘ 貸付金ノ使途
  - 有價證券ノ應募ニ關スル報告書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ
    - イ 有價證券發行者ノ住所及商號又ハ名稱
    - ロ 有價證券發行者ノ事業ノ種類
    - ハ 應募割當ノ年月日
    - ニ 割當ヲ受ケタル有價證券ノ種類、數量及價額

- ホ 割當ヲ受ケタル有價證券ノ拂込ノ時期
- 三 有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル報告書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ
    - イ 有價證券發行者ノ住所及商號又ハ名稱
    - ロ 有價證券發行者ノ事業ノ種類
    - ハ 引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル契約ノ締結ノ年月日
    - ニ 引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ス有價證券ノ種類、數量及價額
    - ホ 引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル條件
    - ヘ 有價證券ノ發行ノ時期、總額及條件
    - ト 有價證券ノ發行ニ依リ調達セラルル資金ノ使途
- 第十七條** 主務大臣必要アリト認ムルトキハ本令ニ依リ許可若ハ認可ノ申請書又ハ報告書ヲ提出スベキ者ニ對シ其ノ副本ノ提出ヲ命ズルコトヲ得
- 主務大臣必要アリト認ムルトキハ本令ニ依リ提出スベキ申請書、之ニ添附スベキ書類又ハ報告書ニ關シ別段ノ指示ヲ爲スコトヲ得
- 主務大臣ハ本令ニ定ムルモノノ外關係者ニ對シ臨時資金調整法ニ依ル許可又ハ認可ニ關シ必要ナル書類ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

- 第十七條ノ二** 臨時資金調整法施行令第一條第二項又ハ第六條ノ二但書ノ規定ニ依リ三萬圓以上ノ資金ノ貸付又ハ三萬圓ヲ超ユル新設、擴張若ハ改良ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケベキ事業設備ハ別表ニ定ムル所ニ依ル
- 第十八條** 第一條乃至第四條、第十四條及第十五條ニ於テ主務大臣トアルハ銀行、信託會社、保險會社及證券引受業者ニ付テハ大藏大臣、商工組合中央金庫ニ付テハ大藏大臣及商工大臣、產業組合中央金庫及北海道府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會ニ付テハ大藏大臣及農林大臣トシ第五條乃至第十條、第十二條及第十三條ニ於テ主務大臣トアルハ大藏大臣及商工大臣トシ第十一條ニ於テ主務大臣トアルハ大藏大臣、農林大臣及商工大臣トス
- 附則  
本令ハ昭和十二年九月二十七日ヨリ之ヲ施行ス  
附則 (昭和十四年四月二十二日大藏、農林、商工會令)  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
第十一條第三項ノ規定ニ依ル許可申請書ハ本令公布ノ日ヨリ二十日內ニ之ヲ提出スヘシ
- 別表  
一 左ニ掲グル物品ノ製造用ノ設備



イ 化粧品

香水、香紙、香袋、白粉、紅、化粧墨、クリーム、化粧下、化粧水、化粧粉、頭髪用ノ香水、油若ハ、煉油、整髪料、染毛料、養毛料、美爪料、脱毛料、脂取料、シャンプー又ハ洗粉

ロ 化粧用具

化粧用刷子(頭髪用ノモノヲ含ム)、コンバクト、香水噴、白粉入其ノ他ノ化粧品ノ容器、化粧具匣(折疊式ノモノヲ含ム)又ハ其ノ他ノ化粧用具セツト

ハ 喫煙用具

煙管、パイプ類若ハ同ケース、煙草入、灰皿、煙草セツト、煙草盆又ハライター

ニ 身邊用細貨類

指環、腕環、耳飾、頸飾、ペンダント、櫛、簪、簪、頭髪用ピン、ハットピン、ネクタイピン、襟止、帶止、バックル、鎖、カフス釦、根付、メダル、ハンドバッグ、手提袋、財布、懐中用書狀入、名刺入、宮迫、シース又ハ此等ニ類スルモノ

ホ 毛皮製品

敷物、膝掛、手套類、襟卷、肩掛、被服類又ハ被

ル 樂器部分品又ハ附屬品

ブラフォーン、喇叭(信號喇叭ヲ除ク)、木琴、鐵琴、箏、三絃、琵琶、明笛、尺八、鼓、ドラム類、タ

ヲ 室内裝飾用品

置物、花器、香器、額縁、柱掛其ノ他ノ壁面裝飾用品、人形、節句飾物又ハ羽子板

ワ 照明器具

裝飾用豆電球、ネオン管、スタンド、シャンデリヤ、ペンダント、ブラケット、バルベツト、シーリングライト、ポーターライト、グローブ、シェード又ハ此等ニ類スルモノ

カ 家具

簞笥、棚類、箱類、寢臺、鏡若ハ鏡臺類、机若ハ卓子類、椅子若ハ腰掛類、火鉢、臺類、屏風、衝立、几帳、衣桁、帽子掛又ハ傘立

コ 致酔飲料

清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒、葡萄酒、果實酒又ハ其ノ他ノ酒精含有飲料

タ 清涼飲料

臨時資金調整法施行細則

服用ノ裏、襟、袖若ハ縁  
羽毛製品又ハ羽毛ヲ用ヒタル製品  
襟卷、蒲團、座蒲團又ハクッション

ト 皮革製品

被服類、手袋、靴、座蒲團、クッション、鞆、トラシク又ハケース類

チ 玩具

室内遊戯具

撞球用具、輪投具、ピンボン用具、圍碁若ハ將棋用具、骨牌、トランプ、麻雀用具、ドミノ、チェッカイ又ハ此等ニ類スルモノ

又 樂器

ピアノ、オルガン、アコーディオン、バンドニオン、ハーモニカ、ヴァイオリン、ヴィオラ、セロ、コントラバス、マンドリン、マンドラ、マンドリラ、マンドセロ、マンドローネ、ギター、ギタローネ、バラライカ、ウクレレ、バンジョー、フリユート、ピッコロ、クラリネット、オーボエ、バズーン、ホルネット、トランペット、トロンボーン、アルト、バリトン、チューバ、サクソフォーン、スザフォーン、ホルン、バイ

レ 調味料

ソーダ水、サイダー、ラムネ其ノ他ノ炭酸ガス含有飲料、牛乳若ハ乳製品ヲ原料トスル酸性飲料又ハ果實汁、果實蜜若ハ此等ニ類スル製品ニシテ稀釋シテ飲用ニ供スルモノ

ソ 菓子

餡

ソース、ケチャップ、カレー粉、胡椒粉、マスタード粉、グルタミン酸ソーダ類又ハ此等ニ類スルモノ

二 映畫製作用ノ設備

三 物品販賣用ノ設備

四 理容店用、浴場用、旅館用、料理店用又ハ貸席用ノ設備

イ 理容店用ノ設備

理髪店用又ハ美容店用ノ設備

ロ 浴場用ノ設備

旅館用ノ設備

ニ 料理店用ノ設備

割烹店、飲食店、酒場、カフェー、喫茶店、ミルクホール其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハズ公衆ヲシテ飲食



外國爲替管理法

ヲ爲サシムル場所ノ用ニ供スル設備  
ホ 貸席用ノ設備

待合茶屋用、芝居茶屋用、相撲茶屋用、遊船宿用  
又ハ此等ニ類スルモノノ用ニ供スル設備  
五 興行用ノ設備

劇場用、映畫館用、演藝場用又ハ觀物場（相撲、野球、拳闘其ノ他ノ競技ニシテ公衆ノ觀覽ニ供スルコトヲ目的トスルモノヲ含ム）用ノ設備

六 社交用、娛樂用又ハ遊興用ノ設備

イ 社交用ノ設備  
ロ 娛樂用ノ設備

遊園地用、遊技場（撞球、麻雀、ゴルフ、スケート其ノ他方法ノ如何ヲ問ハズ公衆ヲシテ遊技ヲ爲サシムル公開ノ場所ヲ謂フ）用、舞踏場（舞踏教授所ヲ含ム）用又ハ貸船用ノ設備

ハ 遊興用ノ設備  
貸座敷用又ハ引手茶屋用ノ設備

●外國爲替管理法

昭和十六年四月十二日  
法律第八十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル外國爲替管理法改正法律ヲ裁可シ  
茲ニ之ヲ公布セシム

外國爲替管理法

第一條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

一 外國通貨又ハ外國爲替ノ取得又ハ處分

二 通貨若ハ外國通貨ノ輸出若ハ輸入、金地金、金ノ合金若ハ金ヲ主タル材料トスル物ノ輸出又ハ金貨幣ノ鑄造若ハ毀傷

三 外國ヘノ送金ニシテ前二號ニ包含スル方法ニ依ラザルモノ

四 外國ニ於テ爲シタル委託ニ基キ又ハ外國居住者（法人ノ外國ニ在ル支店其ノ他ノ營業所ヲ含ム以下同ジ）ノ爲ニスル本邦内ニ於テ爲ス支拂又ハ其ノ受領

五 外國ニ於テ爲ス支拂ノ本邦内ニ於ケル委託

六 本邦居住者（法人ノ本邦内ニ在ル支店其ノ他ノ營業所ヲ含ム）ノ爲ニスル外國ニ於テ爲ス支拂又ハ其ノ受領

七 外國居住者ニ對スル債權ノ取立又ハ取立ノ依頼若ハ引受

八 外國居住者ノ爲ニスル債權ノ取立又ハ取立ノ依頼若ハ

引受

九 外國居住者、本邦内ニ居住スル外國人（外國法人ノ本邦内ニ在ル支店其ノ他ノ營業所ヲ含ム）又ハ命令ノ定ムル本邦法人ノ本邦内ニ於テ爲ス財產（事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ム以下同ジ）ノ取得若ハ處分、預ケ金ノ引出又ハ貸出金ノ回收

十 前號ニ掲グル者ノ爲又ハ之ヲ相手方トスル本邦内ニ於テ爲ス前號ニ掲グル取引又ハ行爲

十一 外國爲替相場ノ取極

十二 外國通貨ヲ以テ表示スル證券（財產權ヲ證スル證書及帳簿ヲ含ム以下同ジ）、債權又ハ債務ノ取得又ハ處分

十三 本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ニ對スル債權又ハ債務ノ取得又ハ處分

十四 信用狀ノ發行又ハ取得

十五 外國居住者ニ信用ヲ與フル行爲

十六 證券ノ輸出又ハ輸入

十七 價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替ヲ取組マザル貨物ノ輸出又ハ輸入

十八 外國ニ在ル財產ニシテ第一號、第十二號又ハ第十三號ニ掲ゲザルモノノ取得又ハ處分

外國爲替管理法

第二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ外國爲替ニ關スル取引ヲ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ヲ相手方トスル場合ニ限定スルコトヲ得

第三條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ニ掲グル財產ニ關シ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ニ對スル賣却其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

一 外國通貨又ハ外國爲替

二 外國通貨ヲ以テ表示スル證券若ハ債權又ハ本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ニ對スル債權

三 外國ニ在ル財產ニシテ前二號ニ掲ゲザルモノノ前項ノ規定ニ依リ政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ズル場合ノ賣却價額ハ政府ノ之ヲ定ム

第四條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ外國ヘノ送金、外國ヨリノ送金ノ受領其ノ他外國トノ間ニ於ケル債權債務ノ決済又ハ外國ヨリ外國ヘノ送金其ノ他外國間ニ於ケル債權債務ノ決済ニ關シ其ノ方法、條件其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第五條 政府ハ必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ、帳簿書類ノ備付ヲ命ジ、帳簿書類ノ記載方ヲ指定シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務狀況若ハ帳



簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得  
關稅法第八十四條乃至第九十三條ノ規定ハ本法ニ基キテ發  
スル命令ノ違反事件ニ付之ヲ準用ス但シ同法ニ定ムル職務  
ヲ行フ官吏ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ施行ニ關スル事  
務ノ一部ヲ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ヲシテ取扱ハ  
シムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ事務ノ一部ヲ日本銀行ヲシテ取扱ハシメ  
タル場合ニ於テ當該事務ノ取扱ニ要スル經費ハ日本銀行ノ  
負擔トス

第一項ノ場合ニ於テ當該事務ニ從事スル日本銀行其ノ他政  
府ノ指定スル者ノ職員ハ之ヲ法令ニ依リ公務ニ從事スル職  
員ト看做ス

第七條 第一條又ハ第二條ノ規定ニ基キテ發スル命令ヲ以テ  
規定スル取引又ハ行爲ノ禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ三  
年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス但シ當  
該取引又ハ行爲ノ目的物ノ價額ノ三倍ガ一萬圓ヲ超ユルト  
キハ罰金ハ當該價額ノ三倍以下トス

第一條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シ金貨幣、金地金、  
金ノ合金若ハ金ヲ主タル材料トスル物ヲ輸出スル目的ヲ以

ノ罰金ニ處ス

第十二條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其  
ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ第七條乃至  
前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ  
法人又ハ人ニ對シ亦第七條乃至前條ノ罰金刑ヲ科ス

第十三條 本法ノ罰則ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所  
ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ  
本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行  
地ニ住所ヲ有スル人又ハ其ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業  
者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同ジ

第十四條 當該官吏、外國爲替管理委員會ノ會長委員幹事若  
ハ第六條ニ規定スル日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ノ職  
員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依リ職務執行ニ關シ知得  
タル法人又ハ人ノ業務上ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルト  
キハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第三條ノ財産ノ賣却價額其ノ他本法ノ施行ニ關ス  
ル重要事項ニ付主務大臣ノ諮問ニ應ズル爲外國爲替管理委  
員會ヲ置ク

外國爲替管理委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

外國爲替管理法施行規則

テ收得シ若ハ輸出セントシタル者又ハ通貨、外國通貨若ハ  
證券ヲ輸出若ハ輸入セントシタル者亦前項ニ同ジ

第八條 第三條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依  
ル外國通貨其ノ他ニ關シ必要ナル事項ヲ爲スベキ旨ノ政府  
ノ命令ニ從ハザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ當該外國通貨其ノ  
他ノ價額ノ二倍以下ノ罰金ニ處ス

第九條 第四條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依  
ル政府ノ命令ニ從ハザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第十條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依  
ル政府ノ命令ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、帳  
簿書類ノ備付ヲ爲サズ、之ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ、  
之ニ虛偽ノ記載ヲ爲シ、之ノ記載方ノ指定ニ從ハズ、業務  
狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ノ検査ヲ拒ミ又ハ帳簿書類  
ノ隱蔽不實ノ申立其ノ他ノ方法ニ依リ検査ヲ妨ゲタル者ハ  
六月以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス本法ニ基キテ  
發スル命令ニ依リ提出スル許可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虛  
偽ノ記載ヲ爲シタル者亦同ジ

第十一條 本法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ爲ス處分ニ附シ  
タル條件ニ違反シタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●外國爲替管理法施行規則

昭和十六年四月十二日  
大藏省令第十號

改正 昭和十七年第二四號、第五一號

外國爲替管理法施行規則左ノ通定ム

外國爲替管理法施行規則

第一章 定義

第一條 本令ニ於テ外國爲替トハ本邦ヨリ外國ニ仕向ケ、外  
國ヨリ本邦ニ仕向ケ又ハ外國ヨリ外國ニ仕向ケタル爲替手  
形、小切手、支拂指圖書、電信爲替又ハ郵便爲替ヲ謂フ

第二條 本令ニ於テ信用狀トハ荷爲替信用狀、逆爲替信用狀、  
旅行信用狀、旅行小切手、爲替買取指圖書、爲替買取推慮  
狀、貨物證券引換指圖書其ノ他此等ニ準ズルモノヲ謂フ

第三條 本令ニ於テ證券トハ本邦又ハ外國ノ公債、社債、債  
券、此等ノモノノ利札、株式、株式拂込證書、預金證書又  
ハ預金通帳ヲ謂フ

第四條 本令ニ於テ外國證券トハ本邦又ハ外國ノ公債、社債、  
債券、此等ノモノノ利札、株式又ハ株式拂込證書ニシテ外



國通貨ヲ以テ表示スルモノヲ謂フ

登錄シタル公債、社債、債券又ハ株式ニシテ外國通貨ヲ以テ表示スルモノハ之ヲ外國證券ト看做ス

第五條 本令ニ於テ外貨債權トハ外國通貨ヲ以テ表示スル債權ニシテ外國爲替又ハ外國證券以外ノモノヲ謂フ

第六條 本令ニ於テ貨物トハ本邦通貨(軍用手票ヲ含ム以下同ジ)、外國通貨、爲替手形、小切手、支拂指圖書、郵便爲替、金地金、金、合金、金ヲ主タル材料トスル物並ニ證券其ノ他財産權ヲ證スル證書及帳簿以外ノ物ヲ謂フ

第七條 本令ニ於テ財産トハ動産、不動産、債權其ノ他ノ財産權、事業、營業又ハ事業若ハ營業ニ對スル出資ヲ謂フ

第八條 本令ニ於テ外國居住者トハ外國ニ住所若ハ居所ヲ有スル人、外國ニ本店若ハ主タル事務所ヲ有スル法人又ハ法人ノ外國ニ在ル支店其ノ他ノ營業所ヲ謂フ

第九條 本令ニ於テ本邦居住者トハ本邦内ニ住所若ハ居所ヲ有スル人、本邦内ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人又ハ法人ノ本邦内ニ在ル支店其ノ他ノ營業所ヲ謂フ

第二章 外國爲替、信用狀、送金、金等ニ關スル規定

第十條 商取引上ノ必要其ノ他ノ實需ニ基クコトナク本邦通貨ノ爲替相場ノ變動又ハ差異ニ因リ利益ヲ得ルコトヲ目的

依リ其ノ他ノ者ヲ相手方トスル場合ハ同第三號又ハ第四號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ但シ第一項但書ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條 左ニ掲グル場合ハ前條ノ規定ニ拘ラズ外國爲替ノ買入又ハ外國爲替銀行ニ對スル支拂ヲ爲スニ付大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

- 一 本邦ニ於テ發行シタル信用狀ニ基キ振出サレタル爲替ノ支拂ヲ爲シ又ハ支拂ノ爲爲替ヲ買入ルトキ
- 二 本邦内ニ於テ支拂ハルル公債、社債若ハ銀行預金ノ利子又ハ金錢信託ノ利益ヲ關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ住所ヲ有スル權利者ニ送ル爲該地域ニ仕向ケタル爲替ノ買入又ハ該地域ヨリ仕向ケラレタル爲替ノ支拂ヲ爲ス爲必要ナルトキ
- 三 前各號ニ該當スル場合ノ外一箇年ヲ通ジ二百圓相當額以下ノ金額ヲ關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ送ル爲必要ナルトキ但シ旅行者ノ旅費又ハ滞在費ニ充ツル場合ヲ除ク

四 官廳ノ爲ストキ

第十三條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テハ外國爲替ノ賣却ヲ爲スコトヲ得ズ但シ本邦ヨリ輸

外國爲替管理法施行規則

トシテ外國通貨、外國爲替又ハ外貨債權ノ賣買ヲ爲スコトヲ得ズ

第十一條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ左ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ但シ本邦ニ輸入セラルル貨物ノ代金ヲ決済スル爲爲替場合ハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 本令施行地内ニ於ケル外國爲替ノ買入
- 二 外國ニ於テ爲シタル委託ニ基キ本令施行地内ニ於テ爲ス支拂
- 三 外國居住者ノ爲ニスル本令施行地内ニ於テ爲ス支拂ニシテ前號ニ包含セラレザルモノ

前項第一號ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ買入レタル外國爲替ヲ以テ前項第二號若ハ第三號ノ支拂ヲ爲ス場合又ハ第四十五條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ貸付金、假拂金若ハ立替

金ヲ爲ス爲前項第二號若ハ第三號ノ支拂ヲ爲ス場合ニハ該支拂ニ付大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

第一項ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第一號乃至第三號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ

第一項ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ爲シタル者外國爲替銀行ヲ相手方トスル場合ハ本令附屬報告書式第一號又ハ第二號ニ

出セラルル貨物ノ代金ヲ取得スル爲爲替場合又ハ外國爲替銀行ヲ相手方トスル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第四號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ

第十四條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テハ外國ニ仕向ケタル信用狀ヲ發行又ハ取得スルコトヲ得ズ但シ本邦ニ輸入セラルル貨物ノ代金ヲ決済スル爲爲替得スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第五號又ハ第六號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ

第十五條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テハ外國通貨ノ買入ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第七號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ



第一項ノ行爲ヲ爲シタル者外國爲替銀行又ハ兩替商ヲ相手方トスル場合ハ本令附屬報告書式第八號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ

外國通貨ヲ取得シタル者ハ本令附屬報告書式第十號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ

第十六條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テハ外國通貨ノ賣却ヲ爲スコトヲ得ズ但シ外國爲替銀行又ハ兩替商ヲ相手方トスル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第八號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ

第一項ノ行爲ヲ爲シタル者外國爲替銀行又ハ兩替商ヲ相手方トスル場合ハ本令附屬報告書式第九號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ

外國通貨ヲ處分シタル者ハ本令附屬報告書式第十號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ

第十七條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本邦通貨又ハ外國通貨ヲ外國ニ送付又ハ携帯スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 第十五條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ買入レタル外國通貨ヲ送付又ハ携帯スルトキ

一 貸記ノ原因ト爲ルベキ行爲ニ付本令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルトキ

二 關東州又ハ滿洲國ニ居住スル者トノ間ニ有スル勘定ヘノ貸記ヲ爲ストキ

三 中華民國居住者トノ間ニ有スル勘定ヘノ貸記ニシテ一箇月ヲ通ジ貸記額五千圓相當額以下ナルトキ

四 第三國(關東州、滿洲國及中華民國以外ノ外國ヲ謂フ以下同ジ)居住者トノ間ニ有スル勘定ヘノ貸記ニシテ一箇月ヲ通ジ貸記額千圓相當額以下ナルトキ

前項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第十一號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ

本令施行地内ニ於テ外國居住者ト交互計算勘定其ノ他ノ相殺勘定ヲ有スル者ハ本令附屬報告書式第十二號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ

第二十條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テハ外國ヘノ送金ニ代フル目的ヲ以テ外國ニ於テ爲ス支拂ノ委託(外國爲替ニ依ルモノヲ除ク)ヲ爲スコトヲ得ズ但シ本邦ニ輸入セラルル貨物ノ代金ヲ決済スル爲爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

二 本邦ニ輸入セラルル貨物ノ代金ヲ決済スル爲爲ストキ

三 官廳ノ爲ストキ

前項ノ本邦通貨又ハ外國通貨ニハ金貨幣又ハ外國金貨ヲ含マズ

第一項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第九號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ

本邦通貨又ハ外國通貨ヲ外國ニ送付シタル者ハ本令附屬報告書式第十五號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ但シ第一項第二號ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十八條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本邦通貨ヲ輸入スルコトヲ得ズ但シ官廳ノ輸入スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第十號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ

本邦通貨又ハ外國通貨ヲ輸入スル者ハ本令附屬報告書式第十一號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ

第十九條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テハ外國居住者トノ間ニ有スル交互計算勘定其ノ他ノ相殺勘定ヘノ貸記ヲ爲スコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

請書式第十二號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ

第一項ノ行爲ヲ爲シタル者ハ本令附屬報告書式第十五號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ但シ第一項但書ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十一條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ金貨幣、金地金(外國金貨ヲ含ム)、金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ヲ輸出スルコトヲ得ズ

金貨幣ハ之ヲ鑄潰又ハ毀傷スルコトヲ得ズ但シ大藏大臣ノ許可ヲ受ケ鑄潰スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第一項又ハ前項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第十三號乃至第十五號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ

第一項又ハ第二項ノ行爲ヲ爲シタル者ハ本令附屬報告書式第十三號又ハ第十四號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ

第二十二條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ第十一條、第十七條、第十九條、第二十條又ハ前條ニ規定スル以外ノ方法ニ依ル外國ヘノ送金ヲ爲スコトヲ得ズ但シ本邦ニ輸入セラルル貨物ノ代金ヲ決済スル爲爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第十六號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ



第一項ノ行爲ヲ爲シタル者ハ本令附屬報告書式第十五號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ但シ第一項但書ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テハ左ニ掲グルモノノ取立ノ依頼(本邦ヨリ輸出セラルル貨物ノ代金ヲ取得スル爲メ外國爲替ノ取立ノ依頼ヲ爲ス場合ヲ除ク)又ハ引受ヲ爲スコトヲ得ズ但シ外國爲替銀行ニ對シ取立ノ依頼ヲ爲シ又ハ第三十四條第一項但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ外國爲替銀行以外ノ者ニ對シ取立ノ依頼ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 外國ニ於テ支拂ハルル手形、小切手、支拂指圖書、電信爲替又ハ郵便爲替

二 外國ニ於テ支拂ハルル公債、社債若ハ債券ノ償還金若ハ利益又ハ株式配當金

三 外國ニ於テ支拂ハルル銀行預金ノ元金若ハ利子又ハ金銭信託ノ元本若ハ利益

前項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第十七號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ  
外國爲替銀行ニ對シ第一項ノ取立ヲ依頼シタル者ハ本令附屬報告書式第十六號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ但シ本邦

ヨリ輸出セラルル貨物ノ代金ヲ取得スル爲メ外國爲替ノ取立ノ依頼ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十四條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テハ外國居住者ノ爲ニ左ニ掲グルモノノ取立ノ依頼又ハ引受ヲ爲スコトヲ得ズ但シ外國爲替銀行ニ對シ取立ノ依頼ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 本邦内ニ於テ支拂ハルル手形、小切手、支拂指圖書、電信爲替又ハ郵便爲替

二 本邦内ニ於テ支拂ハルル公債、社債若ハ債券ノ償還金若ハ利益又ハ株式配當金

三 本邦内ニ於テ支拂ハルル銀行預金ノ元金若ハ利子又ハ金銭信託ノ元本若ハ利益

前項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第十八號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ  
第一項ノ取立ヲ引受ケタル者ハ本令附屬報告書式第十七號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ

第三章 旅費ニ關スル規定  
第二十五條 關東州又ハ滿洲國ニ旅行セントスル者ハ第十一條、第十四條又ハ第十七條ノ規定ニ拘ラズ其ノ旅費ニ充ツル爲メ金額通ジテ五百圓以下ノ本邦通貨又ハ本邦通貨ヲ以テ

表示スル送金爲替若ハ信用狀ヲ携帶又ハ取得スルニ付大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

第二十六條 中華民國ニ旅行セントスル者ハ第十一條、第十四條又ハ第十七條ノ規定ニ拘ラズ其ノ旅費ニ充ツル爲メ金額通ジテ五百圓以下ノ本邦通貨又ハ本邦通貨ヲ以テ表示スル送金爲替若ハ信用狀ヲ携帶又ハ取得スルニ付大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ但シ許可ヲ受クルコトヲ要セズシテ携帶シ得ル本邦通貨ハ二百圓以下トス

第二十七條 第三國ニ旅行セントスル者ハ第十七條ノ規定ニ拘ラズ其ノ旅費ニ充ツル爲メ二百圓相當額以下ノ本邦通貨又ハ外國通貨ヲ携帶スルニ付大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

前項ノ規定ニ依リ許可ヲ要セズシテ外國ニ携帶シ得ル外國通貨ノ買入ヲ必要トスル者ハ第十五條ノ規定ニ拘ラズ其ノ買入ヲ爲スニ付大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ  
第二十八條 官廳ヨリ支給ヲ受ケタル旅費其ノ他ノ給與ヲ携帶又ハ送付スル爲メ必要ナル場合ニハ第十四條ノ規定ニ拘ラズ信用狀ヲ取得スルニ付大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

第二十九條 外國ニ旅行セントスル者本邦通貨、外國通貨、外國爲替管理法施行規則

送金爲替又ハ信用狀ヲ外國ニ携帶スルトキハ本令附屬報告書式第十八號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ

第三十條 關東州、滿洲國又ハ中華民國ヨリ本令施行地内ニ旅行シタル外貨證券ヲ本邦内ニ於テ取得スルトキシテ輸入シタル外貨證券ヲ本邦内ニ於テ取得スルトキニ依リ許可ヲ受ケ又ハ許可ヲ要セズ

第三十一條 第二十五條乃至第二十七條又ハ前條ノ規定ニ依リ許可ヲ要セズシテ携帶輸出又ハ輸入シ得ル本邦通貨ニハ券面金額百圓以上ノ銀行券ヲ含マズ

第三十二條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ外貨證券ヲ有價ニテ取得スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 昭和七年七月一日ニ本邦内ニ在リタル外貨證券又ハ昭和七年大藏省令第十二號第三條若ハ昭和八年大藏省令第七號第十二條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ若ハ許可ヲ要セズシテ輸入シタル外貨證券ヲ本邦内ニ於テ取得スルトキ  
二 第三十八條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ又ハ許可ヲ要セズシテ輸入シタル外貨證券ヲ本邦内ニ於テ取得スルトキ  
三 外國人ガ外國ニ於テ有スル資金ヲ以テ外貨證券ヲ取得



スルトキ

四 朝鮮、臺灣若ハ樺太ニ於テ資本逃避防止法若ハ外國爲替管理法ニ基ク命令ノ規定ニ依リ又ハ南洋群島ニ於テ昭和十六年勅令第十號ニ基ク命令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ又ハ許可ヲ要セズシテ輸入シタル外貨證券ヲ本邦内ニ於テ取得スルトキ

五 取得スベキ外貨證券ノ代金ヲ送金シ又ハ之ガ支拂ヲ爲スニ付本令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルトキ前項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第十九號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ

第三十三條 大藏大臣ノ許可ヲ受ケルニ非ザレバ外國ニ在ル外貨證券ヲ處分スルコトヲ得ズ但シ第三十五條第一項ノ規定ニ依リ支拂期日到来後ニ賣却スル場合又ハ賣却ノ目的ヲ以テ第三十八條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ輸出シタル外貨證券ヲ賣却スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ前項ノ規定ハ外國人ニ之ヲ適用セズ

第一項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第二十號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ

第三十四條 本邦内ニ在ル外貨證券ニシテ支拂期日到来シタルモノハ其ノ期日後二箇月内ニ本邦内ニ於テ之ヲ賣却シ若

ハ外國爲替銀行ニ取立ノ依頼ヲ爲シ又ハ本邦内ニ於テ之ガ支拂ヲ受クベシ但シ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第二十一號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ

第三十五條 外國ニ在ル外貨證券又ハ外國ニ於テ支拂ヲ受ケル外貨證券ノ利益若ハ配當金ニシテ支拂期日到来シタルモノハ其ノ期日後二箇月内ニ之ガ支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ賣却スベシ但シ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ外國ニ在ル外貨證券ヲ賣却シ若ハ之ガ支拂ヲ受ケ又ハ外貨證券ノ利益若ハ配當金ヲ外國ニ於テ支拂ヲ受ケ若ハ之ヲ受取ル權利ヲ讓渡シタルトキハ其ノ代り金ハ其ノ外貨證券又ハ外貨證券ノ利益若ハ配當金ニ付外國ニ於テ要シタル費用トシテ支拂ヒタルモノヲ除キ二箇月内ニ賣却シタル地、支拂ヲ受ケタル地又ハ權利ヲ讓渡シタル地ヨリ銀行ヲ經由シ又ハ本邦ニ仕向ケタル郵便爲替ニ依リ之ヲ本邦ニ回收スベシ但シ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第一項但書又ハ前項但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第二十一號又ハ第二十二號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ

第三十六條 外貨證券ヲ取得又ハ處分シタル者ハ本令附屬報告書式第十九號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ

第三十七條 證券ノ賣買又ハ其ノ媒介ヲ主たる業トスル者ハ外貨證券ノ賣買又ハ其ノ媒介ニ付本令附屬報告書式第二十號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ

第三十八條 大藏大臣ノ許可ヲ受ケルニ非ザレバ證券ヲ輸出又ハ輸入スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 本邦内ニ支拂地ヲ有スル證券ノ支拂ヲ受ケル爲支拂期日前三箇月内又ハ支拂期日以後ニ輸入スルトキ  
二 株主、取締役、公債所有者又ハ社債権者ガ内外ノ法令ノ規定ニ基キ義務トシテ提出スベキ株式、公債又ハ社債ヲ當該會社、官公署又ハ其ノ財務代理人ニ送付スル爲輸出又ハ輸入スルトキ

三 前號ニ掲グル株式、公債又ハ社債ノ提出ニ伴ヒ當該會社、官公署又ハ其ノ財務代理人ヨリ株式、公債又ハ社債ヲ返付又ハ交付スル爲輸出又ハ輸入スルトキ  
前項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第二十三號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ  
證券ヲ輸出又ハ輸入シタル者ハ本令附屬報告書式第二十一

號又ハ第二十二號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ

第三十九條 價額ノ全部若ハ一部ニ付本邦ヨリ外國ニ仕向ケタル爲替ヲ取組マズシテ證券ヲ輸出シタル者又ハ價額ノ全部若ハ一部ニ付本邦ヨリ外國ニ仕向ケタル爲替ヲ取組ミ證券ヲ輸出シタル後其ノ取組ミタル爲替ノ償還若ハ買戻ヲ爲シタル者其ノ他該證券ノ代金ヲ外國ヨリ受領スベキ者ハ該證券ノ仕向地ニ到着後又ハ爲替ノ償還若ハ買戻後三箇月内ニ仕向地ヨリ銀行ヲ經由シ又ハ本邦ニ仕向ケタル郵便爲替ニ依リ之ヲ本邦ニ回收スベシ但シ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第二十四號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ

第一項ニ掲グル者ハ輸出證券代金ノ回收狀況等ニ付本令附屬報告書式第二十三號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ

第四十條 第三十八條又ハ昭和八年大藏省令第七號第十二條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ又ハ許可ヲ要セズシテ輸入シタル外貨證券ニシテ報告ヲ爲シタルモノニ付テハ所有者其ノ他ノ利害關係人ハ最寄日本銀行(本店及各支店ヲ謂フ以下同ジ)ニ證券ヲ呈示シ本令附屬様式第一號ニ依ルスタンプノ押捺ヲ受ケタルコトヲ得但シ大藏大臣ガスタンプノ押捺ヲ受



クルコトヲ得ザル旨ヲ定メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四十一條 大藏大臣ハ必要アルトキハ日本銀行ヲシテ前條ノ規定ニ該當セザル外貨證券ニ付本令附屬様式第一號ニ依リスタンブヲ押捺セシムルコトヲ得

第五章 外貨債權債務、對外債權債務、信用供與ニ關スル規定

第四十二條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テハ外貨債權ヲ讓受クルコトヲ得ズ

前項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第二十五號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ

外貨債權ヲ讓受ケタル者ハ本令附屬報告書式第二十四號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ

第四十三條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テハ何人ノ計算ニ於テスルヲ問ハズ外國通貨ヲ以テ表示スル債權又ハ債務ヲ取得スベキ預金又ハ消費貸借ノ契約ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第二十六號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ

第四十四條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本邦内ニ在ル財産ヲ擔保トシテ外國居住者ヨリノ借入金ヲ爲スコトヲ

一 本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ニ對スル債權ノ讓受

二 外國通貨ヲ以テ表示スル預ケ金又ハ本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ヘノ預ケ金ノ預入又ハ引出

三 外國通貨ヲ以テ表示スル貸付金又ハ本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ヘノ貸付金ノ貸付又ハ回収

四 外國通貨ヲ以テ表示スル預リ金又ハ本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ヨリノ預リ金ノ受入又ハ拂戻

五 外國通貨ヲ以テ表示スル借入金又ハ本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ヨリノ借入金ノ借入又ハ返済

第四十七條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テハ外國通貨ヲ以テ表示スル債權又ハ債務ヲ取得スベキ信託又ハ保險(再保險及海上保險ヲ除ク)ノ契約ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第二十九號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ

第一項ノ行爲ヲ爲シタル者ハ本令附屬報告書式第三十四號又ハ第三十五號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ

第四十八條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ外國通貨ヲ以テ表示スル地方債、社債又ハ株式ヲ發行スルコトヲ得ズ

外國爲替管理法施行規則

得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 前條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルトキ

二 借入金ノ借入及返済ガ本邦内ニ於テ本邦通貨ヲ以テ爲ササルトキ

前項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第二十七號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ

第四十五條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テハ外國居住者ニ對シ又ハ外國居住者ノ爲ニ貸付金、假拂金又ハ立替金ヲ爲スコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 關東州、滿洲國若ハ中華民國ニ居住スル者ニ對シ又ハ此等ノ者ノ爲ニ一箇年ヲ通ジ一萬圓相當額以下ノ貸付金、假拂金又ハ立替金ヲ爲スコトキ

二 第四十三條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ爲シタル消費貸借ノ契約ニ基キ貸付金ヲ爲スコトキ

前項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第二十八號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ

第四十六條 左ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ爲シタル者ハ本令附屬報告書式第二十五號乃至第三十三號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ

前項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第三十號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ

外國通貨ヲ以テ表示スル地方債又ハ社債ヲ發行又ハ償還シタル者ハ本令附屬報告書式第三十六號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ

第四十九條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ外國居住者ノ債務ニ付擔保ヲ供シ又ハ保證ヲ爲スコトヲ得ズ但シ第三十三條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ外國ニ在ル外貨證券ヲ擔保ニ供スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ外國人ガ外國ニ在ル財産ヲ擔保ニ供スル場合ニハ之ヲ適用セズ

第一項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第三十一號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ

第六章 在外財産ニ關スル規定

第五十條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ外國ニ在ル不動産、礦業權、漁業權、森林伐採權、工業所有權、事業、營業、事業若ハ營業ニ對スル出資又ハ外國ノ國籍ヲ有スル船舶(外國ニ在ル日本ノ國籍ヲ有セザル船舶ヲ含ム)ヲ取得スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

四三三

一 一箇年ヲ通ジ價額二萬圓相當額以下ノ關東州、滿洲國



- 又ハ中華民國ニ在ル財産ヲ取得スルトキ
  - 二 一箇年ヲ通ジ價額一萬圓相當額以下ノ第三國ニ在ル財産ヲ取得スルトキ
  - 三 財産ヲ取得スルニ必要ナル取引又ハ行爲ヲ爲スニ付本令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルトキ
  - 四 礦業權、漁業權又ハ工業所有權ノ設定ヲ受ケタルトキ
  - 五 相續又ハ遺贈ニ因リ取得スルトキ
  - 六 官廳ノ取得スルトキ
- 前項ノ規定ハ外國人ガ無償ニテ又ハ外國ニ在ル財産ヲ以テ前項ニ掲グル財産ヲ取得スル場合ニハ之ヲ適用セズ
- 第一項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第三十二號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ
- 第五十一條** 第三國ニ於テ事業又ハ營業ヲ爲ス者ハ其ノ事業又ハ營業ニ關シ各事業年度又ハ毎年一月ヨリ十二月迄ノ期間ニ於ケル收支豫算及事業計畫ヲ本令附屬報告書式第三十七號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ
- 第五十二條** 外國ニ於テ事業又ハ營業ヲ爲ス者ハ其ノ事業又ハ營業ニ關シ各事業年度又ハ毎年一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄ノ各期間ニ於ケル外國ニ於テ生ジタル收入支出及本邦トノ間ノ送金其ノ他資金移動ノ狀況並ニ各期末ニ於

- テ外國ニ有スル資産負債ノ内容ニ付本令附屬報告書式第三十八號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ
- 第五十三條** 外國ニ於テ本邦系外國子會社（本邦法人又ハ本邦人ガ資本金ノ二分ノ一以上ヲ占メ若ハ其ノ他ノ關係ニ於テ經營ヲ支配スル外國法人又ハ之ニ準ズルモノヲ謂フ以下同ジ）ヲ有スル者ハ之ニ付本令附屬報告書式第三十九號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ
- 第五十四條** 外國ニ財産（外貨證券、預ケ金及貸付金ヲ除ク）ヲ有スル者ハ其ノ財産ニ關シ毎年一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄ノ各期間ニ於ケル増減ノ内容及各期末ニ於ケル現在高ニ付本令附屬報告書式第四十號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ
- 前項ノ規定ハ官廳又ハ外國ニ於テ事業者ハ營業ヲ爲ス者ニ之ヲ適用セズ
- 第五十五條** 大藏大臣ノ許可ヲ受ケルニ非ザレバ第三國ヨリ關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ貨物ヲ輸入シ又ハ資金ヲ移ス爲第三國ニ在ル財産ヲ處分スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 一 本令ノ規定ニ依リ第三國ヨリ關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ貨物ヲ輸入スル爲許可ヲ受ケ本邦ヨリ送金シタル

資金ヲ處分スルトキ

- 二 關東州、滿洲國又ハ中華民國ヨリ輸出シタル貨物ノ代金其ノ他關東州、滿洲國又ハ中華民國ト第三國トノ間ノ取引ヨリ生ジタル財産ヲ處分スルトキ
- 前項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第三十三號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ
- 第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ同項ノ行爲ヲ爲シタル者ハ本令附屬報告書式第四十一號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ
- 第五十六條** 大藏大臣ノ許可ヲ受ケルニ非ザレバ左ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ
- 一 本邦居住者ニ對スル外國ニ在ル資金ノ貸付
  - 二 外國ニ在ル資金ヲ以テ爲ス本邦内ニ在ル財産ノ賣却代金ノ受領
  - 三 外國ニ在ル資金ヲ以テ爲ス本邦内ニ在ル財産ノ買入代金ノ支拂
  - 四 外國ニ在ル財産ノ賣却ニシテ其ノ代金ヲ本邦内ニ在ル資金ヲ以テ受領スルモノ
  - 五 外國ニ在ル財産ノ買入ニシテ其ノ代金ヲ本邦内ニ在ル資金ヲ以テ支拂フモノ
  - 六 外國ニ在ル財産ト本邦内ニ在ル財産トノ交換

前項ノ規定ハ左ニ掲グル場合ニハ之ヲ適用セズ

- 一 外國爲替銀行ガ業務トシテ爲ストキ
  - 二 前號ニ掲グル取引又ハ行爲ノ相手方トシテ爲ストキ
  - 三 本令ノ他ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ外國ニ在ル財産ヲ取得又ハ處分スルトキ
  - 四 本令ノ規定ニ依リ取引又ハ行爲ノ相手方ガ許可ヲ受ケ外國ニ在ル財産ヲ取得又ハ處分スルトキ
  - 五 官廳ノ爲ストキ
- 第一項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第三十四號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ
- 第五十七條** 大藏大臣ノ許可ヲ受ケルニ非ザレバ外國ニ在ル財産ヲ無償ニテ又ハ不當ニ低廉ナル價格ニテ處分スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 一 營業上必要ナル寄贈ヲ爲ス爲又ハ公共團體、慈善團體其ノ他之ニ準ズルモノニ寄贈スル爲一箇年ヲ通ジ二萬圓相當額以下ノ關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ在ル財産ヲ處分スルトキ
  - 二 營業上必要ナル寄贈ヲ爲ス爲又ハ公共團體、慈善團體其ノ他之ニ準ズルモノニ寄贈スル爲一箇年ヲ通ジ五千圓相當額以下ノ第三國ニ在ル財産ヲ處分スルトキ



- 三 本令ノ他ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ處分スルトキ
  - 四 官廳ノ爲ストキ
- 前項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第三十五號ニ依ル許可申請書ヲ提出スベシ
- 第五十八條** 外國ニ在ル不動産、鑛業權、漁業權、森林伐採權、工業所有權、船舶、事業、營業又ハ事業若ハ營業ニ對スル出資(株式ヲ除ク)ヲ賣却又ハ讓渡シタル者ハ其ノ代リ金ヨリ該賣却又ハ讓渡ニ付外國ニ於テ要シタル費用トシテ支拂ヒタルモノヲ除キ該賣却又ハ讓渡後二箇月内ニ賣却又ハ讓渡シタル地ヨリ銀行ヲ經由シ又ハ本邦ニ仕向ケタル郵便爲替ニ依リ之ヲ本邦ニ回收スベシ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 一 大藏大臣ノ許可ヲ受ケタルトキ
  - 二 一箇年ヲ通ジ五千圓相當額以下ノ關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ在ル財産ヲ賣却又ハ讓渡シタルトキ
  - 三 一箇年ヲ通ジ千圓相當額以下ノ第三國ニ在ル財産ヲ賣却又ハ讓渡シタルトキ
  - 四 外國人ガ外國ニ在ル財産ヲ處分シタルトキ
  - 五 官廳ノ爲シタルトキ
- 前項第一號ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬

- 申請書式第三十六號ニ依ル許可申請書ヲ提出スベシ
  - 第一項ニ掲グル者ハ賣却又ハ讓渡代リ金ノ回收狀況等ニ付本令附屬報告書式第四十二號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ
- 第五十九條** 本令ノ規定ニ依リ大藏大臣ノ許可ヲ受ケ又ハ許可ヲ要セズシテ外國ニ送金シタル者該資金ヲ其ノ目的ニ使用セザルニ至リタルトキハ遲滞ナク送金仕向地ヨリ銀行ヲ經由シ又ハ本邦ニ仕向ケタル郵便爲替ニ依リ之ヲ本邦ニ回收スベシ但シ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 前項但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第三十七號ニ依ル許可申請書ヲ提出スベシ
- 第一項ニ掲グル者ハ資金ノ回收狀況等ニ付本令附屬報告書式第四十三號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ
- 第六十條** 第三國ニ於テ事業又ハ營業ヲ爲ス者ハ該事業又ハ營業ニ因リ生ジタル利益金ヲ之ガ確定後三箇月内ニ該利益金ヲ生ジタル地ヨリ銀行ヲ經由シ又ハ本邦ニ仕向ケタル郵便爲替ニ依リ之ヲ本邦ニ回收スベシ但シ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 前項但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第三十八號ニ依ル許可申請書ヲ提出スベシ

- 第一項ニ掲グル者ハ利益金ノ回收狀況等ニ付本令附屬報告書式第四十四號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ
- 第六十一條** 外國ニ於テ締結シタル第三國通貨ヲ以テ表示スル保險契約ニ基キ保險業者ノ取得スル保險料ハ第三國通貨ニ依リ之ヲ受領スベシ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 一 大藏大臣ノ許可ヲ受ケタルトキ
  - 二 保險料ヲ受領シタル通貨ニ依リ保險金ノ支拂ヲ爲スベキ契約アルトキ
- 前項第一號ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第三十九號ニ依ル許可申請書ヲ提出スベシ
- 前二項ノ規定ハ保險業者ガ本邦内ニ於テ締結シタル第三國通貨ヲ以テ表示スル船舶保險契約又ハ外國ト外國トノ間ノ輸送貨物ニ關スル積荷保險契約ニ基ク保險料ヲ取得スル場合ニ之ヲ準用ス
- 第六十二條** 外國ト外國トノ間ノ旅客又ハ貨物ノ輸送ニ因リ海運業者ノ取得スル運賃ハ第三國通貨ニ依リ之ヲ受領スベシ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 一 大藏大臣ノ許可ヲ受ケタルトキ
  - 二 關東州、滿洲國、中華民國相互間ノ旅客又ハ貨物ノ輸送ニ關スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 外國爲替管理法施行規則

- 送ニ因ル運賃ヲ該地域ノ通貨ニ依リ受領スルトキ
- 三 關東州、滿洲國又ハ中華民國ヨリ第三國ヘノ旅客又ハ貨物ノ輸送ニ因ル運賃ヲ該地域ノ通貨ニ依リ受領スルトキ
- 前項第一號ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第四十號ニ依ル許可申請書ヲ提出スベシ
- 第七章 削除**
- 第六十三條乃至第七十一條 削除**
- 第八章 外國爲替銀行、兩替商等ニ關スル規定**
- 第七十二條** 既存又ハ新設ノ店舗ニ於テ外國爲替業務ヲ營マントスル銀行ハ大藏大臣ノ許可ヲ受クベシ
- 昭和十一年十一月三十日迄ニ外國爲替業務ヲ營ム旨ノ届出ヲ爲シタル銀行又ハ昭和八年大藏省令第十七號第十七條第一項若ハ前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル銀行ヲ外國爲替銀行ト謂ヒ其ノ外國爲替業務ヲ營ム店舗ハ大藏大臣之ヲ告示ス
- 外國爲替銀行其ノ全部若ハ一部ノ店舗ニ於ケル外國爲替業務ヲ廢止セントスルトキ又ハ其ノ外國爲替業務ヲ營ム店舗ノ名稱若ハ位置ヲ變更セントスルトキハ豫メ大藏大臣ニ届出ヅベシ此ノ場合大藏大臣ハ之ヲ告示ス
- 第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請



書式第四十五號ニ依ル許可申請書ヲ提出スベシ

第七十三條 外國爲替銀行ハ第十三條第一項但書ノ規定ニ拘ラズ大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テハ外國爲替銀行(外國ニ在ル自行ノ他ノ店舗ヲ含ム)ニ對シ外國爲替ヲ賣却スルコトヲ得ズ

前項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第四號ニ依ル許可申請書ヲ提出スベシ

第七十四條 外國爲替銀行ハ大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テハ外國ヨリ本邦ニ仕向ケタル外國爲替ノ取立ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第四十六號ニ依ル許可申請書ヲ提出スベシ

第七十五條 本令施行地内ニ在ル外國爲替銀行ハ爲替勘定其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ外國ニ在ル銀行(自行ノ他ノ店舗ヲ含ム)ニ對シ預ケ金又ハ貸越金ヲ爲スコトヲ得ズ但シ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第四十七號ニ依ル許可申請書ヲ提出スベシ

第七十六條 外國爲替銀行ハ第三國ニ在ル店舗ニ於テ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタル限度ヲ超エ資金ヲ保有スルコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第四十八號ニ依ル許可申請書ヲ提出スベシ

第七十七條 第十九條、第二十四條、第三十三條乃至第三十五條、第三十九條、第四十九條及第五十二條ノ規定ハ外國爲替銀行ニ之ヲ適用セズ

第七十八條 外國爲替銀行ハ顧客(銀行ヲ含ム)ト取引又ハ行爲ヲ爲スニ付該顧客ガ外國爲替管理法ニ基ク命令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルコト又ハ許可ヲ受クルノ要ナキコトヲ確認スルニ非ザレバ該取引又ハ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第七十九條 外國爲替銀行ハ各月ニ於ケル外國爲替ノ賣買、取立爲替ノ取扱、送金爲替ノ支拂、信用狀ノ發行等ニ關シ本令附屬報告書式第五十號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ

第八十條 外國爲替銀行ハ毎日ノ外國爲替賣買高及賣持又ハ買持ノ高ヲ本令附屬報告書式第五十一號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ

第八十一條 業トシテ外國通貨ノ賣買ヲ爲サントスル者(銀行ヲ除ク)ハ豫メ其ノ業務ヲ營ムベキ店舗ヲ大藏大臣ニ届出ヅベシ

昭和八年大藏省令第七號第二十條ノ二第一項若ハ第二項又

ハ前項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲シタル者ヲ兩替商ト謂ヒ其ノ業務ヲ營ム店舗ノ變更並ニ廢止ハ豫メ之ヲ大藏大臣ニ届出ヅベシ

第一項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲サントスル者ハ本令附屬届出書式ニ依ル届出書ヲ提出スベシ

第八十二條 兩替商ハ第十六條第一項但書ノ規定ニ拘ラズ大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テハ外國爲替銀行又ハ兩替商ニ對シ外國通貨ヲ賣却スルコトヲ得ズ

前項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第八號ニ依ル許可申請書ヲ提出スベシ

第八十三條 兩替商ハ大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テハ外貨旅行小切手ノ賣却ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第四十九號ニ依ル許可申請書ヲ提出スベシ

第八十四條 兩替商ハ相手方ガ外國通貨又ハ外貨旅行小切手ノ買入ヲ爲スニ付外國爲替管理法ニ基ク命令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルコト又ハ許可ヲ受クルノ要ナキコトヲ確認スルニ非ザレバ之ガ賣却ヲ爲スコトヲ得ズ

本令施行ノ際業トシテ外國爲替取引ノ媒介ヲ爲シ居レル者引續キ其ノ業務ヲ營マントスルトキハ昭和十六年四月三十日迄ニ大藏大臣ノ許可ヲ受クベシ

第一項又ハ前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者ヲ爲替プロカートト謂ヒ其ノ業務ヲ廢止セントスルトキハ豫メ大藏大臣ニ届出ヅベシ

第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第五十號ニ依ル許可申請書ヲ提出スベシ

第八十六條 本章ノ規定ニ於ケル外國爲替ニハ第一條ニ規定スルモノノ外外國爲替銀行ノ業務上之ニ準ズルモノヲ含ム

第九章 特別命令ニ關スル規定

第八十七條 大藏大臣ハ必要アルトキハ人ヲ指定シテ左ニ掲グル財産ニ關シ本令ニ定ムルモノノ外日本銀行其ノ他大藏大臣ノ指定スル者ニ對スル賣却其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

一 外國通貨又ハ外國爲替  
二 外貨證券、外貨債權又ハ本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ニ對スル債權

三 外國ニ在ル財産ニシテ前二號ニ掲ゲザルモノ  
第八十八條 大藏大臣ハ必要アルトキハ人ヲ指定シテ外國へ



外國爲替管理法施行規則

ノ送金、外國ヨリノ送金ノ受領其ノ他外國トノ間ニ於ケル債權債務ノ決済又ハ外國ヨリ外國ヘノ送金其ノ他外國間ニ於ケル債權債務ノ決済ニ關シ其ノ方法、條件其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第八十九條 大藏大臣ハ必要アルトキハ人ヲ指定シテ外國居住者、本邦内ニ居住スル外國人(外國法人ノ本邦内ニ在ル支店其ノ他ノ營業所ヲ含ム)又ハ左ニ掲グル法人ノ本令施行地内ニ於テ爲ス財産ノ取得若ハ處分、預ケ金ノ引出又ハ貸出金ノ回收ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得  
一 外國法人又ハ外國人ガ資本金ノ二分ノ一以上ヲ占ムル本邦法人  
二 外國法人又ハ外國人ガ前號以外ノ關係ニ於テ經營ヲ支配スル本邦法人

大藏大臣ハ必要アルトキハ前項第一號又ハ第二號ニ掲グル法人ヲ告示ス

第九十條 大藏大臣ハ必要アルトキハ人ヲ指定シテ前條ニ掲グル者ノ爲又ハ之ヲ相手方トスル本令施行地内ニ於テ爲ス前條ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第十章 検査其ノ他ニ關スル規定

第九十一條 大藏大臣ハ必要アルトキハ當該官吏ヲシテ必要

六 外國貿易業者

七 前各號ニ該當スル者ノ外外國ニ於テ事業又ハ營業ヲ爲ス者

前項ノ規定ハ外國ニ在ル店舗ニ備付タル帳簿ニハ之ヲ適用セズ

第九十四條 大藏大臣ハ必要アルトキハ事項又ハ人ヲ指定シテ本令ニ定ムル取引又ハ行爲ノ制限ヲ免除スルコトヲ得  
前項ノ規定ニ依リ事項又ハ人ヲ指定シテ本令ニ定ムル取引又ハ行爲ノ制限ヲ免除シタル場合ニハ大藏大臣必要アルトキハ之ヲ告示ス其ノ廢止又ハ變更ヲ爲シタル場合亦同ジ

第九十五條 大藏大臣ハ必要アルトキハ外國爲替管理法ノ施行ニ關スル事務ノ一部ヲ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ヲシテ外國爲替管理法ノ施行ニ關スル事務ノ一部ヲ取扱ハシムル場合ニハ大藏大臣必要アルトキハ之ヲ告示ス其ノ廢止又ハ變更ヲ爲ス場合亦同ジ

第十一章 許可申請及報告ニ關スル規定

第九十六條 本令ノ規定スル手續ニ依リ大藏大臣ノ許可ヲ受クルコト又ハ大藏大臣ニ報告スルコト業務上其ノ他ノ事由

外國爲替管理法施行規則

ナル場所ニ臨檢シ業務狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

外國爲替管理法第五條第二項ノ規定ニ依リ準用シタル關稅法第八十七條ノ規定ニ依リ携帯スベキ證券ハ大藏省爲替管理官及大藏省爲替管理官補ニ在リテハ本令附屬様式第二號ニ依ル

外國爲替管理法第五條第二項ノ規定ニ基ク犯罪事件ノ調査ニ付テハ關稅法施行規則ノ規定ヲ準用ス

第九十二條 大藏大臣ハ必要アルトキハ人ヲ指定シテ本令ニ定ムルモノノ外帳簿書類ノ備付ヲ命ジ又ハ帳簿書類ノ記載方ヲ指定スルコトヲ得

第九十三條 左ニ掲グル者ハ本令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ又ハ許可ヲ要セズシテ昭和十六年六月一日以後爲シタル取引又ハ行爲ニ關シ日本語ヲ以テ記載シタル帳簿ヲ備付クベシ但シ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
一 外國爲替銀行  
二 兩替商  
三 保險業者  
四 證券業者  
五 海運業者

ニ因リ著シク支障アリト認ムル場合ハ大藏大臣ハ特別ノ手續ヲ定ムルコトアルベシ

第九十七條 法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ外國ニ於テ爲ス取引又ハ行爲ニ付許可ヲ申請スル場合ニハ法人ノ本店、主タル事務所又ハ東京所在店舗ヨリ許可申請書ヲ大藏大臣ニ提出スベシ  
人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ外國ニ於テ爲ス取引又ハ行爲ニ付許可ヲ申請スル場合ニハ本人又ハ使用主ヨリ許可申請書ヲ大藏大臣ニ提出スベシ

第九十八條 本令施行地内ニ財産ヲ有スル第三國人又ハ第八十九條第一項第一號若ハ第二號ニ掲グル法人ハ其ノ所有スル財産ニ關シ、外國ニ在ル第三國人又ハ第三國法人ノ爲ニ本令施行地内ニ於テ財産ヲ保有又ハ管理スル者ハ其ノ保有又ハ管理スル財産ニ關シ曆年ニ依リ四半期毎ニ各期間ニ於ケル増減ノ内容及各期末ニ於ケル現在高ヲ本令附屬報告書式第五十二號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ

第九十九條 外國通貨、外國爲替若ハ外國證券ヲ有スル者、外國通貨ヲ以テ表示スル預金、消費貸借、信託若ハ保險ノ契約ヲ爲シ居ル者又ハ外國居住者ト本邦通貨ヲ以テ表示スル預金若ハ消費貸借ノ契約ヲ爲シ居ル者本令施行地内ニ住



外國爲替管理法施行規則

四四二

所ヲ有スルニ至リタルトキハ本令附屬報告書式第五十三號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ  
前項ノ規定ハ外國爲替以外ノモノニ付テハ外國人ニ之ヲ適用セズ

第一百條 大藏大臣ハ必要アルトキハ事項又ハ人ヲ指定シテ本令ニ定ムルモノノ外報告ヲ徵シ又ハ本令ニ定ムル報告ヲ免除シ若ハ報告ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ事項又ハ人ヲ指定シテ本令ニ定ムルモノノ外報告ヲ徵シ又ハ本令ニ定ムル報告ヲ免除シ若ハ報告ノ期間ヲ延長シタル場合ニハ大藏大臣必要アルトキハ之ヲ告示ス其ノ廢止又ハ變更ヲ爲シタル場合亦同ジ

第一百一條 本令ノ規定ニ依ル報告書ハ各本令附屬報告書式ニ依ルノ外其ノ準則ニ從ヒ之ヲ作成シ大藏大臣ニ提出スベシ

第一百二條 本令ノ規定ニ依リ外國ニ於ケル取引又ハ行爲ニ付キ提出スベキ報告書ハ各本令附屬報告書式ノ準則ニ定ムルモノノ外翌月十五日迄ニ之ヲ當該地ヨリ發送シ本店若ハ之ニ準ズルモノ又ハ東京所在店舗ニ於テ其ノ接受後遲滞ナク大藏大臣ニ提出スベシ

第一百三條 本令ノ規定ニ依リ一定ノ期間内ニ報告書ヲ提出スベキ義務ヲ負フ者變災其ノ他已ムヲ得ザル事故ニ因リ其ノ

期間内ニ提出スルコト能ハザルトキハ其ノ事故止ミタルトキ其ノ理由ヲ具シテ遲滞ナク提出スベシ

附則

第一百四條 本令ハ昭和十六年四月二十日ヨリ之ヲ施行ス

第一百五條 第十九條第一項及第二項ノ規定ハ昭和十六年七月一日ヨリ、第二十條第一項乃至第三項、第六十一條、第六十二條及第七十三條乃至第七十六條ノ規定ハ同年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一百六條 本令ノ規定ニ依リ各月分ニ付提出スベキ報告書ハ昭和十六年四月分ヨリ、第五十一條ノ規定ニ依リ各事業年度分ニ付提出スベキ報告書ハ同年六月一日以後ニ始マル事業年度分ヨリ、同條ノ規定ニ依リ一月ヨリ十二月迄ノ期間ノ分ニ付提出スベキ報告書ハ同年六月三十日迄ニ同年一月ヨリ十二月迄ノ期間ノ分ヨリ、第五十四條第一項ノ規定ニ依リ提出スベキ報告書ハ同年一月ヨリ六月迄ノ期間ノ分ヨリ、第九十八條ノ規定ニ依リ提出スベキ報告書ハ同年第二四半期分ヨリ之ヲ提出スベシ

第一百七條 昭和八年大藏省令第七號又ハ昭和十二年大藏省令第一號ノ規定ニ依リ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタル者ハ當該取引又ハ行爲ニ付本令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看

做ス

第八條 昭和八年大藏省令第七號、昭和八年大藏省令第八號及昭和十二年大藏省令第一號ハ之ヲ廢止ス  
(書式略ス)

國家總動員法

昭和十三年四月一日  
法律第五十五號

改正 昭和十四年第六八號、一六年第一九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國家總動員法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國家總動員法

第一條 本法ニ於テ國家總動員トハ戰時(戰爭ニ準ズベキ事變ノ場合ヲ含ム以下之ニ同ジ)ニ際シ國防目的達成ノ爲國ノ全力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル様人的及物的資源ヲ統制運用スルヲ謂フ

第二條 本法ニ於テ總動員物資トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ  
一 兵器、艦艇、彈藥其ノ他ノ軍用物資  
二 國家總動員上必要ナル被服、食糧、飲料及飼料  
三 國家總動員上必要ナル醫藥品、醫療機械器具其ノ他ノ衛生用物資及家畜衛生用物資

國家總動員法

四四三

四 國家總動員上必要ナル船舶、航空機、車輛、馬其ノ他ノ輸送用物資

五 國家總動員上必要ナル通信用物資

六 國家總動員上必要ナル土木建築用物資及照明明用物資

七 國家總動員上必要ナル燃料及電力

八 前各號ニ掲グルモノノ生産、修理、配給又ハ保存ニ要スル原料、材料、機械器具、裝置其ノ他ノ物資

九 前各號ニ掲グルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定スル國家總動員上必要ナル物資

第三條 本法ニ於テ總動員業務トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ  
一 總動員物資ノ生産、修理、配給、輸出、輸入又ハ保管ニ關スル業務

二 國家總動員上必要ナル運輸又ハ通信ニ關スル業務

三 國家總動員上必要ナル金融ニ關スル業務

四 國家總動員上必要ナル衛生、家畜衛生又ハ救護ニ關スル業務

五 國家總動員上必要ナル教育訓練ニ關スル業務

六 國家總動員上必要ナル試驗研究ニ關スル業務

七 國家總動員上必要ナル情報又ハ啓發宣傳ニ關スル業務

八 國家總動員上必要ナル警備ニ關スル業務



九 前各號ニ掲グルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定スル國家總動員上必要ナル業務

第四條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民ヲ徵用シテ總動員業務ニ從事セシムルコトヲ得但シ兵役法ノ適用ヲ妨ゲズ

第五條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民及帝國法人其ノ他ノ團體ヲシテ國、地方公共團體又ハ政府ノ指定スル者ノ行フ總動員業務ニ付協力セシムルコトヲ得

第六條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ從業者ノ使用、雇入若ハ解雇、就職、從業者ハ退職又ハ賃金、給料其ノ他ノ從業條件ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第七條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ勞働爭議ノ豫防若ハ解決ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ作業所ノ閉鎖、作業若ハ勞務ノ中止其ノ他ノ勞働爭議ニ關スル行爲ノ制限若ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第八條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ物資ノ生産、修理、配給、讓渡其ノ他ノ處分、使用、消費、所持及移動ニ關シ必要ナル命令ヲ爲ス

令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル事業ニ屬スル工場、事業場、船舶其ノ他ノ施設又ハ之ニ轉用スルコトヲ得ル施設ヲ全部又ハ一部ヲ管理、使用又ハ收用スルコトヲ得

政府ハ前項ニ掲グルモノヲ使用又ハ收用スル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ從業者ヲ供用セシメ又ハ當該施設ニ於テ現ニ實施スル特許發明若ハ登錄實用新案ヲ實施スルコトヲ得

政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務ニ必要ナル土地若ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ管理、使用若ハ收用シ又ハ總動員業務ヲ行フ者ヲシテ之ヲ使用若ハ收用セシムルコトヲ得

第十四條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ鑛業權、砂鑛權及水ノ使用ニ關スル權利ヲ使用者ハ收用シ又ハ總動員業務ヲ行フ者ヲシテ特許發明及登錄實用新案ヲ實施セシメ若ハ鑛業權、砂鑛權及水ノ使用ニ關スル權利ヲ使用セシムルコトヲ得

第十五條 前二條ノ規定ニ依リ政府ノ收用シタルモノ不用ニ歸シタル場合ニ於テ收用シタル時ヨリ十年内ニ拂下グルトキ又ハ第十三條第三項ノ規定ニ依リ總動員業務ヲ行フ者ノ收用シタルモノノ收用シタル時ヨリ十年内ニ不用ニ歸シタル

コトヲ得

第九條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ輸入若ハ輸出ノ制限若ハ禁止ヲ爲シ、輸出若ハ輸入ヲ命ジ、輸出税若ハ輸入税ヲ課シ又ハ輸出税若ハ輸入税ヲ増課若ハ減免スルコトヲ得

第十條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ヲ使用者ハ收用シ又ハ總動員業務ヲ行フ者ヲシテ之ヲ使用若ハ收用セシムルコトヲ得

第十一條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會社ノ設立、資本ノ増加、合併、目的變更、社債ノ募集若ハ第二回以後ノ株金ノ拂込ニ付制限若ハ禁止ヲ爲シ、會社ノ利益金ノ處分、償却其ノ他經理ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ銀行、信託會社、保險會社其ノ他勅令ヲ以テ指定スル者ニ對シ資金ノ運用、債務ノ引受若ハ債務ノ保證ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十二條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ總動員業務タル事業ヲ營ム會社ノ當該事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲メ社債ノ募集ニ付商法第二百九十七條ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十三條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ舊所有者若ハ舊權利者又ハ其ノ一般承繼人ハ優先ニ之ヲ買受クルコトヲ得

第十六條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良ヲ制限若ハ禁止シ又ハ總動員業務タル事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良ヲ命ズルコトヲ得

第十六條ノ二 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業ニ屬スル設備又ハ權利ノ讓渡其ノ他ノ處分、出資、使用又ハ移動ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十六條ノ三 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業ノ開始、委託、共同經營、讓渡、廢止若ハ休止又ハ法人ノ目的變更、合併若ハ解散ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十七條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ同種若ハ異種ノ事業ノ事業主間ニ於ケル當該事業ニ關スル統制協定ノ設定、變更若ハ廢止ニ付認可ヲ受ケシメ、統制協定ノ設定、變更若ハ取消ヲ命ジ又ハ統制協定ノ加盟者若ハ其ノ統制協定ニ加盟セザル事業主ニ對シ其ノ統制協定ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得



**第十八條** 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ同種若ハ異種ノ事業ノ事業主又ハ其ノ團體ニ對シ當該事業ノ統制又ハ統制ノ爲ニスル經營ノ目的トスル團體又ハ會社ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ命令ニ依リ設立セラルル團體ハ法人トス

第一項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者其ノ設立ヲ爲サザルトキハ政府ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ團體成立シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ當該團體ノ構成員タル資格ヲ有スル者ヲシテ其ノ團體ノ構成員ヲラシムルコトヲ得

政府ハ第一項ノ團體ニ對シ其ノ構成員(其ノ構成員ノ構成員ヲ含ム以下之ニ同ジ)ノ事業ニ關スル統制規程ノ設定、變更若ハ廢止ニ付認可ヲ受ケシメ、統制規程ノ設定若ハ變更ヲ命ジ又ハ其ノ構成員若ハ構成員タル資格ヲ有スル者ニ對シ團體ノ統制規程ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

第一項ノ團體又ハ會社ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

**第十八條ノ二** 第十六條ノ二ノ規定ニ依リ設備若ハ權利ノ讓渡若ハ出資ヲ命ジ又ハ第十六條ノ三ノ規定ニ依リ事業ノ讓

渡ヲ命ジタル場合ニ於テ讓渡者又ハ出資者ノ負擔スル債務ノ承繼及其ノ擔保ノ處理ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

**第十八條ノ三** 第十六條ノ二ノ規定ニ依リ設備若ハ權利ノ讓渡若ハ出資、第十六條ノ三ノ規定ニ依ル事業ノ讓渡若ハ法人ノ合併又ハ第十八條第一項若ハ第三項ノ規定ニ依リ設立セラルル團體若ハ會社ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ課税標準ノ計算ニ關スル特例ヲ設ケ又ハ租税ノ減免ヲ爲スコトヲ得

**第十九條** 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ價格、運送賃、保管料、保險料、貸貨料、加工賃、修繕料其ノ他ノ財産的給付ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

**第二十條** 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ新聞紙其ノ他ノ出版物ノ掲載ニ付制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

政府ハ前項ノ制限又ハ禁止ニ違反シタル新聞紙其ノ他ノ出版物ニシテ國家總動員上支障アルモノノ發賣及頒布ヲ禁止シ之ヲ差押フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ併セテ其ノ原版ヲ差押フルコトヲ得

**第二十一條**

政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民及帝國臣民ヲ僱傭若ハ使用スル者ヲシテ帝國臣民ノ職業能力ニ關スル事項ヲ申告セシメ又ハ帝國臣民ノ職業能力ニ關シ檢査スルコトヲ得

**第二十二條** 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ學校、養成所、工場、事業場其ノ他技能者ノ養成ニ適スル施設ノ管理者又ハ養成セラルベキ者ノ僱傭主ニ對シ國家總動員上必要ナル技能者ノ養成ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

**第二十三條** 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生産、販賣又ハ輸入ヲ業トスル者ヲシテ當該物資又ハ其ノ原料若ハ材料ノ一定數量ヲ保有セシムルコトヲ得

**第二十四條** 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル事業ノ事業主又ハ戰時ニ際シ總動員業務ヲ實施セシムベキ者ヲシテ戰時ニ際シ實施セシムベキ總動員業務ニ關スル計畫ヲ設定セシメ又ハ當該計畫ニ基キ必要ナル演練ヲ爲サシムルコトヲ得

**第二十五條** 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ總動員物資ノ生産若ハ修理ヲ業トスル者又ハ試験研究機關ノ管理者ニ

對シ試験研究ヲ命ズルコトヲ得

**第二十六條** 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生産又ハ修理ヲ業トスル者ニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ一定ノ利益ヲ保證シ又ハ補助金ヲ交付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ政府ハ其ノ者ニ對シ總動員物資ノ生産若ハ修理ヲ爲サシメ又ハ國家總動員上必要ナル設備ヲ爲サシムルコトヲ得

**第二十七條** 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第八條、第十條、第十三條、第十四條若ハ第十六條ノ二ノ規定ニ依ル處分、第九條ノ規定ニ依ル輸出若ハ輸入ノ命令、第十一條ノ規定ニ依ル資金ノ融通、有價證券ノ應募、引受若ハ買入、債務ノ引受若ハ債務ノ保證ノ命令、第十六條ノ規定ニ依ル設備ノ新設、擴張若ハ改良ノ命令又ハ第十六條ノ三ノ規定ニ依ル事業ノ委託、讓渡、廢止若ハ休止若ハ法人ノ目的變更若ハ解散ノ命令ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス但シ第二項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

總動員業務ヲ行フ者ハ第十條、第十三條第三項又ハ第十四條ノ規定ニ依リ使用、收用又ハ實施ヲ爲ス場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償スベシ

**第二十八條** 政府ハ第二十二條、第二十三條又ハ第二十五條



ノ規定ニ依リ命令ヲ爲ス場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償シ又ハ補助金ヲ交付ス

第二十九條 前二條ノ規定ニ依ル補償ノ金額及第十五條ノ規定ニ依ル買受ノ價額ハ總動員補償委員會ノ議ヲ經テ政府之ヲ定ム

總動員補償委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條 政府ハ第二十六條又ハ第二十八條ノ規定ニ依リ利益ノ保證又ハ補助金ノ交付ヲ受クル事業ヲ監督シ之ガ爲必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

第三十一條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五萬圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第八條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
- 二 第十九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十二條 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル物ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴スルコトヲ得

第三十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第七條ノ規定ニ依ル命令又ハ制限若ハ禁止ニ違反シタル者
- 二 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ輸出又ハ輸入ヲ爲サザル者
- 三 第十條ノ規定ニ依ル總動員物資ノ使用又ハ收用ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者
- 四 第十三條ノ規定ニ依ル施設、土地若ハ工作物ノ管理、使用若ハ收用又ハ從業者ノ供用ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

第三十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第十一條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止又ハ命令ニ違反シタル者
- 二 第十六條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止又ハ命令ニ違反シタル者

タル者

三 第十六條ノ二ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

四 第十六條ノ三ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

五 第十七條若ハ第十八條第五項ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケズシテ統制協定若ハ統制規程ヲ設定、變更若ハ廢止シ又ハ第十七條若ハ第十八條第五項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

六 第二十三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ保有ヲ爲サザル者

七 第二十六條ノ規定ニ違反シ生産、修理又ハ設備ヲ爲サザル者

第三十五條 前四條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第三十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條ノ規定ニ依ル徵用ニ應ゼズ又ハ同條ノ規定ニ依ル業務ニ従事セザル者

二 第六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

二 第二十四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ計畫ノ設定又ハ演練ヲ爲サザル者

三 第二十五條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ試験研究ヲ爲サザル者

第三十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第十八條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ團體又ハ會社ノ設立ヲ爲サザル者
- 二 第十八條第六項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
- 三 第三十條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者
- 四 第三十一條ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者

第三十九條 第二十條第一項ノ規定ニ依ル制限又ハ禁止ニ違反シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ新聞紙ニ在リテハ發行人及編輯人、其ノ他ノ出版物ニ在リテハ發行者及著作者ヲ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

新聞紙ニ在リテハ編輯人以外ニ於テ實際編輯ヲ擔當シタル者及掲載ノ記事ニ署名シタル者亦前項ニ同ジ

第四十條 第二十條第二項ノ規定ニ依ル差押處分ノ執行ヲ妨



害シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 前二條ノ罪ニハ刑法併合罪ノ規定ヲ適用セズ

第四十二條 第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 第二十一條ノ規定ニ違反シテ申告ヲ怠リ又ハ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第四十四條 總動員業務ニ従事シタル者其ノ業務遂行ニ關シ知得シタル當該官廳指定ノ總動員業務ニ關スル官廳ノ機密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員又ハ其ノ職ニ在リタル者職務上知得シタル當該官廳指定ノ總動員業務ニ關スル官廳ノ機密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第四十五條 公務員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ノ規定ニ依ル職務執行ニ關シ知得シタル法人又ハ人ノ業務上ノ秘密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

免除スルコトヲ得

第四十八條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用者其ノ他ノ從業者其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第三十一條ノ二乃至第三十四條、第三十六條第二號、第三十七條、第三十八條又ハ第四十三條前段ノ違反行為ヲ爲シタルトキハ行為者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ各本條ノ罰金刑又ハ科料刑ヲ科ス

第四十九條 前條ノ規定ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用者其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行為ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人ノ代理人、使用者其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行為ニ付亦同ジ

第五十條 本法施行ニ關スル重要事項(軍機ニ關スルモノヲ除ク)ニ付政府ノ諮問ニ應ズル爲メ國家總動員審議會ヲ置ク

附則 國家總動員審議會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十三年勅令第三百十五號ヲ以テ昭和十三年五月五日ヨリ施行)

銀行等資金運用令

第十八條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ事業ノ統制ヲ目的トシテ設立セラレタル團體又ハ會社其ノ他本法ニ依ル命令ニ依リ統制ヲ爲ス法人其ノ他ノ團體ノ役員若ハ使用者又ハ其ノ職ニ在リタル者其ノ業務執行ニ關シ知得シタル法人又ハ人ノ業務上ノ秘密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキ亦前項ニ同ジ

第四十六條 第十八條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ事業ノ統制ヲ目的トシテ設立セラレタル團體又ハ會社其ノ他本法ニ依ル命令ニ依リ統制ヲ爲ス法人其ノ他ノ團體ノ役員又ハ使用者其ノ擔當スル統制事務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行為ヲ爲シ又ハ相當ノ行為ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第四十七條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ

軍需工業動員法及昭和十二年法律第八十八號ハ之ヲ廢止ス  
本法施行前軍需工業動員法ニ基キテ爲シタル命令又ハ處分ハ之ヲ本法中ノ相當規定ニ基キテ爲シタルモノト看做ス

軍需工業動員法ニ違反シタル者ノ處罰ニ付テハ仍舊法ニ依ル

附則 (昭和十六年法律第十九號)  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十六年勅令第二百五號ヲ以テ昭和十六年三月二十日ヨリ施行)

銀行等資金運用令

昭和十五年十月十九日  
勅令第六百八十一號

改正 昭和十六年第七二號、第一一〇六號、一七年第七二四號

朕銀行等資金運用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
銀行等資金運用令

第一條 國家總動員法(昭和十三年勅令第三百十七號ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ)第十一條ノ規定ニ依ル銀行、信託會社、保險會社、產業組合中央金庫、商工組合中央金庫、北海道府縣又ハ樺太ヲ區域トスル信用組合聯合會、朝鮮金融組合聯合會、東洋拓殖株式會社、臺灣拓殖株式會社、南洋拓殖株式會社(以下金融機關ト總稱ス)及有價證券引受業



法ノ證券引受會社(以下證券引受會社ト稱ス)並ニ金融機關又ハ證券引受會社ニ非ズシテコール資金ノ貸借若ハ其ノ媒介又ハ手形ノ賣買若ハ其ノ媒介ヲ爲スヲ業トスル者ニシテ主務大臣ノ指定スルモノ(以下ビルブローカート稱ス)ニ對スル資金ノ運用及銀行ニ對スル債券ノ引受又ハ債務ノ保險ニ關スル命令ニ付テハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 主務大臣資金ノ運用ヲ適正ナラシムル爲必要アリト認ムルトキハ金融機關ニ對シ資金ノ運用ニ關スル計畫ノ變更ヲ命ジ又ハ命令ノ定ムル所ニ依リ資金ノ運用方法ヲ指定スルコトヲ得

第三條 金融機關事業ニ關スル設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル資金以外ノ資金ニシテ命令ノ定ムルモノノ貸付ヲ爲サントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ此等ノ資金ニ付手形ノ割引ヲ爲シ又ハ當座貸越ノ契約ヲ爲サントスルトキ亦同ジ

第四條 證券引受會社又ハビルブローカー命令ノ定ムル資金ノ貸付ヲ爲サントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ此等ノ資金ニ付手形ノ割引ヲ爲サントスルトキ亦同ジ

第五條 第三條及前條ノ規定ニ依ル許可ニ關スル處分ニシテ

前項ノ規定ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

第十條 大藏大臣ハ銀行ガ第七條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ依リ資金ノ融通、債務ノ引受又ハ債務ノ保證ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ融通、引受又ハ保證ニ關シ必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ資金ノ融通ヲ受ケタル者又ハ債務ヲ引受ケラレ若ハ債務ヲ保證セラレタル債務者ヨリ其ノ業務ニ關スル報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ其ノ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ検査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

第十一條 本令ニ於テ主務大臣トアルハ銀行、信託會社、保險會社、證券引受會社及ビルブローカーニ付テハ大藏大臣、商工組合中央金庫ニ付テハ大藏大臣及商工大臣、産業組合中央金庫及北海道府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會ニ付テハ大藏大臣及農林大臣、東洋拓殖株式會社及臺灣拓殖株式會社ニ付テハ內務大臣、南洋拓殖株式會社ニ付テハ大東亞大臣トス

內務大臣東洋拓殖株式會社又ハ臺灣拓殖株式會社ニ對シ、銀行等資金運用令

事案ノ重要ナルモノニ付テハ臨時資金調整法第十二條ノ臨時資金審査委員會ノ議ヲ經ベシ

第六條 主務大臣第三條及第四條ノ規定ニ依ル許可ヲ爲スニ付必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ資金ノ貸付若ハ手形ノ割引ヲ受ケ又ハ當座貸越ノ契約ヲ爲サントスル者ヨリ必要ナル事項ニ關スル報告ヲ徴スルコトヲ得

第七條 大藏大臣生産力擴充資金其ノ他時局ニ緊要ナル資金ノ供給ヲ圓滑ナラシムル爲必要アリト認ムルトキハ銀行ニ對シ資金ノ融通、有價證券ノ應募、引受若ハ買入、債務ノ引受又ハ債務ノ保證ヲ命ズルコトヲ得

第八條 政府ハ前條第一項ノ規定ニ依ル命令ヲ爲サントスルトキハ資金融通審査委員會ノ議ヲ經ベシ

第九條 政府ハ前條第一項ノ規定ニ依リ政府ガ銀行ニ對シ支拂フベシ損失補償金ハ國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得

大東亞大臣南洋拓殖株式會社ニ對シ第二條ノ命令若ハ指定又ハ第三條ノ許可ヲ爲サントスルトキハ大藏大臣ニ協議スベシ

第十二條 第一條、第三條、第四條及第六條中主務大臣トアルハ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督又ハ樺太廳長官トス

第二條中主務大臣トアルハ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル金融機關ニ付テハ各朝鮮總督、臺灣總督又ハ樺太廳長官トス但シ朝鮮銀行、臺灣銀行及臺灣又ハ樺太ニ營業所ヲ有シ銀行法又ハ貯蓄銀行法ノ適用ヲ受ケル銀行ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第七條、第八條及第十條中大藏大臣トアルハ朝鮮ニ本店ヲ有スル銀行ニ付テハ朝鮮總督トス但シ朝鮮銀行ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第五條ノ規定ハ朝鮮、臺灣及樺太ニ在リテハ之ヲ適用セズ第七條第二項ノ規定ハ第三項ノ場合ニハ之ヲ適用セズ朝鮮總督第七條第一項ノ命令ヲ爲サントスルトキハ大藏大臣ニ協議スベシ



銀行等資金運用令施行規則

朝鮮總督第八條第二項ノ規定ニ依リ損失ヲ決定スル基準其ノ他損失補償ニ關シ必要ナル事項ヲ定メントスルトキハ大藏大臣ニ協議スベシ

附則

第十三條 本令ハ第三條乃至第六條ノ規定ヲ除キ昭和十五年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十五年十一月五日ヨリ之ヲ施行ス  
第三條乃至第六條ノ規定ハ昭和十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 會社利益配當及資金融通令第十二條第一項ノ規定ニ依ル日本興業銀行ニ對スル資金ノ融通又ハ有價證券ノ應募、引受若ハ買入ノ命令及同行ノ爲シタル資金ノ融通又ハ有價證券ノ應募、引受若ハ買入ハ本令第七條第一項ノ規定ニ依リ爲シタルモノト看做シ同令第十三條第二項ノ規定ニ依リ大藏大臣ノ定メタル損失ヲ決定スル基準其ノ他損失補償ニ關シ必要ナル事項ハ日本興業銀行ニ付本令第八條第二項ノ規定ニ依リ定メタルモノト看做ス

銀行等資金運用令施行規則

昭和十五年十一月二十二日  
大藏、農林、商工、拓務省令第一號

條ノ規定ニ依リビルブローカーノ指定ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示ス

第三條 主務大臣ハ令第二條ノ規定ニ依リ金融機關ニ對シ其ノ資金ノ一部ノ運用ニ付左ノ各號ニ掲グル方法ヲ指定スルコトヲ得  
一 大藏省預金部ヘノ預入  
二 國債又ハ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付政府ノ保證アル債券ノ應募、引受又ハ買入

第四條 金融機關、證券引受會社又ハビルブローカー一營業所又ハ一事務所ニ於テ一人ニ對シ運轉資金貸付殘高五萬圓ヲ超エテ運轉資金ノ貸付ヲ爲サントスル場合ニ於テ當該貸付先ニ對スル運轉資金貸付殘高ガ基準貸付殘高ヲ超エ又ハ當該貸付先ニ對スル當該半期中ノ運轉資金貸付積數金額ガ基準貸付積數金額ヲ超ユルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ基準貸付殘高ナキ者ニ對シ一營業所又ハ一事務所ニ於テ運轉資金貸付殘高五萬圓ヲ超エテ運轉資金ノ貸付ヲ爲サントスルトキ亦同ジ

貸付中償還期限ヲ經過シタルモノアルトキハ貸付積數金額ハ當該貸付ガ當該半期末迄償還ナキモノトシテ之ヲ計算スルコトヲ要ス

銀行等資金運用令施行規則

改正 昭和十六年第一號

銀行等資金運用令施行規則左ノ通定ム

銀行等資金運用令施行規則

第一條 本令ニ於テ流動資金トハ事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルト認ムル資金以外ノ資金ヲ謂フ

本令ニ於テ運轉資金トハ流動資金中商品又ハ原材料ノ仕入、運賃、諸給與、配當金又ハ税金ノ支拂其ノ他事業ノ運營上通常必要ナル用途ニ使用セラルト認ムル資金ヲ謂フ

本令ニ於テ貸付トハ證書貸付及手形貸付ヲ謂フ

本令ニ於テ貸出トハ貸付、手形ノ割引及當座貸越ヲ謂フ

本令ニ於テ半期トハ四月ヨリ九月ニ至ル期間及十月ヨリ翌年三月ニ至ル期間ヲ謂フ

本令ニ於テ基準貸付殘高トハ前年相當半期中ノ當該貸付先ニ對スル運轉資金最高貸付殘高ニ相當スル金額ヲ謂フ

本令ニ於テ基準貸付積數金額トハ前年相當半期中ノ當該貸付先ニ對スル運轉資金貸付積數金額ニ相當スル金額ヲ謂フ

本令ニ於テ基準割引殘高トハ前年相當半期中ノ當該手形割引先ニ對スル最高手形割引殘高ニ相當スル金額ヲ謂フ

第二條 大藏大臣銀行等資金運用令(以下單ニ令ト稱ス)第一

貸付中償還期限ヲ經過シタルモノアルニ因リ運轉資金貸付積數金額ガ基準貸付積數金額ヲ超過セル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ翌年相當半期ニ於ケル基準貸付積數金額ノ計算上之ヲ算入セズ

金融機關、證券引受會社又ハビルブローカーハ主務大臣ノ許可ヲ受ケ基準貸付殘高若ハ基準貸付積數金額ヲ設定若ハ増額シ又ハ一ノ營業所若ハ事務所ニ於ケル基準貸付殘高若ハ基準貸付積數金額ノ全部若ハ一部ヲ他ノ營業所若ハ事務所ニ移轉スルコトヲ得

第五條 金融機關、證券引受會社又ハビルブローカー一營業所以外ノ流動資金ニ付一件三萬圓以上ノ貸付ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル用途ニ使用セラルト認ムル資金ノ貸付ヲ爲ス場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

一 特別ノ法令ニ依リ設立セラルル法人ノ第一回ノ株金又ハ出資金ノ拂込

二 設立若ハ資本増加ニ付行政官廳ノ認可、許可又ハ免許ヲ受ケタル法人ノ第一回ノ株金又ハ出資金ノ拂込

三 株金拂込ノ催告ニ付行政官廳ノ認可又ハ許可ヲ受ケタル法人ノ當該株金ノ拂込



四 行政官廳ノ認可又ハ許可ヲ受ケテ爲ス有價證券、特許權、礦業權又ハ漁業權ノ取得

第六條 金融機關、證券引受會社又ハビルブローカー一營業所又ハ一事務所ニ於テ一人ニ對シ手形割引殘高五萬圓ヲ超エテ手形ノ割引ヲ爲サントスル場合ニ於テ當該手形割引先ニ對スル手形割引殘高ガ基準割引殘高ヲ超ユルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ基準割引殘高ナキ者ニ對シ一營業所又ハ一事務所ニ於テ手形割引殘高五萬圓ヲ超エテ手形ノ割引ヲ爲サントスルトキ亦同ジ

金融機關、證券引受會社又ハビルブローカーハ主務大臣ノ許可ヲ受ケ基準割引殘高ヲ設定若ハ増額シ又ハ一營業所若ハ事務所ニ於ケル基準割引殘高ノ全部若ハ一部ヲ他ノ營業所若ハ事務所ニ移轉スルコトヲ得

第七條 金融機關新ニ當座貸越契約ヲ爲シ又ハ當座貸越契約ノ極度金額ヲ増額セントスル場合ニ於テ一營業所又ハ一事業所ニ於ケル一人ニ對スル當座貸越契約ノ極度金額ノ合計額ガ三萬圓ヲ超ユルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

第八條 第四條乃至前條ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル資金ニ付貸付、手形ノ割引又ハ當座貸越ノ契約ヲ爲ス場合ニ於テハ之ヲ適用セズ

金ノ貸付又ハ手形ノ割引ヲ爲スヲ緊要ト認ムル場合ニ於テ主務大臣ノ許可ヲ受クル暇ナシト認ムルトキハ十日間ヲ限リ第四條又ハ第六條ノ規定ニ拘ラズ貸出ヲ爲スコトヲ得前項ノ規定ニ依リ爲シタル貸出ノ金額ハ翌年相當半期ニ於ケル基準貸付殘高、基準貸付積數金額又ハ基準割引殘高ノ計算上之ヲ算入セズ

第十條 主務大臣必要アリト認ムルトキハ金融機關、證券引受會社又ハビルブローカーニ對シ基準貸付殘高、基準貸付積數金額、基準割引殘高又ハ當座貸越契約ノ極度金額ノ減額ヲ命ズルコトヲ得

第十一條 證券引受會社又ハビルブローカー事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルト認ムル一件三萬圓以上ノ資金ノ貸付ヲ爲サントスルトキハ大藏大臣ノ許可ヲ受クベシ

第十二條 金融機關、證券引受會社又ハビルブローカー第四條乃至第七條及前條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケントスルトキハ左ノ各號ニ掲グル様式ニ依ル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ  
一 第四條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスルトキハ別表第一號様式

銀行等資金運用令施行規則

一 行政官廳ノ認可、許可又ハ限度ノ指定ヲ受ケ借入ルル資金

二 行政官廳ノ命令ニ依リ融通スル資金

三 政府資金ノ融通決定アリタル者ニ對シ融通スル當該政府資金

四 預金、貯金、定期積金其ノ他之ニ準ズルモノヲ擔保トシテ融通スル資金

五 コール資金(翌日モノ、無條件モノ及七日以内据置ノ短期融通金ヲ謂フ)

六 金融機關ニ對シ融通スル資金

七 北海道、府縣、府縣組合、市町村、市町村組合、町村組合、市町村内ノ區、市町村學校組合、町村學校組合及學區ニ對シ融通スル資金

八 前各號ニ掲グルモノノ外主務大臣ノ指定スル資金

前項第一號乃至第五號及第八號ニ該當スル資金ニ付爲シタル貸付若ハ手形割引ノ金額又ハ當座貸越契約ノ極度金額ハ運轉資金貸付殘高、運轉資金貸付積數金額、基準貸付殘高、基準貸付積數金額、手形割引殘高、基準割引殘高又ハ當座貸越契約ノ極度金額ノ計算上之ヲ算入セズ

第九條 金融機關、證券引受會社又ハビルブローカー運轉資

二 第四條第四項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスルトキハ別表第二號様式

三 第五條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスルトキハ別表第三號様式

四 第六條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスルトキハ別表第四號様式

五 第六條第二項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスルトキハ別表第五號様式

六 第七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスルトキハ別表第六號様式

七 第十一條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスルトキハ別表第七號様式

本令ニ依リ提出スベキ許可申請書ニハ借主ガ會社ナルトキハ其ノ最終ノ貸借對照表及損益計算書並ニ最近ニ於ケル資産及負債ニ關スル試算表ヲ添附スベシ

第十三條 金融機關、證券引受會社又ハビルブローカー第九條ノ規定ニ依リ貸出ヲ爲シタルトキハ其ノ都度別表第八號様式ニ依ル報告書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

第十四條 金融機關、證券引受會社又ハビルブローカー三月、



銀行等資金運用令施行規則

六月、九月及十二月ノ各月末現在ニ於テ一營業所ハ一事務所ノ一人ニ對スル貸出合計殘高二十萬圓以上ニ及ブ貸出先アルトキハ營業所又ハ事務所毎ニ取纏メ翌月二十日迄ニ別表第九號様式ニ依ル報告書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

第十五條 主務大臣必要アリト認ムルトキハ本令ニ依リ許可申請書又ハ報告書ヲ提出スベキ者ニ對シ其ノ副本ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

主務大臣必要アリト認ムルトキハ本令ニ依リ提出スベキ許可申請書又ハ報告書ニ關シ別段ノ指示ヲ爲スコトヲ得

附則

第十六條 本令ハ第一條、第四條乃至前條及第十七條乃至第十九條ノ規定ヲ除キ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條、第四條乃至前條及第十七條乃至第十九條ノ規定ハ昭和十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條 昭和十六年九月三十日迄ハ第四條中「**運轉資金貸付殘高**」又ハ「**運轉資金貸付積數金額**」トアルハ「**流動資金貸付殘高**」又ハ「**流動資金貸付積數金額**」トシ「**五萬圓**」トアルハ左ニ掲グル金額トス

貸付先ガ拂込資本金額（拂込ミタル出資金額、株金額、出

資金額及株金額ノ合計額又ハ基金額ヲ謂フ以下同ジ）三千萬圓以上ノ會社ナルトキ

貸付先ガ拂込資本金額千萬圓以上ノ會社ナルトキ 二十萬圓

貸付先ガ拂込資本金額五百萬圓以上ノ會社ナルトキ 十五萬圓

貸付先ガ拂込資本金額五百萬圓未滿ノ會社又ハ會社以外ノモノナルトキ 十萬圓

前項ノ期日迄ハ本令中「**基準貸付殘高**」又ハ「**基準貸付積數金額**」トアルハ第一條第六項又ハ第七項ノ規定ニ拘ラズ夫々前年相當半期中ノ當該貸付先ニ對スル流動資金最高貸付殘高ニ相當スル金額又ハ前年相當半期中ノ當該貸付先ニ對スル流動資金貸付積數金額ニ相當スル金額トス

第十八條 第四條及第六條ノ規定ノ施行期日ノ前日ニ於ケル流動資金貸付殘高又ハ手形割引殘高ガ基準貸付殘高又ハ基準割引殘高ヲ超過スルトキハ當該流動資金貸付殘高又ハ手形割引殘高ヲ以テ同條ノ規定ノ施行期日ノ屬スル半期ニ於ケル基準貸付殘高又ハ基準割引殘高トス

第四條ノ規定ノ施行期日ノ前日迄ニ爲シタル流動資金ノ貸

付ニ對スル同條ノ規定ノ施行期日ノ屬スル半期中ノ貸付積數金額ガ基準貸付積數金額ヲ超過スルトキハ當該貸付積數金額ヲ以テ當該半期ニ於ケル基準貸付積數金額トス

（別表）略ス

會社經理統制令

昭和十五年十月十九日 勅令第六百八十號

改正 昭和十六年第八五九號、第一一〇六號、第一二三四號

朕會社經理統制令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

會社經理統制令

第一章 總則

第一條 國家總動員法（昭和十三年勅令第三百十七號ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ）第十一條ノ規定ニ依ル會社ノ利益金ノ處分、償却其ノ他經理ニ關スル命令ニ付テハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 會社ハ國家目的達成ノ爲國民經濟ニ課セラレタル責

會社經理統制令

任ヲ分擔スルコトヲ以テ經營ノ本義トシ其ノ經理ニ關シ左ノ各號ニ掲グル事項ノ遵守ヲ旨トスベシ

第二章 利益配當及積立金

第三條 資本金（出資總額、株金總額、出資總額及株金總額ノ合計額又ハ基金總額ヲ謂フ以下同ジ）二十萬圓以上ノ會社ハ每事業年度ニ付左ノ各號ノ率ノ中低キ率ヲ超ユル率ニ依リ利益配當（基金利息又ハ基金配當ヲ含ム以下同ジ）ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

- 一 配當金總額ガ自己資本ニ對シ年百分ノ八ニ相當スル金額ト爲ル配當率
- 二 直前ノ事業年度ノ配當率
- 左ノ各號ニ掲グル場合ニ於テハ各其ノ定ムル率ヲ前項第二號ノ率ト看做シテ前項ノ規定ヲ適用ス
- 一 直前ノ事業年度ノ配當率ガ年百分ノ十二達セザルトキ



ハ其ノ配當率ニ年百分ノ一(六月ニ非ザル期間ヲ事業年度トスルモノニ在リテハ當該事業年度ノ月數ノ六ニ對スル割合ヲ年百分ノ一ニ乘ジテ得タル率)ヲ加ヘタル率但シ其ノ率カ年百分ノ六ニ達セザルトキハ年百分ノ六トシ年百分ノ十ヲ超ユルトキハ年百分ノ十トス

二 直前ノ事業年度ニ付利益配當ヲ爲サザリシトキ又ハ設立後最初ノ事業年度ノ利益配當ナルトキハ年百分ノ六

三 資本金二十萬圓未滿タリシ會社資本増加ニ因リ資本金二十萬圓以上ト爲リタル後最初ノ事業年度ニ付爲ス利益配當ナルトキハ第一號ノ規定ニ拘ラズ年百分ノ六

四 配當金額ガ自己資本ニ對シ年百分ノ五ノ割合ニ相當スル金額ト爲ル配當率ガ前三號ノ率ヨリ高キトキハ其ノ率但シ其ノ率ガ年百分ノ十ヲ超ユルトキハ年百分ノ十トス

前二項ノ自己資本ハ閣令ノ定ムル所ニ依リ計算シタル金額ニ依ル

第四條 主務大臣ハ左ノ各號ニ掲グル場合ニ於テハ會社ニ對シ期間ヲ定メ將來ノ配當率ニ付適當ト認ムル率ヲ指定スルコトヲ得

一 當該會社ノ利益ノ實情ニ照シ配當金ガ過大ナリト認メ

ラルルトキ

二 當該會社ノ資金計畫ニ照シ自己資金ノ蓄積ガ必要ナリト認メラルルトキ

會社ハ前項ノ規定ニ依リ配當率ニ付主務大臣ノ指定ヲ受ケタルトキハ前條ノ規定ニ拘ラズ當該配當率ヲ超ユル率ニ依リ利益配當ヲ爲スコトヲ得ズ

第五條 合併ニ因リテ設立シタル資本金二十萬圓以上ノ會社又ハ合併後存續スル資本金二十萬圓以上ノ會社ハ合併後最初ノ事業年度ニ付利益配當ヲ爲サントスルトキハ利益配當ノ率ガ年百分ノ六ヲ超エザル場合ヲ除キ前二條ノ規定ニ拘ラズ閣令ノ定ムル所ニ依リ會社ノ申請ニ基キ主務大臣ガ從前ノ利益配當其ノ他各會社ノ經理ノ實情ヲ參酌シテ指定シタル率ヲ超エザル利益配當ノ率ニ依ルベシ

第六條 主務大臣ハ會社收益ノ狀況其ノ他經理ノ實情ニ照シ必要アリト認ムルトキハ當該會社ニ對シ法定準備金ノ外特別ノ積立金ノ積立ヲ命ジ又ハ當該積立金ノ運用方法ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

前項ノ積立金ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第三章 役員及社員給與

第七條 本章ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル會社ニ之ヲ適用ス

一 資本金二十萬圓以上ノ會社

二 前號ニ規定スルモノヲ除クノ外役員及社員ノ合計數當時三十人以上ノ會社

第八條 本章ニ於テ役員ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

一 機關トシテ會社ノ業務ニ從事スル者

二 顧問、相談役其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハズ賞與ニ關シ會社ガ前號ニ該當スル者ニ準ジテ取扱フ者

第九條 本章ニ於テ社員ト稱スルハ船員及賃金統制令第二條ノ勞務者ヲ除クノ外左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

一 會社ニ雇傭セラルル者

二 顧問、囑託其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハズ繼續シテ會社ノ業務ニ從事スル者但シ役員タル者ヲ除ク

第十條 本章ニ於テ給與ト稱スルハ報酬、給料、手當、賞與、交際費、機密費其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハズ會社ガ役員又ハ社員ノ職務ノ對價トシテ支給スル金錢、物其ノ他ノ利益ヲ謂フ

第十一條 役員ノ給與ヲ分チテ左ノ各號ニ掲グル給與トス

一 報酬(會社ガ役員ニ對シ一定ノ金額ニ依リ定期ニ支給

スル給與ニシテ經費トシテ經理スルモノヲ謂フ但シ在勤手當其ノ他第二十條各號ニ掲グル社員手當ニ準ズル手當ヲ除ク)

二 賞與(會社ガ役員ニ對シ定期ニ利益金處分ニ依リ支給スル給與ヲ謂フ)

三 退職金(會社ガ退職シタル役員ニ對シ支給スル給與ヲ謂フ)

四 臨時ノ給與(會社ガ役員ニ對シ臨時ニ支給スル給與ヲ謂フ)

五 雜給與(前各號ニ掲グル給與ヲ除クノ外會社ガ役員ニ對シ支給スル給與ヲ謂フ)

第十二條 會社ハ每事業年度ノ役員報酬ヲ支給セントスル場合ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

一 支給セントスル役員報酬ノ合計金額ガ昭和十五年十月二十日(朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ同年十一月五日)以後終了シタル各事業年度ニ付支給シタル役員報酬又ハ本條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル役員報酬ノ事業年度毎ノ合計金額(當該事業年度ノ月數ト異ル月數ノ事業年度ニ付テハ閣令ノ定ムル所ニ依リ計算



會社經理統制令

シタル金額)ノ中最モ多キ金額(以下最高報酬額ト稱ス)ヲ超ユルトキ

- 二 昭和十五年十月二十日(朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ同年十一月五日)以後終了シタル各事業年度ニ付役員報酬ヲ支給セザリシトキ
- 三 設立後最初ノ事業年度ノ役員報酬ナルトキ
- 四 合併後最初ノ事業年度ノ役員報酬ナルトキ但シ其ノ役員報酬ノ合計金額ガ合併後存続スル會社ノ最高報酬額ヲ超エザルトキヲ除ク
- 五 第七條各號ノ一ニ掲グル會社ニ該當セザリシ會社第七條各號ノ一ニ掲グル會社ト爲リタル後最初ノ事業年度ノ役員報酬ナルトキ

第十三條

會社ハ毎事業年度ニ付役員賞與ヲ支給セントスル場合ニ於テ其ノ合計金額ガ左ノ各號ノ金額(百圓未満ノ端數ハ之ヲ百圓ニ切上グ)ノ中少キ金額ヲ超ユルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

- 一 法定賞與額(閉令ノ定ムル所ニ依リ計算シタル當該事業年度ノ純益金ニ閉令ノ定ムル割合ヲ乗ジテ得タル金額ヲ謂フ以下同ジ)
- 二 前期賞與額(直前ノ事業年度ニ付支給シタル役員賞與

該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 閉令ノ定ムル限度ヲ超エザル退職金ヲ支給セントスルトキ

第十五條

會社ハ役員ニ對シ臨時ノ給與ヲ支給セントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

第十六條

會社ハ第二十四條ノ規定ニ依リ主務大臣ニ報告スベキ準則若ハ主務大臣ノ承認ヲ受ケタル準則又ハ第二十五條若ハ第二十六條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケ若ハ主務大臣ノ命令ニ依リ制定若ハ變更シタル準則ニ依ルノ外役員ニ對シ雜給與ヲ支給スルコトヲ得ズ

第十七條

社員ノ給與ヲ分チテ左ノ各號ニ掲グル給與トス

- 一 基本給料(會社ガ社員ニ對シ一定ノ金額ニ依リ定期ニ支給スル給與ノ中基本ト爲ルベキ固定給ヲ謂フ)
- 二 手当(基本給料ヲ除クメ外會社ガ社員ニ對シ定期ニ若ハ職務ニ關シ一定ノ事實アル場合ニ一定ノ金額、數量若ハ割合ニ依リ支給スル給與又ハ繼續シテ利用セシムル住居其ノ他ノ施設ヲ謂フ)
- 三 賞與(前二號ニ掲グル給與ヲ除クノ外會社ガ社員ニ對

會社經理統制令

ノ合計金額ヲ謂フ但シ當該事業年度ノ月數ガ直前ノ事業年度ノ月數ト異ル場合ニ於テハ閉令ノ定ムル所ニ依リ計算シタル金額ヲ謂フ以下同ジ)

- 左ノ各號ニ掲グル場合ニ於テハ各其ノ定ムル金額ヲ前項第二號ノ金額ト看做シテ前項ノ規定ヲ適用ス
- 一 前期賞與額ガ法定賞與額ニ達セザルトキハ前期賞與額ノ百分ノ百二十ニ相當スル金額但シ前期賞與額ノ百分ノ百二十ニ相當スル金額ガ法定賞與額ニ對シ百分ノ七十ノ割合ニ達セザルトキハ法定賞與額ノ百分ノ七十二ニ相當スル金額
- 二 直前ノ事業年度ニ付役員賞與ヲ支給セザリシトキ又ハ設立後最初ノ事業年度ニ付支給スル役員賞與ナルトキハ法定賞與額ノ百分ノ七十二ニ相當スル金額
- 三 合併後最初ノ事業年度ニ付支給スル役員賞與ナルトキ又ハ第七條各號ノ一ニ掲グル會社ニ該當セザリシ會社第七條各號ノ一ニ掲グル會社ト爲リタル後最初ノ事業年度ニ付支給スル役員賞與ナルトキハ第一號ノ規定ニ拘ラズ法定賞與額ノ百分ノ七十二ニ相當スル金額

第十四條

會社ハ退職シタル役員ニ對シ退職金ヲ支給セントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ但シ左ノ各號ノ一ニ

シ定期ニ支給スル給與ヲ謂フ)

四 退職金(會社ガ退職シタル社員ニ對シ支給スル給與又ハ之ニ相當スル金額ニシテ在職中ノ社員ニ對シ前拂スルモノヲ謂フ)

五 臨時ノ給與(前四號ニ掲グル給與ヲ除クノ外會社ガ社員ニ對シ臨時ニ支給スル給與ヲ謂フ)

第十八條 會社ハ閉令ノ定ムル限度ヲ超エテ社員ノ初任基本給料ヲ支給スルコトヲ得ズ但シ轉職者(前職ニ於テ役員報酬・社員基本給料又ハ之ト同様ノ性質ヲ有スル給與ヲ受ケ居リタル者ヲ謂フ)又ハ特別ノ經歷若ハ技能ヲ有スル者ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケテ爲ス初任基本給料ノ支給ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條 會社ハ閉令ノ定ムル限度ヲ超エテ社員ノ基本給料ノ増加支給(以下昇給ト稱ス)ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル昇給ニハ之ヲ適用セズ

- 一 入營シタル社員(陸軍衛生部將校ノ補充及現役期間ノ臨時特例第四條第一項若ハ陸軍技術部將校ノ補充及現役期間ノ臨時特例第七條第一項ノ規定ニ依リ短期現役ニ服



スル將校又ハ海軍軍醫科、藥劑科、主計科、造船科、造機科及造兵科士官現役期間特例第一條ノ規定ニ依リ短期現役ニ服スル士官ト爲リタル者ヲ含ム、召集セラレタル社員又ハ徵用セラレタル社員退營シ又ハ召集若ハ徵用ヲ解除セラレ會社ノ勤務ニ復シタル場合ニ於テ勤務ニ復シタル後一年以内ニ當該社員ニ付爲ス昇給

二 基本給料ガ閣令ノ定ムル金額ニ達セザル社員ニ付爲ス昇給ニシテ其ノ昇給後ノ基本給料ガ閣令ノ定ムル金額ヲ超エザルモノ

第二十條 會社ハ第二十四條ノ規定ニ依リ主務大臣ニ報告スベキ準則若ハ主務大臣ノ承認ヲ受ケタル準則又ハ第二十五條若ハ第二十六條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケ若ハ主務大臣ノ命令ニ依リ制定若ハ變更シタル準則ニ依ルノ外社員ニ對シ左ノ各號ニ掲グル手當ヲ支給スルコトヲ得ズ  
一 在勤手當、僻地手當其ノ他特殊地域ニ在勤スルニ因リ支給スル手當  
二 危険手當其ノ他生命、健康等ニ關シ危險又ハ有害ナル特定ノ勤務ニ從事スルニ因リ支給スル手當  
三 居残手當、宿直手當其ノ他特定ノ追加勤務ニ對シ支給スル手當

- 四 閣令ヲ以テ定ムル家族手當
- 五 食事手當又ハ被服手當
- 六 歩合ニ依リ支給スル手當
- 七 現物ヲ以テ支給スル手當
- 八 其ノ他閣令ヲ以テ定ムル手當

第二十一條 會社ガ毎賞與期間ニ付社員ニ對シ支給スル賞與ノ總額ト前條各號ニ掲グル手當以外ノ手當ノ當該賞與期間中ニ於ケル支給總額トノ合計金額ハ閣令ノ定ムル限度ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ閣令ノ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ前項但書ノ規定ニ依リ前項ノ限度ヲ超エテ支給スル金額ニ付テハ會社ハ之ヲ經費トシテ經理スルコトヲ得ズ但シ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第一項ノ賞與期間ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 會社ハ第二十四條ノ規定ニ依リ主務大臣ニ報告スベキ準則若ハ主務大臣ノ承認ヲ受ケタル準則又ハ第二十五條若ハ第二十六條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケ若ハ主務大臣ノ命令ニ依リ制定若ハ變更シタル準則ニ依ルノ外社員ニ對シ退職金ヲ支給スルコトヲ得ズ

第二十三條 會社ハ社員ノ全部若ハ大部分又ハ社員數當時三十人以上ヲ有スル事務所、工場若ハ事業場ニ付其ノ所屬社

第二十八條 本章ノ規定ハ裁判所ガ決定ヲ以テ定メタル報酬ニハ之ヲ適用セズ

第四章 經費及資金

第二十九條 昭和十六年九月十六日(朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ同年九月三十日)現在ニ於テ資本金百萬圓以上ノ會社(第二項後段ノ會社ヲ除ク)ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ閣令ノ定ムル所ニ從ヒ機密費、交際費、接待費又ハ廣告宣傳費其ノ他之ト同様ノ性質ヲ有スル支出(利益金處分ニ依ルモノヲ含ム以下機密費等ト稱ス)ノ基準月額ヲ主務大臣ニ報告スベシ

第二十五條 會社ハ役員雜給與、第二十條各號ニ掲グル社員手當又ハ社員退職金ノ準則ヲ制定シ又ハ變更セントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ  
第二十六條 主務大臣ハ役員又ハ社員ノ給與及其ノ支給方法ノ適正ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ會社ニ對シ役員若ハ社員ノ給與ノ金額若ハ支給方法ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ役員雜給與、役員退職金、第二十條各號ニ掲グル社員手當若ハ社員退職金ノ準則ノ制定、變更若ハ廢止ヲ命ズルコトヲ得

第二十七條 削除



メ主務大臣ノ承認ヲ受クベシ  
 資本金百萬圓以上ノ會社ハ機密費等ノ基準月額ヲ増額セントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ  
 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ資本金百萬圓以上ノ會社ニ對シ機密費等ノ基準月額ヲ減額スベキコトヲ命ズルコトヲ得

資本金百萬圓以上ノ會社ハ毎事業年度ニ於テ支出セントスル機密費等ノ合計金額ガ前四項ノ規定ニ依リ報告シ、承認ヲ受ケ、増額シ又ハ減額シタル基準月額ニ當該事業年度ノ月數(曆ニ從ヒ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ一月ニ切上グ)ヲ乗ジテ得ベキ金額ヲ超ユルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ  
 前五項ノ規定ハ特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社ニハ之ヲ適用セズ

**第二十九條ノ二** 資本金百萬圓以上ノ會社ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ閣令ノ定ムル所ニ從ヒ毎事業年度ニ於ケル寄附金其ノ他之ト同様ノ性質ヲ有スル支出(利益金處分ニ依ルモノヲ含ム以下寄附金等ト稱ス)ノ豫定額ヲ主務大臣ニ報告スベシ  
 前項ノ規定ニ依リ報告ヲ爲シタル會社ハ其ノ報告シタル金額ヲ超エテ當該事業年度ニ於テ寄附金等ヲ支出セントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

額ヲ超エテ當該事業年度ニ於テ寄附金等ヲ支出セントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ  
 前二項ノ規定ハ特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社ニハ之ヲ適用セズ

**第二十九條ノ三** 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ會社ニ對シ機密費等、寄附金等、福利施設費其ノ他之ト同様ノ性質ヲ有スル支出(利益金處分ニ依ルモノヲ含ム)又ハ研究費其ノ他之ト同様ノ性質ヲ有スル支出(利益金處分ニ依ルモノヲ含ム)ノ金額又ハ其ノ經理ノ方法ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

**第三十條** 主務大臣ハ會社ノ經費ノ支出ヲ適正ナラシムル爲メ必要アリト認ムルトキハ會社ニ對シ之ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

**第三十一條** 會社ハ閣令ノ定ムル所ニ依リ固定資産ノ償却ヲ爲スベシ但シ主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

**第三十二條** 主務大臣ハ會社ノ經理上必要アリト認ムルトキハ會社ニ對シ資産ノ償却ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

**第三十三條** 會社ハ閣令ノ定ムル所ニ依リ左ノ各號ニ掲グル

事項ニ付主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

- 一 有價證券ノ取得又ハ處分
  - 二 特許權、礦業權又ハ漁業權ノ取得又ハ處分
  - 三 資金ノ貸付又ハ借入
- 主務大臣ハ會社ニ對シ借入金ノ限度ヲ指定スルコトヲ得  
 前項ノ指定ヲ受ケタル會社ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ指定ヲ受ケタル限度ヲ超エテ資金ノ借入ヲ爲スコトヲ得ズ

**第三十四條** 主務大臣ハ會社ノ經理ヲ適正ナラシムル爲メ必要アリト認ムルトキハ會社ニ對シ餘裕資金ノ運用ニ關シ必要ナル制限ヲ爲スコトヲ得

**第五章 經理検査**

**第三十五條** 主務大臣ハ會社ノ資産負債及損益ノ内容、利益金ノ處分其ノ他經理ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢検査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

**第三十六條** 會社ハ閣令ノ定ムル所ニ依リ財産目錄、貸借對

照表、損益計算書及原價計算ニ關スル書類ヲ作成スベシ  
 前項ノ財産目錄ニ記載スベキ財産ハ閣令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ評價スベシ

會社ハ第一項ノ規定ニ依リ作成スベキ書類ノ調製ニ必要ナル帳簿ヲ備ヘ整然且明瞭ニ之ガ記帳ヲ爲スベシ

**第三十七條** 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ會社ニ對シ勘定科目及帳簿組織ヲ指定シ之ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

**第三十八條** 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ會社ヲ指定シテ決算ニ關シ當該官吏ノ監査ヲ受クベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ決算ニ關シ監査ヲ受クベキ命令ヲ受ケタル會社ハ當該官吏ノ監査ヲ受ケタルコトノ證明ヲ受ケタル後ニ非ザレバ利益金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ズ

**第六章 雜則**

**第三十八條ノ二** 會社ハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ本令ニ基ク制限ヲ免ルル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

**第三十八條ノ三** 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ會社、事項及期間ヲ定メテ本令ニ基ク制限ヲ解除シ又ハ本令ニ基ク義務ヲ免除スルコトヲ得



第三十九條 第三條乃至第六條、第十二條乃至第十五條、第十八條、第十九條、第二十一條、第二十三條乃至第二十六條、第二十九條乃至第三十二條、第三十四條、第三十七條若ハ第三十八條ノ規定ニ依ル許可若ハ承認ニ關スル處分若ハ指定、命令若ハ制限ニシテ重要ナルモノ又ハ前條ノ規定ニ依ル制限ノ解除若ハ義務ノ免除(第三十三條ノ規定ニ依ル制限ニ關スルモノヲ除ク)ハ會社經理審查委員會ノ議ヲ經ベシ

會社經理審查委員會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第四十條 第三十三條ノ規定ニ依ル許可ニ關スル處分若ハ指定ニシテ重要ナルモノ又ハ第三十八條ノ三ノ規定ニ依ル制限ノ解除ニシテ第三十三條ノ規定ニ依ル制限ニ關スルモノハ臨時資金調整法第十二條ノ臨時資金審查委員會ノ議ヲ經ベシ

第四十一條 本令ニ於テ主務大臣トアルハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テ各其ノ定ムル所ニ依ルノ外總テ大藏大臣トス

- 一 特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社ニ在リテハ當該會社ヲ監督スル所管大臣

二 瓦斯事業法、自動車製造事業法、工作機械製造事業法、製鐵事業法、輕金屬製造事業法、石油業法、人造石油製

造事業法、大正十五年勅令第九號又ハ產金法第三條ノ適用ヲ受クル事業ノミヲ營ム會社ニ在リテハ商工大臣

三 電氣事業法、航空機製造事業法又ハ造船事業法ノ適用ヲ受クル事業ノミヲ營ム會社ニ在リテハ遞信大臣但シ造船事業法施行令第二十九條ノ規定ノ適用ヲ受クル事業ノミヲ營ム會社ニ在リテハ遞信大臣及商工大臣

四 地方鐵道法、軌道法又ハ自動車交通事業法ノ適用ヲ受クル事業ノミヲ營ム會社ニ在リテハ鐵道大臣

五 會社ノ營ム事業ノ一部ニ付第二號、第三號又ハ第四號ニ掲グル法令ノ適用ヲ受クル會社ニ在リテハ當該所管大臣及大藏大臣

六 第三十三條ノ規定ニ依ル許可ニ關スル處分又ハ指定ニ付テハ前各號ノ規定ニ拘ラズ大藏大臣及商工大臣

大藏大臣ハ第三條乃至第六條、第十二條乃至第十五條、第十八條、第十九條、第二十一條、第二十三條乃至第二十六條、第二十九條乃至第三十二條、第三十四條、第三十七條、第三十八條又ハ第三十八條ノ三ノ規定ノ施行ニ關スル重要事項ニ付關係各大臣ニ協議スベシ

大藏大臣以外ノ主務大臣ハ前項ニ掲グル規定ノ施行ニ關スル重要事項ニ付大藏大臣及關係各大臣ニ協議スベシ

第四十二條 大藏大臣ハ前條第一項第一號乃至第四號ニ掲グル會社以外ノ會社ニ關スル本令ノ施行ニ關スル事務ノ一部ヲ財務局長又ハ財務局出張所長ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

大藏大臣ハ財務局長若ハ財務局出張所長ヲシテ第三十五條ノ規定ニ依ル報告ヲ徵セシメ又ハ財務局長、財務局出張所長若ハ其ノ代理官ヲシテ同條ノ規定ニ依ル臨檢検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十三條 本令ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十四條 本令中主務大臣トアルハ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ南洋廳長官トス但シ日本勸業銀行、北海道拓殖銀行、朝鮮銀行、臺灣銀行及朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ營業所ヲ有シ銀行法又ハ貯蓄銀行法ノ適用ヲ受クル銀行並ニ南洋拓殖株式會社ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

本令中閣令トアルハ朝鮮又ハ臺灣ニ在リテハ總督府令、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ廳令トス

第三十九條及第四十條ノ規定ハ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ之ヲ適用セズ

第四十五條 朝鮮總督ハ本令ノ施行ニ關スル事務ノ一部ヲ朝

鮮總督府稅務監督局長又ハ朝鮮總督府稅務署長ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

朝鮮總督ハ朝鮮總督府稅務監督局長若ハ朝鮮總督府稅務署長ヲシテ第三十五條ノ規定ニ依ル報告ヲ徵セシメ又ハ朝鮮總督府稅務監督局長、朝鮮總督府稅務署長若ハ其ノ代理官ヲシテ同條ノ規定ニ依ル臨檢検査ヲ爲サシムルコトヲ得

臺灣總督ハ本令ノ施行ニ關スル事務ノ一部ヲ臺灣總督府州知事又ハ臺灣總督府廳長ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

臺灣總督ハ臺灣總督府州知事若ハ臺灣總督府廳長ヲシテ第三十五條ノ規定ニ依ル報告ヲ徵セシメ又ハ臺灣總督府州知事、臺灣總督府廳長若ハ其ノ代理官ヲシテ同條ノ規定ニ依ル臨檢検査ヲ爲サシムルコトヲ得

臺灣總督府州知事ハ前項ノ規定ニ依リ委任セラレタル事務ヲ稅務出張所ヲシテ分掌セシムルコトヲ得

附則

第四十六條 本令ハ昭和十五年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十五年十一月五日ヨリ之ヲ施行ス

第四十七條 會社利益配當及資金融通令及昭和十四年勅令第百九十四號ハ之ヲ廢止ス但シ本令施行前ニ爲シタル行爲ニ



關スル罰則ノ適用ニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス  
朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ會社利益配當及資  
金融通令ハ前項ノ規定ニ拘ラズ昭和十五年十一月四日迄、  
會社職員給與臨時措置令ハ同令附則第二項ノ規定ニ拘ラズ  
昭和十五年十一月四日迄仍其ノ效力ヲ有ス但シ同日以前ニ  
爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ同日後ト雖モ仍  
其ノ效力ヲ有ス

第四十八條 會社ノ直前ノ事業年度ノ利益配當ガ會社利益配  
當及資金融通令第二條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケ  
テ基準配當率ヲ超ユル率ニ依リ爲シタルモノニシテ當該利  
益配當ノ率ノ中主務大臣ガ其ノ許可ヲ爲スニ際シ基準配當  
率ニ算入セザル旨ヲ定メタル部分アルトキハ其ノ部分ヲ除  
キタル率ヲ以テ第三條第一項第二號ノ直前ノ事業年度ノ配  
當率ト看做ス

第四十九條 本令施行前合併ヲ爲シタルニ因リ會社利益配當  
及資金融通令第三條第一項第三號ノ規定ニ依リ基準配當率  
ニ付主務大臣ノ認定ヲ受ケタル會社ガ當該合併後最初ノ事  
業年度ノ利益配當ヲ本令施行後爲サントスルトキハ當該基  
準配當率ヲ以テ第三條第一項第二號ノ直前ノ事業年度ノ配  
當率ト看做ス

附則

(昭和十六年勅令第八百五十九號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋  
群島ニ在リテハ昭和十六年十月一日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行前從前ノ第二十九條第一項ノ規定ニ依リ本令施行後  
最初ニ終了スル事業年度ニ付同項第一號ニ掲グル支出ノ豫定  
額ヲ報告シタル會社ガ當該事業年度ニ於テ其ノ豫定額ノ範圍  
内ニ於テ爲ス機密費等ノ支出ニハ第二十九條第五項ノ改正規  
定ハ之ヲ適用セズ  
本令施行前會社ガ從前ノ第二十九條第一項ノ規定ニ依リ本令  
施行後最初ニ終了スル事業年度ニ付爲シタル同項第二號ニ掲  
グル支出ノ豫定額ノ報告ハ之ヲ第二十九條ノ二第一項ノ改正  
規定ニ依リ爲シタル報告ト看做ス  
本令施行前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ仍從  
前ノ例ニ依ル

會社經理統制令施行規則

昭和十五年十月十九日  
閣令第十三號

改正 昭和十六年第二二號、第三〇號、一七年第一號、第四號、第二七號  
會社經理統制令施行規則左ノ通定ス

會社經理統制令施行規則

第五十條 資本金二十萬圓未滿タリシ會社ニシテ本令施行前  
ノ資本金增加ニ因リ資本金二十萬圓以上ト爲リタルニ因リ會  
社利益配當及資金融通令第三條第一項第四號ノ規定ニ依リ  
其ノ基準配當率ニ付主務大臣ノ認定ヲ受ケタル會社ガ當該  
資本金増加後最初ノ事業年度ノ利益配當ヲ本令施行後爲サン  
トスルトキハ當該基準配當率ヲ以テ第三條第一項第二號ノ  
直前ノ事業年度ノ配當率ト看做ス

第五十一條 會社利益配當及資金融通令第四條ノ規定ニ依リ  
其ノ基準配當率ニ付主務大臣ノ指定ヲ受ケタル會社ガ指定  
後最初ノ事業年度ノ利益配當ヲ本令施行後爲サントスルト  
キハ其ノ指定ヲ受ケタル基準配當率ヲ以テ第三條第一項第  
二號ノ直前ノ事業年度ノ配當率ト看做ス

第五十二條 第三條第二項第一號ノ規定ハ第四十九條乃至前  
條ノ場合ニ於テ主務大臣ガ基準配當率ノ認定又ハ指定ヲ爲  
スニ際シ當該認定又ハ指定後ノ最初ノ利益配當ニ關シ會社  
利益配當及資金融通令第二條第一號ノ規定ヲ適用セザル旨  
ヲ定メタルトキハ當該利益配當ニ關シテハ之ヲ適用セズ  
前項ニ規定スル場合ヲ除クノ外第三條第二項第一號及第四  
號ノ規定ハ第四十八條乃至前條ノ規定ニ依リ直前ノ事業年  
度ノ配當率ト看做サレタル率ニ付テモ亦之ヲ適用ス

會社經理統制令施行規則

第一章 利益配當及積立金

第一條 會社經理統制令(以下單ニ令ト稱ス)第三條第一項及  
第二項ノ自己資本ハ當該事業年度中ニ於ケル左ノ各號ニ掲  
グル金額ノ日割平均額ノ合計金額ヨリ繰越缺損金額ノ日割  
平均額ヲ控除シタル金額トス但シ當該決算確定前課税ノ決  
定ヲ受ケタル最終ノ事業年度末ニ於ケル固定資産償却ノ累  
計金額中課税上損金ニ算入セラレザリシ金額ニ付稅務署長  
ノ證明ヲ受ケタルトキハ其ノ金額ハ之ヲ當該事業年度ノ自  
己資本ニ加算スルコトヲ得

- 一 拂込資本金額
- 二 積立金其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハズ會社ガ各事業年度ノ  
利益金額中利益金處分ニ依リ留保シタル金額但シ退職積  
立金及退職手當法ニ依リ積立テタル退職手當積立金及稅  
金引當金ヲ除ク
- 三 前號ニ該當スルモノヲ除クノ外額面以上ノ價額ヲ以テ  
株式ヲ發行シタル場合ニ於テ其ノ額面ヲ超ユル金額中積  
立テタル金額
- 四 第二號ニ該當スルモノヲ除クノ外合併ニ因リ生ジタル  
差益金又ハ資本減少ニ因リ生ジタル差益金中積立テタル



金額

五 第二號ニ該當スルモノヲ除クノ外主務大臣ノ命令ニ依リ積立テタル金額  
主務大臣ガ引當金トシテ必要ナルモノト認定シタル金額又ハ償却ノ不足、評價ノ不適正其ノ他ノ事由ニ因リ會社資産ニ缺陷アルモノト認定シタル金額ハ之ヲ前項ノ金額ヨリ控除スルモノトス

第二條 令第三條第一項ノ規定ニ依リ利益配當ヲ爲スニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第一號様式ニ依リ許可申請書ニ當該事業年度ノ貸借對照表、損益計算書及利益金處分ニ關スル書類ヲ添ヘ之ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第三條 令第五條ノ規定ニ依リ合併後最初ノ事業年度ノ利益配當ノ率ニ付主務大臣ノ指定ヲ受ケントスル會社ハ別表第二號様式ニ依リ指定申請書ニ當該事業年度ノ貸借對照表、損益計算書及利益金處分ニ關スル書類並ニ合併前ノ各會社ノ合併前三事業年度ノ貸借對照表、損益計算書及利益金處分ニ關スル書類ヲ添ヘ之ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第四條 令第六條第二項ノ規定ニ依リ積立金ノ使用ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第三號様式ニ依リ許可申請書ニ最近ニ於ケル總勘定元帳殘高表ヲ添ヘ之ヲ主務

ノ額面ヲ超ユル金額

三 合併ニ因リ生ジタル差益金

四 資本減少ニ因リ生ジタル差益金

左ノ各號ニ掲グル金額ハ之ヲ第一項ノ總損金ニ算入セザルモノトス

一 直前ノ事業年度ヨリ繰越シタル損金

二 會社ガ當該事業年度ニ於テ納付シタル又ハ納付スベキ法人税、臨時利得税、第一種所得税、第一種所得税附加税及法人税法施行規則第二十九條ニ規定スル租税

當該事業年度ノ利益金處分ニ基キ資産償却ニ充テタル金額ハ之ヲ第一項ノ總損金ニ算入ス

第八條 令第十三條第一項第一號ノ割合ハ會社ノ當該事業年度ニ於ケル拂込資本金額ノ日割平均額ニ應ジ左ニ掲グル割合トス

拂込資本金二十萬圓以下ナルトキ 百分ノ一〇・四五

拂込資本金二十萬圓ヲ超エ三十萬圓以下ナルトキ 百分ノ九・三五

拂込資本金三十萬圓ヲ超エ五十萬圓以下ナルトキ 百分ノ八・一〇

拂込資本金五十萬圓ヲ超エ七十萬圓以下ナルトキ

會社經理統制令施行規則

大臣ニ提出スベシ

第二章 役員及社員給與

第五條 令第十二條ニ於ケル當該事業年度ノ月數ト異ル月數ノ事業年度ノ金額ハ其ノ事業年度ニ付支給シタル役員報酬又ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル役員報酬ノ合計金額ヲ其ノ事業年度ノ月數ヲ以テ除シテ得タル金額ニ當該事業年度ノ月數ヲ乗ジテ得タル金額トス  
前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ切捨ツ

第六條 令第十二條ノ規定ニ依リ役員報酬ノ支給ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第四號様式ニ依リ許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第七條 令第十三條第一項第一號ノ當該事業年度ノ純益金ハ當該事業年度ノ會社ノ決算上總益金ヨリ總損金ヲ控除シテ得タル金額トス  
左ノ各號ニ掲グル金額ハ之ヲ前項ノ總益金ニ算入セザルモノトス

一 直前ノ事業年度ヨリ繰越シタル益金又ハ積立金ヨリ戻入レタル金額  
二 額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタル場合ニ於テ其

拂込資本金七十萬圓ヲ超エ百萬圓以下ナルトキ 百分ノ七・四〇

拂込資本金百萬圓ヲ超エ百五十萬圓以下ナルトキ 百分ノ六・七〇

拂込資本金百五十萬圓ヲ超エ二百萬圓以下ナルトキ 百分ノ六・〇〇

拂込資本金二百萬圓ヲ超エ三百萬圓以下ナルトキ 百分ノ五・五〇

拂込資本金三百萬圓ヲ超エ四百萬圓以下ナルトキ 百分ノ四・九五

拂込資本金四百萬圓ヲ超エ五百萬圓以下ナルトキ 百分ノ四・三〇

拂込資本金五百萬圓ヲ超エ七百萬圓以下ナルトキ 百分ノ三・九〇

拂込資本金七百萬圓ヲ超エ千萬圓以下ナルトキ 百分ノ三・五五

拂込資本金千萬圓ヲ超エ千五百萬圓以下ナルトキ 百分ノ三・一五

拂込資本金千五百萬圓ヲ超エ二千萬圓以下ナルトキ

四七三



- 拂込資本金二千萬圓ヲ超エ二千五百萬圓以下ナルトキ 百分ノ 二・九五
- 拂込資本金二千五百萬圓ヲ超エ三千萬圓以下ナルトキ 百分ノ 二・七五
- 拂込資本金三千萬圓ヲ超エ四千萬圓以下ナルトキ 百分ノ 二・六〇
- 拂込資本金四千萬圓ヲ超エ五千萬圓以下ナルトキ 百分ノ 二・四〇
- 拂込資本金五千萬圓ヲ超エ七千萬圓以下ナルトキ 百分ノ 二・二五
- 拂込資本金七千萬圓ヲ超エ一億圓以下ナルトキ 百分ノ 一・八五
- 拂込資本金一億圓ヲ超エ一億五千萬圓以下ナルトキ 百分ノ 一・六五
- 拂込資本金一億五千萬圓ヲ超エ二億圓以下ナルトキ 百分ノ 一・五五
- 拂込資本金二億圓ヲ超エ二億五千萬圓以下ナルトキ 百分ノ 一・四五
- 拂込資本金二億五千萬圓ヲ超エ三億圓以下ナルトキ 百分ノ 一・四五

- 拂込資本金三億圓ヲ超エ四億圓以下ナルトキ 百分ノ 一・四〇
  - 拂込資本金四億圓ヲ超エ五億圓以下ナルトキ 百分ノ 一・二五
  - 拂込資本金五億圓ヲ超ユルトキ 百分ノ 一・一〇
- 四七四
- 第九條 令第十三條第一項第二號ニ於ケル當該事業年度ノ月數ガ直前ノ事業年度ノ月數ト異ル場合ニ於ケル金額ハ直前ノ事業年度ニ付支給シタル役員賞與ノ合計金額ヲ直前ノ事業年度ノ月數ヲ以テ除シテ得タル金額ニ當該事業年度ノ月數ヲ乘ジテ得タル金額トス
- 第五條第二項ノ規定ハ前項ノ月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス
- 第十條 令第十三條第一項ノ規定ニ依リ役員賞與ノ支給ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第五號様式ニ依リ許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ
- 第十一條 令第十四條第一號ノ限度ハ會社ガ退職金ヲ支給セントスル當該退職役員ニ對シ其ノ退職前一年間ニ支給シタル報酬金額ニ當該退職役員ノ在職年數(會社ガ當該退職役員ニ對シ退職金ヲ支給シタルコトアル場合ハ其ノ退職金支給

- 後ニ於ケル在職年數)ノ二分ノ一ヲ乘ジテ得タル金額トス  
前項ノ年數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一年未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ一年トス
- 第十二條 令第十四條第二號ノ規定ニ依リ役員ノ退職金ノ準則ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第六號様式ニ依リ許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ  
主務大臣ノ許可ヲ受ケタル役員ノ退職金ノ準則ヲ變更セんとスル會社ニ付亦同ジ
- 第十三條 令第十四條ノ規定ニ依リ退職シタル役員ニ對スル退職金ノ支給ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第七號様式ニ依リ許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ
- 第十四條 令第十五條ノ規定ニ依リ役員ニ對スル臨時ノ給與ノ支給ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第八號様式ニ依リ許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ
- 第十五條 令第十八條ノ限度ハ別表ニ掲グル金額ヲ月額(年俸者ニ付テハ年俸額ノ十二分ノ一、週給者ニ付テハ週給額ノ七分ノ三十、日給者ニ付テハ日給額ノ三十倍トス以下同ジ)トシタル金額トス但シ左ノ各號ニ掲グル場合ニ於テハ各其ノ定ムル金額トス  
一 特別ノ經歷若ハ技能又ハ特別ノ學歷ヲ有スル者ニ付其

- ノ初任基本給料ノ準則ニ關シ主務大臣ノ承認ヲ受ケタルトキハ其ノ金額
- 二 轉職者ニ付前職ニ於テ最後ニ受ケタル役員報酬、社員基本給料又ハ之ト同様ノ性質ヲ有スル給與ノ月額ノ百分ノ百十二相當スル金額ガ別表ニ掲グル金額ヲ超ユルトキハ其ノ金額但シ前號ニ該當スル場合ヲ除ク
- 第十六條 前條第一號ノ規定ニ依リ特別ノ經歷若ハ技能又ハ特別ノ學歷ヲ有スル者ノ初任基本給料ノ準則ニ付主務大臣ノ承認ヲ受ケントスル會社ハ別表第九號様式ニ依リ承認申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ
- 第十六條ノ二 令第十八條ノ規定ニ依リ轉職者又ハ特別ノ經歷若ハ技能ヲ有スル者ノ初任基本給料ノ支給ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第九號ノ二様式ニ依リ許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ
- 第十七條 令第十九條ノ限度ハ各昇給期ニ於ケル昇給該當者(令第十九條第二項各號ノ昇給該當者ヲ除ク以下同ジ)ノ基本給料月額ノ昇給額ノ總額ニ付各昇給該當者ノ當該昇給直前ニ於ケル基本給料月額ニ各昇給該當者ノ直前ノ昇給日(初メテ昇給スル者ニ付テハ採用ノ日)後當該昇給日迄ニ經過シタル月數ノ十二分ノ一ヲ乘ジテ得タル金額ノ合計金



額ニ平均昇給率百分ノ七ヲ乘ジテ得タル金額トス  
前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタ  
ルトキハ十五日ヲ超ユルトキハ之ヲ一月トシ十五日以下ナ  
ルトキハ之ヲ切捨ツ

第十七條ノ二 令第十九條第二項第二號ノ金額ハ別表ニ掲グ  
ル金額ヲ月額トシタル金額トス

第十八條 令第十九條ノ規定ニ依リ社員ノ基本給料ノ增加支  
給ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第十號様  
式ニ依ル許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第十九條 令第二十條第四號ノ家族手當ハ社員ニ對シ其ノ扶  
養家族一人ニ付月五圓ノ割合ニ依リ計算シタル金額ヲ超エ  
ザル金額ニ依リ支給スルモノニ限ル

前項ノ扶養家族ハ左ニ掲グル者ニシテ主トシテ當該社員ノ  
收入ニ依リ生計ヲ維持スルモノヲ謂フ

一 配偶者(届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事  
情ニ在ル者ヲ含ム)

二 滿六十歳以上ノ直系尊屬ニシテ本人ト同一戸籍内ニ在  
ル者

三 滿十八歳未滿ノ直系卑屬及弟妹ニシテ本人ト同一戸籍  
内ニ在ル者

期間トス但シ會社ガ之ト異ル期間ヲ定メテ主務大臣ニ届出  
デタルトキハ其ノ期間ニ依ル

第二十三條 前條但書ノ届出ハ本令施行ノ際令第三章ノ規定  
ノ適用ヲ受クル會社ニ在リテハ本令施行後三十日以内ニ、  
其ノ他ノ會社ニ在リテハ令第三章ノ規定ノ適用ヲ受クルニ  
至リタル後三十日以内ニ別表第十一號様式ニ依ル届書ヲ主  
務大臣ニ提出シテ之ヲ爲スベシ

會社ハ前條ノ賞與期間ヲ變更セントスルトキハ別表第十一  
號様式ニ依ル届書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第二十四條 令第二十一條第一項但書ノ場合ハ左ノ各號ニ掲  
グル場合トス

一 當該賞與及手當ノ合計金額中令第二十一條第一項ノ限  
度ヲ超ユル部分ヲ左ノ方法ニ依リ支給スルトキ但シ其ノ  
超過金額ハ當該賞與期間中ニ於ケル基本給料ノ支給總額  
ノ二分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ズ

(甲) 國債證券、貯蓄債券若ハ報國債券ヲ以テ支給シ又ハ郵  
便貯金、銀行ヘノ預金若ハ信託會社ヘノ金錢信託ト爲サ  
シメ當該會社ニ於テ當該國債證券、貯蓄債券若ハ報國債  
券又ハ當該郵便貯金、銀行預金若ハ金錢信託ノ通帳若ハ  
證書ヲ本人又ハ家族ノ病氣其ノ他已ムヲ得ザル事由ヲ生

四 不具癡疾者ニシテ本人ト同一戸籍内ニ在ル者

第二十條 令第二十條第八號ノ手當ハ左ノ各號ニ掲グル手當  
トス

一 傷病手當

二 休職者ニ對スル手當

三 應召者又ハ入營者ニ對スル手當

四 集束手當、出納手當、出札手當等金錢取扱ニ對スル手  
當

五 特殊地域通勤手當

六 交通業ニ従事スル社員ニ對スル無事故手當又ハ乗務手  
當

七 電力供給業又ハ瓦斯供給業ニ従事スル社員ニ對スル電  
力又ハ瓦斯ノ盗用防止手當

八 保険料ノ補給

九 繼續シテ利用セシムル住居其ノ他ノ施設又ハ便益

十 其ノ他前各號ニ準ズルモノ

第二十一條 令第二十一條第一項ノ限度ハ會社カ當該賞與期  
間ニ於テ社員ニ支給シタル基本給料ノ合計金額ノ四分ノ三  
ニ相當スル金額トス

第二十二條 令第二十一條第一項ノ賞與期間ハ各事業年度ノ

シタル場合ノ外當該社員ノ退職ニ至ル迄保管スルモノ  
(乙) 當該會社ニ於ケル國民貯蓄組合ノ斡旋ニ依ル貯蓄(國  
債證券、貯蓄債券若ハ報國債券ノ買入又ハ郵便貯金、銀  
行ヘノ預金若ハ信託會社ヘノ金錢信託ニシテ組合規約ノ  
定ムル所ニ依リ當該國債證券、貯蓄債券若ハ報國債券ノ  
賣却又ハ當該郵便貯金、銀行預金若ハ信託シタル金錢ノ  
拂戻ニ付組合長ノ承認ヲ要スルモノニ限ル)ト爲サシム  
ルモノ

(丙) (甲)又ハ(乙)ニ規定スルモノノ外主務大臣ノ承認ヲ受ケタ  
ル方法  
二 主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキ  
前項第一號(丙)ノ規定ニ依リ主務大臣ノ承認ヲ受ケントスル  
會社ハ別表第十二號様式ニ依ル承認申請書ヲ主務大臣ニ提  
出スベシ

第二十五條 前條第一項第二號ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可  
ヲ受ケントスル會社ハ別表第十三號様式ニ依ル許可申請書  
ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第二十六條 令第二十一條第二項但書ノ規定ニ依リ主務大臣  
ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第十四號様式ニ依ル許可  
申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

四七七



第二十七條 令第二十三條ノ規定ニ依ル社員ニ對スル臨時ノ給與ノ支給ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第十五號様式ニ依ル許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第二十八條 令第二十四條第一項ノ規定ノ適用ヲ受クル會社ハ本令施行後三十日以内ニ別表第十六號様式、第十七號様式又ハ第十八號様式ニ依ル役員雜給與、社員手當又ハ社員退職金ノ準則ノ報告書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第二十九條 令第二十四條第二項ノ規定ノ適用ヲ受クル會社ハ別表第十六號様式、第十七號様式又ハ第十八號様式ニ依ル役員雜給與、社員手當又ハ社員退職金ノ準則ノ承認申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第三十條 令第二十五條ノ規定ニ依リ役員雜給與、社員手當又ハ社員退職金ノ準則ノ制定又ハ變更ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第十六號様式、第十七號様式又ハ第十八號様式ニ依ル許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第三章 經費及資金

第三十一條 令第二十九條第一項ノ基準月額トハ昭和十六年九月十六日以前最終ニ決算確定シタル二事業年度(同日以前決算確定シタル事業年度以上ナキ會社ニ在リテハ一事業年度)ニ於テ支出シタル機密費等ノ合計金額ヲ其ノ二事

業年度(同日以前決算確定シタル事業年度以上ナキ會社ニ在リテハ一事業年度)ノ月數ヲ以テ除シテ得タル金額トス  
前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ切捨ツ

令第二十九條第一項ノ規定ニ依リ機密費等ノ基準月額ヲ主務大臣ニ報告スベキ會社ハ昭和十六年十月十六日迄ニ別表第十九號様式ニ依ル報告書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第三十二條 令第二十九條第二項ノ規定ニ依リ機密費等ノ基準月額ニ付主務大臣ノ承認ヲ受クベキ會社ハ昭和十六年九月十七日以後設立セラレタル會社又ハ合併ニ因リ設立セラレタル會社ニ在リテハ其ノ設立又ハ合併後、資本増加又ハ合併ニ因リ資本百萬元以上ト爲リタル會社ニ在リテハ其ノ資本増加又ハ合併後三十日以内ニ、同月十六日以前設立セラレタル會社若ハ合併ニ因リ設立セラレタル會社又ハ資本増加若ハ合併ニ因リ資本百萬元以上ト爲リタル會社ニシテ同日以前其ノ設立後、資本増加後又ハ合併後決算確定シタル事業年度ナキ會社ニ在リテハ同年十月十六日迄ニ別表第二十號様式ニ依ル承認申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第三十三條 令第二十九條第三項ノ規定ニ依リ機密費等ノ基

準月額ノ増額ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第二十號様式ニ依ル許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第三十四條 令第二十九條第五項ノ規定ニ依リ同項ノ規定スル金額ヲ超ユル機密費等ノ支出ヲ爲スニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第二十一號様式ニ依ル許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第三十四條ノ二 令第二十九條ノ二第一項ノ規定ニ依リ寄附金等ノ豫定額ヲ主務大臣ニ報告スベキ會社ハ每事業年度開始ノ三十日前迄(設立又ハ合併ニ因リ設立後最初ノ事業年度ニ在リテハ其ノ事業年度開始後三十日以内)ニ別表第十二號様式ニ依ル報告書ヲ主務大臣ニ提出スベシ但シ昭和十六年八月十九日以後同年十一月十六日以前ニ開始スル事業年度(同年九月十七日以後ノ設立又ハ合併ニ因リ設立後最初ノ事業年度ヲ除ク)ニ關スル報告書ハ同年十月十六日迄ニ之ヲ提出スベシ

會社ガ前項ノ報告ヲ爲シタル後當該事業年度終了前他ノ會社ヲ合併シタル爲寄附金等ノ豫定額ニ變更ヲ生ジタル場合

會社經理統制令施行規則

ニ於テ合併後三十日以内ニ變更シタル豫定額ヲ別表第二十

二號様式ニ依リ主務大臣ニ報告シタルトキハ其ノ變更シタル豫定額ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ報告シタル金額ト看做ス  
第三十四條ノ三 令第二十九條ノ二第二項ノ規定ニ依リ報告額ヲ超ユル寄附金等ノ支出ヲ爲スニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第二十三號様式ニ依ル許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第三十五條 資本金二十萬圓以上ノ會社ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ令第三十三條第一項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

- 一 額面總額五萬圓以上ノ外國ニ本店ヲ有スル會社ノ株式ヲ取得シ又ハ處分セントスルトキ
- 二 株數二萬株以上ノ株式ヲ取得シ又ハ處分セントスルトキ
- 三 一會社ノ總株數ノ三分ノ一以上ニ相當スル株式ヲ取得セントスルトキ

- 四 株式ノ取得ニ因リ會社ノ現ニ所有スル株式ト合シテ



會社ノ株數ノ三分ノ一以上ニ相當スル株式ヲ所有スルニ至ルベキトキ

五 一會社ノ總株數ノ三分ノ一以上ニ相當スル株式ヲ所有スル場合ニ於テ當該株式ノ處分ニ因リ會社ノ所有スル株數ガ當該會社ノ總株數ノ三分ノ一以下トナルベキトキ前項ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ適用セズ

一 特別ノ法令ニ依リ設立セララルル會社ノ株式ノ引受ヲ爲サントスルトキ

二 臨時資金調整法其ノ他ノ法令ニ依リ設立ニ付行政官廳ノ認可、許可又ハ免許ヲ受ケタル會社ノ發起人トシテ株式ノ引受ヲ爲ストキ

三 臨時資金調整法其ノ他ノ法令ニ依リ資本増加ニ付行政官廳ノ認可、許可又ハ免許ヲ受ケタル會社ノ株式ヲ所有スル場合ニ於テ當該資本増加ニ依ル株式ノ割當ヲ受ケタルトキ

四 臨時資金調整法其ノ他ノ法令ニ依リ合併ノ認可ヲ受ケ

タル會社ノ株式ヲ所有スル場合ニ於テ當該合併ニ因リ合併ニ因リテ設立シタル會社又ハ合併後存續スル會社ノ株式ノ割當ヲ受ケタルトキ

五 合併ニ因リ自己ノ株式ヲ取得スルトキ  
六 株式ノ消却ヲ爲ス爲自己ノ株式ヲ取得スルトキ  
七 債權ノ實行ニ因リ會社ガ當該債權ノ擔保タル株式ヲ取得スルトキ

八 株式ノ取得又ハ處分ニ付特別ノ法令ニ依リ行政官廳ノ認可、許可若ハ承認ヲ受ケ又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ株式ヲ取得シ又ハ處分スルトキ

九 清算中ノ會社ガ株式ヲ處分スルトキ  
會社ハ其ノ株式總數ノ半數以上ヲ所有スル株主タル他ノ會社ノ株式ヲ取得セントスルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

第一項及前項ノ規定ハ左ノ各號ニ掲グル會社ニ付テハ之ヲ適用セズ  
一 銀行

第三十七條 資本金二十萬圓以上ノ會社ハ特許權、鑛業權又

ハ漁業權(以下無體財產權ト總稱ス)ヲ取得シ又ハ處分セントスルトキハ令第三十三條第一項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 取得シ又ハ處分セントスル無體財產權ノ價額ガ一件五萬圓未滿ナルトキ

二 臨時資金調整法其ノ他ノ法令ニ依リ會社ノ設立、資本増加又ハ第二回以後ノ株金ノ拂込ニ付行政官廳ノ認可又ハ許可ヲ受ケタル場合ニ於テ當該拂込株金、出資金又ハ現物出資ニ依リ無體財產權ヲ取得スルトキ

三 社債收入金ニ依リ無體財產權ヲ取得スルトキ

四 行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ受ケ又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ無體財產權ヲ取得シ又ハ處分スルトキ

五 行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ受ケ又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲サントスル場合ニ於テ當該事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲ス

二 信託會社

三 保險會社

四 無盡會社

五 有價證券引受業法第一條ノ規定ノ適用ヲ受クル會社

六 有價證券取締法第一條ノ規定ノ適用ヲ受クル會社

七 有價證券ノ賣買取引ヲ業務トスル取引所

八 有價證券ノ賣買取引ヲ業務トスル取引所ノ會員又ハ取引員タル會社

九 特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社

第三十六條 前條ノ規定ニ依リ株式ノ取得又ハ處分ニ付許可

ヲ受ケントスル會社ハ別表第二十四號様式ニ依リ許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ

一 定款並ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書

二 最近ニ於ケル資産及負債ニ關スル試算表

三 會社ノ所有スル有價證券ノ種類、數量及價額ニ關スル

明細書



ニ付必要ナル無體財產權ヲ取得スルトキ  
 六 清算中ノ會社ガ無體財產權ヲ處分スルトキ  
 前項ノ規定ハ特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社ニ付テハ之ヲ適用セズ

第三十八條 前條ノ規定ニ依リ無體財產權ノ取得又ハ處分ニ付許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第二十五號様式ニ依ル許可申請書ヲ日本銀行本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

- 前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ
- 一 定款並ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書
  - 二 最近ニ於ケル資産及負債ニ關スル試算表
  - 三 無體財產權ノ取得ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

第三十九條 令第三十三條第三項ノ規定ニ依リ資金ノ借入ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第二十六號様式ニ依ル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ

- 一 定款並ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書
- 二 最近ニ於ケル資産及負債ニ關スル試算表
- 三 資金ノ借入ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書
- 四 會社ノ現在ノ借入金ノ借入先、種類、金額、用途其ノ他ニ關スル明細書

第四章 諸報告

第四十條 資本金二十萬圓以上ノ會社又ハ資本金二十萬圓未滿ノ相互會社ハ本令施行後十五日以内ニ別表第二十七號様式ニ依ル會社概況報告書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

前項ニ於テ本令施行後十五日以内トアルハ本令施行後設立セラレタル會社、本令施行後合併ニ因リ設立セラレタル會社又ハ本令施行後資本増加若ハ合併ニ因リ資本金二十萬圓以上トナリタル會社ニ在リテハ設立、合併又ハ資本増加後三十日以内トス

第四十一條 本令施行ノ際現ニ資本金十五萬圓以上二十萬圓未滿ノ會社(相互會社ヲ除ク)ハ本令施行後三十日以内ニ

別表第二十八號様式ニ依ル會社概況報告書ニ最終ノ貸借對照表ヲ添ヘ之ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第四十二條 資本金二十萬圓以上ノ會社又ハ資本金二十萬圓未滿ノ相互會社ハ本令施行後三十日以内ニ別表第二十九號様式ニ依リ其ノ旅費規程ヲ主務大臣ニ報告スベシ

前項ニ於テ本令施行後三十日以内トアルハ本令施行後設立セラレタル會社、本令施行後合併ニ因リ設立セラレタル會社又ハ本令施行後資本増加若ハ合併ニ因リ資本金二十萬圓以上ノ會社トナリタル會社ニ在リテハ設立、合併又ハ資本増加後三十日以内トス

前二項ノ會社旅費規程ノ變更ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ主務大臣ニ報告スベシ但シ變更シタル部分ガ旅費規程ノ大部分ニ互ルトキハ變更後ノ旅費規程ヲ別表第二十九號様式ニ依リ主務大臣ニ報告スベシ

第四十三條 令第七條各號ノ一ニ掲グル會社ニ該當スル會社ハ每事業年度ノ決算確定後三十日以内ニ別表第三十號様式ニ依ル會社經理狀況報告書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

前項ノ會社經理狀況報告書ニハ左ノ各號ニ掲グル書類ヲ添付スベシ

- 一 別表第三十一號様式ニ依ル自己資本計算書
- 二 別表第三十二號様式ニ依ル利益配當金及給與狀況調査書
- 三 別表第三十三號様式ニ依ル特殊支出調査書
- 四 財産目錄、貸借對照表、損益計算書及利益金處分ニ關スル書類

第五章 雜則

第四十三條ノ二 左ノ各號ニ掲グル許可又ハ承認ニ付テハ許可認可等行政事務處理簡捷令第二條第一項前段ノ期間ハ之ヲ十日トス

一 令第二十四條第二項ノ規定ニ依ル承認ニシテ令第二十条第四號又ハ第二十條第一號乃至第三號ニ掲グル手當ノ準則ニ關スルモノ

二 令第二十五條ノ規定ニ依ル許可ニシテ令第二十条第四號又ハ第二十條第一號乃至第三號ニ掲グル手當ノ準則ノ制定又ハ變更ニ關スルモノ



第四十四條 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ會社ヲ指定シ其ノ本令ニ依リ提出スベキ許可、指定若ハ承認ノ申請書、報告書又ハ届書及之ニ添附スベキ書類ニ關シ別段ノ指示ヲ爲スコトヲ得

主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ會社ヲ指定シ本令ニ定ムルモノノ外必要ナル書類ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

第四十五條 本令(第三十六條、第三十八條及第三十九條ヲ除ク)ニ依リ會社ノ提出スベキ申請書、報告書又ハ届書ハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テ各其ノ定ムル所ニ依ルノ外之ヲ三通作成シ會社ノ本店又ハ主タル事務所ノ所在地ヲ所轄スル財務局出張所ヲ經テ提出スベシ

一 令第四十一條第一項第一號、第二號、第三號又ハ第四號ニ該當スル會社ハ之ヲ一通作成シ主務大臣ニ直接提出スベシ

二 令第四十一條第一項第五號ニ該當スル會社ハ之ヲ同號ニ定ムル主務大臣連名宛ニ主務大臣ノ數ニ相當スル通數作成シ同條第一項第二號、第三號又ハ第四號ニ掲グル主

務大臣(同條第一項第二號、第三號又ハ第四號ニ掲グル主務大臣二以上アルトキハ會社ノ營ム事業ノ中主タルモノニ關スル主務大臣)ニ直接提出スベシ

三 前號ノ場合ヲ除クノ外銀行、信託會社、保險會社、無盡會社、取引所及有價證券引受業法ノ證券引受會社ハ之ヲ一通作成シ主務大臣ニ直接提出スベシ

四 前三號ニ掲グル會社以外ノ會社ニシテ資本金五百萬圓以上ノモノ又ハ主務大臣ノ指定シタルモノハ之ヲ三通作成シ主務大臣ニ直接提出スベシ

附則

本令ハ昭和十五年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス別表(略ス)

●株式價格統制令

昭和十六年八月三十日  
勅令第八百三十四號

改正 昭和十六年第一一〇六號、第一一〇九號  
朕株式價格統制令ヲ裁可シ茲之ヲ公布セシム

株式價格統制令

第一條 國家總動員法(昭和十三年勅令第三百十七號ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ)第十九條ノ規定ニ基ク株式ノ價格ニ關スル統制ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 大藏大臣ハ株式價格ノ著シキ變動ニ因リ國民經濟ノ圓滑ナル運行ガ阻害セラルルノ虞アリト認ムルトキハ株式ヲ指定シ其ノ最高價格又ハ最低價格ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ最高價格又ハ最低價格ハ當該株式ノ一定期日ニ於ケル取引所相場ヲ基準トシテ之ヲ定メ取引所相場ナキモノニ付テハ實物仲値ヲ基準トシテ之ヲ定ム

大藏大臣ハ第一項ノ規定ニ依リ定メタル最高價格又ハ最低價格ガ事情ノ變更ニ因リ著シク不當ト爲リタリト認ムルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

大藏大臣ハ第一項ノ規定ニ依リ最高價格若ハ最低價格ヲ定メ又ハ前項ノ規定ニ依リ之ヲ變更シタルトキハ其ノ旨ヲ告

株式價格統制令

示スベシ

第三條 前條ノ規定ニ依リ最高價格又ハ最低價格ノ定メラレタル株式ニ付テハ有價證券ノ賣買取引ヲ爲ス取引所ノ會員若ハ取引員又ハ有價證券業取締法ニ依ル有價證券業者ハ當該最高價格ヲ超ユル價格若ハ當該最低價格ヲ下ル價格ニ依ル當該株式ノ賣買又ハ其ノ委託、受託若ハ媒介ヲ爲スコトヲ得ズ但シ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 大藏大臣ハ第二條ノ規定ニ依リ定メタル最高價格又ハ最低價格ヲ存置スルノ必要ナシト認ムルトキハ之ヲ廢止スルコトヲ得

大藏大臣ハ前項ノ規定ニ依リ最高價格又ハ最低價格ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨ヲ告示スベシ

第五條 何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ第三條ノ規定ニ依リ禁止ヲ免ルル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第六條 大藏大臣又ハ地方長官ハ必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ第三條ノ規定ニ依ル制限ニ關シ必要ナル報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ事務所、營業所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得



會社所有株式評價臨時措置令

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第七條 本令中大藏大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トス

第三條中有價證券業取締法ニ依ル有價證券業者トアルハ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ取引所ニ依ラザル有價證券ノ賣買又ハ其ノ媒介ノ業ヲ營ム者(銀行、信託會社及有價證券割賦販賣業者ヲ除ク)トス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

會社所有株式評價臨時措置令

昭和十六年八月三十日 勅令第八百三十三號

改正 昭和十七年第六三七號 朕會社所有株式評價臨時措置令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

ヲ有スル他ノ會社若ハ當該會社ノ議決權ノ三分ノ一以上ヲ有スル他ノ會社又ハ會社ヲ代表スベキ者一名以上ヲ共通ニスル他ノ會社ヨリ取得シタル株式ノ取得價額ガ取得ノ時ニ於ケル當該株式ノ價格ヲ超ユルトキハ其ノ價格ヲ前項第二號ノ取得價額ト看做ス

第三條 直前事業年度ヨリ引續キ所有スル株式ニ付當該事業年度中ニ於テ株金ノ拂込アリタルトキハ前條第一項第一號ノ規定ノ適用ニ付テハ當該株式ノ前期帳簿價額ニ其ノ拂込金額ヲ加算シタル額ヲ前期帳簿價額ト看做ス

當該事業年度ニ於テ取得シ引續キ所有スル株式ニ付取得後株金ノ拂込アリタルトキハ前條第一項第二號ノ規定ノ適用ニ付テハ當該株式ノ取得價額ニ其ノ拂込金額ヲ加算シタル額ヲ取得價額ト看做ス

前條第一項第一號但書又ハ第二號但書ノ場合ニ於テ配當率ノ減少シタル後株金ノ拂込アリタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ同條第一項第一號但書又ハ第二號但書ノ規定ヲ適用シテ得タル額ニ其ノ拂込金額ヲ加算シタル額ヲ同條第一項第一號但書又ハ第二號但書ノ額ト看做ス

第四條 前二條ノ規定ニ依リ株式ノ評價ヲ爲ス場合ニ於テハ會社所有總株式ノ評價額ノ總額ハ直前事業年度ヨリ引續キ

金融統制團體令

會社所有株式評價臨時措置令

第一條 國家總動員法(昭和十三年勅令第三百十七號)ニ於テ依ル場合ヲ含ム第十一條ノ規定ニ基ク會社ノ經理ニ關スル命令ノ中財産目錄ニ記載スル株式ノ價額ニ關スル臨時措置ニ付テハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 會社ハ每事業年度決算期ニ於テ其ノ所有株式ノ價額ヲ財産目錄ニ記載スルニ際シ他ノ法令ニ拘ラズ左ノ各號ノ規定ニ依ル價額ヲ超エザル價額ヲ附スルコトヲ得

一 直前事業年度ヨリ引續キ所有スル株式ニ付テハ直前事業年度末ノ財産目錄ニ記載シタル價額(以下前期帳簿價額ト稱ス)但シ當該株式ニ付當該事業年度中最終ニ決定セラレタル配當率ガ直前事業年度末前最終ニ決定セラレタル配當率ニ比シ減少シタル場合ニ於テハ其ノ減少ノ割合ニ應ジテ前期帳簿價額ヲ減額シタル額

二 當該事業年度ニ於テ取得シ引續キ所有スル株式ニ付テハ其ノ取得價額但シ當該株式ニ付取得後當該事業年度中最終ニ決定セラレタル配當率ガ取得前最終ニ決定セラレタル配當率ニ比シ減少シタル場合ニ於テハ其ノ減少ノ割合ニ應ジテ取得價額ヲ減額シタル額

前項第二號ノ場合ニ於テ當該會社ガ議決權ノ三分ノ一以上

所有スル株式ノ前期帳簿價額、當該事業年度ニ於テ取得シ引續キ所有スル株式ノ取得價額及當該會社ガ此等ノ株式ニ付當該事業年度中ニ於テ拂込ミタル株金額ノ合計額ヲ超ユルコトヲ得ズ

附則

本令ハ昭和十六年八月三十日ヨリ昭和十八年八月二十九日迄ノ間ニ終了スル事業年度ニ關シ作ル財産目錄ニ付之ヲ適用ス

金融統制團體令

昭和十七年四月十八日 勅令第四百四十四號

朕金融統制團體令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一條 國家總動員法第十八條ノ規定ニ基ク金融事業(有價證券ニ關スル事業ヲ含ム以下同ジ)ノ統制ヲ目的トスル團體ニ付テハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 本令ニ依ル團體ハ全國金融統制會、業態別統制會、統制組合及地方金融協議會トス 全國金融統制會ハ全國金融統制會ナル名稱ヲ用フベシ



業態別統制會、統制組合又ハ地方金融協議會ハ其ノ名稱中ニ各統制會、統制組合又ハ金融協議會ナル文字ヲ用フベシ但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二章 全國金融統制會

第三條 全國金融統制會ハ國民經濟ノ總力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル爲金融事業ノ機能ノ綜合的發揮ヲ圖ルニ必要ナル指導統制ヲ行ヒ且金融ニ關スル國策ノ立案及遂行ニ協力スルコトヲ目的トス

第四條 全國金融統制會ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ニ掲グル事業ヲ行フ

- 一 金融ニ關スル政府ノ計畫ニ對スル參畫
  - 二 金融事業ヲ營ム者ノ行フ資金ノ吸收及運用ニ關スル指導統制
  - 三 金融事業ノ整備ノ促進
  - 四 金融事業ノ機能ノ増進
  - 五 金融事業ト産業トノ關係ノ緊密化ノ促進
  - 六 金融事業ニ關スル調査及研究
  - 七 前各號ニ掲グルモノノ外全國金融統制會ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業
- 全國金融統制會ハ前項ノ事業ノ外命令ノ定ムル所ニ依リ業

態別統制會ノ會員ニ非ザル統制組合ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ及地方金融協議會ノ事業ノ指導統制ヲ行フ

第五條 全國金融統制會ノ會員タル資格ヲ有スル者ハ左ニ掲グル者トス

- 一 日本銀行
- 二 業態別統制會
- 三 前二號ニ掲グル者ノ外金融事業ヲ營ム者ニシテ主務大臣ノ指定スルモノ

第六條 主務大臣全國金融統制會ヲ設立セシメントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リ會員タル資格ヲ有スル者ニ對シ全國金融統制會ノ設立ヲ命ズベシ

前項ノ規定ニ依リ全國金融統制會ノ設立ノ命令アリタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ創立總會ヲ開キ之ニ諮リテ定款其ノ他全國金融統制會ノ設立ニ必要ナル事項ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

- 第七條 全國金融統制會ノ定款ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ
- 一 目的
- 二 名稱
- 三 事務所ノ所在地

四 會員ニ關スル規定

五 事業及其ノ執行ニ關スル規定

六 役員ニ關スル規定

七 會議ニ關スル規定

八 經理ニ關スル規定

第八條 全國金融統制會ハ第六條第二項ノ認可アリタル時又ハ國家總動員法第十八條第三項ノ規定ニ依リ定款ノ作成アリタル時成立ス

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ全國金融統制會成立ノ旨及定款ヲ告示スベシ

第九條 全國金融統制會成立シタルトキハ其ノ會員タル資格ヲ有スル者ハ總テ全國金融統制會ノ會員トス

第十條 全國金融統制會ニハ會長一人並ニ理事、監事及評議員各若干人ヲ置クベシ

全國金融統制會ニハ前項ノ役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ副會長二人以内又ハ理事長一人ヲ置クコトヲ得

第十一條 會長ハ全國金融統制會ヲ代表シ金融事業ノ指導統制其ノ他ノ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ豫メ會長ノ定ムル順位ニ依リ會長事務故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ會長缺員ノトキハ其ノ職務

ヲ行フ

理事長ハ會長及副會長ヲ輔佐シ會務ヲ掌理シ會長及副會長共ニ事故アルトキハ會長ノ職務ヲ代理シ會長及副會長共ニ缺員ノトキハ會長ノ職務ヲ行フ

理事ハ會長、副會長及理事長ヲ輔佐シ會務ヲ掌理シ豫メ會長ノ定ムル順位ニ依リ會長、副會長及理事長共ニ事故アルトキハ會長ノ職務ヲ代理シ會長、副會長及理事長共ニ缺員ノトキハ會長ノ職務ヲ行フ

監事ハ全國金融統制會ノ經理ノ狀況ヲ監査ス

評議員ハ會長ノ諮問ニ對シ答申シ又ハ會長ニ對シ意見ヲ具申ス

第十二條 會長ハ日本銀行總裁ヲ以テ之ニ充ツ

副會長、理事長、理事及監事ハ金融事業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ主務大臣之ヲ命ズ

評議員ハ金融事業又ハ産業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ主務大臣之ヲ命ズ

主務大臣第二項ノ規定ニ依リ副會長、理事長又ハ理事ヲ任命シタルトキハ其ノ旨ヲ告示スベシ

第十三條 副會長、理事長及理事ノ任期ハ三年、監事及評議員ノ任期ハ二年トス



第十四條 副會長、理事長及理事ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ他ノ職務又ハ商業ニ従事スルコトヲ得ズ但シ日本銀行ノ職員タルコトヲ妨ゲズ

第十五條 全國金融統制會ハ金融事業ニ關スル事項ニ付主務大臣ニ建議スルコトヲ得

全國金融統制會ハ主務大臣ノ諮問ニ對シ答申スベシ

第十六條 全國金融統制會ハ命令ヲ定ムル所ニ依リ其ノ會員、業態別統制會ノ會員、業態別統制會ノ會員タル統制組合ノ組合員、第四條第二項ノ命令ヲ以テ定ムル統制組合又ハ地方金融協議會ニ對シ金融事業ニ關スル事項ノ調査ヲ爲ス爲必要ナル資料ノ提出ヲ求ムルコトヲ得  
前項ノ規定ニ依リ資料ノ提出ヲ求メラレタル者ハ遲滯ナク之ヲ提出スベシ

第十七條 全國金融統制會ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員ニ對シ賦課金ヲ課スルコトヲ得

第十八條 全國金融統制會ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款又ハ統制規程ニ違反シタル會員ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第十九條 賦課金又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ全國金融統制會ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村税ノ例ニ依

リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ全國金融統制會ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スベシ

前項中町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス

第一項ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徵收金ニ次ギ其ノ時効ニ付テハ市町村税ノ例ニ依ル

第二十條 全國金融統制會ハ其ノ會員ノ事業ニ關スル統制規程ヲ設定スベシ

第二十一條 定款ノ變更並ニ統制規程ノ設定及變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

主務大臣前項ノ認可ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ告示スベシ

第二十二條 全國金融統制會ノ會員ハ全國金融統制會ノ統制規程ニ依ルベシ

第二十三條 全國金融統制會ハ主務大臣ノ命令アリタルトキ又ハ其ノ事業ノ遂行上必要アリト認ムル場合ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ會員、業態別統制會ノ會員又ハ業態別統制會ノ會員タル統制組合ノ組合員ノ業務又ハ財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

全國金融統制會ノ會員、業態別統制會ノ會員又ハ業態別統制會ノ組合員タル統制組合ノ組合員ハ前項ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ逃避スルコトヲ得ズ

全國金融統制會ハ第一項ノ規定ニ依リ検査ヲ行フ役員又ハ使用人ヲシテ其ノ身分ヲ示ス證券ヲ携帯セシムベシ

第二十四條 全國金融統制會ハ主務大臣ノ命令アリタルトキ又ハ其ノ事業ノ遂行上必要アリト認ムル場合ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ業態別統制會ニ對シ其ノ會員若ハ其ノ會員タル統制組合ノ組合員ノ業務若ハ財産ノ狀況ヲ検査シ又ハ其ノ會員タル統制組合ヲシテ當該統制組合ノ組合員ノ業務若ハ財産ノ狀況ヲ検査セシメ其ノ結果ヲ報告スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前條第二項及第三項ノ規定ハ業態別統制會又ハ統制組合ガ前項ノ規定ニ依リ検査ヲ行フ場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 全國金融統制會ハ主務大臣ノ命令アリタルトキ又ハ第四條第二項ノ命令ヲ以テ定ムル統制組合ノ事業ヲ指導統制スル爲必要アリト認ムル場合ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ當該統制組合ノ業務若ハ財産ノ狀況ヲ検査シ又ハ當該統制組合ニ對シ其ノ組合員ノ業務若ハ財産ノ狀況ヲ検査シ其ノ結果ヲ報告スベキコトヲ命ズルコトヲ得

得

第二十三條第二項及第三項ノ規定ハ全國金融統制會又ハ統制組合ガ前項ノ規定ニ依リ検査ヲ行フ場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條 全國金融統制會ハ主務大臣ノ命令アリタルトキ又ハ地方金融協議會ノ事業ヲ指導統制スル爲必要アリト認ムル場合ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ地方金融協議會ノ業務又ハ財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第二十三條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條 通常總會ハ毎年一回會長之ヲ招集ス  
會長必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ臨時總會ヲ招集スルコトヲ得

第二十八條 左ニ掲グル事項ハ總會ニ諮リ會長之ヲ決ス  
一 定款ノ變更  
二 收支豫算

三 賦課金ノ賦課徵收方法

第二十九條 會長ハ毎年總會ニ全國金融統制會ノ事業ノ狀況ヲ報告シ監事ヲシテ經理ノ狀況ヲ報告セシムベシ

第三十條 主務大臣必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ全國金融統制會ヨリ其ノ事業ニ關シ



報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ其ノ事務所ニ臨檢シ業務若  
ハ經理ノ狀況ヲ検査セシムコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢検査セシムル場合ニ  
於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

第三十一條 主務大臣ハ全國金融統制會ニ對シ金融事業ニ關  
スル事項ノ調査ヲ命ズルコトヲ得

第三十二條 主務大臣金融事業ノ統制上必要アリト認ムルト  
キハ全國金融統制會ニ對シ必要ナル事業ノ施行ヲ命ジ又ハ  
定款ノ變更其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第三十三條 主務大臣ハ全國金融統制會ニ對シ業務又ハ經理  
ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ  
得

主務大臣必要アリト認ムルトキハ監事ヲシテ監査ノ結果ヲ  
報告セシムルコトヲ得

第三十四條 主務大臣ハ副會長、理事長、理事又ハ評議員ノ  
行爲ガ法令又ハ法令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ、  
公益ヲ害シタルトキ其ノ他全國金融統制會ノ事業ノ運營上  
副會長、理事長、理事又ハ評議員ヲ不適當ナリト認ムルト  
キハ之ヲ解任スルコトヲ得

主務大臣ハ監事ノ行爲ガ法令若ハ法令ニ基キテ爲ス處分ニ

違反シタルトキ又ハ公益ヲ害シタルトキハ之ヲ解任スルコ  
トヲ得

主務大臣第一項ノ規定ニ依リ副會長、理事長又ハ理事ヲ解  
任シタルトキハ其ノ旨ヲ告示スベシ

第三十五條 全國金融統制會ハ主務大臣ノ命令ニ因リテ解散  
ス

主務大臣前項ノ命令ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ告示スベ  
シ

第三章 業態別統制會

第三十六條 業態別統制會ハ國民經濟ノ總力ヲ最モ有效ニ發  
揮セシムル爲當該金融事業ノ機能ノ一體的發揮ヲ圖ルニ必  
要ナル指導統制ヲ行ヒ且當該金融事業ニ關スル國策ノ遂行  
ニ協力スルコトヲ目的トス

第三十七條 業態別統制會ハ金融事業ノ業態別ニ之ヲ設立  
ス

第三十八條 業態別統制會ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ニ掲グル  
事業ヲ行フ

- 一 當該金融事業ヲ營ム者ノ行フ資金ノ吸收及運用ニ關ス  
ル指導統制
- 二 當該金融事業ノ整備ノ促進

三 當該金融事業ノ機能ノ増進

四 當該金融事業ト産業トノ關係ノ緊密化ノ促進

五 當該金融事業ニ關スル調査及研究

六 前各號ニ掲グルモノノ外業態別統制會ノ目的ヲ達スル  
ニ必要ナル事業

第三十九條 業態別統制會ノ會員タル資格ヲ有スル者ハ左ニ  
掲グル者ニシテ主務大臣ノ指定スルモノトス

- 一 當該金融事業ヲ營ム者
- 二 當該金融事業ヲ營ム者ヲ以テ組織スル統制組合

第四十條 業態別統制會ニハ理事長一人並ニ理事、監事及評  
議員各若干人ヲ置クベシ

業態別統制會ニハ前項ノ役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ副  
理事長一人ヲ置クコトヲ得

第四十一條 理事長ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外銓衡  
委員ノ推薦シタル者ノ中ヨリ主務大臣之ヲ命ズ

前項ノ銓衡委員ハ當該金融事業ニ關シ經驗アル者及學識アル  
者ノ中ヨリ主務大臣之ヲ命ズ

副理事長、理事及評議員ハ當該金融事業ニ關シ經驗アル者  
及學識アル者ノ中ヨリ理事長之ヲ命ズ

監事ハ命令ノ定ムル所ニ依リ評議員之ヲ選任ス

第三項ノ規定ニ依リ副理事長、理事又ハ評議員ノ任命ハ主  
務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

主務大臣第一項ノ規定ニ依リ任命又ハ前項ノ規定ニ依リ副  
理事長若ハ理事ノ任命ノ認可ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ告  
示スベシ

第四十二條 理事長、副理事長及理事ノ任期ハ三年、監事及  
評議員ノ任期ハ二年トス

理事長必要アリト認ムルトキハ任期中ト雖モ副理事長又ハ  
理事ヲ解任スルコトヲ得

前項ノ解任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力  
ヲ生ゼズ

主務大臣前項ノ認可ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ告示スベシ

第四十三條 第十一條第一項、第二項及第四項乃至第六項ノ  
規定ハ理事長、副理事長、理事、監事及評議員ニ、第十四  
條ノ規定ハ理事長、副理事長及理事ニ之ヲ準用ス

第四十四條 業態別統制會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員  
又ハ其ノ會員タル統制組合ノ組合員ニ對シ當該金融事業ニ  
關スル事項ノ調査ヲ爲ス爲必要ナル資料ノ提出ヲ求ムルコ  
トヲ得

第十六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス



**第四十五條** 主務大臣ハ理事長、副理事長、理事又ハ評議員ノ行爲ガ法令又ハ法令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ、公益ヲ害シタルトキ其ノ他當該業態別統制會ノ事業ノ運營上理事長、副理事長、理事又ハ評議員ヲ不適當ナリト認ムルトキハ之ヲ解任スルコトヲ得

主務大臣ハ監事ノ行爲ガ法令若ハ法令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害シタルトキハ之ヲ解任スルコトヲ得

主務大臣第一項ノ規定ニ依リ理事長、副理事長又ハ理事ヲ解任シタルトキハ其ノ旨ヲ告示スベシ

**第四十六條** 第六條乃至第九條、第十五條、第十七條乃至第二十二條、第二十七條乃至第三十三條及第三十五條ノ規定ハ業態別統制會ニ之ヲ準用ス

**第四章 統制組合**

**第四十七條** 統制組合ハ國民經濟ノ總力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル爲一定地區内ニ於ケル當該金融事業ノ機能ノ一體的發展ヲ圖ルニ必要ナル指導統制ヲ行ヒ且當該金融事業ニ關スル國策ノ遂行ニ協力スルコトヲ目的トス

**第四十八條** 統制組合ハ一定地區ニ於テ金融事業ノ業態別ニ之ヲ設立ス

前項ノ地區ハ主務大臣之ヲ指定ス

**第四十九條** 統制組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ニ掲グル事業ヲ行フ

- 一 當該金融事業ヲ營ム者ガ當該地區内ニ於テ行フ資金ノ吸收及運用ニ關スル指導統制
- 二 當該地區内ニ於ケル當該金融事業ノ整備ノ促進
- 三 當該地區内ニ於ケル當該金融事業ノ機能ノ増進
- 四 當該地區内ニ於ケル當該金融事業ト産業トノ關係ノ緊密化ノ促進
- 五 當該地區内ニ於ケル當該金融事業ニ關スル調査及研究
- 六 前各號ニ掲グルモノノ外統制組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業

**第五十條** 統制組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者ハ當該地區内ニ於テ當該金融事業ヲ營ム者ニシテ主務大臣ノ指定スルモノトス

**第五十一條** 統制組合ノ定款ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

- 一 目的
- 二 名稱

- 三 地區
- 四 事務所ノ所在地
- 五 組合員ニ關スル規定
- 六 事業及其ノ執行ニ關スル規定
- 七 役員ニ關スル規定
- 八 會議ニ關スル規定
- 九 經理ニ關スル規定

**第五十二條** 統制組合ニハ理事長一人並ニ理事、監事及評議員各若干人ヲ置クベシ

理事長ハ當該金融事業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ當該統制組合ノ所屬スル業態別統制會ノ理事長之ヲ命ズ當該統制組合ノ所屬スル業態別統制會ナキトキハ當該金融事業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ主務大臣之ヲ命ズ

前項前段ノ規定ニ依リ理事長ノ任命ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十一條第一項第四項乃至第六項、第四十二條第一項乃至第三項及第四十五條第一項第二項ノ規定ハ理事長、理事、監事及評議員ニ、第四十一條第三項乃至第五項ノ規定ハ理事、監事及評議員ニ之ヲ準用ス

**第五十三條** 業態別統制會ノ理事長ハ當該業態別統制會ノ會員タル統制組合ノ理事長ノ行爲ガ法令又ハ法令ニ基キテ爲ス行政官廳ノ處分ニ違反シタルトキ、公益ヲ害シタルトキ其ノ他當該統制組合ノ事業ノ運營上當該理事長ヲ不適當ナリト認ムルトキハ之ヲ解任スルコトヲ得

前項ノ解任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

**第五十四條** 統制組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ總會ニ代ルベキ總代會ヲ設クルコトヲ得

第二十七條乃至第二十九條ノ規定ハ前項ノ總代會ニ之ヲ準用ス

**第五十五條** 第四條第二項ノ命令ヲ以テ定ムル統制組合ハ全國金融統制會ノ行フ統制ニ從フベシ

**第五十六條** 統制組合ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

**第五十七條** 第六條、第八條(定款ノ告示ニ關スル部分ヲ除ク)、第九條、第十五條、第十七條乃至第二十二條(第二十二條中定款變更ノ認可ノ告示ニ關スル部分ヲ除ク)、第二十



七條乃至第三十三條、第三十五條第一項及第四十四條ノ規定ハ統制組合ニ之ヲ準用ス

第五章 地方金融協議會

第五十八條 地方金融協議會ハ國民經濟ノ總力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル爲一定地區内ニ於ケル金融事業相互間ノ連絡調整ヲ圖ルニ必要ナル指導統制ヲ行ヒ且金融事業ニ關スル國策ノ遂行ニ協力スルコトヲ目的トス

第五十九條 地方金融協議會ハ一定地區ニ於テ之ヲ設立ス前項ノ地區ハ主務大臣之ヲ指定ス

第六十條 地方金融協議會ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ニ掲グル事業ヲ行フ

- 一 金融事業ヲ營ム者ガ當該地區内ニ於テ行フ資金ノ吸收及運用ニ關スル指導統制
- 二 當該地區内ニ於ケル金融事業ノ整備ノ促進
- 三 當該地區内ニ於ケル金融事業ノ機能ノ増進
- 四 前各號ニ掲グルモノノ外地方金融協議會ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業

第六十一條 地方金融協議會ノ會員タル資格ヲ有スル者ハ左ニ掲グル者ニシテ主務大臣ノ指定スルモノトス  
一 當該地區内ニ於テ金融事業ヲ營ム者

所ニ依リ第四章又ハ第五章ニ規定スル職權ノ一部ヲ地方長官ヲシテ行ハシムルコトヲ得

第六十六條 本令中主務大臣トアルハ第二項ニ規定スル場合ヲ除クノ外大藏大臣トス但シ產業組合中央金庫、信用組合聯合會(樺太ニ於テ設立セラレタルモノヲ除ク以下同ジ)又ハ信用組合(臺灣又ハ樺太ニ於テ設立セラレタルモノヲ除ク以下同ジ)ヲ會員又ハ組合員トスル業態別統制會、統制組合又ハ地方金融協議會ニ在リテハ大藏大臣及農林大臣トス

第二條及第五章中主務大臣トアルハ朝鮮、臺灣又ハ樺太ヲ地區トスル地方金融協議會ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督又ハ樺太廳長官トス

第十九條(第四十六條、第五十七條及第六十四條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)中市町村トアルハ朝鮮ニ在リテハ府邑面、臺灣ニ在リテハ市街庄トシ市町村稅トアルハ朝鮮ニ在リテハ國稅、臺灣ニ在リテハ市街庄稅トシ百分ノ四トアルハ朝鮮ニ在リテハ百分ノ五トス

第六十七條 大藏大臣全國金融統制會ニ付左ニ掲グル處分ヲ爲サントスル場合ニ於テ當該處分ガ恩給金庫ニ關スルモノナルトキハ内閣總理大臣、產業組合中央金庫、信用組合聯合

二 當該地區内ニ於テ金融事業ヲ營ム者ヲ以テ組織スル統制組合

第六十二條 地方金融協議會ニハ理事長一人並ニ理事、監事及評議員各若干人ヲ置クベシ  
理事長ハ金融事業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ主務大臣之ヲ命ズ

第六十三條 地方金融協議會ニハ定款ノ定ムル所ニ依リ顧問若干人ヲ置クコトヲ得

第六十四條 第六條、第八條(定款ノ告示ニ關スル部分ヲ除ク)、第九條、第十五條、第十七條乃至第二十二條(第二十一條中定款變更ノ認可ノ告示ニ關スル部分ヲ除ク)、第二十七條乃至第三十三條、第三十五條第一項、第四十四條、第五十一條及第五十四條乃至第五十六條ノ規定ハ地方金融協議會ニ之ヲ準用ス

第六十五條 主務大臣必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル

第六十六條 第六條、第八條(定款ノ告示ニ關スル部分ヲ除ク)、第九條、第十五條、第十七條乃至第二十二條(第二十一條中定款變更ノ認可ノ告示ニ關スル部分ヲ除ク)、第二十七條乃至第三十三條、第三十五條第一項、第四十四條、第五十一條及第五十四條乃至第五十六條ノ規定ハ地方金融協議會ニ之ヲ準用ス

第六章 雜則

第六十五條 主務大臣必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル

會又ハ信用組合ヲ會員又ハ組合員トスル業態別統制會、統制組合又ハ地方金融協議會ニ關スルモノナルトキハ農林大臣、商工組合中央金庫ニ關スルモノナルトキハ商工大臣、朝鮮殖産銀行ニ關スルモノナルトキハ朝鮮總督ニ協議スベシ  
一 第五條ノ規定ニ依リ指定  
二 第六條第一項、第二十三條第一項、第二十四條第一項、第二十六條第一項、第三十二條及第三十五條第一項ノ規定ニ依ル命令  
三 第六條第二項、第二十一條第一項、第二十三條第一項、第二十四條第一項及第二十六條第一項ノ規定ニ依ル認可  
四 第三十三條第一項ノ規定ニ依ル命令又ハ處分

朝鮮總督朝鮮ヲ地區トスル地方金融協議會ニ付左ニ掲グル處分ヲ爲サントスル場合ニ於テ當該處分ガ朝鮮銀行又ハ朝鮮ニ於テ金融事業ヲ營ム者ニシテ内地ニ主タル營業所若ハ事務所ヲ有スルモノノ朝鮮ニ於ケル營業所若ハ事務所ニ於ケル金融事業ニ關スルモノナルトキハ大藏大臣ニ協議スベシ臺灣總督又ハ樺太廳長官臺灣又ハ樺太ヲ地區トスル地方金融協議會ニ付左ニ掲グル處分ヲ爲サントスル場合ニ於テ當該處分ガ臺灣若ハ樺太ニ營業所ヲ有スル銀行又ハ臺灣若ハ樺太ニ於テ金融事業ヲ營ム者ニシテ内地ニ主タル營業所



若ハ事務所ヲ有スルモノノ臺灣若ハ樺太ニ於ケル營業所若ハ事務所ニ於ケル金融事業ニ關スルモノナルトキ亦同ジ

- 一 第六十一條ノ規定ニ依ル指定
- 二 第六十四條ニ於テ準用スル第六條第一項、第三十二條及第三十五條第一項ノ規定ニ依ル命令
- 三 第六十四條ニ於テ準用スル第六條第二項及第二十一條第一項ノ規定ニ依ル認可
- 四 第六十四條ニ於テ準用スル第三十三條第一項ノ規定ニ依ル命令又ハ處分

第六十八條 第三章及第四章ノ規定ハ朝鮮、臺灣及樺太ニ在リテハ之ヲ適用セズ但シ臺灣又ハ樺太ニ營業所ヲ有スル銀行ノ當該營業所ニ於ケル金融事業ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第六十五條ノ規定ハ朝鮮、臺灣及樺太ニ在リテハ之ヲ適用セズ

第六十九條 本令ニ規定スルモノヲ除クノ外全國金融統制會、業態別統制會、統制組合及地方金融協議會ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ地方金融協議會ニ關スル

規定ハ朝鮮、臺灣及樺太ニ在リテハ昭和十七年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

●金融統制團體令施行規則

昭和十七年四月十八日  
大藏  
司法省令第一號  
農林

金融統制團體令施行規則左ノ通定ム

第一章 全國金融統制會

- 第一條 全國金融統制會ノ金融統制團體令(以下令ト稱ス)第四條第二項ノ規定ニ依リ事業ノ指導統制ヲ行フ業態別統制會ノ會員ニ非ザル統制組合ハ主務大臣之ヲ指定ス
- 主務大臣前項ノ指定ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示ス
- 第二條 全國金融統制會令第四條第二項ノ規定ニ依リ前條ノ統制組合及地方金融協議會ノ事業ノ指導統制ヲ行フ場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル準則ニ依ルベシ
- 第三條 主務大臣令第六條第一項ノ規定ニ依リ全國金融統制會ノ設立ヲ命ズル場合ニ於テハ同條第二項ノ認可(以下設立ノ認可ト稱ス)ヲ申請スベキ期限ヲ指定シ之ヲ告示ス

前項ノ場合ニ於テ主務大臣ハ會員タル資格ヲ有スル者ノ中ヨリ設立委員ヲ命ジ其ノ名稱及住所ヲ告示ス

前項ノ告示アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク創立總會ヲ招集スベシ

第四條 創立總會ヲ招集スルニハ會員タル資格ヲ有スル者ニ對シ會日ヨリ少クトモ一週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ示シ招集ノ通知ヲ發スベシ

第五條 左ニ掲グル事項ハ創立總會ニ諮リ設立委員之ヲ定ム

- 一 定款
- 二 全國金融統制會ノ負擔ニ歸スベキ創立費及其ノ償却方法
- 三 初年度ノ收支豫算及初年度ニ於ケル賦課金ノ賦課徵收方法

第六條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク全國金融統制會ノ設立ノ認可ヲ申請スベシ

設立ノ認可申請書ニハ定款、創立總會ノ議事録ノ謄本並ニ前條第二號及第三號ニ掲グル事項ヲ記載シタル書面ヲ添付スベシ

第七條 副會長、理事長、理事、監事又ハ評議員辭任又ハ死

亡シタルトキハ全國金融統制會ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ主務大臣ニ届出ヅベシ其ノ者ノ任期滿了シタルトキ亦同ジ

副會長、理事長又ハ理事ニ付前項ノ届出アリタルトキハ主務大臣ハ其ノ旨ヲ告示ス

第八條 全國金融統制會令第十六條ノ規定ニ依リ資料ノ提出ヲ求メントスルトキハ統制規程ニ依ル場合ヲ除クノ外主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第九條 總會ヲ招集スルニハ會員ニ對シ會日ヨリ少クトモ一週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ示シ招集ノ通知ヲ發スベシ

第十條 每事業年度ノ收支豫算及賦課金ノ賦課徵收方法ヲ決定シタルトキハ全國金融統制會ハ遲滞ナク之ヲ主務大臣ニ届出ヅベシ其ノ變更アリタルトキ亦同ジ

第十一條 全國金融統制會ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

第十二條 主務大臣全國金融統制會ノ解散ヲ命ジタル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ全國金融統制會ノ主たる事務所ノ所在地ノ區裁判所ニ通知スベシ

前項ノ通知アリタルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ清算人ヲ選任ス



裁判所必要アリト認ムルトキハ職權ヲ以テ清算人ヲ解任スルコトヲ得

裁判所清算人ヲ選任又ハ解任シタルトキハ其ノ旨ヲ主務大臣ニ通知スベシ

前項ノ通知アリタルトキハ主務大臣ハ其ノ旨ヲ告示ス

第十三條 清算人ハ全國金融統制會ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第十四條 清算人ハ清算及財産處分ノ方法ヲ定メ裁判所ノ認可ヲ受クベシ

裁判所必要アリト認ムルトキハ清算人ニ對シ清算及財産處分ノ方法ノ變更其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十五條 全國金融統制會ハ解散ノ後ト雖モ裁判所ノ認可ヲ受ケ其ノ債務ヲ完済スルニ必要ナル金額ヲ賦課徵收スルコトヲ得

令第十九條及第六十六條第三項ノ規定ハ前項ノ賦課徵收ニ關シ之ヲ準用ス

第十六條 主務大臣ハ裁判所ニ對シ清算ニ關シ意見ヲ述ブルコトヲ得

第十七條 全國金融統制會ノ清算終了シタルトキハ裁判所ハ

其ノ旨ヲ主務大臣ニ通知スベシ

前項ノ通知アリタルトキハ主務大臣ハ其ノ旨ヲ告示ス

第二章 業態別統制會

第十八條 主務大臣令第四十六條ニ於テ準用スル令第六條第一項ノ規定ニ依リ業態別統制會ノ設立ヲ命ズル場合ニ於テハ左ニ掲グル事項ヲ指定シ之ヲ告示ス

- 一 金融事業ノ業態
- 二 設立ノ認可ヲ申請スベキ期限

第十九條 主務大臣ノ指定スル業態別統制會ノ理事長ハ當該金融事業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ主務大臣之ヲ命ズ

主務大臣前項ノ指定ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示ス

第二十條 監事ノ選任ハ評議員ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲ス

第二十一條 監事ノ選任アリタルトキハ業態別統制會ハ遲滞ナク其ノ氏名及住所ヲ主務大臣ニ届出ツベシ

理事長、副理事長、理事、監事又ハ評議員辭任又ハ死亡シタルトキハ業態別統制會ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ主務大臣ニ届出ツベシ其ノ者ノ任期滿了シタルトキ亦同ジ

理事長、副理事長又ハ理事ニ付前項ノ届出アリタルトキハ主務大臣ハ其ノ旨ヲ告示ス

第二十二條 第三條第二項第三項、第四條乃至第六條及第八條乃至第十七條ノ規定ハ業態別統制會ニ之ヲ準用ス但シ第四條及第九條中一週間トアルハ二週間トス

第三章 統制組合

第二十三條 主務大臣令第五十七條ニ於テ準用スル令第六條第一項ノ規定ニ依リ統制組合ノ設立ヲ命ズル場合ニ於テハ左ニ掲グル事項ヲ指定シ之ヲ告示ス

- 一 金融事業ノ業態
- 二 地區
- 三 設立ノ認可ヲ申請スベキ期限

第二十四條 事務所ノ位置又ハ理事長若ハ理事ノ住所ニ變更アリタルトキハ統制組合ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ行政官廳ニ届出ツベシ

第二十五條 第三條第二項第三項、第四條乃至第六條、第八條乃至第十一條、第十二條第一項乃至第四項、第十三條乃至第十六條、第十七條第一項、第二十條及第二十一條第一項第二項ノ規定ハ統制組合ニ之ヲ準用ス但シ主務大臣トアルハ第三條第二項及第十二條第一項ノ場合ヲ除クノ外行政官廳トシ總會トアルハ總會又ハ總代會トシ第九條中會員トアルハ組合員又ハ總代會ヲ構成スル組合員トス

第二十六條 統制組合成立シタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ左ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

- 一 目的
- 二 名稱
- 三 地區
- 四 事務所
- 五 成立ノ年月日
- 六 理事長及理事ノ氏名及住所

前項ニ掲グル事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十七條 統制組合成立ノ後新ニ事務所ヲ設ケタルトキハ其ノ事務所ノ所在地ニ於テハ前條第一項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス但シ既ニ存スル事務所ノ所在地ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ新ニ事務所ヲ設ケタルトキハ其ノ事務所ヲ設ケタルコトヲ登記スルヲ以テ足ル

第二十八條 統制組合ガ事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ第二十六條第一項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス但シ同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ事務所ヲ移轉シタルトキハ其ノ移轉ノ登記ヲ爲スヲ以テ足ル



第二十九條 統制組合ノ解散ノ命令アリタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十條 統制組合ノ清算人ノ選任アリタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ清算人ノ氏名及住所ヲ登記スルコトヲ要ス

第二十六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條 統制組合ノ清算終了シタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ清算終了ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十二條 統制組合ノ登記ニ付テハ其ノ事務所ノ所在地ノ區裁判所ヲ以テ管轄登記所トス

前項ノ登記ハ統制團體登記簿ニ之ヲ爲ス

第三十三條 第二十六條乃至第二十九條ノ規定ニ依ル登記ハ當該行政官廳ノ囑託ニ因リテ之ヲ爲ス

第三十條及第三十一條ノ規定ニ依ル登記ハ裁判所ノ囑託ニ因リテ之ヲ爲ス

第三十四條 登記シタル事項ハ裁判所遲滞ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス

第三十五條 非訟事件手續法第二百二十五條第一項(第五百十條、第五百十條ノ三及第七十七條ノ規定ヲ準用スル部分ヲ除ク)ノ規定ハ統制組合ノ登記ニ之ヲ準用ス

第四章 地方金融協議會

第三十六條 主務大臣令第六十四條ニ於テ準用スル令第六條第一項ノ規定ニ依リ地方金融協議會ノ設立ヲ命ズル場合ニ於テハ左ニ掲グル事項ヲ指定シ之ヲ告示ス

一 地區

二 設立ノ認可ヲ申請スベキ期限

第三十七條 第三條第二項第三項、第四條乃至第六條、第八條乃至第十一條、第十二條第一項乃至第四項、第十三條乃至第十六條、第十七條第一項、第二十條、第二十一條第一項第二項、第二十四條及第二十六條乃至第三十五條ノ規定ハ地方金融協議會ニ之ヲ準用ス但シ主務大臣トアルハ第三條第二項及第十二條第一項ノ場合ヲ除クノ外行政官廳トシ總會トアルハ總會又ハ總代會トシ第九條中會員トアルハ會員又ハ總代會ヲ構成スル會員トス

第五章 雜則

第三十八條 令第二十三條第三項(令第二十四條第二項、第二十五條第二項及第二十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ證票ハ別記第一號様式ニ、令第三十條第二項(令第四十六條、第五十七條及第六十四條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ證票ハ別記第二號様式ニ依ル

第三十九條 統制組合又ハ地方金融協議會ニシテ地區ガ道府縣ノ區域ヲ超エザルモノニ關スル左ニ掲グル事項ハ令第六十五條ノ規定ニ依リ當該地區ヲ管轄スル地方長官ヲシテ之ヲ行ハシム但シ第一號乃至第四號及第六號ニ掲グル事項ハ事宜ニ依リ主務大臣ニ於テ之ヲ行フ

一 令第五十七條又ハ第六十四條ニ於テ準用スル令第十五條第二項ノ規定ニ依リ諮問ヲ爲スコト

二 令第五十七條又ハ第六十四條ニ於テ準用スル令第三十條ノ規定ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ検査ヲ爲スコト

三 令第五十七條又ハ第六十四條ニ於テ準用スル令第三十條ノ規定ニ依ル命令ヲ爲スコト

四 令第五十七條又ハ第六十四條ニ於テ準用スル令第三十條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ヲ爲スコト

五 令第五十二條第四項又ハ第六十二條第三項ニ於テ準用スル令第四十一條第五項及第四十二條第三項ノ規定ニ依ル認可ヲ爲スコト

六 令第五十二條第四項又ハ第六十二條第三項ニ於テ準用スル令第四十五條第一項及第二項ノ規定ニ依ル處分(理事長ノ解任ヲ除ク)ヲ爲スコト

第四十條 第二十四條、第二十五條、第三十三條第一項及第一項ニ關スル法律

三十七條中行政官廳トアルハ統制組合又ハ地方金融協議會ニシテ地區ガ道府縣ノ區域ヲ超エザルモノニ關スル場合ニ在リテハ當該地區ヲ管轄スル地方長官トシ其ノ他ノ統制組合又ハ地方金融協議會ニ關スル場合ニ在リテハ主務大臣トス

第四十一條 民法第七十九條、第八十條及第八十二條第二項並ニ非訟事件手續法第三十五條第二項、第三十六條及第三十七條ノ二ノ規定ハ全國金融統制會、業態別統制會、統制組合及地方金融協議會ノ清算ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記)略ス

●國家總動員法第十八條ノ規定

ニ依ル法人等ヲシテ行政官廳ノ職權ヲ行ハシムルコトニ關スル法律

昭和十七年二月十八日  
法律第十五號



朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國家總動員法第十八條ノ規定ニ依ル法人等ヲシテ行政官廳ノ職權ヲ行ハシムルコトニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

法令ニ定ムル行政官廳ノ職權ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ國家總動員法第十八條ノ規定ニ依ル法人其ノ他ノ法人ヲシテ行ハシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ同項ノ法人ガ行政官廳ノ職權ヲ行フ場合ニ於テハ當該職權ニ係ル罰則ノ適用ニ付テハ同項ノ法人ハ之ヲ當該職權ヲ行フ行政官廳ト看做シ同項ノ法人ノ役員又ハ使用人ニシテ同項ノ職權ニ屬スル事務ニ從事スルモノハ之ヲ當該事務ニ從事スル官吏ト看做ス

前項ニ定ムルモノノ外第一項ノ規定ニ依リ同項ノ法人ガ行政官廳ノ職權ヲ行フ場合ニ於ケル必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●金融事業整備令

昭和十七年五月十六日  
勅令第五百一十一號

朕金融事業整備令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

金融事業整備令

第一條 國家總動員法第十六條ノ三ノ規定ニ基ク金融事業(有價證券ニ關スル事業ヲ含ム以下同シ)ノ委託若ハ讓渡又ハ金融事業ヲ營ム法人ノ合併ニ關スル命令ニ付テハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 主務大臣金融事業ノ整備ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ金融事業ヲ營ム者(以下金融機關ト稱ス)ニ對シ金融事業ノ委託、受託、讓渡若ハ讓受又ハ法人ノ合併ヲ命ズルコトヲ得

第三條 前條ノ場合ニ於ケル委託、讓渡又ハ合併ノ條件ハ當事者間ノ協議ニ依ル

前項ノ協議ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第一項ノ協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ主務大臣之ヲ裁定ス

第四條 主務大臣金融事業ノ委託ニ關シ前條ノ認可又ハ裁定ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨及當該委託ニ關スル協議又ハ裁定ノ要旨ヲ告示シ且命令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ囑託スルコトヲ要ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外第二條ノ規定ニ依ル命令ニ基キ金融事業ノ委託ヲ爲シタル金融機關(以下委託金融機關ト稱ス)ト同條ノ規定ニ依ル命令ニ基キ金融事業ノ受託ヲ爲シタル金融機關(以下受託金融機關ト稱ス)トノ間ノ關係ハ委任ニ關スル規定ニ從フ

第六條 受託金融機關ガ委託金融機關ノ爲ニ法律行爲ヲ爲スニハ委託金融機關ノ爲ニスルコトヲ表示スルモノトス

前項ノ表示ヲ爲サズシテ爲シタル法律行爲ハ之ヲ自己ノ爲ニ爲シタルモノト看做ス

商法第三十八條第一項ノ規定ハ受託金融機關ニ之ヲ準用ス

民法第四十四條第一項ノ規定ハ第二條ノ規定ニ依ル命令ニ基キ金融事業ノ委託アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第七條 第二條ノ規定ニ依ル命令ニ基キ爲シタル金融事業ノ委託ハ第三條ノ協議又ハ裁定ニ於テ定ムル事由ニ因リテノミ終了ス

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ遲滯ナク金融事業ノ委託ノ終了シタル旨ヲ告示シ且命令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ囑託スルコトヲ要ス

第八條 金融機關金融事業ノ讓渡ニ關シ第三條ノ認可又ハ裁定

定アリタル場合ニ於テ遲滯ナク其ノ旨及當該讓渡ニ關スル協議又ハ裁定ノ要旨ヲ公告シ且預金者其ノ他命令ヲ以テ定ムル者以外ノ知レタル債權者ニ各別ニ之ヲ通知シタルトキハ當該讓渡ニ付債權者ノ承認アリタルモノト看做ス

第九條 金融機關第二條ノ規定ニ依ル命令ニ基キ金融事業ノ讓渡ヲ爲シタル場合ニ於テ遲滯ナク其ノ旨ヲ公告シタルトキハ當該金融機關ノ債務者ニ對シ民法第四百六十七條ノ規定ニ依ル確定日附アル證書ヲ以テスル通知アリタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ其ノ公告ノ日附ヲ以テ確定日附トス

第十條 第八條ノ規定ハ第二條ノ規定ニ依リ法人ノ合併ノ命令アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 主務大臣第二條ノ規定ニ依リ命令ヲ爲シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ當該金融機關ニ對シ事業ノ停止、株主ノ名義書換ノ停止其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第十二條 金融機關第二條ノ規定ニ依ル命令ニ基キ金融事業ノ委託、受託、讓渡若ハ讓受又ハ法人ノ合併ヲ爲ス場合ニ於テハ他ノ法令ニ依ル認可又ハ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

第十三條 第三條ノ協議又ハ裁定ニ基キ法人タル金融機關ガ



金融事業ノ委託、讓渡、合併其ノ他當該協議又ハ裁定ニ於テ定ムル事項ノ實行ヲ爲サントスルニ付株主總會又ハ之ニ準ズベキモノノ決議、同意等ヲ必要トスル場合ニ於テ其ノ決議、同意等ヲ得ルコト能ハザルトキハ當該金融機關ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ當該事項ノ實行ヲ爲スコトヲ得

第十四條 主務大臣第二條ノ規定ニ依ル命令又ハ第三條ノ認可若ハ裁定ヲ爲スニ付必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ金融機關ノ取引先ヨリ必要ナル報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ其ノ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

第十五條 主務大臣ノ指定スル金融機關ハ第二條ノ規定ニ依ル命令ニ基ク場合ヲ除クノ外主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ金融事業ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ズ

第十六條 本令中主務大臣トアルハ第二項及第三項ニ規定スル場合ヲ除クノ外大藏大臣トス

本令中主務大臣トアルハ産業組合中央金庫及産業組合法第一條第四項ノ規定ニ依リ手形ノ割引又ハ貯金ノ取扱ヲ爲ス信用組合(以下市街地信用組合ト稱ス)ニ付テハ大藏大臣及

農林大臣トシ信用組合聯合會及市街地信用組合ニ非ザル信用組合ニ付テハ農林大臣トス但シ市街地信用組合ト市街地信用組合ニ非ザル信用組合トノ間ノ金融事業ノ委託若ハ讓渡又ハ合併ニ關シテハ大藏大臣及農林大臣トス

本令中主務大臣トアルハ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル金融機關(朝鮮銀行、臺灣銀行及臺灣ニ本店ヲ有シ銀行法又ハ貯蓄銀行法ノ適用ヲ受クル銀行ヲ除ク)ニ付テハ各朝鮮總督、臺灣總督又ハ樺太廳長官トス

第十七條 大藏大臣第二條、第三條又ハ第十五條ノ規定ニ依リ命令、認可又ハ裁定ヲ爲サントスル場合ニ於テ當該命令、認可又ハ裁定ガ前條第一項ノ規定ニ依リ大藏大臣ノ所管スル金融機關ト同條第三項ノ規定ニ依リ朝鮮總督、臺灣總督又ハ樺太廳長官ノ所管スル金融機關トノ間ノ金融事業ノ委託若ハ讓渡又ハ合併ニ關スルモノナルトキハ朝鮮總督、臺灣總督又ハ樺太廳長官ニ協議スベシ

朝鮮總督、臺灣總督又ハ樺太廳長官第二條、第三條又ハ第十五條ノ規定ニ依リ命令、認可又ハ裁定ヲ爲サントスル場合ニ於テ當該命令、認可又ハ裁定ガ前條第一項ノ規定ニ依リ大藏大臣ノ所管スル金融機關ト同條第三項ノ規定ニ依リ

朝鮮總督、臺灣總督又ハ樺太廳長官ノ所管スル金融機關トノ間ノ金融事業ノ委託若ハ讓渡又ハ合併ニ關スルモノナルトキハ大藏大臣ニ協議スベシ

第十八條 本令ニ規定スルモノヲ除クノ外金融事業ノ整備ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣及樺太ニ在リテハ昭和十七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

金融事業整備令施行規則

昭和十七年五月十六日  
大藏  
司法省令第二號  
農林

金融事業整備令施行規則ノ通定ム

金融事業整備令施行規則

第一條 金融事業整備令(以下令ト稱ス)第二條ノ規定ニ依リ金融事業(有價證券ニ關スル事業ヲ含ム以下同シ)ノ委託、讓渡若ハ讓受又ハ法人ノ合併ノ命令ハ令書ヲ發シテ之ヲ爲ス

第二條 金融事業ノ委託又ハ受託ノ令書ニハ左ノ事項ヲ記載

金融事業整備令施行規則

一 當事者ノ氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱及代表者ノ氏名トス以下同シ)及住所

二 委託シ又ハ受託スベキ金融事業ノ範圍

三 委託ノ條件ニ關スル協議ニ付認可ヲ申請スベキ期限

四 其ノ他必要ト認ムル事項

第三條 金融事業ノ讓渡又ハ讓受ノ令書ニハ左ノ事項ヲ記載

ス

一 當事者ノ氏名及住所

二 讓渡シ又ハ讓受クベキ金融事業ノ範圍

三 讓渡ノ條件ニ關スル協議ニ付認可ヲ申請スベキ期限

四 其ノ他必要ト認ムル事項

第四條 法人ノ合併ノ令書ニハ左ノ事項ヲ記載ス

一 當事者ノ氏名及住所

二 合併ノ方法

三 合併ノ條件ニ關スル協議ニ付認可ヲ申請スベキ期限

四 其ノ他必要ト認ムル事項

第五條 金融事業ヲ營ム者(以下金融機關ト稱ス)令第三條第二項ノ規定ニ依リ委託ノ條件ニ關スル協議ニ付認可ヲ受ケ

ントスルトキハ認可申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ之ヲ主務



大臣ニ提出スベシ

- 一 委託ニ關スル契約書
- 二 株主總會又ハ之ニ準ズベキモノノ決議、同意等アリタルトキハ其ノ決議、同意等ノ要領書
- 三 最近ノ日計表

第六條 金融機關令第三條第二項ノ規定ニ依リ讓渡ノ條件ニ關スル協議ニ付認可ヲ受ケントスルトキハ認可申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ之ヲ主務大臣ニ提出スベシ

- 一 讓渡ニ關スル契約書
- 二 株主總會又ハ之ニ準ズベキモノノ決議、同意等アリタルトキハ其ノ決議、同意等ノ要領書
- 三 金融事業ノ一部ノ讓渡又ハ金融事業ノ全部若ハ一部ノ讓受ヲ爲ス金融機關ノ定款
- 四 最近ノ日計表

第七條 金融機關令第三條第二項ノ規定ニ依リ合併ノ條件ニ關スル協議ニ付認可ヲ受ケントスルトキハ認可申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ之ヲ主務大臣ニ提出スベシ

- 一 合併ニ關スル契約書
- 二 株主總會又ハ之ニ準ズベキモノノ決議、同意等アリタルトキハ其ノ決議、同意等ノ要領書

三 合併後存續スル金融機關又ハ合併ニ因リ設立スル金融機關ノ定款

四 商法第九十九條ノ規定ニ依リ作成シタル貸借對照表又ハ之ニ準ズベキモノ

第八條 主務大臣令第三條第三項ノ裁定ヲ爲サントスル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ當事者ヨリ意見書ヲ徵スルコトヲ得

第九條 令第三條第三項ノ裁定ハ理由ヲ附シタル裁定書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ謄本ヲ當事者ニ交付ス

第十條 金融機關令第二條ノ規定ニ依ル命令ニ基キ金融事業ノ委託又ハ受託ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ主務大臣ニ届出ツベシ

前項ノ届出アリタルトキハ主務大臣ハ同條ノ規定ニ依ル命令ニ基キ金融事業ノ委託ヲ爲シタル法人タル金融機關(以下法人タル委託金融機關ト稱ス)ニ付遲滞ナク管轄登記所ニ左ニ掲グル事項ノ登記ヲ囑託スルコトヲ要ス

- 一 金融事業ノ委託ヲ爲シタル旨及委託條件ノ概要
  - 二 金融事業ノ受託ヲ爲シタル金融機關ノ氏名及住所
- 第十一條 前條第二項ノ規定ニ依ル登記ノ囑託書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一 委託ニ關スル契約書又ハ裁定書ノ謄本

二 株主總會若ハ之ニ準ズベキモノノ決議、同意等又ハ令第十二條ノ認可アリタルトキハ之ヲ證スル書面

第十二條 令第二條ノ規定ニ依ル命令ニ基キ爲シタル金融事業ノ委託終了シタルトキハ金融機關ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ主務大臣ニ届出ツベシ

前項ノ届出アリタルトキハ主務大臣ハ遲滞ナク管轄登記所ニ委託終了ノ旨ノ登記ヲ囑託スルコトヲ要ス

第十三條 金融事業ノ委託ニ關スル登記ハ法人タル委託金融機關ノ本店及支店又ハ各事務所ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十四條 令第八條(令第十條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依リ通知スルコトヲ要セザル債權者ハ貯金者、積金者、信託ノ委託者及受益者、保險契約者、保險金受取人並ニ無盡掛金者トス

第十五條 金融機關令第十一條ノ規定ニ依リ株主ノ名義書換ノ停止ノ命令ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ公告スベシ

第十六條 金融機關令第十三條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケントスルトキハ認可申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ之ヲ主務大臣

ニ提出スベシ

一 株主總會又ハ之ニ準ズベキモノノ決議、同意等ヲ得ルコト能ハザリシ顛末ヲ記載シタル書面

二 株主總會又ハ之ニ準ズベキモノノ會議ヲ開キタルトキハ其ノ議事ノ要領ヲ記載シタル書面

第十七條 金融機關令第二條ノ規定ニ依ル命令ニ基キ金融事業ノ讓渡若ハ讓受又ハ法人ノ合併ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ主務大臣ニ届出ツベシ

前項ノ届出ニハ令第八條(令第十條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル公告及通知並ニ令第九條ノ規定ニ依ル公告ヲ爲シタルトキハ之ヲ證スル書面ヲ添附スベシ

第十八條 主務大臣令第十五條ノ規定ニ依リ金融機關ノ指定ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ告示ス

第十九條 金融機關令第十五條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケントスルトキハ認可申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ之ヲ主務大臣ニ提出スベシ

- 一 讓渡ニ關スル契約書
- 二 株主總會又ハ之ニ準ズベキモノノ決議、同意等ヲ要スルトキハ其ノ決議、同意等ノ要領書
- 三 金融事業ノ一部ノ讓渡又ハ金融事業ノ全部若ハ一部ノ



讓受ヲ爲ス金融機關ノ定款

四 最近ノ日計表

第二十條 金融機關令第十五條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケテ金融事業ノ讓渡又ハ讓受ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ主務大臣ニ届出ツベシ

第二十一條 令第十四條ノ證票ハ別記様式ニ依ル

附則

本令ハ金融事業整備令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
(様式)略ス

●國民貯蓄組合法

昭和十六年三月十三日  
法律第六十四號

改正 昭和十七年第八二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國民貯蓄組合法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國民貯蓄組合法

第一條 本法ニ於テ國民貯蓄組合トハ左ノ各號ノ一ニ掲グル者ヲ以テ組織シ戰時(戰爭ニ準ズベキ事變ノ場合ヲ含ム)ニ於ケル國民貯蓄ノ増強ニ資スル爲メ組合員ノ貯蓄ノ斡旋ヲ爲

人ニシテ會社ニ非ザルモノノ發行スル債券ヲ含ミ前號ニ掲グル債券ヲ除ク以下同ジ)ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノノ買入

九 其ノ他主務大臣ノ指定スルモノ

前項ノ貯蓄ノ斡旋ノ方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 國民貯蓄組合ヲ組織シタルトキハ組合ノ代表者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ組合規約ヲ主務大臣ニ届出ツベシ組合規約ヲ變更シタルトキ亦同ジ

國民貯蓄組合解散シタルトキハ組合ノ代表者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ主務大臣ニ届出ツベシ

第四條 國民貯蓄組合ノ斡旋ニ依ル銀行預金、貯蓄銀行預金、産業組合貯金其ノ他ノ預金又ハ合同運用信託ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノノ元本ガ七千圓ヲ超エザルトキハ其ノ利子又ハ利益ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅ヲ免除ス國民貯蓄組合ノ斡旋ニ依リ買入レ命令ノ定ムル所ニ依リ郵便官署ニ保管ヲ委託シ又ハ登錄ヲ爲シタル國債、地方債又ハ社債ニシテ額面金額七千圓ヲ超エザルモノノ利子ニ付亦同ジ  
前項ノ場合ニ於テ預金又ハ合同運用信託ガ組合ノ代表者ノ名義ヲ以テ爲サルトキハ元本ハ組合員毎ニ其ノ預金又ハ

スモノヲ謂フ

一 市町村(町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノ)ノ一部ニシテ命令ヲ以テ定ムル區域内ニ居住スル者

二 官公署、學校、事務所、營業所、工場、事業場又ハ之ニ準ズベキモノニ勤務スル者

三 産業組合、商業組合、工業組合其ノ他同業者ノ組織スル團體ノ構成員

四 前各號ニ掲グル者ノ外命令ヲ以テ定ムル者

第二條 國民貯蓄組合ノ斡旋ヲ爲ス貯蓄ハ左ノ方法ニ依ルベシ

一 郵便貯金又ハ郵便年金ノ掛金若ハ簡易生命保險ノ保險料ノ拂込

二 銀行ヘノ預ケ金又ハ定期積金

三 信託會社ヘノ金錢信託

四 産業組合其ノ他命令ヲ以テ定ムル産業團體ヘノ貯金

五 無盡會社ヘノ無盡ノ掛金ノ拂込

六 生命保險ノ保險料ノ拂込

七 國債、貯蓄債券又ハ報國債券ノ買入

八 地方債又ハ社債(特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル法

合同運用信託ニ付之ヲ計算ス

前項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ於テ國債、地方債又ハ社債ノ保管ノ委託又ハ登錄ガ組合ノ代表者ノ名義ヲ以テ爲サル場合ノ額面金額ノ計算ニ之ヲ準用ス

前三項ノ元本及額面金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第五條 政府ハ豫算ノ範圍内ニ於テ國民貯蓄組合ニ補助金又ハ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得

第六條 主務大臣必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ第一條各號ノ一ニ掲グル者ニ對シ國民貯蓄組合ヲ組織スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第七條 主務大臣ハ國民貯蓄組合ノ代表者ニ對シ貯蓄ニ關シ報告ヲ爲サシメ、帳簿書類其ノ他ノ物件ノ検査ヲ爲シ又ハ組合ノ代表者ノ改任其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第八條 主務大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ定ムル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得  
地方長官ハ前項ノ規定ニ依リ委任ヲ受ケタル職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ市町村長(市制第六條及第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ區長、町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ



國民貯蓄組合法

準ズベキモノヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

第九條 貯蓄銀行ニ非ザル銀行ハ貯蓄銀行法第一條ノ規定ニ拘ラズ命令ノ定ムル所ニ依リ國民貯蓄組合ノ斡旋ニ依ル場合ニ限り同法第一條第一項第一號又ハ第三號ニ掲グル業務ヲ營ムコトヲ得

所得稅法第十一條、第二十一條及第二十九條中銀行貯蓄預金ニ關スル規定ハ前項ノ規定ニ依リ受入レタル預金ニハ之ヲ適用セズ

第十條 貯蓄銀行ニ非ザル銀行ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條第一項ノ規定ニ依リ受入レタル金額ノ三分ノ一以上ノ金額ニ相當スル國債ヲ供託スベシ

前條第二項ノ預金ヲ爲シタル者ハ其ノ預金ニ關シテハ前項ノ規定ニ依リテ供託シタル國債ニ付他ノ債權者ニ先チ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス  
前項ノ規定ニ依リ優先辨濟ヲ受クル範圍ハ預金額ヲ限度トス

第十一條 國民貯蓄組合ノ代表者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ三百圓以下ノ過料ニ處ス

第十二條 本法ニ規定スルモノノ外國民貯蓄組合ニ關スル事

項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十六年第七百十號ヲ以テ昭和十六年六月二十日ヨリ施行）

本法施行ノ際現ニ存スル團體ニシテ第一條各號ノ一ニ掲グル者ヲ以テ組織シ戰時（戰爭ニ準ズベキ事變ノ場合ヲ含ム）ニ於ケル國民貯蓄ノ増強ニ資スル爲メ第二條ニ掲グル貯蓄ノ斡旋ヲ爲スモノハ之ヲ本法ノ國民貯蓄組合ト看做ス

前項ノ國民貯蓄組合ノ代表者ハ本法施行後三月以内ニ第三條第一項ノ規定ニ準ジ組合規約ヲ主務大臣ニ届出ヅベシ  
印紙稅法中左ノ通改正ス

第五條第九號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

九ノ二 國民貯蓄組合ノ代表者カ組合ノ業務ニ關シ發スル金錢ノ寄託若ハ信託行爲ニ關スル證書若ハ通帳又ハ委任狀

附則

（昭和十七年法律第八十二號）  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十七年勅令第二百九十四號ヲ以テ昭和十七年四月一日ヨリ施行）

國民貯蓄組合法施行規則

昭和十六年六月十九日  
大藏省令第三十三號

改正 昭和十六年第六四號、一七年第一七號、第五六號  
國民貯蓄組合法施行規則左ノ通定ム

國民貯蓄組合法施行規則

第一條 國民貯蓄組合法（以下法ト稱ス）第一條第一號ノ區域ハ一箇又ハ數箇ノ町内會、部落會、隣保班又ハ之ニ準ズベキモノノ地域トス

第二條 法第一條第四號ニ規定スル者ハ左ニ掲グルモノトス

- 一 在郷軍人會、青年團、少年團、婦人團體其ノ他之ニ準ズル團體ノ團員又ハ會員
- 二 學生、生徒又ハ兒童
- 三 宗教團體ノ檀徒、教徒又ハ信徒
- 三ノ二 道、府又ハ縣ノ一部ノ區域内ニ居住シ當該區域内ニ在ル銀行又ハ市街地信用組合（產業組合法第一條第四項ノ規定ニ依リ手形ノ割引又ハ貯金ノ取扱ヲ爲ス信用組合ヲ謂フ）ノ同一ノ店舗又ハ事務所ニ取引ヲ有スル者
- 四 其ノ他大藏大臣ノ指定スル者

國民貯蓄組合法施行規則

第三條 法第二條第一項第四號ノ產業團體ハ商業組合、工業組合、貿易組合、漁業協同組合及自動車運送事業組合トス

第三條ノ二 法第二條第一項第八號ニ規定スル命令ヲ以テ定ムルモノハ地方債又ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル社債（特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル法人ニシテ會社ニ非ザルモノノ發行スル債券ヲ含ミ、貯蓄債券及報國債券ヲ除ク以下同ジ）ニシテ其ノ買入ノ日前一年以内ニ發行セラレタルモノトス

- 一 元本ノ償還及利子ノ支拂ニ付政府ノ保證アルモノ
- 二 特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル法人ノ發行スルモノ
- 三 其ノ他大藏大臣ノ指定スルモノ

第四條 法第二條第一項第九號ノ規定ニ依リ貯蓄ノ方法トシテ勤務先ヘノ預ケ金及滿洲國債ノ買入ヲ指定ス

國民貯蓄組合ガ前項ノ預ケ金ノ斡旋ヲ爲サントスルトキハ組合長地方長官ノ認可ヲ受クベシ  
前項ノ認可ヲ受ケントスルトキハ當該勤務先ノ名稱、事業主、事業ノ種目及勤務者數並ニ當該組合ノ組合員數、貯蓄增加目標額等ヲ記載シタル申請書ニ組合規約並ニ當該勤務先ガ會社ノ場合ニ在リテハ最終ノ貸借對照表及損益計算書



ヲ添附シテ地方長官ニ提出スベシ

第五條 國民貯蓄組合ノ幹旋ニ依ル貯蓄ハ組合長各組合員ノ名義ヲ以テ之ヲ爲サシムベシ

前項ノ貯蓄ニ關スル通帳又ハ證書ハ各組合員ヲシテ之ヲ保管セシムベシ但シ法令又ハ組合規約ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第一項ノ幹旋ニ依リ買入レタル有價證券ハ郵便官署、銀行若ハ信託會社ニ保管ヲ委託シ又ハ登録ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外各組合員ヲシテ之ヲ保管セシムベシ但シ法令ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ前條第一項ノ規定ニ拘ラズ組合規約ノ定ムル所ニ依リ組合ノ代表者ノ名義ヲ以テ貯蓄ヲ爲スコトヲ得

- 一 資本金千萬圓以上ノ法人ノ事務所、營業所若ハ之ニ準ズベキモノ又ハ勤務者數當時千人以上ノ工場、事業場若ハ之ニ準ズベキモノニ於ケル組合ガ貯蓄ノ幹旋ヲ爲ストキ

二 組合長地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキ  
前項第一號ノ貯蓄ノ幹旋ヲ爲サントスルトキ又ハ前項第二號ノ認可ヲ受ケントスルトキハ當該名義人ノ住所、職業及

氏名並ニ組合員數、貯蓄增加目標額、貯蓄ノ方法等ヲ記載シタル届出書又ハ申請書ニ組合規約ヲ添附シテ地方長官ニ提出スベシ

第一項第二號ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ名義人ヲ變更セントスルトキハ組合長地方長官ノ認可ヲ受クベシ但シ組合規約ニ於テ特定ノ資格ヲ有スル者ヲ組合ノ代表者ト定メ之ヲ名義人ト爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
組合長ハ第一項ノ貯蓄ニ付別ニ帳簿ヲ備ヘ各組合員毎ノ計算ヲ明ニスベシ

第七條 組合ノ幹旋ニ依ル貯蓄ニ關スル通帳又ハ證書ノ名義ニハ國民貯蓄組合ノ組合員又ハ代表者タルコトヲ表示スベシ

第八條 法第三條第一項ノ規定ニ依ル組合規約ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 名稱及事務所ノ所在地
- 二 組合員タル資格ニ關スル規定
- 三 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定
- 四 組合長其ノ他組合ノ代表者ノ選任及解任ニ關スル規定
- 五 貯蓄ノ方法及業務ノ執行ニ關スル規定
- 六 貯蓄計畫ニ關スル規定

第九條 國民貯蓄組合ハ其ノ名稱中ニ國民貯蓄組合ナル文字ヲ用フベシ

第十條 國民貯蓄組合ニハ之ヲ管理シ代表スル組合長ヲ置クコトヲ要ス

國民貯蓄組合ハ組合長選任ノ日ヨリ二週間以内ニ之ヲ地方長官ニ届出ツベシ組合長ノ解任ニ付亦同ジ

第十一條 國民貯蓄組合ハ組合員ノ貯蓄ノ幹旋及之ニ附隨スル業務以外ノ業務ヲ營ムコトヲ得ズ

第十二條 組合規約ハ國民貯蓄組合ノ組合員タラントスル者ノ同意ヲ得テ之ヲ定ムベシ

組合規約ハ國民貯蓄組合ノ組合員總數四分ノ三以上ノ同意ヲ得テ之ヲ變更スルコトヲ得

第十三條 國民貯蓄組合ヲ組織シタルトキハ組合長組合規約成立ノ日ヨリ二週間以内ニ組合規約ノ設立ノ年月日、組合員數、組合ノ幹旋ヲ爲ス貯蓄ノ見込金額等ヲ記載シタル書類ヲ添附シ地方長官ニ提出スベシ

國民貯蓄組合組合規約ヲ變更シタルトキハ組合長組合規約變更ノ日ヨリ二週間以内ニ其ノ内容ヲ記載シタル届出書ヲ地方長官ニ提出スベシ

第十三條ノ二 銀行又ハ市街地信用組合ノ取引者ヲ以テ組織  
國民貯蓄組合法施行規則

スル國民貯蓄組合(以下預金者貯蓄組合ト稱ス)ノ組合長ハ左ノ事項ニ付豫メ大藏大臣ノ承認ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

- 一 當該組合ノ組合員タルベキ者ノ居住スル地域ノ範圍
  - 二 當該組合ノ幹旋ヲ爲サントスル貯蓄ノ種類及條件
  - 三 當該組合ノ幹旋ニ依ル貯蓄ノ拂戻ノ基準
- 前項ノ承認ヲ受ケントスルトキハ組合長ノ職業及氏名並ニ前項各號ノ事項、組合員數、貯蓄增加豫定額等ヲ記載シタル申請書ニ組合規約ヲ添附シ第三十五條ノ規定ニ拘ラズ地方長官ヲ經テ大藏大臣ニ提出スベシ

第十四條 國民貯蓄組合ハ其ノ幹旋ヲ爲サントスル貯蓄ニ付毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル一箇年間ノ貯蓄增加目標額ヲ定メ其ノ達成ニ必要ナル貯蓄計畫ヲ樹立スベシ

第十五條 國民貯蓄組合ノ組合長ハ其ノ幹旋ニ依ル各組合員毎ノ貯蓄現在高ヲ記載シタル組合貯蓄臺帳ヲ作成シ之ヲ事務所ニ備付クベシ

前項ノ組合貯蓄臺帳ニハ各組合員ノ貯蓄スル金錢若ハ買入ル有價證券ガ組合ヲ通ジテ授受セラルル場合又ハ貯蓄ニ關スル契約ガ組合ヲ通ジテ成立シ且貯蓄ノ拂戻若ハ有價證



券ノ賣却ニ付組合長ノ同意ヲ要スル場合ノ貯蓄ニ限り之ヲ記載スルモノトス

第十六條 國民貯蓄組合ノ組合長ハ九月及翌年三月ノ各月末現在ニ依リ組合員數及貯蓄金額等ヲ記載シタル國民貯蓄組合現況報告書ヲ各翌月十五日迄ニ地方長官ニ提出スベシ

第十七條 國民貯蓄組合ヲ解散シタルトキハ組合長解散ノ日ヨリ二週間以内ニ解散ノ年月日、解散ノ事由及各組合員ノ貯蓄ノ處理方法等ヲ記載シタル解散届ヲ地方長官ニ提出スベシ

第十七條ノ二 會社ノ營業所又ハ之ニ準ズベキモノニ於ケル國民貯蓄組合ノ組合長ハ當該組合ノ幹旋ニ依リ貯蓄ニシテ會社經理統制令施行規則第二十四條第一項第一號(乙)ノ規定ニ該當スルモノニ付テハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ限リ當該有價證券ノ賣却又ハ當該郵便貯金、銀行預金若ハ信託シタル金錢ノ拂戻ニ付承認ヲ爲スコトヲ得

一 組合員退職ニ因リ組合ヲ脱退シタルトキ  
二 當該貯蓄ヲ營業所又ハ之ニ準ズベキモノニ於ケル他ノ國民貯蓄組合ノ貯蓄(會社經理統制令施行規則第二十四條第一項第一號(乙)ノ規定ニ該當スルモノ)トシテ繼續スルトキ

臣若ハ海軍大臣ノ指定スル者又ハ當該工場事業場ヲ管理スル官衙ノ長若ハ其ノ代理官ノ證明書ヲ支拂者ニ提出スルモノトス

第十九條 法第四條第一項ノ其ノ他ノ預金ハ商業組合、工業組合、貿易組合、漁業協同組合又ハ自動車運送事業組合ニ對スル貯金トス

第二十條 法第四條第一項ノ規定ニ依リ分類所得稅ノ免除ヲ受クベキ銀行預金、貯蓄銀行預金、產業組合貯金、前條ノ貯金、合同運用信託、國債、地方債又ハ社債ハ左ニ掲グルモノナルコトヲ要ス

一 契約期間二年以上ノ定期預金(契約ノ更新ニ依リ二年以上ノ期間繼續スベキコトヲ約シタル定期預金ヲ含ム)  
二 拂戻ニ付期限ヲ定ムル預金契約ノ期間二年以上ニシテ最終ノ預ケ入ノ時ヨリ拂戻ノ期限ニ至ル期間一年以上ナルコトヲ約シタル据置貯金

三 信託期間三年以上ノ合同運用信託  
四 國民貯蓄組合ヲ通ジテ郵便官署ニ保管ヲ委託シ又ハ登錄ヲ爲シタル三分半利付國債ニシテ二年以上ノ期間其ノ交付、賣却若ハ除却ノ請求又ハ讓渡ヲ爲サザルコトヲ約シタルモノ

三 當該貯蓄ニ關スル證券又ハ通帳若ハ證書ヲ會社經理統制令施行規則第二十四條第一項第一號(甲)ノ規定ニ準ジ當該會社ニ於テ保管スルモノトスルトキ  
四 組合員又ハ家族ノ病氣、災害其ノ他已ムヲ得ザル事由アリト認ムルトキ

第十八條 法第四條ノ規定ニ依リ利子又ハ利益ニ付分類所得稅ノ免除ヲ受クル預金、合同運用信託、國債、地方債又ハ社債ハ第二十條各號ニ規定スルモノニシテ左ノ要件ヲ備フルモノナルコトヲ要ス

一 組合員數當時十人以上ヲ有スル國民貯蓄組合ノ幹旋ニ依ルモノナルコト

二 第十五條ノ組合貯蓄臺帳ニ記載セラルベキモノナルコト  
前項第一號ノ組合ハ毎年一回同號ニ該當スルモノナルコトヲ證スル市町村長(市制第六條及第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ區長、町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノ以下同ジ)ノ證明書ヲ利子又ハ利益ノ支拂者ニ提出スベシ但シ陸海軍ノ官衙(學校ヲ含ム以下同ジ)又ハ工場事業場管理令ニ依リ陸軍大臣若ハ海軍大臣ノ管理スル工場事業場ニ於ケル組合ニ在リテハ當該官衙ノ長其ノ他陸軍大

五 國民貯蓄組合ヲ通ジテ郵便官署ニ保管ヲ委託シ又ハ登錄ヲ爲シタル地方債又ハ社債ニシテ二年以上ノ期間其ノ交付若ハ除却ノ請求又ハ讓渡ヲ爲サザルコトヲ約シタルモノ

第二十一條 法第四條第一項ノ元本額ハ支拂ヲ受クベキ預金ノ利子金額又ハ合同運用信託ノ利益金額ヲ年額ニ換算シタルモノヲ當該預金又ハ合同運用信託ノ年利率又ハ年利率ニ相當スル利率若ハ收益交付率ヲ以テ除シ之ヲ計算ス

第二十二條 同一ノ組合員ガ二口以上ノ第二十條第一號乃至第三號ノ預金又ハ合同運用信託ヲ有スルトキハ法第四條第一項ノ元本額ハ此等ノ銀行預金、貯蓄銀行預金、產業組合貯金、第十九條ノ貯金又ハ合同運用信託ヲ各別ニ合算シタルモノニ依リ之ヲ計算ス

同一ノ組合員ガ同一ノ郵便貯金通帳ヲ以テ保管ノ委託ヲ爲シタル二以上ノ第二十條第四號ノ國債ヲ有スルトキハ法第四條第一項ノ額面金額ハ各國債ノ額面金額ヲ合算シタルモノニ依リ之ヲ計算ス  
同一ノ組合員ガ登錄ヲ爲シタル二以上ノ第二十條第四號ノ國債ヲ有スル場合亦同シ  
同一ノ組合員ガ二以上ノ第二十條第五號ノ地方債ヲ有スル



トキハ法第四條第一項ノ額面金額ハ各地方債ノ額面金額ヲ合算シタルモノニ依リ之ヲ計算ス同一ノ組合員ガ二以上ノ

**第二十二條** 同一人ガ預金者貯蓄組合ノ幹旋ニ依ル二口以上ノ第二十條第一號又ハ第二號ノ預金ヲ有スルトキハ法第四條第一項ノ元本額ハ銀行預金、貯蓄銀行預金又ハ産業組合貯金ヲ各別ニ合算シタルモノニ依リ之ヲ計算ス

**第二十三條** 法第四條第一項ノ規定ニ依リ預金、合同運用信託又ハ國債ノ利子又ハ利益ニ付分類所得稅ノ免除ヲ受ケントスル者ハ當該預金、合同運用信託又ハ國債ガ組合貯蓄臺帳ニ記載セラルルモノナルコトヲ證スル組合長ノ證明書ヲ支拂者ニ提出スベシ

法第四條第一項ノ規定ニ依リ地方債又ハ社債ノ利子ニ付分類所得稅ノ免除ヲ受ケントスル者ハ當該地方債又ハ社債ガ組合貯蓄臺帳ニ記載セラルルモノナルコト及各組合員ノ名義ヲ以テ爲ササル貯蓄ナルトキハ當該地方債又ハ社債ノ額面金額ガ當該組合ノ幹旋ニ依リ買入レ分類所得稅ノ免除ヲ受ケル他ノ地方債又ハ社債ノ額面金額(以下他ノ地方債又ハ社債ノ額面金額ト稱ス)ト合算シテ七千圓以下ナルコトヲ證スル組合長ノ證明書ヲ支拂者ニ提出スベシ

**第二十四條** 國民貯蓄組合ノ代表者ノ名義ヲ以テ預金若ハ合同運用信託ヲ爲シ又ハ國債、地方債若ハ社債ノ保管ノ委託若ハ登錄ヲ爲ス場合ニ於テ法第四條第一項ノ規定ニ依リ分類所得稅ノ免除ヲ受ケントスルトキハ各組合員別ノ明細書(地方債又ハ社債ニ關スルトキハ他ノ地方債又ハ社債ノ額面金額ヲ附記スベシ)ヲ支拂者ニ提出スベシ但シ一組合員ノ支拂者毎ノ貯蓄現在高(地方債又ハ社債ニ關スルトキハ他ノ地方債又ハ社債ノ額面金額ヲ合算シタルモノ)ガ二千五百圓未滿ノモノニ付テハ其ノ組合員數及貯蓄ノ合計金額ノミヲ記載スルヲ以テ足ルモノトス

**第二十五條** 法第四條第一項ノ規定ニ依リ預金又ハ合同運用信託ノ利子又ハ利益ニ付分類所得稅ノ免除ヲ受ケタル者ガ其ノ契約ノ日ヨリ二年以内(合同運用信託ノ場合ハ當該信託契約ノ日ヨリ三年以内)ニ於テ全部又ハ一部ノ元本ノ拂戻ヲ受ケルトキハ當該元本ヨリ生ジタル利子又ハ利益ニ付免除ヲ受ケタル分類所得稅額ニ相當スル金額ヲ其ノ拂戻ノ際支拂者ニ於テ徵收スベシ

前項ノ場合ニ於テ拂戻ヲ受ケル元本ニ付拂戻ノ際未ダ支拂ヲ爲サザル利子又ハ利益アルトキハ其ノ利子又ハ利益ニ付テハ分類所得稅ノ免除ハ之ヲ爲サズ

前二項ノ規定ハ法第四條第一項ノ規定ニ依リ國債、地方債又ハ社債ノ利子ニ付分類所得稅ノ免除ヲ受ケタル者ガ其ノ保管ノ委託又ハ登錄ノ日ヨリ二年以内ニ當該國債、地方債又ハ社債ノ交付、賣却若ハ除却ノ請求又ハ讓渡ヲ爲ス場合ニ付之ヲ準用ス

**第二十六條** 國民貯蓄組合法第五條ノ規定ニ依リ補助金又ハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ガ收支計算ヲ明ニスベシ

**第二十七條** 大藏大臣法第六條ノ規定ニ依リ國民貯蓄組合ノ組織ヲ命ズル場合ニ於テハ組合ヲ組織スベキ者ノ範圍及組織スベキ期限ヲ指定シタル命令書ヲ組合員タルベキ者ニ送付ス

**第二十八條** 法第七條ノ規定ニ依リ帳簿書類其ノ他ノ物件ノ檢査ヲ爲ス當該官吏ハ其ノ身分ヲ示ス別記様式ニ依ル證票ヲ携帯スベシ

**第二十九條** 國民貯蓄組合ノ幹旋ニ依ル合同運用信託ニ限リ信託業法施行細則第八條ノ規定ニ依ル制限ハ之ヲ三百圓未滿トス

**第三十條** 貯蓄銀行ニ非ザル銀行法第九條ノ規定ニ依リ貯蓄銀行法第一條第一項第一號又ハ第三號ニ掲グル業務ヲ營マ

ントスルトキハ業務ノ種類及方法ヲ記載シタル届出書ヲ大藏大臣ニ提出スベシ

貯蓄銀行法施行細則第二條及第三條ノ規定ハ前項ノ届出書ニ付之ヲ準用ス

**第三十一條** 貯蓄銀行ニ非ザル銀行前條ノ業務ノ種類又ハ方法ヲ變更セントスルトキハ其ノ内容及事由ヲ記載シタル届出書ヲ大藏大臣ニ提出スベシ

**第三十二條** 貯蓄銀行ニ非ザル銀行法第九條ノ規定ニ依リ預金ヲ受入レタルトキハ別ニ帳簿ヲ備ヘ其ノ元利ノ受拂ニ關スル事項ヲ記載スベシ

**第三十三條** 貯蓄銀行法第九條第三項及貯蓄銀行法施行細則第五條乃至第八條ノ規定ハ法第十條第一項ノ規定ニ依リ國債ノ供託ニ付之ヲ準用ス

**第三十四條** 銀行法施行細則第二十九條ノ規定ハ第三十五條、第三十六條並ニ前條ノ規定ニ於テ準用スル貯蓄銀行法施行細則第七條及第八條ノ規定ニ依リ貯蓄銀行ニ非ザル銀行ノ大藏大臣ニ提出スベキ書類ニ付之ヲ準用ス

**第三十五條** 國民貯蓄組合ノ提出スベキ書類ハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テ各其ノ定ムル所ニ依ルノ外之ヲ一通作成シ當該組合ノ主タル事務所所在地ヲ管轄スル市町村長ヲ經



國民貯蓄組合法施行規則

- テ地方長官ニ提出スベシ
- 一 陸海軍ノ官衙ニ於ケル組合ニ在リテハ之ヲ二通作成シ大藏大臣ニ提出スベシ
  - 二 工場事業場管理令ニ依リ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ管理スル工場事業場ニ於ケル組合ニ在リテハ之ヲ二通作成シ大藏大臣ニ提出スベシ但シ勤務者數當時千人以上ノ工場事業場ニ於ケル組合ニ在リテハ第十三條、第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ提出スベキ書類ニ付テハ之ヲ三通トス
  - 三 工場法、鑛業法又ハ砂鑛法ノ適用ヲ受クル工場又ハ事業場ニ於ケル組合ニ在リテハ前號但書ノ書類ハ之ヲ二通作成シ當該組合ノ主タル事務所所在地ヲ管轄スル市町村長ヲ經テ地方長官ニ提出スベシ但シ勤務者數當時千人以上ノ工場又ハ事業場ニ於ケル組合ニ在リテハ夫々一通ヲ加フルモノトス
  - 四 資本金千萬圓以上ノ會社ノ事務所、營業所又ハ之ニ準ズベキモノニシテ其ノ役員及職員ノ數當時百人以上ノモノニ於ケル組合ニ在リテハ第十三條、第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ提出スベキ書類ハ之ヲ二通作成シ當該組合ノ主タル事務所所在地ヲ管轄スル市町村長ヲ經テ地方

長官ニ提出スベシ

第三十六條 第十條第二項及第十二條ノ規定ハ陸海軍ノ官衙ニ於ケル國民貯蓄組合ニ之ヲ適用セズ

本令ニ地方長官トアルハ陸海軍ノ官衙又ハ工場事業場管理令ニ依リ陸軍大臣若ハ海軍大臣ノ管理スル工場事業場ニ於ケル國民貯蓄組合ニ在リテハ之ヲ大藏大臣トス

別記様式

(用紙寸法縱五寸五分  
横二寸五分)

官氏名
國民貯蓄獎勵局 (又ハ道府縣)
國民貯蓄獎勵局又 ハ道府縣 印

國民貯蓄組合法第七條ノ規定ニ基ク  
檢査章

裏面

第 號 昭和 年 月 日交付

●社債等登録法

昭和十七年二月十八日  
法律第十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル社債等登録法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

社債等登録法

第一條 本法ハ資金ノ蓄積及金融機關ノ資金ノ合理的運用等ニ資スルヲ以テ目的トス

社債等登録法

- 第二條 社債ノ登録ハ勅令ヲ以テ定ムル法人(以下登録機關ト稱ス)ヲシテ之ヲ取扱ハシム
- 第三條 社債ノ登録ハ社債權者ノ請求ニ依リテ之ヲ爲ス登録機關ハ正當ノ事由アルニ非ザレバ社債ノ登録ヲ拒ムコトヲ得ズ
- 第四條 登録ヲ爲シタル社債ニ付テハ債券ハ之ヲ發行セズ登録機關債券ヲ發行シタル社債ニ付登録ヲ爲ストキハ其ノ債券ヲ回收スルコトヲ要ス
- 第五條 登録ヲ爲シタル無記名社債ヲ移轉シ若ハ之ヲ以テ擔保權ノ目的ト爲シ又ハ之ヲ信託財產ト爲シタルトキハ其ノ登録ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ以テ社債ヲ發行シタル會社其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ
- 第六條 法令ニ依リ擔保トシテ社債ヲ供託スル場合ニ於テハ登録ヲ爲シタル社債ニ付テハ其ノ登録ヲ受ケ之ニ代フルコトヲ得



社債等登録法施行令

第七條 社債権者ハ登録ヲ爲シタル社債ニ付何時ニテモ登録ノ抹消ヲ請求スルコトヲ得

第八條 登録機關ハ社債登録簿ヲ備置クコトヲ要ス

第九條 主務大臣ハ登録事務ニ關シ登録機關ヲ監督ス

第十條 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ登録機關ヲシテ登録事務ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ當該官吏ヲシテ登録事務ヲ検査シ若ハ社債登録簿其ノ他ノ書類ヲ検査セシムルコトヲ得

第十一條 左ノ場合ニ於テハ登録機關ノ業務ヲ執行スル役員ヲ五千圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

二 前條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタルトキ

第十二條 登録事務ニ從事スル登録機關ノ職員ハ之ヲ法令ニ依リ公務ニ從事スル職員ト看做ス

第十三條 本法ハ命令ヲ以テ定ムル社債ニハ之ヲ適用セズ

第十四條 本法ハ地方債、特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル法人ニシテ會社ニ非ザルモノノ發行スル債券及命令ヲ以テ定ムル外國又ハ外國法人ノ發行スル公債又ハ社債ニ之ヲ準

用ス

第十五條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外登録並ニ登録ヲ爲シタル社債、地方債、特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル法人ニシテ會社ニ非ザルモノノ發行スル債券及命令ヲ以テ定ムル外國又ハ外國法人ノ發行スル公債又ハ社債ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和十七年勅令第四百八號ヲ以テ昭和十七年五月一日ヨリ施行)

有價證券移轉税法第三條中「甲種國債登録簿ニ登録シタル國債ニ付テノ名義變更」ノ下ニ「社債等登録法ニ依リ登録シタル社債、地方債又ハ外國若ハ外國法人ノ發行スル公債若ハ社債ニ付テノ名義變更」ヲ加フ

●社債等登録法施行令

昭和十七年四月十一日  
勅令第四百九號

朕社債等登録法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
社債等登録法施行令

第一章 總則

第一條 社債等登録法第二條ノ規定ニ依リ社債ノ登録ヲ取扱フベキ法人(以下登録機關ト稱ス)ハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テ各其ノ定ムル所ニ依ルノ外日本興業銀行トス

一 主務大臣ノ指定スル會社ガ社債ヲ發行シタルトキハ當該社債ニ付テハ其ノ會社

二 前號ニ該當スル場合ヲ除クノ外主務大臣ノ指定スル會社ガ擔保附社債信託法ニ依リ受託會社ト爲リタルトキ、社債募集ノ委託ヲ受ケタルトキ又ハ社債ノ總額ヲ引受ケタルトキハ當該社債ニ付テハ其ノ會社但シ當該社債ニ付擔保附社債信託法ニ依リ受託會社トシ擔保附社債信託法ニ依リ受託會社、社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社又ハ社債ノ總額ヲ引受ケタル會社ニ以上アルトキハ主務大臣ノ指定スル會社トス

主務大臣前項ノ指定ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示ス

第二條 登録ヲ爲シタル社債(以下登録社債ト稱ス)ニ關シ登録シタル權利ノ順位ハ登録ノ前後ニ依ル

登録ノ前後ハ登録用紙中同一欄ニ爲シタル登録ニ付テハ順位番號ニ依リ別欄ニ爲シタル登録ニ付テハ受附番號ニ依

社債等登録法施行令

ル

第三條 附記登録ノ順位ハ主登録ノ順位ニ依リ附記登録間ノ順位ハ其ノ前後ニ依ル

第四條 社債ノ登録ハ相續、遺贈、合併、強制執行其ノ他此等ニ準ズベキ事由ニ因リ社債ノ移轉ノ登録ヲ請求スル場合ヲ除クノ外社債ノ償還又ハ利息ノ支拂ノ期日前三週間ハ之ヲ請求スルコトヲ得ズ

第五條 登録機關社債ノ登録ヲ爲シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ遲滞ナク其ノ旨ヲ社債原簿ヲ備フル會社ニ通知スルコトヲ要ス

社債原簿ヲ備フル會社前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ社債原簿ニ記載スルコトヲ要ス

第六條 社債登録簿ノ調製其ノ他登録ニ關シ必要ナル事項ハ主務大臣之ヲ定ム

第七條 社債登録簿ノ全部又ハ一部ガ滅失シタル場合ニ於テ其ノ再製又ハ登録ノ回復ニ關スル手續ハ主務大臣之ヲ定ム

第八條 社債登録簿及其ノ附屬書類滅失スル虞アルトキハ主務大臣ハ必要ナル處分ヲ命ズルコトヲ得

第九條 登録社債権者其ノ他ノ利害關係人ハ社債登録簿及其



ノ附屬書類ノ閲覧又ハ社債登録簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第十條 登録機關ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ社債ノ登録、社債登録簿及其ノ附屬書類ノ閲覧又ハ社債登録簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付ニ付手数料ヲ徴スルコトヲ得

登録機關前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要ス

第十一條 主務大臣社債等登録法第十條ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ登録事務ヲ検査シ又ハ社債登録簿其ノ他ノ書類ヲ検査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムルコトヲ要ス

第十二條 本令ハ地方債、特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル法人ニシテ會社ニ非ザルモノノ發行スル債券及命令ヲ以テ定ムル外國又ハ外國法人ノ發行スル公債又ハ社債ニ之ヲ準用ス但シ地方債ニシテ主務大臣ノ指定スルモノ、産業債券、更生債券、住宅債券及農地開發債券ノ登録ヲ取扱フベキ法人ハ日本勸業銀行トス

第一條第二項ノ規定ハ前項但書ノ指定アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第二章 登録手續

ク囑託書ニ差押命令ノ正本又ハ謄本ヲ添附シテ差押ノ登録ヲ登録機關ニ囑託スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ登録社債ニ付假差押、假處分又ハ滯納處分ニ因ル差押アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 前條ノ場合ニ於テ必要アルトキハ官廳又ハ公署ハ登録名義人又ハ其ノ相續人其ノ他ノ一般承繼人ニ代リ登録名義人ノ表示ノ變更又ハ相續其ノ他ノ一般承繼ニ因ル權利移轉ノ登録ヲ登録機關ニ囑託スルコトヲ要ス

第二十八條及第三十二條第二項ノ規定ハ前項ノ登録ニ之ヲ準用ス

第二十條 登録ヲ請求スル場合ニ於テハ左ノ書面ヲ提出スルコトヲ要ス

- 一 請求書
  - 二 登録義務者ノ權利ニ關スル登録證書
  - 三 登録原因ニ付第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ要スルトキハ之ヲ證スル書面
  - 四 代理人ニ依リテ登録ヲ請求スルトキハ其ノ權限ヲ證スル書面
- 第二十一條 請求書ニハ左ノ事項ヲ記載シ請求者之ニ記名捺印スルコトヲ要ス

社債等登録法施行令

第一節 通則

第十三條 登録ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外當事者ノ請求又ハ官廳若ハ公署ノ囑託アルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

請求ニ因ル登録ニ關スル規定ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外囑託ニ因ル登録ニ之ヲ準用ス

第十四條 登録ハ登録權利者及登録義務者又ハ其ノ代理人之ヲ請求スルコトヲ要ス但シ請求書ニ登録義務者ノ承諾書ヲ添附シタルトキハ登録權利者ノミニテ之ヲ請求スルコトヲ得

第十五條 判決又ハ相續其ノ他ノ一般承繼ニ因ル登録ハ登録權利者ノミニテ之ヲ請求スルコトヲ得

第十六條 登録名義人ノ表示ノ變更ノ登録ハ登録名義人ノミニテ之ヲ請求スルコトヲ得

第十七條 社債ノ償還及利息ノ支拂ヲ受クベキ場所ノ變更ノ登録ハ登録社債權者ノミニテ之ヲ請求スルコトヲ得但シ登録上利害關係ヲ有スル第三者アル場合ニ於テハ請求書ニ其ノ第三者ノ承諾書又ハ其ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ベキ判決ノ正本若ハ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第十八條 登録社債ヲ差押ヘタルトキハ執行裁判所ハ遲滯ナ

一 社債ヲ發行シタル會社ノ商號、社債ノ種類及社債ノ總額ガ數回ニ分チ發行セラレタル場合ニ於テハ其ノ回號(以下社債ノ名稱ト稱ス)

二 請求者ノ氏名及住所

三 代理人ニ依リテ登録ヲ請求スルトキハ其ノ氏名及住所

四 登録原因及其ノ日附

五 登録ノ目的

六 登録機關ノ表示

七 年月日

第二十二條 登録原因ニ登録ノ目的タル權利ノ消滅ニ關スル事項ノ定アルトキハ請求書ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十三條 登録權利者ガ多數ナル場合ニ於テ登録原因ニ持分ノ定アルトキハ請求書ニ其ノ持分ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十四條 判決ニ因リ登録ヲ請求スル場合ニ於テハ請求書ニ判決ノ正本又ハ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ第二十條第二號及第三號ノ書面ハ之ヲ提出スルコトヲ要セズ

第二十五條 左ノ場合ニ於テハ請求書ニ其ノ事實ヲ證スル戸



籍若ハ登記簿ノ謄本若ハ抄本又ハ此等ニ準ズベキ書面ヲ添  
付スルコトヲ要ス

- 一 登録原因ガ相續其ノ他ノ一般承繼ナルトキ
- 二 請求者ガ登録權利者又ハ登録義務者ノ相續人其ノ他ノ  
一般承繼人ナルトキ

三 登録名義人ノ表示ノ變更ノ登録ヲ請求スルトキ

第二十六條 登録ヲ請求スル場合ニ於テ第三者ノ許可、同意  
又ハ承諾ヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要スルトキハ其ノ  
第三者ヲシテ請求書ニ記名捺印セシメ其ノ書面ノ提出ニ代  
フルコトヲ得

第二十七條 同一ノ登録機關ノ取扱フベキ同一名稱ノ數口ノ  
社債ニ關スル登録ハ登録原因及登録ノ目的ガ同一ナルトキ  
ニ限り同一ノ請求書ヲ以テ之ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條 債權者ガ民法第四百二十三條ノ規定ニ依リ債務  
者ニ代位シテ登録ヲ請求スル場合ニ於テハ請求書ニ債權者  
及債務者ノ氏名及住所並ニ代位原因ヲ記載シ且代位原因ヲ  
證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第二十九條 左ノ場合ニ於テハ登録機關ハ登録ヲ爲スコトヲ  
得ズ

- 一 請求事項ガ當該登録機關ノ取扱フベキ社債ニ關スルモ

登録済證ヲ喪失シタル者ハ登録機關ニ對シ命令ノ定ムル所  
ニ依リ登録済證ノ再交付ヲ請求スルコトヲ得

第三十二條 登録機關登録ヲ完了シタル後其ノ登録ニ付錯誤  
又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ登  
録權利者及登録義務者ニ通知スルコトヲ要ス

前項ノ通知ハ第二十八條ノ場合ニ於テハ債權者ニ對シテモ  
亦之ヲ爲スコトヲ要ス

前二項ノ規定ニ依ル通知ハ登録權利者、登録義務者又ハ債  
權者ガ多數ナルトキハ其ノ一人ニ對シテ之ヲ爲スヲ以テ足  
ル

第三十三條 前條ノ場合ニ於テ登録ノ錯誤又ハ遺漏ガ登録機  
關ノミノ過誤ニ出デタルトキハ登録機關ハ登録上利害關係  
ヲ有スル第三者アル場合ヲ除クノ外遲滞ナク其ノ登録ノ更  
正ヲ爲シ其ノ旨ヲ登録權利者及登録義務者ニ通知スルコト  
ヲ要ス

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十四條 第三十條ノ規定ハ登録ノ更正ヲ爲ス場合ニ之ヲ  
準用ス

第三十五條 抹消シタル登録ノ回復ヲ請求スル場合ニ於テ登  
録上利害關係ヲ有スル第三者アルトキハ請求書ニ其ノ第三

ノニ非ザルトキ

- 二 請求事項ガ登録スベキモノニ非ザルトキ
- 三 請求書ガ方式ニ適合セザルトキ
- 四 請求書ニ掲グル登録社債又ハ登録ノ目的タル權利ノ表  
示ガ社債登録簿ト符合セザルトキ

五 第二十五條第二號ニ規定スル書面ヲ添付スル場合ヲ除  
クノ外請求書ニ掲グル登録義務者ノ表示ガ社債登録簿ト  
符合セザルトキ

六 請求書ニ掲グル事項ガ第二十四條前段又ハ第二十五條  
ノ書面ト符合セザルトキ

七 必要ナル書面ヲ提出又ハ添付セザルトキ  
請求者ガ登録ノ手数料ヲ納付セザル場合ニ於テハ登録機關  
ハ登録ヲ爲サザルコトヲ得

第三十條 權利ノ變更ノ登録ヲ請求スル場合ニ於テ登録上利  
害關係ヲ有スル第三者アルトキハ請求書ニ其ノ第三者ノ承  
諾書又ハ其ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ベキ判決ノ正本若  
ハ謄本ヲ添付シタルトキニ限り附記ニ依リテ其ノ登録ヲ爲  
ス

第三十一條 登録機關登録ヲ完了シタルトキハ命令ノ定ムル  
所ニ依リ登録済證ヲ交付スルコトヲ要ス

者ノ承諾書又ハ其ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ベキ判決ノ  
正本若ハ謄本ヲ添付スルコトヲ要ス

第二節 社債ニ關スル登録手續

第三十六條 社債權者未登録ノ社債ノ登録ヲ請求スル場合ニ  
於テハ請求書ニ左ノ事項ヲ記載シ且債券及支拂期ノ未ダ到  
來セザル利札ヲ添付スルコトヲ要ス

- 一 登録スベキ各社債ノ金額
- 二 債券ノ番號及數
- 三 支拂期ノ未ダ到來セザル利札中欠缺セルモノアルトキ  
ハ其ノ數及支拂期

四 社債ノ償還及利息ノ支拂ヲ受クベキ場所  
未ダ債券ヲ發行セザル社債ノ登録ヲ請求スル場合ニ於テハ  
請求書ニ前項第一號及第四號ニ掲グル事項ノ外各社債ノ拂  
込金額及債券ヲ發行スベキ場合ニ於ケル債券ノ番號ヲ記載  
シ且當該事實ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

前二項ノ場合ニ於テハ請求書ニ登録原因及其ノ日附ヲ記載  
シ又ハ第二十二條第二號及第三號ノ書面ヲ提出スルコトヲ要  
セズ

第三十七條 社債ノ應募又ハ引受ヲ爲サントスル者ハ應募又  
ハ引受ノ際豫メ社債ノ登録ノ請求ヲ爲スコトヲ得此ノ場合



ニ於テハ請求書ニ前條第一項第一號及第四號ニ掲グル事項ノ外社債ヲ發行スル會社(社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社アルトキハ其ノ會社)ノ商號ヲ記載シ之ヲ當該會社ニ提出スルコトヲ要ス

社債ヲ發行スル會社(社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社アルトキハ其ノ會社)ハ前項ノ請求書ニ各社債ノ金額、拂込金額、口數及債券ヲ發行スベキ場合ニ於ケル債券ノ番號ヲ附記シ之ヲ登録機關ニ送付スルコトヲ要ス  
前條第三項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條 登録社債ノ移轉ノ登録ヲ請求スル場合ニ於テハ請求書ニ移轉シタル各社債ノ金額、口數及債券ノ番號並ニ當該社債ノ移轉ヲ受ケタル者ガ社債ノ償還及利息ノ支拂ヲ受クベキ場所ヲ記載シ一部移轉ノ場合ニ於テハ其ノ部分ヲ表示スルコトヲ要ス

第三節 擔保權ニ關スル登録手續

第三十九條 質權(轉質ノ場合ヲ含ム以下同ジ)ノ設定ノ登録ヲ請求スル場合ニ於テハ請求書ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス  
一 質權ノ目的ト爲スベキ各社債ノ金額、口數及債券ノ番號

二 債權額

三 登録原因ニ付辨濟期、利息、違約金若ハ賠償額ニ關スル定若ハ民法第三百四十六條但書ノ規定ニ依ル定アルトキ又ハ債權ニ條件ヲ附シタルトキハ其ノ事項

四 質權設定者ガ債務者ニ非ザルトキハ債務者ノ氏名及住所

一定ノ金額ヲ目的トセザル債權ノ擔保タル質權ノ設定ノ登録ヲ請求スル場合ニ於テハ請求書ニ其ノ債權ノ價額ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十條 質權ノ移轉ノ登録ヲ請求スル場合ニ於テハ請求書ニ質權ガ債權ト共ニ移轉スルヤ否ヤヲ記載スルコトヲ要ス  
債權ノ一部讓渡又ハ代位辨濟ニ因ル質權ノ移轉ノ登録ヲ請求スル場合ニ於テハ請求書ニ讓渡又ハ代位辨濟ノ目的タル債權額ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十一條 質權ノ移轉及轉質ノ登録ハ附記ニ依リテ之ヲ爲ス

第四十二條 社債等登録法第六條ノ規定ニ依リ擔保權ノ登録ヲ請求スル場合ニ於テハ請求書ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス  
一 擔保權ノ目的ト爲スベキ各社債ノ金額、口數及債券ノ

番號

二 供託スベキ法令ノ條項

三 擔保權者ノ表示

前項ノ登録ハ供託ヲ爲スベキ者ノミニテ之ヲ請求スルコトヲ得

前二條ノ規定ハ第一項ノ擔保權ノ移轉ノ登録ニ之ヲ準用ス

第四節 信託ニ關スル登録手續

第四十三條 社債ノ信託ノ登録ニ付テハ受託者ヲ登録權利者トシ委託者ヲ登録義務者トス

第四十四條 左ニ掲グル社債ノ信託ノ登録ハ受託者ノミニテ之ヲ請求スルコトヲ得

一 信託財産ニ屬スル無記名社債ニシテ其ノ債券ニ信託法

第三條第二項ノ規定ニ依ル信託財産ナルコトノ表示アル

モノノ信託ノ登録

二 信託法第十四條ノ規定ニ依リテ信託財産ニ屬スル社債ノ信託ノ登録

三 信託法第二十七條ノ規定ニ基キ復舊スル社債ノ信託ノ登録

第四十五條 受益者又ハ委託者ハ受託者ニ代位シテ社債ノ信

託ノ登録ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル代位登録ノ請求ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ請求書ニ登録スベキ社債ガ信託財産ナルコトヲ證明スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第四十六條 社債ノ信託ノ登録ハ第二項ニ規定スル場合ヲ除クノ外信託ニ因ル當該社債ノ移轉ノ登録ノ請求ト同一ノ書面ヲ以テ之ヲ請求スルコトヲ要ス但シ前條第一項ノ規定ニ依リ受益者又ハ委託者ガ受託者ニ代位シテ社債ノ信託ノ登録ヲ請求スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四十四條第一號ノ社債ノ信託ノ登録ハ第三十六條第一項ノ規定ニ依ル當該社債ノ登録ノ請求ト同一ノ書面ヲ以テ之ヲ請求スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ信託法第十四條ノ規定ニ依リテ信託財産ニ屬スル社債ノ信託ノ登録ヲ請求スルコトヲ準用ス

第四十七條 受託者更迭ノ場合ニ於テ登録社債ノ移轉ノ登録ヲ請求スルニハ請求書ニ其ノ更迭ヲ證明スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ信託法第五十條第二項ノ場合ニ於テ爲スベキ變更ノ登録ニ之ヲ準用ス

第四十八條 受託者ノ任務ガ死亡、破産、禁治産、準禁治産



又ハ裁判所若ハ主務官廳ノ解任命令ニ因リテ終了シタルト  
キハ前條ノ登録ハ新受託者又ハ他ノ受託者ノミニテ之ヲ請  
求スルコトヲ得受託者タル法人ノ任務ガ解散ニ因リテ終了  
シタルトキ亦同ジ

第四十九條 社債ノ信託ノ登録ヲ請求スル場合ニ於テハ請求  
書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

- 一 委託者、受託者、受益者及信託管理人ノ氏名及住所
- 二 信託ノ目的
- 三 信託財産ノ管理方法
- 四 信託終了ノ事由
- 五 其ノ他信託ノ條項

前項ノ書面ニハ請求者記名捺印スルコトヲ要ス

第五十條 前條ノ規定ニ依リ請求書ニ添付シタル書面ハ之ヲ  
信託原簿トス

信託原簿ハ之ヲ社債登録簿ノ一部ト看做シ其ノ記載ハ之ヲ  
登録ト看做ス

第五十一條 裁判所ガ信託管理人ヲ選任シ又ハ解任シタルト  
キハ遲滞ナク信託原簿ノ記載ヲ登録機關ニ囑託スルコトヲ  
要ス主務官廳ガ信託管理人ヲ選任シタルトキ亦同ジ  
前項ノ規定ハ裁判所又ハ主務官廳ガ受託者ヲ解任シタル場  
合ニ於テハ之ヲ準用ス

合ニ之ヲ準用ス

第五十二條 前條第一項ノ規定ハ裁判所ガ信託財産ノ管理方  
法ヲ變更シ又ハ主務官廳ガ信託ノ條項ヲ變更シタル場合ニ  
之ヲ準用ス

第五十三條 第四十七條又ハ第四十八條ノ場合ニ於テ登録ヲ  
爲シタルトキハ登録機關ハ職權ヲ以テ信託原簿ノ記載ヲ爲  
スコトヲ要ス

第五十四條 第四十七條、第四十八條、第五十一條及第五十  
二條ノ場合ヲ除クノ外第四十九條第一項ニ掲グル事項ニ變  
更ヲ生ジタルトキハ受託者ハ遲滞ナク其ノ變更ヲ證スル書  
面ヲ添付シテ信託原簿ノ記載ヲ請求スルコトヲ要ス  
受益者又ハ委託者ハ受託者ニ代位シテ前項ノ請求ヲ爲スコ  
トヲ得

第二十八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ請求ニ之ヲ準用ス

第五十五條 登録機關第五十一條第二項ノ規定ニ依リ信託原  
簿ノ記載ヲ爲シタルトキハ職權ヲ以テ社債登録簿ニ其ノ旨  
ヲ附記スルコトヲ要ス

第五節 抹消ニ關スル登録手續

第五十六條 社債權者第三十六條第一項第二項又ハ第三十七  
條第一項ノ規定ニ依リ社債ノ登録ノ抹消ヲ請求スル場合ニ

於テハ請求書ニ登録ヲ抹消スベキ各社債ノ金額、口數及債  
券ノ番號ヲ記載シ且當該社債權者ノ權利ニ關スル登録濟證  
ヲ提出スルコトヲ要ス

第三十六條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十七條 登録權利者ガ登録義務者ノ行方ノ知レザルニ因  
リ登録ノ抹消ヲ請求スルコト能ハザルトキハ民事訴訟法ノ  
規定ニ從ヒ公示催告ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ除權判決アリタルトキハ請求書ニ其ノ正  
本又ハ謄本ヲ添付シ登録權利者ノミニテ登録ノ抹消ヲ請求  
スルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ請求書ニ債權證書又ハ登録セラレタル  
債務ノ辨濟證書ヲ添付シタルトキハ登録權利者ノミニテ債  
權ニ關スル登録ノ抹消ヲ請求スルコトヲ得

第五十八條 信託財産ニ屬スル登録社債ガ移轉ニ因リ信託財  
産ニ屬セザルニ至リタル場合ニ於テ爲スベキ信託ノ登録ノ  
抹消ハ移轉ノ登録ノ請求ト同一ノ書面ヲ以テ之ヲ請求スル  
コトヲ要ス

前項ノ規定ハ信託財産ニ屬スル登録社債ガ信託ノ終了ニ因  
リ移轉シタル場合ニ之ヲ準用ス

第五十九條 登録社債ニ對スル強制執行手續ノ完結シタルト

キハ執行裁判所ハ遲滞ナク囑託書ニ之ヲ證スル書面ヲ添附  
シテ差押ノ登録ノ抹消ヲ登録機關ニ囑託スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ登録社債ニ對スル假差押、假處分又ハ滯納處  
分ニ因ル差押ノ手續ガ完結シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十條 社債等登録法第六條ノ規定ニ依リ爲シタル擔保權  
ノ登録ハ請求書ニ其ノ擔保ノ事由ノ止ミタルコトヲ證スル  
書面ヲ添付シ擔保ヲ供シタル者又ハ其ノ承繼人ノミニテ其  
ノ抹消ヲ請求スルコトヲ得

第六十一條 登録ノ抹消ヲ請求スル場合ニ於テ登録上利害關  
係ヲ有スル第三者アルトキハ請求書ニ其ノ第三者ノ承諾書  
又ハ其ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ベキ判決ノ正本若ハ謄  
本ヲ添付スルコトヲ要ス

第三章 雜則

第六十二條 登録ヲ爲シタル無記名社債ノ社債權者ニ關シテ  
ハ商法第三百二十條第四項及第三百二十一條第二項並ニ擔  
保附社債信託法第五十二條第二項及第九十五條第二項ノ規  
定ノ適用ニ付テハ登録濟證ノ供託ヲ以テ債券ノ供託ト看做  
ス

第六十三條 社債等登録法ニ依リ報國債券ノ登録ヲ爲シタル  
トキハ臨時資金調整法第十四條ノ五ノ規定ノ適用ニ付テハ



社債等登録法施行規則

同條ノ規定ニ依リ保管ヲ委託シタルモノト看做ス

第六十四條 社債ノ登録ノ抹消アリタルトキハ社債権者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ債券ノ發行ヲ請求スルコトヲ得

第六十五條 社債ヲ發行シタル會社登録社債ノ償還ヲ爲シタルトキハ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社又ハ擔保附社債信託法ニ依ル受託會社ニ對シ償還ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外

選滯ナク之ヲ證スル書面ヲ添附シテ其ノ旨ヲ書面ニ依リテ登録機關ニ通知スルコトヲ要ス擔保附社債信託法ニ依ル受託會社又ハ同法第二十九條第一項ノ規定ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ガ登録社債ノ償還ヲ爲シタルトキ亦同ジ

前項ノ規定ハ登録社債権者ノ爲ニ社債ノ償還ヲ受ケタル社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社又ハ擔保附社債信託法ニ依ル受託會社ガ當該社債権者ニ對シ當該償還額ノ支拂ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

登録機關前二項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ職權ヲ以テ選滯ナク其ノ事由ヲ記載シテ當該社債ノ登録ヲ抹消スルコトヲ要ス

第六十六條 登録機關必要アリト認ムルトキハ當該登録機關ニ於テ登録ヲ取扱フベキ社債ヲ發行シタル會社ニ對シ當該

同條ノ規定ニ依リ保管ヲ委託シタルモノト看做ス

第六十七條 社債等登録法及本令中主務大臣トアルハ大藏大臣及司法大臣トス

社債ニ付發行セラレタル債券ノ見本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

第六十七條 社債等登録法及本令中主務大臣トアルハ大藏大臣及司法大臣トス

附則 本令ハ社債等登録法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●社債等登録法施行規則

昭和十七年四月十五日  
大藏 司法省令第一號

社債等登録法施行規則左ノ通定ム

社債等登録法施行規則

第一章 總則

第一條 社債等登録法第二條ノ規定ニ依リ社債ノ登録ヲ取扱フベシ法人(以下登録機關ト稱ス)ノ役員又ハ使用人ニシテ當該事務ニ從事スルモノハ同法第十二條第一項ノ規定ニ依リ法令ニ依リ公務ニ從事スル職員ト看做ス

第二條 社債等登録法ハ左ニ掲グル社債ニハ之ヲ適用セズ

一 同法ノ施行地域ニ於テ社債ノ償還又ハ利息ノ支拂ヲ爲サザル社債

額ガ數回ニ分チ發行セラレタル場合ニ於テハ其ノ回號ヲ謂フ以下同ジ)並ニ各社債ノ金額、口數及債券ノ番號

第五條 登録機關令第三十六條第一項ノ規定ニ依ル登録ノ請求ニ基キ未登録ノ社債ノ登録ヲ爲シタルトキハ請求書ニ添附シタル債券及利札ハ之ヲ債券ヲ發行シタル會社ニ送付スルコトヲ要ス

第六條 社債権者令第六十四條ノ規定ニ依リ債券ノ發行ヲ請求スルトキハ社債ノ登録ノ抹消ノ請求書ニ債券發行ノ請求書ヲ添付スルコトヲ要ス

債券發行ノ請求書ニハ左ノ事項ヲ記載シ請求者之ニ記名捺印スルコトヲ要ス

一 社債ノ名稱

二 債券ノ發行ヲ請求スル各社債ノ金額、口數及債券ノ番號

三 請求者ノ氏名及住所

四 代理人ニ依リテ請求スルトキハ其ノ氏名及住所

五 債券ヲ發行スル會社ノ商號

六 年月日

第一項ノ請求アリタル場合ニ於テ社債ノ登録ヲ抹消スベキ

社債等登録法施行規則

社債等登録法施行規則

同條ノ規定ニ依リ保管ヲ委託シタルモノト看做ス

第六十四條 社債ノ登録ノ抹消アリタルトキハ社債権者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ債券ノ發行ヲ請求スルコトヲ得

第六十五條 社債ヲ發行シタル會社登録社債ノ償還ヲ爲シタルトキハ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社又ハ擔保附社債信託法ニ依ル受託會社ニ對シ償還ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外

選滯ナク之ヲ證スル書面ヲ添附シテ其ノ旨ヲ書面ニ依リテ登録機關ニ通知スルコトヲ要ス擔保附社債信託法ニ依ル受託會社又ハ同法第二十九條第一項ノ規定ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ガ登録社債ノ償還ヲ爲シタルトキ亦同ジ

前項ノ規定ハ登録社債権者ノ爲ニ社債ノ償還ヲ受ケタル社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社又ハ擔保附社債信託法ニ依ル受託會社ガ當該社債権者ニ對シ當該償還額ノ支拂ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

登録機關前二項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ職權ヲ以テ選滯ナク其ノ事由ヲ記載シテ當該社債ノ登録ヲ抹消スルコトヲ要ス

第六十六條 登録機關必要アリト認ムルトキハ當該登録機關ニ於テ登録ヲ取扱フベキ社債ヲ發行シタル會社ニ對シ當該

同條ノ規定ニ依リ保管ヲ委託シタルモノト看做ス

第六十七條 社債等登録法及本令中主務大臣トアルハ大藏大臣及司法大臣トス

社債ニ付發行セラレタル債券ノ見本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

第六十七條 社債等登録法及本令中主務大臣トアルハ大藏大臣及司法大臣トス

附則 本令ハ社債等登録法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●社債等登録法施行規則

昭和十七年四月十五日  
大藏 司法省令第一號

社債等登録法施行規則左ノ通定ム

社債等登録法施行規則

第一章 總則

第一條 社債等登録法第二條ノ規定ニ依リ社債ノ登録ヲ取扱フベシ法人(以下登録機關ト稱ス)ノ役員又ハ使用人ニシテ當該事務ニ從事スルモノハ同法第十二條第一項ノ規定ニ依リ法令ニ依リ公務ニ從事スル職員ト看做ス

第二條 社債等登録法ハ左ニ掲グル社債ニハ之ヲ適用セズ

一 同法ノ施行地域ニ於テ社債ノ償還又ハ利息ノ支拂ヲ爲サザル社債

額ガ數回ニ分チ發行セラレタル場合ニ於テハ其ノ回號ヲ謂フ以下同ジ)並ニ各社債ノ金額、口數及債券ノ番號

第五條 登録機關令第三十六條第一項ノ規定ニ依ル登録ノ請求ニ基キ未登録ノ社債ノ登録ヲ爲シタルトキハ請求書ニ添附シタル債券及利札ハ之ヲ債券ヲ發行シタル會社ニ送付スルコトヲ要ス

第六條 社債権者令第六十四條ノ規定ニ依リ債券ノ發行ヲ請求スルトキハ社債ノ登録ノ抹消ノ請求書ニ債券發行ノ請求書ヲ添付スルコトヲ要ス

債券發行ノ請求書ニハ左ノ事項ヲ記載シ請求者之ニ記名捺印スルコトヲ要ス

一 社債ノ名稱

二 債券ノ發行ヲ請求スル各社債ノ金額、口數及債券ノ番號

三 請求者ノ氏名及住所

四 代理人ニ依リテ請求スルトキハ其ノ氏名及住所

五 債券ヲ發行スル會社ノ商號

六 年月日

第一項ノ請求アリタル場合ニ於テ社債ノ登録ヲ抹消スベキ

社債等登録法施行規則



モノト認ムルトキハ登録機關ハ遲滞ナク債券發行ノ請求書ニ其ノ旨ヲ附記シ之ヲ債券ヲ發行スル會社ニ送付スルコトヲ要ス

前項ノ請求書ノ送付ヲ受ケタルトキハ債券ヲ發行スル會社ハ遲滞ナク發行ノ請求アリタル債券ヲ登録機關ニ送付スルコトヲ要ス

前項ノ債券ノ送付ヲ受ケタルトキハ登録機關ハ社債ノ登録ヲ抹消シ請求者ニ其ノ債券ヲ交付スルコトヲ要ス

第七條 社債登録簿ハ別表第一號様式ニ依リ之ヲ調製スルコトヲ要ス

第八條 社債登録簿ハ社債ノ名稱毎ニ口座ヲ分チ當該社債ニ付債券ニ記載スベキ事項ヲ其ノ表紙ノ裏面ニ記載ス

第九條 社債登録簿ハ一社債權者ニ付一用紙ヲ備フ但シ社債權者ノ請求ニ依リ別用紙ヲ備フルコトヲ妨ゲズ

第十條 受附簿ハ別表第二號様式ニ依リ毎年之ヲ調製スルコトヲ要ス

第十一條 登録ヲ請求スル社債權者又ハ質權者ハ印鑑二葉ヲ登録機關ニ提出スルコトヲ要ス改印ヲ爲シタルトキ亦同

印鑑ハ別表第三號様式ニ依リ之ヲ調製スルコトヲ要ス

印スルコトヲ要ス

登録機關社債登録簿ヲ再製シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ主務大臣ニ報告スルコトヲ要ス

第十六條 社債登録簿及其ノ附屬書類ノ閲覧又ハ社債登録簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者ハ請求書ヲ登録機關ニ提出スルコトヲ要ス

前項ノ請求書ニハ利害ノ關係ヲ説明スル事由ヲ記載シ又ハ之ニ其ノ關係ヲ説明スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第十七條 社債登録簿、債券番號簿、共同人名簿、印鑑、信託原簿及社債登録簿ノ副本ハ登録ヲ爲シタル社債(以下登録社債ト稱ス)ノ償還請求權又ハ償還額ノ支拂請求權ガ時効ニ因リテ消滅スベキ時期ノ後五年ヲ經過スル迄之ヲ保存スルコトヲ要ス

請求書其ノ他ノ附屬書類ハ請求書受附ノ日ヨリ十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス

受附簿ハ調製シタル年ノ翌年ヨリ十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス

第十八條 登録機關正當ノ事由ナクシテ登録ヲ爲サザルトキハ主務大臣ハ登録機關ニ對シ登録ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

社債等登録法施行規則

登録機關ハ第一項ノ規定ニ依リ提出シタル印鑑ノ内一葉ヲ自ラ保存シ他ノ一葉ヲ請求書ニ掲グル社債ノ償還及利息ノ支拂ヲ受クベキ場所ニ送付スルコトヲ要ス

第一項ノ規定ハ官廳又ハ公署ニハ之ヲ適用セズ

第十二條 社債登録簿及其ノ附屬書類ハ登録機關ノ本店(主務大臣ノ指定スル登録機關ニ在リテハ主務大臣ノ指定スル支店)ニ之ヲ備置クコトヲ要ス

主務大臣前項ノ指定ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示ス

第十三條 社債登録簿ニハ副本ヲ設ケ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル場所ニ之ヲ備置クコトヲ要ス

第十四條 社債登録簿ノ全部又ハ一部ガ滅失シタルトキハ登録機關ハ遲滞ナク主務大臣ニ其ノ旨ヲ報告スルコトヲ要ス

社債登録簿及其ノ附屬書類ノ滅失スル虞アルトキ亦同

第十五條 社債登録簿ノ全部又ハ一部ガ滅失シタルトキハ登録機關ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケ當該副本ノ記載ヲ社債登録簿ニ轉寫シテ之ヲ再製スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ登録用紙中登録番號欄ニ其ノ口座ニ於ケル登録ノ順序ニ依リ新ナル番號ヲ記載シ其ノ右側ニ前登録番號、副本ノ記載ヲ轉寫シタル旨及轉寫ノ年月日ヲ記載シ登録事務ニ從事スル登録機關ノ職員(以下取扱者ト稱ス)捺

第十九條 本令ハ地方債、特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル法人ニシテ會社ニ非ザルモノノ發行スル債券及第三條第一項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ指定シタル滿洲國又ハ滿洲國法人ノ發行スル公債又ハ社債ニ之ヲ準用ス

第二章 登録ニ關スル手續

第二十條 請求書ノ提出アリタルトキハ受附簿ニ受附ノ年月日、受附番號、請求者ノ氏名及登録ノ目的ヲ記載シ請求書ニ受附ノ年月日及受附番號ヲ記載スルコトヲ要ス但シ請求者ガ多數ナルトキハ請求書ニ掲グル筆頭ノ者ノミノ氏名及他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

受附番號ハ毎年之ヲ更新スルコトヲ要ス

第二十一條 登録ハ受附番號ノ順序ニ依リ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十二條 登録番號ハ始メテ登録ヲ爲ス順序ニ依リ口座毎ニ之ヲ附ス

第二十三條 登録ヲ爲シタルトキハ取扱者捺印スルコトヲ要ス

第二十四條 社債及信託ニ關スル事項ヲ登録スルトキハ請求書ノ受附番號、登録ノ年月日、登録權利者ノ氏名及住所、登録原因及其ノ日附並ニ登録ノ目的其ノ他請求書ニ掲グル



事項ニシテ登録スベキ權利ニ關スルモノヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ請求書ノ受附番號ハ摘要欄ニ、其ノ他ノ事項ニシテ相當欄ナキモノハ事由欄ニ記載ス

第二十五條 擔保權ニ關スル事項ヲ登録スルトキハ前條第一項ニ掲グルモノノ外登録ヲ爲シタル順序ニ依リ順位番號ヲモ記載スルコトヲ要ス

差押、假差押及假處分ニ關スル事項ヲ登録スルトキハ登録ノ年月日並ニ差押ノ命令若ハ處分又ハ假差押若ハ假處分ノ命令ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十六條 債券ノ番號ハ債券番號簿ニ之ヲ記載スルコトヲ得

債券番號簿ハ社債登録簿ノ一部ト看做ス  
債券番號簿ハ別表第四號様式又ハ別表第五號様式ニ依リ之ヲ調製シ社債ノ名稱毎ニ口座ニ分ツコトヲ要ス

第二十七條 令第二十八條(令第十九條第二項、第四十五條第二項及第五十四條第三項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル登録ノ請求ニ基キ登録ヲ爲ストキハ債權者ノ氏名及住所並ニ代位原因ヲモ記載スルコトヲ要ス

第二十八條 登録權利者ガ多數ナルトキハ請求書ニ掲グル筆頭ノ者ノミノ氏名及住所並ニ他ノ人員ヲ登録用紙ニ記載シ其ノ氏名及住所ヲ共同人名簿ニ記載スルコトヲ得登録義務者ノ氏名及住所ヲ登録用紙ニ記載スルコトヲ要スル場合ニ於テ登録義務者ガ多數ナルトキ亦同ジ

共同人名簿ハ別表第六號様式ニ依リ之ヲ調製スルコトヲ要ス

不動産登記法施行細則第五十三條乃至第五十七條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條 附記ニ依ル登録ノ順位番號ヲ記載スルトキハ主登録ノ番號ヲ用ヒ其ノ番號ノ右側ニ附記何號ト記載スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ主登録ノ順位番號ノ右側ニ附記番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十條 變更ノ登録又ハ更正ノ登録ヲ爲シタルトキハ變更又ハ更正シタル登録事項ヲ朱抹スルコトヲ要ス

社債權者氏名住所欄又ハ社債ノ償還及利息ノ支拂ヲ受クベキ場所欄ニ記載シタル事項ノ變更又ハ更正ノ登録ハ各其ノ欄ニ之ヲ爲ス

第三十一條 登録ヲ抹消スルトキハ抹消ノ登録ヲ爲シタル後

抹消スベキ登録ヲ朱抹スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ抹消ニ係ル權利ヲ目的トスル第三者ノ權利ニ關スル登録アルトキハ相當欄ニ其ノ第三者ノ權利ヲ表示シ何權利ノ登録ヲ抹消シタルニ因リ抹消スル旨ヲ記載シ其ノ登録ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第三十二條 登録ヲ回復スルトキハ回復ノ登録ヲ爲シタル後更ニ抹消ニ係ル登録ト同一ノ登録ヲ爲シ或登録事項ノミガ抹消ニ係ルトキハ附記ニ依リ更ニ其ノ事項ヲ登録スルコトヲ要ス

第三十三條 未登録ノ社債ノ登録ヲ爲ス場合ニ於テ支拂期ノ未ダ到來セザル利札中欠缺セルモノアルトキハ其ノ枚數及支拂期ヲ摘要欄ニ記載ス

第三十四條 社債ノ移轉ノ登録ヲ爲ストキハ從前ノ社債權者ノ登録用紙ニ登録ヲ爲シタル後新社債權者ノ登録用紙ニ登録ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ新社債權者ノ登録用紙中相當欄ニ移轉シタル社債ニ關スル質權其ノ他ノ登録ヲ移シ且各用紙ノ摘要欄ニ他ノ用紙ノ登録番號ヲ記載スルコトヲ要ス

一用紙ニ登録シタル社債ノ全部ニ付移轉ノ登録ヲ爲シタルトキハ從前ノ社債權者ノ登録用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

社債等登録法施行規則

第三十六條 信託原簿用紙中ノ或欄ガ記載スベキ餘白ナキトキハ豫備欄ニ記載スルコトヲ要ス

第三十七條 信託原簿ノ表紙ニハ請求書受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シ受附番號ノ順序ニ依リ之ヲ編綴シ番號ヲ附スルコトヲ要ス

第三十八條 信託ノ登録ヲ爲ストキハ摘要欄ノ相當部分ニ信託財產タル旨及信託原簿ノ番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十九條 信託原簿ノ記載ヲ變更スルトキハ取扱者ハ別表第八號様式ニ依ル變更欄用紙ヲ編綴シテ契印ヲ爲シ之ニ記載スルコトヲ要ス

第四十條 社債登録簿及債券番號簿ニ登録ヲ爲シタルトキ又ハ信託原簿ノ變更欄ニ記載ヲ爲シタルトキハ横線ヲ劃シテ餘白ト分界スルコトヲ要ス

第四十一條 登録機關左ニ掲グル登録ヲ完了シタルトキハ登

一用紙ニ登録シタル社債ノ一部ニ付移轉ノ登録ヲ爲ストキハ移轉シタル各社債ノ金額、口數及債券ノ番號ハ從前ノ社債權者ノ登録用紙ニハ抹消額欄ニ之ヲ記載ス

第三十五條 信託原簿ハ別表第七號様式ニ依リ之ヲ調製スルコトヲ要ス

第三十六條 信託原簿用紙中ノ或欄ガ記載スベキ餘白ナキトキハ豫備欄ニ記載スルコトヲ要ス

第三十七條 信託原簿ノ表紙ニハ請求書受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シ受附番號ノ順序ニ依リ之ヲ編綴シ番號ヲ附スルコトヲ要ス

第三十八條 信託ノ登録ヲ爲ストキハ摘要欄ノ相當部分ニ信託財產タル旨及信託原簿ノ番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十九條 信託原簿ノ記載ヲ變更スルトキハ取扱者ハ別表第八號様式ニ依ル變更欄用紙ヲ編綴シテ契印ヲ爲シ之ニ記載スルコトヲ要ス

第四十條 社債登録簿及債券番號簿ニ登録ヲ爲シタルトキ又ハ信託原簿ノ變更欄ニ記載ヲ爲シタルトキハ横線ヲ劃シテ餘白ト分界スルコトヲ要ス

第四十一條 登録機關左ニ掲グル登録ヲ完了シタルトキハ登

登録機關左ニ掲グル登録ヲ完了シタルトキハ登

五三七



録権利者ニ登録済證ヲ交付スルコトヲ要ス

- 一 未登録ノ社債ノ登録
  - 二 登録社債ノ移轉ノ登録
  - 三 擔保權ノ設定又ハ移轉ノ登録
- 前項ノ登録済證ニハ登録番號、登録ノ年月日、登録權利者ノ氏名及住所、社債ノ名稱、金額、口數及債券ノ番號其ノ他登録シタル權利ニ關スル事項、順位番號アルトキハ順位番號並ニ登録済ノ旨ヲ記載シ登録機關捺印スルコトヲ要ス

第二十條第一項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
登録済證ハ別表第九號乃至第十一號様式ニ準ジテ之ヲ調製スルコトヲ要ス

第四十二條 令第三十一條第二項ノ規定ニ依リ登録済證ノ再交付ヲ請求スルトキハ請求書ニ登録済證ヲ喪失シタルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス  
前項ノ規定ニ依リ交付スル登録済證ニハ再交付ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十三條 請求書ニ添附シタル登録済證ニ記載シタル權利ノ全部ニ付移轉又ハ抹消ノ登録ヲ爲シタルトキハ登録機關ハ其ノ登録済證ヲ回收スルコトヲ要ス

セル社債登録簿ノ冊數、頁數及其ノ繼續用紙ナルコトヲ記載シ且前用紙中登録番號ノ右側ニ第一ノ文字並ニ新用紙ヲ編綴セル社債登録簿ノ冊數、頁數及之ニ繼續スル旨ヲ記載スルコトヲ要ス  
前用紙中他ノ欄ニ餘白アルトキハ其ノ欄ニ登録スベキ事項ニ付テハ仍之ニ登録ヲ爲スコトヲ要ス  
前二項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ備フル場合ニ之ヲ準用ス

第四十八條 一用紙ニ登録シタル社債ノ全部ニ付抹消ノ登録ヲ爲シタルトキハ其ノ用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第四十九條 登録用紙ヲ閉鎖スルトキハ登録番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第五十條 請求書ニ添附スル書類ノ原本ノ還付ヲ請求スルトキハ請求者ハ其ノ原本ト共ニ原本ニ相違ナキ旨ヲ記載シタル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス  
取扱者ガ書類ノ原本ヲ還付スルトキハ其ノ謄本ニ原本還付ノ旨ヲ記載シテ捺印スルコトヲ要ス

第三章 雜則

第五十一條 登録機關社債ノ登録ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク左ニ掲グル事項ヲ社債ノ償還及利息ノ支拂ヲ受クベキ場所

社債等登録法施行規則

第四十四條 前條ニ規定スル場合ヲ除クノ外請求書ニ添附シタル登録済證ニハ登録ヲ爲シタル各社債ノ金額、口數及債券ノ番號、登録ノ目的並ニ登録済ノ旨ヲ記載シ登録機關捺印シテ之ヲ登録義務者ニ還付スルコトヲ要ス但シ登録名義人ガ多數ナル場合ニ於テ其ノ一部ガ登録義務者ナルトキハ登録義務者ノ氏名及住所ヲモ記載スルコトヲ要ス  
第二十條第一項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十五條 登録済證ノ所持人ハ登録済證ニ記載シタル事項ガ社債登録簿ニ現ニ存スル記載ト符合セザルニ至リタルトキハ登録機關ニ對シ其ノ書換ヲ請求スルコトヲ得

第四十六條 登録機關登録ヲ完了シタルトキハ第四十一條第一項ノ規定ニ依リ登録済證ヲ交付スル場合ヲ除クノ外登録權利者ニ對シ登録済ノ旨ヲ通知スルコトヲ要ス  
前項ノ場合ニ於テ登録權利者ガ多數ナルトキハ其ノ一人ニ通知スルヲ以テ足ル  
前二項ノ規定ハ令第二十九條ノ規定ニ依リ登録ヲ爲サザル場合ニ之ヲ準用ス

第四十七條 登録用紙中或欄ガ登録ヲ爲スベキ餘白ナキニ至リタルトキハ新用紙中登録番號欄ニ前用紙ノ登録番號ヲ轉寫シ其ノ右側ニ其ノ番號ノ第二ナルコト並ニ前用紙ヲ編綴

ニ通知スルコトヲ要ス

- 一 社債ノ名稱、金額、口數及債券ノ番號
- 二 社債權者ノ氏名及住所
- 三 利息ノ支拂期日及金額
- 四 登録ノ年月日
- 五 利息ノ支拂ヲ受クベキ者ガ社債權者ニ非ザルトキハ其ノ者ノ氏名及住所

第五十二條 登録機關社債ヲ發行シタル會社ヨリ登録社債ノ償還ヲ爲スベキ旨ノ通知ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク左ニ掲グル事項ヲ社債ノ償還及利息ノ支拂ヲ受クベキ場所ニ通知スルコトヲ要ス擔保附社債信託法ニ依ル受託會社又ハ同法第二十九條第一項ノ規定ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ヨリ登録社債ノ償還ヲ爲スベキ旨ノ通知ヲ受ケタルトキ亦同ジ

- 一 償還ヲ爲スベキ社債ノ名稱、金額、口數及債券ノ番號
- 二 社債權者ノ氏名及住所
- 三 償還期日及金額
- 四 支拂フベキ利息アルトキハ其ノ金額
- 五 登録ノ年月日
- 六 社債ノ償還ヲ受クベキ者ガ社債權者ニ非ザルトキハ其



擔保附社債信託法

ノ者ノ氏名及住所

第五十三條 令第十一條ノ規定ニ依ル證券ハ別表第十二號樣式ニ依ル

第五十四條 本令中主務大臣トアルハ大藏大臣及司法大臣トス

附則

本令ハ社債等登錄法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
(別表)略ス

●擔保附社債信託法

明治三十八年三月十三日  
法律第五十二號

改正 明治四十二年第二九號、四十五年第一四號  
大正三年第三號、一一年第六六號

昭和八年第四四號、一三年第八三號、一四年第六八號  
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル擔保附社債信託法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

擔保附社債信託法

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ信託會社ト稱スルハ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム會社ヲ謂フ

第二條 社債ニ物上擔保ヲ附セムトスルトキハ其ノ社債ヲ發行スル會社ト信託會社トノ信託契約ニ從ヒ之ヲ發行スヘシ

第三條 本法ニ依ル信託ノ引受ハ之ヲ商行爲トス

第四條 社債ニ附スルコトヲ得ヘキ物上擔保ハ左ニ掲クルモノニ限ル

- 一 動産質
  - 二 證書アル債權質
  - 二ノ二 株式質
  - 三 不動産抵當
  - 四 船舶抵當
  - 五 鐵道抵當
  - 六 工場抵當
  - 七 鑛業抵當
  - 八 軌道抵當
  - 九 運河抵當
  - 十 漁業財團抵當
  - 十一 自動車交通事業抵當
- 株式ヲ物上擔保ノ目的ト爲サムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第五條 擔保附社債ニ關スル信託事業ハ特別ノ法律ニ依ル場合ヲ除クノ外主務官廳ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第六條 信託會社ハ銀行事業ヲ除クノ外他ノ事業ヲ兼ヌルコトヲ得ス但シ銀行事業ヲ兼營セサル株式會社ニ在リテハ信託業法ニ依リ信託業ヲ營ムコトヲ得

第七條 信託會社ノ資本又ハ金錢ヲ目的トスル出資ノ總額ハ百萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

第八條 信託會社ハ資本又ハ金錢ヲ目的トスル出資ノ拂込金額カ五十萬圓ニ達スル迄其ノ事業ニ著手スルコトヲ得ス

第九條 信託ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

第十條 主務官廳ハ何時ニテモ信託會社ヲシテ其ノ事業ノ報告ヲ爲サシメ又ハ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第十一條 主務官廳ハ信託會社ノ業務又ハ會社財産ノ狀況カ信託事業ノ執行ニ適セスト認ムルトキハ其ノ事業ノ停止又ハ業務執行方法ノ變更ヲ命シ其ノ他委託會社及社債權者ノ利益ヲ保護スルニ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第十二條 信託會社カ法令、定款若ハ主務官廳ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務官廳ハ其ノ事業ノ停止若ハ取締役ノ改選ヲ命シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得

擔保附社債信託法

ヲ得

第十三條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ專業トスル會社ハ免許ノ取消ニ因リテ解散ス

第十四條 信託會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ主務官廳ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第十五條 商法第二百二十二條、第三百二十二條第二項、第三百十八條、第四百十七條第二項、第四百二十六條第二項、其ノ準用規定、有限會社法第七十二條第二項又ハ第七十四條

第二項ニ定ムル清算人ノ選任又ハ解任ハ主務官廳ニ於テ之ヲ爲ス

商法第四百二十六條第二項(同法第四百五十八條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)及有限會社法第七十四條第二項ニ依ル請求ハ委託會社又ハ社債權者集會ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

第十六條 信託會社ノ清算ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

主務官廳ハ何時ニテモ前項ノ監督ニ必要ナル検査ヲ爲スコトヲ得

第十七條 外國ニ於テ物上擔保附社債ヲ募集セムトスル會社ハ主務官廳ノ許可ヲ受ケ外國會社ト信託契約ヲ締結スルコトヲ得



前項ノ規定ニ依リ信託ヲ引受ケタル外國會社カ日本ニ支店  
ヲ有セサルトキハ日本ニ於ケル代表者ヲ定ムヘシ  
商事會社ハ前項ノ代表者タルコトヲ得

第二項ノ規定ニ依リ代表者ヲ定メタルトキハ遲滞ナク其ノ  
氏名及住所又ハ商號及本店ヲ主務官廳ニ届出ヘシ  
日本ニ於ケル外國會社ノ代表者ハ信託事務ニ關シテハ信託  
會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ト同一ノ權限ヲ有ス

第二章 信託證書

第十八條 信託契約ハ信託證書ニ依リ之ヲ締結スヘシ

第十九條 信託證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ委託會社及受託會  
社ノ代表者之ニ署名スヘシ

- 一 委託會社及受託會社ノ商號
- 二 社債ノ總額
- 三 各社債ノ金額
- 四 社債發行ノ價額又ハ其ノ最低價額
- 五 社債ノ利率
- 六 社債償還ノ方法及期限
- 七 利息支拂ノ方法及期限
- 八 債券ニ記載スヘキ事項ノ表示及利札附ナルトキハ其ノ  
旨ノ表示

表者ノ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第七十七條第二項ノ規定ハ前項ノ契約證書ニ之ヲ準用ス

第十九條ノ五 各社債ノ金額ハ社債ノ總額ニ付均一ナルカ又  
ハ最低額ヲ以テ整除シ得ヘキモノナルコトヲ要ス

第二十條 信託證書ハ委託會社及受託會社ニ於テ各自其ノ一  
通ヲ保存スヘシ

前項ノ信託證書ハ其ノ原本ヲ本店ニ、其ノ謄本ヲ各支店ニ  
備置クヘシ

第二十一條 信託證書ノ原本又ハ謄本ハ委託會社ノ株主、債  
權者又ハ社債應募者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテ  
モ之ヲ閱覽セシムヘシ

第三章 社債募集

第二十二條 信託契約ニ依リ物上擔保附社債ヲ募集スル會社

- ハ左ノ事項ヲ公告スヘシ
- 一 第十九條第一號乃至第七號及第十號ニ掲ケタル事項
- 二 物上擔保附社債ナルコト
- 三 信託證書ノ表示
- 四 擔保ノ價格ヲ知ラシムルニ必要ナル程度ニ於テ第十九  
條第九號ニ掲ケタル事項ノ概要ノ表示
- 四ノ二 受託會社カ擔保ノ價格ニ付調査シタル結果ノ表

擔保附社債信託法

九 擔保ノ種類、目的物、順位、先順位ノ擔保ヲ附シタル  
債權ノ金額其ノ他目的物ニ關シ擔保權者ニ對抗スルコト  
ヲ得ヘキ權利ノ表示

第十 第三十二條ニ依ル社債ナルトキハ其ノ事實及各會社ノ  
負擔部分

十一 委託及受託ノ表示

十二 證書作成ノ年月日

第十九條ノ二 社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル場合ニ於テ  
ハ信託證書ニハ前條第三號乃至第八號ニ掲ケタル事項ニ代  
ヘ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル旨ノ表示
- 二 社債ノ利率ノ最高限度

信託契約ニ於テ第一回又ハ其ノ後ニ發行スル社債ニ付發行  
金額及前條第三號乃至第八號ニ掲ケタル事項ヲ定メタルト  
キハ其ノ事項ヲモ記載スヘシ

第十九條ノ三 社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル場合ニ於テ  
信託契約ニ前條第二項ノ事項ヲ定メサルトキハ委託會社ハ  
受託會社トノ契約ヲ以テ其ノ發行毎ニ之ヲ定ムヘシ

前項ノ契約ハ信託契約ト同一ノ效力ヲ有ス  
第十九條ノ四 前條第一項ノ契約ハ委託會社及受託會社ノ代

示

五 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘサル總  
額

六 會社ノ資本及拂込ミタル株金ノ總額

七 最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ノ額

八 信託證書若ハ其ノ謄本ヲ應募者ノ閱覽ニ供スヘキ時及  
場所

社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル場合ニ於テハ前項ニ掲ケ  
タル事項ノ外左ノ事項ヲモ公告スヘシ但シ第十九條第三號  
乃至第七號ニ掲ケタル事項ハ其ノ回ニ發行スル社債ニ關ス  
ルモノトス

一 社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル旨ノ表示及其ノ回ノ  
發行金額

二 既ニ發行ニ係ル毎回ノ金額、其ノ未償還額並未償還額  
ノ利率及償還期限

三 其ノ回ノ發行ニ付第十九條ノ四第一項ノ契約證書アル  
トキハ其ノ證書ノ表示

四 前號ニ掲ケタル契約證書若ハ其ノ謄本ヲ應募者ノ閱覽  
ニ供スヘキ時及場所  
前二項ノ公告ハ受託會社ノ承認ヲ得テ之ヲ爲スヘシ



第二十三條 委託會社ハ信託契約ニ依リ社債ノ募集ヲ受託會社ニ委任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ受託會社ハ債券ノ發行、社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第二十四條 前條ノ場合ニ於テハ第二十二條ニ掲ケタル公告ハ受託會社ニ於テ之ヲ爲スヘシ  
前項ノ公告ニハ受託會社カ委託會社ニ代リテ社債ノ募集ヲ爲ス旨ヲ記載スヘシ

第二十五條 受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ依リ社債ノ總額ヲ引受クルコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テハ第二十二條及前條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ要セス

第二十六條 前條第一項ノ場合ニ於テ受託會社ハ其ノ引受ケタル社債ヲ分割シテ之ニ相當スル債券ノ發行ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得  
受託會社カ信託契約ニ依リ債券發行ノ權限ヲ有スルトキハ委託會社ニ通知シテ前項ノ債券ヲ發行スルコトヲ得

第二十七條 受託會社カ第二十五條第一項ニ依リ引受ケタル社債ヲ讓渡サムトスルトキハ其ノ旨ヲ公告スヘシ  
前項ノ公告ニ記載スヘキ事項ニ付テハ第二十二條ノ規定ヲ

準用ス

受託會社ハ社債ヲ讓受ケムトスル者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ信託證書又ハ其ノ謄本ヲ閱覽セシムヘシ

第二十八條 受託會社カ前條ノ規定ニ依リ社債ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ委託會社ニ代リテ其ノ社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第二十九條 委託會社又ハ受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ從ヒ第三者ヲシテ社債ノ總額ヲ引受ケシムルコトヲ得  
前項ニ依ル社債總額ノ引受ハ之ヲ商行爲トス  
第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ハ其ノ引受ケタル社債ヲ分割シテ之ニ相當スル債券ノ發行ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得

受託會社カ信託契約ニ依リ債券發行ノ權限ヲ有スルトキハ委託會社ニ對シテ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三十條 第二十五條第二項、第二十七條第一項、第二項及第二十八條ノ規定ハ前條第一項ニ依リ第三者カ社債ノ總額ヲ引受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

前條第一項ニ依リ第三者カ社債ノ總額ヲ引受ケタル場合ニ於テハ其ノ第三者カ擔保ノ價格ニ付調査シタル結果ノ表示

ヲ以テ第二十二條第一項第四號ノ二ニ掲ケタル事項ニ代フルコトヲ得

第三十一條 委託會社又ハ受託會社ハ信託證書ノ謄本ヲ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ交付スヘシ

前項ノ謄本ハ委託會社又ハ受託會社ノ代表者之ニ署名シテ原本ト相違ナキコトヲ認證スヘシ

第二十七條第三項ノ規定ハ第一項ノ謄本ニ之ヲ準用ス

第三十一條ノ二 社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル場合ニ於テハ其ノ最終ノ回ノ發行ハ信託證書作成ノ日ヨリ五年内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十一條ノ三 社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル場合ニ於テ未ダ發行セサルモノアルトキハ委託會社ハ受託會社トノ契約ヲ以テ社債ノ總額ヲ其ノ既ニ發行シタル額ニ至ルマテ減額スルコトヲ得受託會社ハ正當ノ事由ナクシテ契約ノ締結ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ契約ノ締結ニ因リ受託會社ノ受ケタル損害ハ委託會社之ヲ賠償スルコトヲ要ス

第十九條ノ三、第二項及第七十七條ノ規定ハ第一項ノ契約ニ之ヲ準用ス

第三十二條 會社ハ合同シテ社債ヲ發行スルコトヲ得其ノ場合ニ於テハ社債ノ募集ヲ受託會社ニ委任シ又ハ受託會社ヲシテ社債ノ總額ヲ引受ケシムヘシ

第三十三條 前條ノ場合ニ於テハ受託會社ハ債券ノ發行、社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第三十三條ノ二 社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル場合ニ於テハ其ノ各回ノ發行金額ノ引受ヲ以テ社債ノ總額ノ引受トス

第三十四條 委託會社ハ商法第三百五條第一項ノ規定ニ從ヒ左ノ事項ヲ登記スヘシ

一 第十九條第一號乃至第三號、第五號乃至第七號、第九號及第十號ニ掲ケタル事項

二 第二十二條第一項第二號及第三號ニ掲ケタル事項

三 第二十三條ニ依ル委任又ハ第二十五條第一項ニ依ル引受アリタルトキハ其ノ事實

四 第二十九條第一項ニ依ル引受アリタルトキハ其ノ事實及引受人ノ氏名又ハ商號

社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル場合ニ於テハ其ノ第一回ノ發行ニ付テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外第二十二條第二項



第一號及第三號ニ掲ケタル事項ヲモ登記シ第二回以後ノ發行ニ付テハ其ノ同ノ發行金額並第十九條第三號、第五號乃至第七號、第二十二條第二項第三號、前項第三號及第四號ニ掲ケタル事項ヲ其ノ發行毎ニ登記スヘシ

第四章 債券

第三十五條 信託證書ニ依ル債券ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 第十九條第一號乃至第三號、第五號乃至第七號ニ掲ケタル事項
- 二 第二十二條第一項第二號及第三號ニ掲ケタル事項
- 三 社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スルトキハ第二十二條第二項第一號及第三號ニ掲ケタル事項
- 四 前條第一項第三號及第四號ニ掲ケタル事項

第三十六條 受託會社ハ委託會社カ信託契約ノ條款ニ適合スル債券ヲ發行シタルトキハ其ノ請求ニ依リ債券カ信託證書ニ依ル債券ナルコトヲ證明シテ之ヲ委託會社又ハ其ノ指定シタル者ニ引渡スヘシ

前項ノ證明ハ各債券ニ記載シテ受託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員之ニ署名スルニ依リテ之ヲ爲ス

第三十七條 信託證書ニ依ル債券ハ前條ノ證明アルニ非サルハ其ノ效力ヲ生セス

第三十八條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルトキハ其ノ旨ヲ各債券ニ記載シ受託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員之ニ署名スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ適用セス

第三十九條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルトキハ商法第三百七條及其ノ準用規定ニ依ル記載ハ受託會社ニ於テ之ヲ爲シ商法第三百八條及其ノ準用規定ニ依ル請求ハ受託會社ニ對シテ之ヲ爲ス

第五章 社債原簿

第四十條 會社カ物上擔保附社債ヲ發行シタルトキハ社債原簿ニ商法第三百十七條ニ掲ケタルモノノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 第十九條第一號、第九號及第十號ニ掲ケタル事項
  - 二 第三十四條第一項第二號乃至第四號ニ掲ケタル事項
- 社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル場合ニ於テハ社債原簿ニ其ノ發行毎ニ前項ニ掲ケタルモノノ外第二十二條第二項第一號及第三號ニ掲ケタル事項ヲモ記載スヘシ
- 第四十一條 委託會社ハ社債原簿ノ謄本ヲ作成シテ之ヲ受託

會社ニ交付スヘシ

前項ノ謄本ハ委託會社ノ取締役又ハ之ニ代表スル社員之ニ署名シテ原本ト相違ナキコトヲ認證スヘシ

第四十二條 受託會社ハ前條ノ謄本ヲ其ノ本店ニ備置キ社債權者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ之ヲ閱覽セシムヘシ

第四十三條 社債原簿ノ記載ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ都度委託會社ハ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ノ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ受託會社ニ通知スヘシ

受託會社ハ前項ノ書面ヲ受ケタルトキハ之ヲ社債原簿ノ謄本ニ添附シテ保存スヘシ

第四十四條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルトキハ社債原簿ハ受託會社ニ於テ之ヲ作成シ其ノ本店ニ備置クヘシ

商法第二百六十三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十五條 前條第一項ノ場合ニ於テハ受託會社ニ於テ社債原簿ノ謄本ヲ作成シテ之ヲ委託會社ニ交付スヘシ

第四十一條第二項、第四十二條、第四十三條及商法第二百六十三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十六條 委託會社又ハ受託會社カ社債原簿ヲ作成シタルトキハ其ノ謄本ヲ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ交付スヘシ

第四十七條 委託會社、受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者カ社債原簿ノ記載ニ變更ヲ生スヘキ取扱ヲ爲シタルトキハ其ノ都度書面ヲ以テ社債原簿ヲ備フル會社ニ之ヲ通知スヘシ

第六章 社債權者集會

第四十八條 受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ハ必要アルトキハ何時ニテモ社債權者集會ヲ招集スルコトヲ得

第四十九條 委託會社又ハ社債總額ノ十分ノ一ニ當ル社債權者ハ集會ノ目的及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ提出シテ社債權者集會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ受ケタル者カ其ノ請求アリタル後二週間内ニ集會招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ其ノ請求ヲ爲シタル者ハ主務官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ招集ヲ爲スコトヲ得



**第五十條** 第十五條第二項、第八十九條、第九十四條又ハ第九十九條ニ定メタル集會ハ社債總額ノ十分ノ一ニ當ル社債權者ニ於テ自ラ之ヲ招集スルコトヲ得

前項ノ招集ハ信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ受託會社本店ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第九十四條又ハ第九十九條ニ定メタル集會ハ委託會社モ亦自ラ之ヲ招集スルコトヲ得

**第五十一條** 商法第二百三十二條第一項乃至第三項ノ規定ハ社債權者集會ノ招集ニ之ヲ準用ス

**第五十二條** 社債權者集會ノ決議ハ信託契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外行使セラレタル議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第六十四條、第六十七條第一項、第七十五條、第八十五條、第八十六條及第九十七條第一項ニ記載シタル事項ノ決議ハ記名債券ヲ有スル者及第二項ノ規定ニ依リ債券ヲ供託シタル者ノ半數以上ニシテ社債總額ノ半數以上ニ當ル社債權者カ議決權ヲ行使シタル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

商法第二百三十九條第二項乃至第四項ノ規定ハ社債權者集會ノ決議ニ之ヲ準用ス

集會ニ出席セサル社債權者ハ信託契約ニ別段ノ定アル場合

ヲ除クノ外書面ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得

各社債權者ハ社債ノ最低金額毎ニ一箇ノ議決權ヲ有ス但シ社債ノ最低金額ノ十一倍以上ヲ有スル社債權者ノ議決權ハ信託契約ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得

**第五十三條** 第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者又ハ其ノ代表者ハ社債權者集會ニ出席シテ發言シ又ハ書面ヲ以テ意見ヲ述フルコトヲ得

**第五十四條** 受託會社ハ代表者ハ社債權者集會カ第八十九條第二項ニ規定シタル事項ニ付招集セラレタル場合ヲ除クノ外之ニ出席シテ發言シ又ハ書面ヲ以テ意見ヲ述フルコトヲ得

**第五十五條** 社債權者集會ヲ招集スル者ハ前二條ニ掲ケタル者又ハ其ノ代表者ニ招集ノ通知ヲ發スヘシ

商法第二百三十二條第一項及第二項ノ規定ハ前項ノ通知ニ之ヲ準用ス

**第五十六條** 社債權者集會又ハ之ヲ招集シタル者ニ於テ必要ト認ムルトキハ委託會社ニ通知シテ其ノ代表者ノ出席ヲ求めルコトヲ得

**第五十七條** 社債權者集會招集ノ手續又ハ其ノ議決ノ方法カ本法又ハ信託契約ノ條款ニ違反スルトキハ委託會社、受託

會社又ハ各社債權者ハ其ノ決議ノ無効ノ宣告ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ハ決議ノ日ヨリ一箇月内ニ之ヲ爲スヘシ

社債權者カ第一項ノ請求ヲ爲ストキハ其ノ債券ヲ供託シ且招集ヲ爲シタル者ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スヘシ

**第五十八條** 社債權者集會ニ於テ決議スヘキ事項ハ本法ニ規定アルモノノ外特ニ信託契約ニ定メタルモノニ限ル

**第五十九條** 社債權者集會ヲ招集シタル者ハ決議録ヲ作成スヘシ

**第六十條** 受託會社ハ社債權者集會ノ決議録ノ原本又ハ謄本ヲ本店及支店ニ備置クヘシ

受託會社ハ委託會社又ハ社債權者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ前項ノ決議録ヲ閱覽セシムヘシ

**第六十一條** 受託會社以外ノ者カ決議録ヲ作成シタルトキハ自ラ其ノ原本ヲ保存シ其ノ謄本ヲ受託會社ニ交付スヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ謄本ニ之ヲ準用ス

**第六十二條** 社債權者集會ノ費用ハ受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ於テ招集シタル場合ヲ除クノ外集會ヲ招集シタル者ニ於テ之ヲ負擔ス

**第六十三條** 社債權者集會ノ決議ハ受託會社之ヲ執行ス但シ

其ノ性質カ受託會社ニ於テ執行スルコトヲ許ササルトキハ集會ニ於テ之ヲ執行スヘキ者ヲ定ム

**第六十四條** 信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ社債權者集會ニ於テ一人又ハ數人ノ代表者ヲ選任シ其ノ決議スヘキ事項ノ決定ヲ之ニ委任スルコトヲ得

代表者ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者又ハ社債總額ノ千分ノ一以上ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ選任ス

代表者數人アル場合ニ於テ集會ニ於テ別段ノ定ヲ爲ササルトキハ代表者ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

**第六十五條** 代表者ハ第六十三條但書ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ自ラ執行シ又ハ他人ヲシテ執行セシムルコトヲ得

**第六十六條** 代表者就任シタルトキハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社、受託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ之ヲ通知スヘシ

**第六十七條** 社債權者集會ハ何時ニテモ代表者ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二



十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ之ヲ通知スヘシ

第六十七條ノ二 社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル場合ニ於テ或ル回ノミノ社債權者ニ利害ノ關係アリテ其ノ他ノ回ノ社債權者ニ損害ヲ及ホササル事項ハ其ノ回ノ社債權者ノ集會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム  
前項ノ社債權者ノ集會ニハ社債權者集會ニ關スル規定ヲ準用ス

第六十七條ノ三 社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル場合ニ於テ社債權者集會ノ決議力或ル回ノミノ社債權者ニ損害ヲ及ホスヘキトキハ其ノ回ノ社債權者ノ集會ノ決議アルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第七章 信託契約ノ效力

第六十八條 受託會社ハ公平且誠實ニ信託事務ヲ處理スヘシ

第六十九條 受託會社ハ委託會社及社債權者ニ對シテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ信託事務ヲ處理スル義務ヲ負フ

第七十條 信託契約ニ依ル物上擔保ハ信託證書ニ記載シタル總社債ノ爲ニ受託會社ニ歸屬ス  
受託會社ハ總社債權者ノ爲ニ擔保權ヲ保存シ且實行スルノ

義務ヲ負フ

第七十一條 社債權者ハ其ノ債權額ニ應シ平等ニ擔保ノ利益ヲ享受ス

第七十二條 信託契約ニ依ル物上擔保ハ社債成立以前ニ於テモ其ノ效力ヲ生ス

第七十三條 民法第三百四十八條、第三百七十五條及商法第五百十五條ノ規定ハ信託契約ニ依ル擔保權ニ之ヲ適用セズ

第七十四條 受託會社ハ委託會社トノ契約ヲ以テ擔保ヲ追加スルコトヲ得

第七十五條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ委託會社トノ契約ヲ以テ擔保ヲ變更スルコトヲ得

第七十六條 前二條ノ契約ハ信託契約ト同一ノ效力ヲ有ス

第七十七條 第七十四條及第七十五條ノ契約ハ委託會社及受託會社ノ代表者ノ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ委託會社及受託會社遲滞ナク各自之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ  
第二十條、第二十一條及第三十一條ノ規定ハ前項ノ契約證書ニ之ヲ準用ス

第七十八條 信託契約ニ依ル擔保權ハ總社債權者ノ爲ニ之ヲ行使スルコトヲ得

第七十九條 委託會社カ定期ニ社債ノ一部ヲ償還スヘキ場合ニ於テ其ノ償還ヲ遲延シ二箇月ヲ經過シタルトキハ受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ一定ノ期間内ニ支拂ヲ爲スヘキ旨及其ノ期間内ニ支拂ヲ爲ササルトキハ社債ノ總額ニ付期限ノ利益ヲ失ハシムル旨ヲ委託會社ニ催告スルコトヲ得

委託會社カ前項ノ期間内ニ支拂ヲ爲ササルトキハ社債ノ總額ニ付期限ノ利益ヲ失フ

第一項ノ催告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第八十條 前條ニ依リ委託會社カ期限ノ利益ヲ失ヒタルトキハ受託會社ハ遲滞ナク之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

第八十一條 前二條ノ規定ハ委託會社カ社債ノ利息ノ支拂ヲ遲延シ三箇月ヲ經過シタル場合ニ之ヲ準用ス

第八十二條 社債カ期限ニ至リ辨濟セラレス又ハ委託會社カ社債ノ辨濟ヲ完了セシテ解散シタルトキハ受託會社ハ遲滞ナク社債權者集會ノ決議ニ依リ擔保權ヲ實行スヘシ

擔保附社債信託法

民法第三百五十四條ノ規定ハ信託契約ニ依ル動産質ニ之ヲ適用セズ

第八十三條 受託會社ハ總社債權者ノ爲ニ付與セラレタル執行力アル正本ニ基キ擔保物ニ付強制執行ヲ爲シ又ハ競賣法ニ依ル競賣ノ申立若ハ委任ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ債權者ニ對スル異議ハ受託會社ニ對シテ之ヲ主張スルコトヲ得

第八十四條 受託會社ハ信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ社債權者ノ爲ニ債權ノ辨濟ヲ得ルニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第八十五條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ總社債ニ付支拂ヲ猶豫シ、不履行ニ因リテ生シタル責任ヲ免除シ又ハ和解ヲ爲スコトヲ得

第八十六條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ總社債權者ノ爲ニ訴訟行爲ヲ爲シ又ハ破産手續ニ屬スル一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得

第八十七條 受託會社カ第八十二條、第八十五條又ハ前條ニ掲ケタル行爲ヲ完了シタルトキハ遲滞ナク之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ



第八十八條 受託會社カ社債權者ノ爲ニ辨濟ヲ得タル金額ハ  
遲滞ナク債權額ニ應シテ各社債權者ニ交付スヘシ  
受託會社カ前項ノ金額ヲ自己ノ爲ニ費消シタルトキハ民法  
第六百四十七條ノ規定ヲ準用ス

社債權者ヲ確知スルコト能ハサルトキ又ハ社債權者カ受領  
ヲ拒ミ若ハ受領スルコト能ハサルトキハ受託會社ハ其ノ社  
債權者ノ爲ニ前項ノ金額ヲ供託スヘシ

受託會社ハ必要アル場合ニ於テハ第二十九條第一項ニ依リ  
社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ第一項及第三項ノ行爲ヲ委任  
スルコトヲ得

第八十九條 受託會社カ總社債權者ノ爲ニ爲スヘキ行爲ヲ意  
リタルトキハ主務官廳ハ社債權者集會ノ申請ニ因リ特別代  
理人ヲ選任シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

社債權者ト受託會社トノ利益相反スル場合ニ於テ總社債權  
者ノ爲ニ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス必要アルトキ亦前  
項ニ同シ

第九十條 本法ニ依リ總社債權者ニ代リテ裁判上又ハ裁判外  
ノ行爲ヲ爲ス場合ニ於テハ各別ニ社債權者ヲ表示スルコト  
ヲ要セス

第九十一條 受託會社ハ委託會社ニ對シ信託事務ノ處理ニ付

相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ民法第六百四十八條第二項  
及第三項ノ規定ハ信託契約ニ之ヲ準用ス

第九十二條 委託會社ハ受託會社カ信託事務ヲ處理スルニ付  
正當ニ支出シタル一切ノ費用及支出ノ日以後ニ於ケル其ノ  
利息ヲ償還シ及過失ナクシテ受ケタル一切ノ損害ヲ賠償ス  
ル義務ヲ負フ

受託會社ハ信託事務ヲ處理スルニ付要スル費用ノ前拂ヲ委  
託會社ニ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受  
ケタル者ニ關シ之ヲ準用ス

第九十三條 信託契約ニ依ル物上擔保ハ前條第一項ノ規定ニ  
依リ受託會社ニ生スヘキ債權ノ爲ニモ其ノ效力ヲ有ス  
受託會社ハ前項ノ債權ニ付社債權者ニ優先シテ擔保物ヨリ  
辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第九十四條 受託會社カ故意若ハ過失ニ因リ物上擔保ヲ消滅  
セシメ又ハ其ノ價格ヲ減少セシメタルトキハ主務官廳ハ委  
託會社又ハ社債權者集會ノ申請ニ因リ委託會社ヲシテ相當  
ノ金額ヲ供託セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ委託會社  
カ供託金ノ上ニ質權ヲ設定シタルモノト看做ス

前項ノ質權ハ信託契約ニ依ル物上擔保ト看做ス

第九十五條 委託會社、第六十四條第一項ニ依リ選任セラレ  
タル代表者又ハ社債總額ノ十分ノ一以上ニ當ル社債權者ハ  
何時ニテモ受託會社ニ於ケル擔保物保管ノ狀況ヲ検査スル  
コトヲ得

無記名式ノ債券ヲ有スル者ハ其ノ債券ヲ受託會社ニ供託ス  
ルニ非サレハ前項ノ検査ヲ爲スコトヲ得ス

第九十六條 民法第二百九十八條第三項ノ規定ハ信託契約ニ  
依ル質權ニ之ヲ準用セス

第八章 信託事務ノ承繼及終了

第九十七條 受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ依リ又ハ委託  
會社及社債權者集會ノ同意アルトキハ信託事務ヲ承繼スヘ  
キ會社ヲ定メテ辭任スルコトヲ得

信託事務ヲ承繼スヘキ會社カ外國會社ナルトキハ第十七條  
第一項ノ規定ヲ準用ス

第九十八條 受託會社ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ主  
務官廳ノ許可ヲ受ケ辭任スルコトヲ得

第九十九條 受託會社カ其ノ義務ニ違反シ又ハ信託事務ヲ處  
理スルニ不適任ナルトキ其ノ他正當ノ事由アルトキハ主務  
官廳ハ委託會社又ハ社債權者集會ノ申請ニ因リ受託會社ヲ

擔保附社債信託法

解任スルコトヲ得

第一百條 前二條ノ規定ニ依リ受託會社カ辭任シ若ハ解任セラ  
レタルトキ又ハ免許ヲ取消サレ若ハ解散シタルトキハ主務  
官廳ハ更ニ受託會社ヲ選任シテ信託事務ヲ承繼セシムヘ  
シ

第一百一條 第九十七條ニ依ル信託事務ノ承繼ハ委託會社、前  
受託會社及新受託會社ノ代表者ノ署名シタル契約書ヲ作成  
スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

前項ノ契約ヲ締結シタルトキハ各會社ハ遲滞ナク書面ヲ以  
テ主務官廳ニ届出ヘシ

前條ニ依ル承繼ハ新受託會社ニ對スル主務官廳ノ命令書ヲ  
交付スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第一百二條 信託事務ノ承繼ハ第九十七條ニ依ル場合ニ於テハ  
委託會社、前受託會社及新受託會社、第一百條ニ依ル場合ニ  
於テハ委託會社及新受託會社遲滞ナク各自之ヲ公告スヘシ  
但シ知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總  
額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

第一百三條 第九十七條ニ依リ定メラレ又ハ第一百條ニ依リ選任  
セラレタル新受託會社ハ前受託會社ノ締約シタル條款ニ從  
ヒ信託事務ヲ處理スヘシ



社債權者又ハ委託會社ノ爲ニ前受託會社ニ歸屬シタル權利義務ハ前受託會社ノ辭任、解任、免許ノ取消又ハ解散ノ時ニ適リテ新受託會社ニ移轉ス但シ前受託會社ノ契約違反又ハ不法行爲ニ因リテ生シタル責任ハ此ノ限ニ在ラス

第四百四條 前受託會社ノ不法處分ニ因リ質物ノ占有ヲ得タル者カ惡意ナリシトキハ新受託會社カ其ノ者ノ爲ニ占有ヲ奪ハレタルモノト看做ス

第四百五條 前受託會社ノ取締役、之ヲ代表スル社員、清算人又ハ破産管財人ハ遲滞ナク其ノ委託會社又ハ社債權者ノ爲ニ保管スル物及信託事務ニ關スル書類ヲ新受託會社ニ移付シ其ノ他信託事務ヲ新受託會社ニ引繼ク爲必要ナル一切ノ行爲ヲ爲スヘシ

前項ニ掲ケタル引繼ヲ完了シタルトキハ各會社ハ共同シテ書面ヲ以テ之ヲ主務官廳ニ届出ヘシ

前項ノ届書ニハ移付シタル物ノ目錄ヲ添附スヘシ

第四百六條 承繼ニ關スル事務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

第四百七條 受託會社カ信託事務ヲ終了シタルトキハ總計算書ヲ作成シテ之ヲ公告スヘシ

第九章 罰則

- 第五百八條 第五條ノ規定ニ違反シテ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム者ハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス
- 第五百九條 左ノ場合ニ於テハ會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、清算人、破産管財人、第八十九條ノ特別代理人又ハ外國會社ノ代表者ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス
- 一 第六條ノ規定ニ違反シタルトキ
  - 二 第八條ノ規定ニ違反シタルトキ
  - 三 本法ニ依ル主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキ
  - 四 本法ニ依ル主務官廳ノ検査ヲ妨ケタルトキ
  - 五 第十七條第一項又ハ第九十七條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ
  - 六 本法ニ依リ債券ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
  - 七 委託會社ニ於テ債券ヲ發行シタル場合ニ於テ第三十六條ニ定メタル手續ヲ履行セスシテ之ヲ交付シタルトキ
  - 八 第七十條第二項ニ依ル擔保權ノ保存又ハ實行ヲ怠リタルトキ
  - 九 第八十八條第一項又ハ同條第三項ノ規定ニ違反シタルトキ

- 十 第九十五條第一項ニ依ル検査ヲ妨ケタルトキ
  - 十一 第五百五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
  - 十二 社債權者集會ノ決議ニ依ルヘキ場合ニ於テ之ニ依ラス又ハ之ニ違反シタルトキ
  - 十三 社債權者集會又ハ其ノ代表者ニ對シテ不實ノ報告ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
  - 十四 第一百九條ノ二ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
- 第四百十條 左ノ場合ニ於テハ會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、清算人、破産管財人、第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者、第六十四條ノ代表者、第八十九條ノ特別代理人又ハ外國會社ノ代表者ヲ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス
- 一 本法ニ定メタル届出、公告若ハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若ハ通知ヲ爲シタルトキ
  - 二 本法ニ依リ交付スヘキ書類ヲ交付セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
  - 三 本法ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ正當ノ理由ナクシテ閱覽セシメザリシトキ

- 第四百十一條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本章ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス
- 附則
- 第四百十二條 本法ニ依リ署名スヘキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得
- 第四百十三條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム合名會社及合資會社ノ設立登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ非訟事件手續法第七十九條第二項ニ掲ケタル書面ノ外主務官廳ノ免許書又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附スヘシ
- 既設ノ會社カ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム免許ヲ受ケタルニ因リ其ノ登記ヲ申請スルトキ亦前項ニ同シ
- 第四百十四條 信託會社ノ登記スヘキ事項ニシテ主務官廳ノ免許ヲ要スルモノニ付テハ免許書ノ到達ノ日ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス
- 第四百十五條 主務官廳カ第十一條又ハ第十二條ノ規定ニ依リ事業ノ停止ヲ命シ又ハ免許ヲ取消シタルトキハ登記所ハ主務官廳ノ囑託ニ因リテ其ノ登記ヲ爲スヘシ
- 第四百十六條 本法ニ依ル社債ノ登記ノ申請書ニハ非訟事件手續法



續法第九十一條ニ掲ケタル書面ノ外信託證書及第十九條ノ四第一項ノ契約證書アルトキハ其ノ證書ヲ添附スヘシ

第十七條 本法ニ依ル社債ノ登記事項ニ變更ヲ生シタルトキハ委託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ハ遲滞ナク其ノ登記ヲ申請スヘシ

前項ノ登記ノ申請書ニハ其ノ變更ヲ證スル書類ヲ添附スヘシ

第十八條 信託契約ニ依ル擔保權設定ノ登記ニ付テハ委託會社ヲ登記權利者トス

第十九條 信託契約ニ依ル擔保權設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ不動産登記法第十六條又ハ第十七條ニ依ル債權額ノ記載ハ社債ノ總額ヲ表示スルヲ以テ足ル

前項ノ場合ニ於テ社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スルトキハ不動産登記法第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ拘ラス申請書ニハ社債ノ總額、社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル旨ノ表示及社債ノ利率ノ最高限度ノミヲ記載スヘシ

第十九條ノ二 信託契約ニ依ル物上擔保附社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル場合ニ於テ社債ヲ發行シタルトキハ其ノ發行金額ニ付引受又ハ募集ノ完了シタル日ヨリ二週間内ニ其ノ回ノ發行金額及其ノ回ノ社債ニ關スル第十九條第

五號乃至第七號ニ掲ケタル事項ヲ登記スヘシ

商法第三百五條第四項ノ規定ハ前項ニ規定スル登記ノ期間ニ之ヲ準用ス

第一項ノ登記ハ其ノ社債ヲ擔保スル權利ノ登記ニ附記シテ之ヲ爲ス

第二十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (明治三十八年勅令第八十五號ヲ以テ明治三十八年七月一日ヨリ施行)

附則 (昭和八年法律第四十四號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和八年勅令第十四號ヲ以テ昭和八年五月二十日ヨリ施行)

鐵道抵當法第三十條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

- 第三十條ノ二 擔保附社債信託法ニ依リ社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル場合ニ於ケル抵當權設定ノ登録ハ鐵道抵當原簿ニ左ノ事項ヲ記載スルニ依リテ之ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス
- 一 第七條第二項第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項
  - 二 社債ノ總額
  - 三 社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル旨ノ表示
  - 四 社債ノ利率ノ最高限度
  - 五 前條第一項第二號乃至第五號ニ掲ケタル事項

擔保附社債信託法第十九條ノ二ノ規定ハ前項ニ規定スル社債ノ各回ノ發行アリタル場合ノ登録ニ關シ之ヲ準用ス

鐵道抵當法第九十二條第四號中「申請ヲ爲シタルトキ」ノ下ニ「第三十條ノ二第二項ノ登録ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ」ヲ加フ

登録稅法第十六條ノ四ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十六條ノ五 信託契約ニ依ル物上擔保附社債ニシテ其ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スルモノノ抵當權ノ取得ノ登記又ハ登録ニ付テハ登録稅ヲ課セス擔保附社債信託法第十九條ノ二ノ規定ニ依ル登記又ハ鐵道抵當法第三十條ノ二第二項ノ規定ニ依ル登録ヲ抵當權ノ取得ノ登記又ハ登録ト看做シ其ノ回ノ發行金額ヲ債權金額ト看做シテ登録稅ヲ課ス

前項ノ抵當權ニ關シ種類ヲ異ニスル二以上ノ登記登録ヲ受クル場合ニ於ケル登録稅ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

擔保附社債信託法施行細則

明治三十八年五月三十一日  
大藏省令第三十五號

改正 大正五年第一二號

昭和二年第三三號、八年第一一號、一三年第二六號

擔保附社債信託法施行細則

擔保附社債信託法施行細則左ノ通相定ム

擔保附社債信託法施行細則

第一條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營マムトスル會社ハ免許申請書ニ定款ヲ添附シテ差出スヘシ

前項ノ書類ノ外合名會社又ハ合資會社ニ在リテハ出資ノ拂込額ヲ記載シタル書面株式會社ニ在リテハ非訟事件手續法第八十七條第二項第二號乃至第七號ニ記載シタル書類株式合資會社ニ在リテハ之ニ準スヘキ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第二條 既設會社カ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營マムトスルトキハ免許申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ差出スヘシ

- 一 定款又ハ會社契約書ノ謄本
- 二 目的變更ニ關スル株主總會ノ決議錄謄本又ハ社員總會ノ決議ヲ記載シタル書面
- 三 最終ノ貸借對照表

第二條ノ二 信託會社ハ信託契約ニ依リ株式ヲ社債ノ擔保ト爲サムトスルトキハ認可申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ差出スヘシ

- 一 信託證書案
- 二 委託會社ノ社債募集ニ關スル株主總會ノ決議錄謄本



- 三 擔保ト爲サムトスル株式ノ銘柄毎ニ數量、價格、一株ノ拂込額及其ノ價格並ニ株式以外ノ擔保アルトキハ其ノ種類及價格ヲ記載シタル書面
  - 四 社債募集ノ事由ヲ記載シタル書面
  - 五 委託會社及擔保ト爲サムトスル株式ヲ發行シタル會社ノ最終ノ財産目錄、貸借對照表、損益計算書、利益ノ處分ニ關スル書面其ノ他會社ノ營業狀態ヲ知ルニ足ル書面
- 第二條ノ三 信託會社ハ擔保附社債信託法第七十四條又ハ第七十五條ノ契約ニ依リ株式ヲ社債ノ擔保ト爲サムトスルトキハ認可申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ差出スヘシ
- 一 契約證書案
  - 二 社債ノ未償還高ヲ記載シタル書面
  - 三 追加又ハ變更セムトスル擔保ニ付前條第三號ノ書面
  - 四 擔保ノ追加又ハ變更ノ事由ヲ記載シタル書面
  - 五 擔保ヲ變更スル場合ニハ擔保附社債信託法第七十五條ニ依ル社債權者集會ノ決議錄謄本又ハ代表者ノ決定ヲ證スル書面
- 六 前條第五號ノ書類
- 第三條 信託會社カ信託契約ヲ締結シタルトキハ遲滞ナク左

- 一 書類ヲ添附シテ届出ツヘシ
  - 二 信託證書謄本
  - 三 擔保ノ種類及價格ヲ記載シタル書面
  - 四 社債ノ總額ヲ引受ケ別ニ其ノ引受ニ關スル契約書アルトキハ其ノ契約書謄本
  - 五 社債募集ノ事由ヲ記載シタル書面
  - 六 委託會社ノ最終ノ財産目錄、貸借對照表、損益計算書、利益ノ處分ニ關スル書面其ノ他委託會社ノ營業狀態ヲ知ルニ足ル書面
- 前項第一號ノ信託證書カ主務官廳ノ認可ヲ要スルモノナルトキハ認可ノ證印アル信託證書ノ謄本ナルコトヲ要ス
- 前項ノ認可カ效力ヲ失ヒタルトキハ遲滞ナク其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ
- 第三條ノ二 信託會社カ擔保附社債信託法第十九條ノ三ノ規定ニ依リ契約ヲ締結シタルトキハ遲滞ナク左ノ書類ヲ添附シテ届出ツヘシ
- 一 契約證書謄本
  - 二 前條第一項第三號乃至第五號ノ書類
- 第三條ノ三 信託會社ハ擔保附社債信託法第二十二條ノ規定ニ依ル公告アリタルトキ又ハ同法第二十四條若ハ第二十七

- 條第一項ノ規定ニ依ル公告ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク其ノ寫ヲ添附シテ届出ツヘシ同法第三十條ノ規定ニ依ル公告アリタルコトヲ知リタルトキ亦同シ
- 第三條ノ四 信託會社カ擔保附社債信託法第三十一條ノ三又ハ第七十四條若ハ第七十五條ノ規定ニ依リ契約ヲ締結シタルトキハ遲滞ナク左ノ書類ヲ添附シテ届出ツヘシ
- 一 契約證書謄本
  - 二 契約締結ノ事由ヲ記載シタル書面
  - 三 擔保附社債信託法第七十四條又ハ第七十五條ノ規定ニ依ル契約ナルトキハ擔保ノ異動及價格ノ増減ニ關スル書面
- 前項ノ契約カ主務官廳ノ認可ヲ要スルモノナルトキハ其ノ認可證書謄本ヲ添附スヘシ
- 第四條 信託會社ハ信託契約ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滞ナク届出ツヘシ信託契約ニ基キ契約カ締結セラレタルトキ又ハ其ノ契約ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ
- 前條第二項ノ規定ハ前項ノ契約又ハ變更ニ關シ之ヲ準用ス
- 第五條 信託會社カ委託會社ノ委任ニ因リ社債ヲ募集シタル場合ニ於テ其ノ社債ノ募集カ確定シタルトキハ遲滞ナク左

- 一 事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ
  - 二 應募ノ口數券面總額及其ノ申込價格ノ總額
  - 三 募入ノ口數券面總額及總價格(即チ會社ノ實收スヘキ金額)
- 第六條 外國會社ト信託契約ヲ締結セムトスル會社ハ許可申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ差出スヘシ
- 一 信託證書案
  - 二 社債募集ニ關スル株主總會ノ決議錄謄本
  - 三 社債ニ附スヘキ擔保ノ種類及價格ヲ記載シタル書面
  - 四 第三條第一項第四號及第五號ノ書類
  - 五 信託ヲ引受ケムトスル外國會社ノ定款寫又ハ會社ノ性質ヲ識別スルニ足ル書面
  - 六 前號ノ外國會社ノ最終ノ財産目錄、貸借對照表、損益計算書、利益ノ處分ニ關スル書面其ノ他會社ノ營業狀態ヲ知ルニ足ル書面
  - 七 第五號ノ外國會社ノ重ナル出資者及役員ノ氏名、國籍及住所ヲ記載シタル書面
- 第七條 擔保附社債信託法第十七條第四項ノ届書ニハ代表者タル資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ
- 第八條 第六條ノ信託契約ヲ締結シタル外國會社ニ付テハ第



擔保附社債信託法施行細則

五六〇

三條乃至第五條ノ規定ヲ準用ス

第九條 信託會社ハ社債權者集會ノ招集アリタルトキハ遲滞  
ナク集會ノ目的、場所、期日及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタ  
ル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ

信託會社カ社債權者集會ノ決議録ヲ作成シ又ハ決議録謄本  
ノ交付ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其ノ決議録謄本ニ集會ノ  
狀況ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ其ノ決議ノ無  
効ノ宣告又ハ其ノ宣告ノ取消アリタルトキ亦同シ  
社債權者集會ニ於テ選任セラレタル代表者カ社債權者集會  
ノ決議スヘキ事項ノ決定ヲ爲シタルトキハ信託會社ハ遲滞  
ナク其ノ決定ノ内容及顛末ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届  
出ツヘシ

社債權者集會ノ決議又ハ其ノ選任シタル代表者ノ爲シタル  
決定ヲ執行シタルトキハ執行者ハ遲滞ナク其ノ顛末ヲ記載  
シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ

第十條 擔保附社債信託法第四十九條第二項ニ依ル許可申請  
書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

- 一 集會ノ目的及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面
- 二 招集ノ請求ヲ受ケタル者カ請求アリタル後二週間内ニ  
招集ノ手續ヲ爲サ、リシ事實ヲ記載シタル書面

第十二條ノ二 本令中社債權者集會ニ關スル規定ハ擔保附社  
債信託法第六十七條ノ二又ハ第六十七條ノ三ノ規定ニ依ル  
社債權者ノ集會ニ之ヲ準用ス

第十三條 信託會社カ擔保附社債信託法第八十八條第三項及  
第九十四條第一項ノ規定ニ依リ供託ヲ爲シタルトキハ遲滞  
ナク供託金受領書謄本ヲ添へ届出ツヘシ

第十四條 信託會社ハ擔保附社債信託法第九十五條ニ依ル檢  
査ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其ノ年月日及檢査ノ狀況ヲ報  
告スヘシ

第十五條 擔保附社債信託法第九十七條第二項ニ依リ外國會  
社ト信託事務ノ承繼契約ヲ締結セムトスル場合ニ於テハ委  
託會社ハ許可申請書ニ左ノ書類及第六條第一項第五號乃至  
第七號ノ書類ヲ添附スヘシ

一 信託契約ノ定ムル所ニ依リ辭任シタルコト又ハ委託會  
社及社債權者集會カ辭任ニ同意シタルコトヲ表示シタ  
ル書面

二 信託事務ニ關スル計算書

三 承繼契約書案

第十六條 擔保附社債信託法第九十八條ニ依リ許可申請書ニ  
ハ辭任ヲ要スル事由ヲ記載シタル書面及信託事務ニ關スル

擔保附社債信託法施行細則

前項ノ申請者カ社債總額ノ十分ノ一ニ當ル社債權者ナルト  
キハ前項ノ書類ノ外其ノ社債權者カ各自有スル債券額及社  
債原簿ニ現存セル社債總額ヲ記載シ且其ノ事實ヲ證スル書  
面ヲ添へ其ノ許可申請書ニハ各自署名スヘシ但シ無記名債  
券ハ之ヲ信託會社ニ提供スルカ又ハ大藏大臣ノ指定スル銀  
行ニ預ケ入レ其ノ預リ證書ヲ提供スヘシ

第十一條 擔保附社債信託法第八十九條ニ依ル申請書ニハ社  
債權者集會ノ決議録ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

- 一 擔保附社債信託法第八十九條第一項ノ場合ニ於テハ其  
ノ爲スヘキ行爲ヲ怠リタル事實ヲ證スル書面
- 二 同條第二項ノ場合ニ於テハ社債權者ト受託會社トノ利  
益相反スルノ事實及其ノ事實ニ依リ總社債權者ノ爲ニ  
裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ必要トスル事由ヲ記載シタ  
ル書面

第十二條 擔保附社債信託法第九十四條ニ依ル申請書ニハ左  
ノ書類ヲ添附シテ差出スヘシ但シ申請者カ社債權者集會ナ  
ルトキハ尙ホ其ノ決議録謄本ヲ添附スヘシ

- 一 擔保ノ消滅又ハ其ノ價格ノ減少シタル事實カ受託會社  
ノ故意若ハ過失ニ出テタル事實ヲ證スル書面
- 二 擔保ノ消滅又ハ其ノ價格減少ニ關スル計算書

計算書ヲ添附スヘシ

第十七條 擔保附社債信託法第九十九條ニ依ル申請書ニハ解  
任ヲ必要トスル事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ但シ申  
請者カ社債權者集會ナルトキハ尙ホ其ノ決議録謄本ヲ添附  
スヘシ

第十八條 擔保附社債信託法第一百一條第二項ニ依ル届書ニハ  
同條第一項ノ契約書謄本ヲ添附スヘシ

前項ノ書類ニハ第十五條第一號及第二號ノ書類ヲ添附スヘ  
シ但シ第十五條ノ手續ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニアラス

第十九條 擔保附社債信託法第一百五條第二項ニ依ル届書ニハ  
引繼ノ顛末ヲ記載シ同條第三項ノ目錄ト共ニ差出スヘシ

第二十條 信託會社カ信託事務ヲ終了シタルトキハ遲滞ナク  
總計算書ヲ添附シテ届出ツヘシ

第二十一條 信託會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ商法第  
七十八條ノ手續ヲ了シタル後遲滞ナク各會社共同シテ左ノ  
書類ヲ添附シテ届出ツヘシ但シ合併ニ依リ信託ノ業務ヲ廢  
止スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 合併ニ關スル契約書
- 二 合併ニ依リ設立シ又ハ合併後存續スル會社ノ定款
- 三 商法第七十八條第一項ノ規定ニ依リ作成シタル會社各

五六一



自ノ貸借對照表

四 合併ニ關スル株主總會決議錄謄本又ハ社員總會ノ決議ヲ記載シタル書面

五 商法第七十九條第一項ノ規定ニ依リタルコト又ハ同條第二項ノ規定ヲ履行シタルコトヲ證スル書面

合併ニ因リ設立シ又ハ合併後存續スル會社カ新ニ信託事業ヲ營マムトスルトキハ免許申請書ニ第一項ノ書類ヲ添附スヘシ

第二十二條 擔保附社債信託法第十四條及第十五條ニ依ル請求書ニハ請求者カ利害關係ヲ有スル事實及清算人ノ選任又ハ解任ヲ必要トスル事由ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ差出スヘシ

前項ノ請求者カ社債總額十分ノ一ニ當ル社債權者ナルトキハ第十條第二項ノ規定ヲ適用ス

第二十三條 信託會社ノ清算人ハ就職後遲滞ナク會社財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及貸借對照表ヲ添附シテ届出ツヘシ  
清算人ハ毎月清算ノ狀況ヲ報告スヘシ但シ重要ナル事項ニ付キテハ其ノ都度遲滞ナク届出ツヘシ  
清算カ結了シタルトキハ遲滞ナク決算書ヲ添附シテ届出ツ

ヘシ

第二十四條 信託會社カ登記又ハ登錄ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク其ノ事項及年月日ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ

第二十五條 左ノ場合ニ於テハ信託會社ハ遲滞ナク其ノ事由又ハ狀況ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ  
一 信託事業ニ關スル訴訟事件ノ當事者トナリタルトキ及其ノ判決アリタルトキ  
二 非訟事件ニ付裁判所ニ請求又ハ抗告ヲ爲シタルトキ及其ノ決定アリタルトキ  
三 検査役ノ選任アリタルトキ  
四 仕拂ヲ停止シ又ハ解散ノ事由發生シタルトキ  
五 商法第七十四條第一項ニ依ル株主總會ノ招集ヲ爲シタルトキ

第二十六條 信託會社カ其ノ定款ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク之ヲ大藏大臣ニ届出ツヘシ  
第二十六條ノ二 信託會社ノ營業年度ハ毎年六月ヨリ十一月迄及十二月ヨリ翌年五月迄トス但シ銀行事業ヲ兼營スル信託會社ニ在リテハ銀行ノ營業年度ニ依ル  
第二十六條ノ三 信託業法施行細則第二十四條ノ規定ハ信託

會社ニ之ヲ準用ス但シ社債ニ關スル事項ハ附屬様式ニ準シテ營業報告書中ニ之ヲ記載スヘシ  
銀行事業又ハ信託業法ニ依ル信託業ヲ兼營スル信託會社ニ對シテハ前項ノ規定ヲ適用セス此ノ場合ニ於テハ銀行法、信託業法又ハ其ノ他ノ特別ノ法律ニ依リテ提出スヘキ業務報告書中ニ社債ニ關スル事項ヲ附屬様式ニ準シテ記載スヘシ

附則

第二十七條 本令ハ擔保附社債信託法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(附屬様式)略ス

● 不動産融資及損失補償法

昭和七年九月六日  
法律第二十四號

改正 昭和一〇年第一六號、一三年第六五號、一六年第四三號、一七年第一二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル不動産融資及損失補償法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

不動産融資及損失補償法

第一條 日本勸業銀行、農工銀行又ハ北海道拓殖銀行(以下不動産融資及損失補償法

融資銀行ト稱ス)ハ銀行ヨリ左ノ方法ニ依ル不動産資金融

通ノ請求アリタル場合ニ於テ金融ノ疏通ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ當該銀行又ハ其ノ債務者ニ對シ資金ノ融通ヲ爲スコトヲ得

一 當該銀行ノ不動産又ハ不動産抵當附債權(抵當證券ヲ含ム)ヲ擔保トスル貸付

二 當該銀行ニ對スル不動産ヲ抵當トスル債務ノ辨濟ノ爲ニ當該不動産ヲ抵當トスル貸付

第二條 融資銀行ガ前條ノ規定ニ依ル融通ヲ爲スハ本法施行ノ日ヨリ十二年トシ其ノ融通ノ期限ハ本法施行ノ日ヨリ二十一年ヲ超ユルコトヲ得ズ

第三條 削除

第四條 日本勸業銀行法第十四條ノ二ノ規定、同法第十四條

第二項及第三十一條ノ二第一項ノ規定中貸付年限及償還方法ニ關スルモノ、農工銀行法第六條ノ二及第七條ノ規定、

同法第六條第二號及第七條ノ三第一項ノ規定中貸付年限及償還方法ニ關スルモノ並ニ北海道拓殖銀行法第七條第一項

第二號及第七條ノ二ノ規定中貸付年限及償還方法ニ關スルモノハ第一條ノ規定ニ依ル融通ニハ之ヲ適用セス  
融資銀行ガ第一條ノ規定ニ依ル融通以外ノ融通ヲ爲ス場合







- 八 一錢青銅貨幣 三・七五グラム
- 九 五厘青銅貨幣 二・一グラム
- 第七條 金貨幣ハ其ノ額ニ制限ナク法貨トシテ通用ス銀貨幣ハ十圓マテニツケル貨幣ハ五圓マテ青銅貨幣ハ一圓マテヲ限リ法貨トシテ通用ス
- 第八條 貨幣ノ形式ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第九條 金銀貨幣純分ノ公差ハ金貨幣ハ一千分ノ一銀貨幣ハ一千分ノ三トス
- 第十條 金銀貨幣量目ノ公差ハ左ノ如シ
  - 一 金貨幣二十圓ハ每片〇・〇三二四グラム 一千枚毎ニ三・一一二五グラム十圓ハ每片〇・〇二二六八グラム一千枚毎ニ二・三二五グラム五圓ハ每片〇・〇一六二グラム一千枚毎ニ一・五三七五グラムトス
  - 二 銀貨幣五十錢ハ每片〇・〇六四一二グラム一千枚毎ニ三・九九七五グラム二十錢ハ每片〇・〇四〇一二グラム一千枚毎ニ一・九九九八七グラムトス
- 第十一條 金貨幣ノ通用最輕量目ハ二十圓金貨幣一六・五七五グラム十圓金貨幣八・二八七五グラム五圓金貨幣四・一四三七五グラムトス
- 第十二條 金貨幣ニシテ磨損ノ爲通用最輕量目ヲ下ルモノ及

- 銀貨幣ニツケル貨幣又ハ青銅貨幣ニシテ著シク磨損シタルモノ其ノ他流通不便ノ貨幣ハ其ノ額面價格ヲ以テ無手数料ニテ政府ニ於テ之ヲ引換フヘシ
- 第十三條 貨幣ニシテ模様ノ認識シ難キモノ又ハ私ニ極印ヲ爲シ其ノ他故意ニ毀傷セリト認ムルモノハ貨幣タルノ效用ナキモノトス
- 第十四條 金地金ヲ輸納シ金貨幣ノ製造ヲ請フ者アルトキハ政府ハ其ノ請求ニ應スヘシ
- 附則
- 第十五條 從來發行ノ金貨幣ハ此ノ法律ニ依リ發行スル金貨幣ノ倍位ニ通用スヘシ
- 第十六條 「從來發行ノ一圓銀貨幣ハ金貨幣一圓ノ割合ヲ以テ政府ノ都合ニ依リ漸次之ヲ引換フヘシ」  
「前項引換ノ結了マテハ金貨幣一圓ノ割合ニ以テ無制限ニ法貨トシテ其ノ通用ヲ許シ通用禁止ノ場合ニ於テハ六箇月以前ニ勅令ヲ以テ之ヲ公布スヘシ通用禁止ノ翌日ヨリ起算シ滿五箇年内ニ引換ヲ請求セサルトキハ爾後地金トシテ取扱フヘシ」
- 第十七條 從來發行ノ五錢銀貨幣及銀貨幣ハ從前ノ通り通用スヘシ

- 第十八條 此ノ法律發布以後ハ一圓銀貨幣ノ製造ヲ廢ス但シ右期日以前ニ政府ニ輸納シタル銀地金ハ此ノ限ニ在ラス
- 第十九條 此ノ法律ニ抵觸スル從前ノ法令ハ總テ之ヲ廢止ス
- 第二十條 此ノ法律ハ第十八條ヲ除ク外明治三十年十月一日ヨリ施行ス

附則 (明治三十九年法律第二十六號)

本法ハ明治三十九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

從來發行ノ銀貨幣ハ從前ノ通用スヘシ

附則 (明治四十年法律第六號)

本法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

從來發行ノ十錢銀貨幣ハ從前ノ通用スヘシ

附則 (大正五年法律第八號)

本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

從來發行ノ白銅貨幣及青銅貨幣ハ從前ノ通用スヘシ

附則 (大正七年法律第四十二號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從來發行ノ銀貨幣ハ從前ノ通用スヘシ

附則 (大正九年法律第五號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時通貨法

- 從來發行ノ十錢銀貨幣及五錢白銅貨幣ハ從前ノ通用スヘシ
- 附則 (大正十一年法律第七十三號)
- 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 從來發行ノ銀貨幣ハ從前ノ通用スヘシ
- 附則 (昭和八年法律第五十八號)
- 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 從來發行ノ白銅貨幣ハ從前ノ通用スヘシ

### ●臨時通貨法

昭和十三年六月一日  
法律第八十六號

改正 昭和七年第九號  
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル臨時通貨法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 臨時通貨法

- 第一條 政府ハ必要アルトキハ貨幣法第三條ニ規定スルモノノ外臨時補助貨幣ヲ發行スルコトヲ得
- 第二條 臨時補助貨幣ノ種類ハ十錢、五錢及一錢ノ三種トス
- 第三條 十錢及五錢ノ臨時補助貨幣ハ五圓迄、一錢ノ臨時補助貨幣ハ一圓迄ヲ限リ法貨トシテ通用ス



取引所法

第四條 臨時補助貨幣ノ素材、品位、量目及形式ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 政府ハ必要アルトキハ臨時補助貨幣ノ外五十錢ノ小額紙幣ヲ發行スルコトヲ得

小額紙幣ハ十圓迄ヲ限リ法貨トシテ通用ス  
小額紙幣ノ形式ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 政府ハ小額紙幣發行高ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ日本銀行ヲシテ政府預金ノ内之ト同額ヲ區分整理セシメ其ノ引換準備ニ充ツベシ

小額紙幣ハ他ノ通貨ヲ以テ之ヲ引換フ

第七條 小額紙幣ノ發行、銷却及引換ニ關シテハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ日本銀行ヲシテ其ノ事務ヲ取扱ハシム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時補助貨幣及小額紙幣ハ大東亞戰爭終了ノ日ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ發行セズ

●取引所法

明治二十六年三月四日  
法律第五號

改正 明治三二年第五八號

大正三年第三三號、一一年第六〇號

昭和四年第二九號、一四年第六八號、一五年第五九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル取引所法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

取引所法

第一章 取引所ノ設立

第一條 賣買取引ノ繁盛ナル地區内ノ商人ハ政府ノ免許ヲ受ケテ一種若ハ數種ノ物件ノ取引所ヲ設立スルコトヲ得

第二條 同種ノ物件ヲ賣買取引スル取引所ハ一地區一箇所ニ限リ設立スルコトヲ得但シ其ノ地區ハ「農商務大臣」之ヲ定ム

第三條 取引所ノ免許年限ハ十箇年トス但シ土地商業ノ情況ニ依リ更ニ繼續ノ出願ヲ爲スコトヲ得

第四條 株式會社組織ノ取引所ハ他ノ株式會社組織ノ取引所ヲ合併スル場合ニ限リ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ存在シタル地區内ニ支所ヲ設クルコトヲ得支所ノ數ハ其ノ合併ニ依リ消滅スル取引所及支所ノ數ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條ノ二 有價證券ヲ賣買取引スル市場ハ取引所ト看做シ本法ニ依リ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

第二章 取引所ノ組織

サレハ取引所ノ會員又ハ取引員トナルコトヲ得ス  
無能力者、復權セサル家資分散者及破産者並本法ニ依リ除名セラレ除名ノ日ヨリ五箇年ヲ經過セサル者ハ會員トナルコトヲ得ス

懲役若ハ「重禁錮」一年以上ノ刑ニ處セラレタル者又ハ刑法第二編第十六章乃至第十九章第二十三章第三十五章乃至第三十九章、舊刑法第二編第四章第一節乃至第五節第二百六十條乃至第二百六十二條第八章第九節第三編第二章第一節第二節第四節乃至第六節、通貨及證券模造取締法、明治三十八年法律第六十六號、紙幣類似證券取締法、印紙犯罪處罰法、商法第四百八十六條乃至第四百九十七條、商法中改正法律施行法第一條ニ於テ謂フ舊法第二百六十一條、明治二十三年法律第三十二號商法第三編第九章、同年法律第一百條、有限會社法第七十七條乃至第八十四條、保險業法第九十八條ノ三若ハ本法第三十一條乃至第三十二條ノ五ノ規定ニ依リ刑ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ又ハ刑ノ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ五箇年ヲ經過セサル者ハ取引員トナルコトヲ得ス前項ニ該當スル者亦同シ  
合名會社、合資會社又ハ株式合資會社ニ在リテハ其ノ無限責任社員ノ全員カ帝國臣民タルモノ、株式會社又ハ有限會

取引所法

第五條 取引所ハ土地商業ノ情況及賣買取引スヘキ物件ノ種類ニ依リ會員組織又ハ株式會社組織ト爲スコトヲ得

第六條 會員組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ會員ニ限リ賣買取引ヲ爲スコトヲ得

第七條 株式會社組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ取引員ニ限リ賣買取引ヲ爲スコトヲ得

第八條 取引所ハ法人トシテ財産ヲ所有シ及之ヲ處分スルコトヲ得

第九條 取引所ノ責任ハ其ノ財産ニ限ルモノトス

第十條 取引所ハ政府ノ認可ヲ受ケ取引所ノ賣買取引ニ附帶スル業務ヲ營ムコトヲ得

第十一條 規定ニ依ル賠償ノ責任ニ任スル株式會社組織ノ取引所ハ倉庫業ヲ除クノ外前項ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス但シ物件又ハ銘柄ノ一部ニ付賠償ノ責任ニ任セサル場合ニ於テ其ノ一部ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 取引所ノ定款ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 取引所ノ會員及取引員

第十四條 取引所ノ取引員トナラムトスル者ハ政府ノ免許ヲ受クヘシ

第十五條 帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル會社ニ非



社ニ在リテハ其ノ資本ノ半額以上及議決權ノ過半数カ帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル法人ニ屬シ其ノ取締役其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員ノ全員カ帝國臣民タルモノニ非サレハ會員又ハ取引員トナルコトヲ得ス無限責任社員又ハ取締役其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員中前二項ニ該當スル者アル場合亦同シ

第十一條ノ二 會員前條第一項、第二項又ハ第四項ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ取引所ヨリ脱退ス

【農商務大臣】ハ不正ノ手段ニ依リ會員トナリタル者又ハ前條第一項、第二項若ハ第四項ニ該當スル者ニシテ會員トナリタル者アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ除名シ又ハ其ノ取引所ヨリ脱退セシムルコトヲ得

取引員前條第一項、第三項又ハ第四項ニ該當スルニ至リタルトキハ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

【農商務大臣】ハ不正ノ手段ニ依リ取引員タルノ免許ヲ受ケタル者又ハ前條第一項、第二項若ハ第四項ニ該當スル者ニシテ免許ヲ受ケタル者アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ除名シ又ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第十一條ノ三 取引員取引所ノ役員タル認可ヲ受ケタルトキハ其ノ免許ハ效力ヲ失フ

第十一條ノ四 會員又ハ取引員ハ第二項但書ノ場合ヲ除クノ外支店、出張所其ノ他何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス二以上ノ場所ヲ以テ同一取引所ノ賣買取引ノ取扱ヲ爲ス場所ト爲スコトヲ得ス

何人ト雖取引所ノ賣買取引ノ委託ノ代理、媒介又ハ取次ヲ營業ト爲スコトヲ得ス但シ會員又ハ取引員ニシテ農商務大臣ノ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 會員又ハ取引員ハ自己ノ計算ヲ以テスルト他人ノ計算ヲ以テスルトヲ問ハス取引所ニ對シ其ノ賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ

第十三條 取引員ハ其ノ免許ヲ受ケタルトキ免許料ヲ納ムヘシ  
免許料ノ金額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 會員又ハ取引員ハ身元保證金ヲ其ノ取引所ニ納ムヘシ  
第十五條 取引所ハ其ノ秩序ヲ保持スルカ爲定款ノ規定ニ依リ會員又ハ取引員ノ營業ヲ停止シ千圓以内ノ過怠金ヲ課シ且政府ノ認可ヲ受ケ會員又ハ取引員ヲ除名スルコトヲ得

第十五條ノ二 取引所ハ其ノ定款ヲ以テ會員若ハ取引員トナルニ必要ナル條件ヲ定メ又ハ其ノ員數ヲ制限スルコトヲ得

得

第十一條ノ二ノ規定ハ會員若ハ取引員カ前項ノ要件ヲ缺クニ至リタル場合又ハ之ヲ缺ク者ニシテ會員若ハ取引員トナリタル者アルコトヲ發見シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條ノ三 取引員ハ廢業後ト雖其ノ取引所ニ於ケル取引ノ結了及監督ノ目的ノ範圍内ニ於テハ取引結了後二週間ヲ經過スル迄仍廢業セサルモノト看做ス

取引員死亡シ、解散シ若ハ除名セラレ又ハ其ノ免許力取消サレ若ハ效力ヲ失ヒタル場合ニ於テハ其ノ取引所ニ於ケル取引ノ結了ニ至ル迄亦前項ニ同シ

前項ノ規定ハ會員ノ死亡、解散、除名及脱退ノ場合ニ之ヲ準用ス

前三項ノ場合ニ於テ會員又ハ取引員ノ行爲ヲ爲ス者ナキトキハ取引所ハ定款ノ定ムル所ニ從ヒ他人ヲシテ其ノ行爲ヲ爲サシムルコトヲ得

第四章 取引所ノ役員及商議員會

第十六條 取引所ノ役員ハ定款ノ規定ニ依リ會員又ハ株主中ヨリ二箇年以内ノ任期ヲ以テ之ヲ選舉シ政府ノ認可ヲ受ケヘシ

取引所ノ役員左ノ如シ

取引所法

理事長

一人

理事

二人以上

監査役

若干人

理事長及理事ハ會員ニ非サル者ヲ選舉スルモ妨ケナシ  
第十一條第三項ニ該當スル者ハ取引所ノ役員ト爲スコトヲ得ス  
取引員トノ間ニ資金ノ供與、損益ノ分配其ノ他取引員ノ營業ニ付特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ其ノ取引所又ハ之ト同種ノ物件ヲ取引スル株式會社組織ノ取引所ノ役員ト爲スコトヲ得ス

第十六條ノ二 役員前條第四項ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ取引員ノ免許ヲ受ケタルトキハ其ノ職ヲ失フ理事長又ハ理事他ノ取引所ノ理事長又ハ理事タル認可ヲ受ケタルトキ亦同シ

農商務大臣ハ不正ノ手段ニ依リ役員タルノ認可ヲ受ケタル者若ハ前條ノ規定ニ違反シテ役員トナリタル者アルコトヲ發見シ又ハ役員ニシテ第十七條第二項ノ規定ニ違反スル者アリト認メタルトキハ之ヲ解職スルコトヲ得

第十六條ノ三 農商務大臣ハ役員ノ職務ヲ行フ者ナキ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ假ニ役員ヲ選任スルコトヲ得



第十七條 株式會社組織ノ取引所ノ役員又ハ使用人ハ何人ノ名ヲ以テスルヲ問ハス其ノ取引所ノ取引物件ニ付取引所ニ於ケル賣買取引ヲ爲シ又ハ其ノ委託ヲ爲スコトヲ得ス  
株式會社組織ノ取引所ノ役員又ハ使用人ハ其ノ取引所又ハ之ト同種ノ物件ヲ取引スル取引所ノ取引員トノ間ニ資金ノ供與、損益ノ分配其ノ他取引員ノ營業ニ付特別ノ利害關係ヲ有スルコトヲ得ス

第十七條ノ二 取引所ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ商議員會ヲ置キ取引所ニ關スル重要ナル事項ヲ付議スヘシ

第五章 取引所ノ賣買取引

第十八條 取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ三箇月、米ニ在リテハ三箇月、蠶絲ニ在リテハ六箇月、其ノ他ノ商品ニ在リテハ勅令ノ定ムル期間ヲ超ユルコトヲ得ス  
第十九條 取引所ノ賣買取引ノ方法ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 取引所ハ其ノ定款ニ依リ賣買取引ニ付證據金ヲ納メシムルコトヲ得

第二十一條 取引所ハ賣買取引ノ責任ヲ履行セサル者アルトキハ其ノ證據金及身元保證金ヲ以テ損害賠償ノ用ニ供スルコトヲ得

第二十二條 取引所ハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ賣買取引ノ違約ヨリ生スル損害ニ付賠償ノ責任スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ取引所ハ其ノ賠償シタル金額及之ニ關スル諸費ノ追償ヲ其ノ違約者ニ要求スルコトヲ得

第二十二條ノ二 株式會社組織ノ取引所ハ前條ノ規定ニ依リ賠償ノ責任スルトキハ營業保證金ヲ政府ニ納ムヘシ

第二十三條 取引所ハ賣買取引高ニ應ジ賣買雙方ヨリ手数料ヲ徵收スルコトヲ得其ノ率ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第二十四條 取引所ハ證據金及身元保證金ニ付他ノ債主ニ對シ優先權ヲ有ス

第二十四條ノ二 取引所ノ賣買取引ノ委託者ハ會員又ハ取引員カ委託契約ニ違ヒタル場合ニ於テ其ノ違約ニ因ル債權ニ關シ違約シタル會員又ハ取引員ノ身元保證金ニ付他ノ債主ニ對シ優先權ヲ有ス

前條ノ優先權ハ前項ノ優先權ニ對シ優先ノ效力ヲ有ス

第二十五條 會員又ハ取引員ハ委託ヲ受ケタル取引所ノ賣買取引ニ付取引所ニ於テ其ノ賣付、買付又ハ受渡ヲ爲サスシテ之ヲ爲シタルト同一又ハ類似ノ計算ヲ以テ委託者ニ對シ其ノ決済ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シタル會員又ハ取引員ハ取引所之ニ一箇月以上ノ營業停止ヲ命シ又ハ之ヲ除名スヘシ

第二十六條 取引所ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ公定相場ヲ決定シ之ヲ公示スヘシ

取引所ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各會員又ハ各取引員ノ賣買高ヲ公示スヘシ

第二十六條ノ二 差金取引ヲ爲ス取引所類似施設ヲ爲シ又ハ其ノ施設ニ依リテ取引ヲ爲スコトヲ得ス

第六章 取引所ノ監督

第二十七條 農商務大臣ハ取引所ノ行爲法律命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 取引所ノ解散
- 二 取引所ノ停止
- 三 取引所一部ノ停止若ハ禁止
- 四 役員ノ解職
- 五 會員又ハ取引員ノ營業停止若ハ除名

第二十八條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ官吏ヲシテ取引所ノ業務、帳簿、財産其他一切ノ物件及會員又ハ取引員ノ帳簿ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ取引所ノ

役員會員及取引員ハ其ノ物件ヲ提供シ質問ニ應答スヘシ

第二十九條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ取引所ノ定款ヲ改正セシメ又ハ其ノ決議及處分ヲ停止シ、禁止シ若ハ取消スコトヲ得

第三十條 取引所任意ノ解散ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第三十條ノ二 會員組織ノ取引所ハ營業稅ヲ課セス

第七章 罰則

第三十一條 第十七條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ同條第二項ノ特別ノ利害關係ヲ生スルコトヲ目的トスル行爲ヲ爲シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 第十一條ノ四ノ規定ニ違反シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條ノ二 取引所ノ役員又ハ取引所ニ於ケル受渡物件ノ格付ヲ爲ス者其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス



第三十二條ノ三 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 取引所ノ役員又ハ取引所ニ於ケル受渡物件ノ格付ヲ爲ス者ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者
- 二 取引所ニ於ケル相場ヲ偽リテ公示シタル者
- 三 公示若ハ頒布ノ目的ヲ以テ虚偽ノ相場ヲ記載シタル文書ヲ作製シタル者又ハ之ヲ頒布シタル者
- 四 免許ヲ受ケスシテ取引所ヲ設立シタル者又ハ第二十六條ノ二ノ規定ニ違反シタル者

前項第一號ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十二條ノ四 取引所ニ於ケル相場ノ變動ヲ圖ル目的ヲ以テ虚偽ノ風説ヲ流布シ、偽計ヲ用ヒ又ハ暴行若ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條ノ五 取引所ニ依ラスシテ取引所ノ相場ニ依リ差金ノ授受ヲ目的トスル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第百八十六條ノ適用ヲ妨ケス

第三十二條ノ六 會員又ハ取引員ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ第十一

條ノ四ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第三十二條ノ七 本法ノ罰則ハ法人ニ在リテハ其ノ行爲ヲ爲シタル理事、取締役其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員ニ之ヲ適用ス

附則

第三十三條 取引所ノ稅則ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 取引所ノ資本金、營業保證金、株式、手数料及積立金ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 本法ハ明治二十六年十月一日ヨリ施行ス

明治九年布告第百五號米商會所條例、明治十一年布告第八號株式取引所條例、明治二十年勅令第十一號取引所條例、明治十三年布告第二十一號、明治十五年布告第四十六號、明治十六年布告第四號及同年布告第二十九號ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十六條 本法發布以前ヨリ營業スル米商會所、株式取引所及取引所ハ本法ニ依リ更ニ免許ヲ受ケ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得但シ本法施行ノ日ヨリ二箇月以前ニ於テ出願ノ手續ヲ爲サ、ルモノハ此ノ限ニ在ラス

附則 (大正十一年法律第六十號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正十一年勅令第三百五十二號ヲ以テ大正十一年九月一日ヨリ施行但シ第十八條ノ改正規定中有價證券ノ賣買取引ノ期限ニ關スル規定ハ大正十四年四月一日ヨリ施行)

第十八條ノ改正規定中有價證券ノ賣買取引ノ期限ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ他ノ規定ヨリ後ニ之ヲ施行スルコトヲ得但シ其ノ施行ノ期日ヲ大正十四年四月一日ヨリ後ト爲スコトヲ得ス

本法施行ノ際現ニ營業スル仲買人ハ其ノ營業部類ニ付本法ニ依リ其ノ取引所ノ取引員タル免許ヲ受ケタルモノト看做ス  
本法施行前ニ爲シタル取引所ノ賣買取引ニ付テハ其ノ取引ノ結了ニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ル

取引所法施行規則

大正三年六月二十九日  
農商務省令第十六號

改正 大正十一年第一五號、一四年商工省令第三號  
昭和十六年大藏省令第七一號

取引所法施行規則

第一條 取引所ヲ設立セムトスルトキハ發起人ハ發起認可申

取引所法施行規則

請書ニ定款、業務規程及左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シ地方長官ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ差出スヘシ

一 株式會社組織ノ取引所ニ付テハ發起人各自ノ引受クヘキ株式ノ數、會員組織ノ取引所ニ付テハ發起人各自ノ釀金額

二 資本又ハ釀金ノ使用ノ概算及收支ノ見込

三 賣買取引スヘキ物件ノ其ノ地方ニ於ケル集散ノ狀況及取引所ニ於ケル賣買高ノ見込

四 取引所ノ地區

第二條 發起人株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ商法第百二十四條ニ定メタル調査終了ノ後、發起人株式ノ總數ヲ引受ケサリシトキハ創立總會終結ノ後總役員ハ設立免許申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ地方長官ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ差出スヘシ

一 定款及業務規程  
二 株主名簿  
三 検査役ノ報告ニ關スル裁判アリタルトキハ其ノ決定ノ寫本  
四 創立總會ノ決議錄

第三條 發起人會員ノ募集ヲ終リタルトキハ設立總會ヲ開キ



總會員ノ半數以上ノ同意ヲ以テ定款ヲ確定シ且役員ヲ選任スヘシ

前項ニ依リテ選任セラレタル總役員ハ設立免許申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ地方長官ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ差出スヘシ

一 定款及業務規程

二 會員ノ氏名又ハ名稱、營業種目及營業所ヲ記載シタル書面

三 各會員ノ儲金額及其ノ拂込額ヲ記載シタル書面

第四條 取引所ヲ設立セムトスル地ニ於テ一年以上引續キ賣買取引スヘキ物件ノ商業ヲ營ム商人各物件毎ニ三十人以上發起人ト爲リタル場合ニ非サレハ取引所發起ノ認可ヲ申請スルコトヲ得ス

第五條 會員組織ノ取引所ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 目的

二 名稱及所在地

三 會員ノ儲金ニ關スル事項

四 會員ノ入退ニ關スル事項

五 會計ニ關スル事項

六 會議ニ關スル事項

七 役員ノ職務權限、定數、任期及任免ニ關スル事項

八 解散ノ場合ニ於ケル殘餘財産ノ處分ニ關スル事項

第六條 設立免許ノ申請ハ發起ノ認可ヲ受ケタル後六月内ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

設立ノ免許ヲ受ケタル後一年內ニ業務ヲ開始セサルトキハ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

第七條 取引所繼續ヲ出願セムトスルトキハ其ノ免許年限滿了前三月以上六月内ニ地方長官ヲ經由シテ其ノ願書ヲ大藏大臣ニ差出スヘシ

第七條ノ二 大藏大臣取引所ノ地區ヲ定メタルトキハ之ヲ告示ス

第七條ノ三 大藏大臣ハ會員組織ノ取引所ニ付左ノ事項ヲ告示ス告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

一 設立ヲ免許シタルトキハ目的、名稱、所在地及免許ノ年月日

二 役員ノ選任ヲ認可シタルトキハ氏名及認可ノ年月日

三 繼續ヲ免許シタルトキハ免許ノ年月日

四 解散シタルトキハ其ノ年月日及清算人ノ氏名

五 清算力結了シタルトキハ其ノ年月日

第八條 取引員ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ其ノ願書ニ會社ニ在リテハ定款、貸借對照表、財産目錄、株主名簿及役員ノ履歷書ヲ、其ノ他ノモノニ在リテハ履歷書及資産調査ヲ添附シ取引所ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ差出スヘシ

取引所ハ前項ノ願書ニ其ノ意見書ヲ添付スヘシ

取引所其ノ取引員ノ員數ヲ制限シタルトキハ缺員アル場合ニ非サレハ第一項ノ願書ヲ大藏大臣ニ差出スコトヲ得ス

第九條 取引所取引員免許狀ノ送付ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ本人ニ通知シ免許料ニ相當スル收入印紙ヲ貼用シタル請書及身元保證金ヲ差出サシメタル後之ヲ交付スヘシ

前項ノ請書ハ取引所之ヲ大藏大臣ニ差出スヘシ

取引員ノ免許ヲ出願シタル者取引所カ免許狀ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十五日内ニ請書及身元保證金ヲ差出ササルトキハ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

第十條 取引員免許狀ヲ紛失シタルトキハ事由ヲ具シ取引所ヲ經由シテ其ノ再下付ヲ申請スヘシ

取引員其ノ氏名又ハ名稱ヲ變更シタルトキハ取引所ヲ經由シテ免許狀ノ書換ヲ申請スヘシ

第十一條 取引員死亡、解散、廢業、除名其ノ他ノ事由ニ因

取引所法施行規則

リ取引員タル資格ヲ失ヒタルトキハ取引所ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ免許狀ヲ添へ之ヲ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第十一條ノ二 取引所カ會員又ハ取引員ノ身元保證金及賣買取引金ニ代用スルコトヲ得ヘキ有價證券ノ種類及代用價格ヲ決定シ又ハ變更シタルトキハ其ノ有價證券ノ時價ヲ附記シ遲滞ナク之ヲ大藏大臣ニ届出ツヘシ

前項ノ代用價格ハ國債證券及地方債證券ニ在リテハ時價以下ニ、其ノ他ノ有價證券ニ在リテハ時價ノ九割以下ニ之ヲ定ムヘシ其ノ有價證券ノ時價カ代用價格ヲ下リタルトキハ遲滞ナク之ヲ變更スヘシ

第十二條 役員選任ノ認可申請書ニハ履歷書ヲ添付スヘシ但シ再選ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 取引所清算市場ニ於ケル賣買取引ノ標準物ヲ定メタルトキハ遲滞ナク其ノ一部ヲ大藏大臣ニ差出シ其ノ一部ヲ會員又ハ取引員ニ交付シ之ヲ其ノ營業所ニ保管セシムヘシ

前項ノ標準物ハ之ニ依リテ爲シタル賣買取引ノ受渡期日後六箇月ヲ經過スル迄取引所之ヲ保管スヘシ

第十四條 取引所ハ其ノ取引銀行、所有有價證券ノ種類其ノ他財産保管ノ方法ヲ定メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ



取引所法施行規則

大藏大臣必要ト認ムルトキハ前項保管方法ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十五條 會員又ハ取引員ハ委託手数料率及受託契約準則ヲ定メ取引所ヲ經由シテ大藏大臣ニ其ノ認可ヲ申請スヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

取引所ハ前項ノ認可申請書ニ其ノ意見書ヲ添付スヘシ  
大藏大臣必要ト認ムルトキハ委託手数料率又ハ受託契約準則ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十六條 取引所法第二十五條第二項ニ依ル處分ハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 取引所法第八條及第二十二條ノ規定ニ依ル業務ニ關スル細則ハ業務規程ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十八條 賣買成立ノ値段ヲ以テ公定相場トス

取引所ハ公定相場及其ノ平均値段ヲ毎日市場ニ公示スヘシ

取引所ハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ公定相場ノ一部ヲ公示セサルコトヲ得

第十九條 取引所ハ毎日相場表ヲ發行スヘシ

第二十條 各會員又ハ各取引員ノ賣買高ハ賣買取引ノ種類、物件若ハ銘柄及受渡期日ノ區別ニ從ヒ賣付及買付ニ別テ毎日

日取引所之ヲ揭示スヘシ

大藏大臣ハ賣買高ノ公示方法ノ變更ヲ命シ又ハ其ノ公示ヲ要セサル銘柄若ハ賣買取引ノ種類ヲ指定スルコトアルヘシ

第二十一條 取引所其ノ受渡物件ノ格付ヲ爲ス者ヲ選任シタルトキハ遲滞ナク履歷書ヲ添附シ左ノ事項ヲ申告スヘシ

一 氏名、住所、職業

二 報酬

三 在職期間ヲ定メタルトキハ其ノ期間

受渡物件ノ格付ヲ爲ス者選任シタルトキハ取引所ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ申告スヘシ

取引所ハ其ノ物件ヲ取引スル取引所ノ會員又ハ取引員ヲシテ受渡物件ノ格付ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第二十二條 取引所ハ左ノ書類ヲ作成シ遲滞ナク之ヲ大藏大臣ニ差出スヘシ

一 相場表

二 賣買高表

三 毎期ノ財産目錄、貸借對照表、損益計算書及事業報告書

四 毎期末日現在株主及其ノ持株

五 毎期末日現在取引員又ハ會員表

前項第一號及第二號ノ書類ハ實物市場ニ於ケル賣買取引及七日以内ノ期限ヲ以テ履行期ト爲ス清算市場ニ於ケル賣買取引ニ付テハ毎月末日其ノ他ノ賣買取引ニ付テハ每受渡期日ニ之ヲ作成スヘシ

第二十三條 左ノ場合ニ於テハ取引所ハ遲滞ナク其ノ事項ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

一 取引所其ノ會員又ハ取引員ニ付取引所法第十一條ノ第二項若ハ第四項又ハ第十五條ノ二第二項ニ掲ケタル事由アリト認メタルトキ

二 取引所法第十五條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキ

三 賣買取引ノ違約ヲ生シタルトキ及其ノ賠償ヲ爲シタルトキ

四 臨時ニ市場ヲ開始シ又ハ休止シタルトキ

五 有價證券ノ賣買取引ヲ開始、中止又ハ廢止シタルトキ

六 市場ノ立會ヲ停止シ又ハ會員若ハ取引員ノ賣買取引ヲ差止メタルトキ

七 仲裁判斷ヲ爲シタルトキ

八 役員其ノ任期中ニ於テ死亡其ノ他ノ事由ニ因リ退任シ

取引所法施行規則

タルトキ但シ解職ノ場合ヲ除ク

九 取引所、役員又ハ會員若ハ取引員カ其ノ職務又ハ業務ニ關シ訴訟ノ當事者ト爲リタルトキ及其ノ判決アリタルトキ

十 會員又ハ取引員カ國稅徵收法ニ依リ滯納處分ヲ受ケタルトキ若ハ間接國稅犯則者處分法ニ依リ處分ヲ受ケタルトキ

十一 取引所ノ役員、受渡物件ノ格付ヲ爲ス者又ハ會員若ハ取引員カ犯罪ノ嫌疑ノ爲メ起訴セラレタルトキ

十二 株式會社組織ノ取引所カ商法ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキ

十三 會員カ入退シタルトキ

十四 會員又ハ取引員タル會社ノ目的、資本金若ハ無限責任社員、取締役其ノ他業務ヲ執行スル役員ニ變更アリタルトキ

十五 商議員就任又ハ退任シタルトキ

十六 商議員會ニ於テ決議ヲ爲シタルトキ

大藏大臣必要ト認ムルトキハ前項ノ外報告スヘキ事項ヲ指定スルコトアルヘシ



取引所法施行規則

附則

第二十四條 本則ハ大正三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス  
第二十五條 明治三十二年農商務省令第十八號、明治三十五年農商務省令第十一號及明治三十九年農商務省令第三十三號ハ之ヲ廢止ス

昭和十八年一月二十日印刷  
昭和十八年一月二十三日發行

非賣品

編輯人兼印刷人

東京市麴町區丸ノ内一丁目八番地一  
蒲 茂

發行人

東京市麴町區丸ノ内一丁目八番地一  
馬 彪

印刷所

東京府立川市三九五番地  
行政學會印刷所(東京)

發行所

東京市麴町區丸ノ内一丁目八番地一  
東京銀行集會所内  
全國金融統制會調查部  
電話丸ノ内(23)一、二三一—五番  
振替貯金口座東京一九〇一七四番  
日本出版文化協會々員番號  
(二一四、〇七二)



961  
13

製本控

961	函	13	號	年	月	日
金龍志規提書						
備考冊						